

県民体育館耐震補強その他建築主体工事

図				面				表			
sheet no	意 匠	sheet no	意 匠	sheet no	意 匠	sheet no	意 匠	sheet no	構 造		
01	改修工事特記仕様書（1）	30	改修前 器具庫・客席 平面詳細図（2）	60	改修後 男子更衣室・医務室・客席平面詳細図	89	改修後 プール・競技場展開図（1）	11	補強位置図（軸組図）		
02	改修工事特記仕様書（2）	31	改修後 器具庫・客席 平面詳細図（2）	61	改修前 男子更衣室・医務室・客席断面詳細図（1）	90	改修後 プール・競技場展開図（2）	12	鉄骨ブレース補強詳細図（SB1～SB4）		
03	改修工事特記仕様書（3）	32	改修前 器具庫・客席 断面詳細図（3）	62	改修後 男子更衣室・医務室・客席断面詳細図（1）	91	玄関ホール・廊下詳細図	13	鉄骨ブレース補強詳細図（SB5～SB8）		
04	改修工事特記仕様書（4）	33	改修後 器具庫・客席 断面詳細図（3）	63	改修前 男子更衣室・医務室・客席断面詳細図（2）	92	改修後 玄関ホール・廊下展開図	14	鉄筋コンクリート造 増設壁詳細図（RW1～4）		
05	改修工事特記仕様書（5）	34	器具庫・客席（2）立面詳細図	64	改修後 男子更衣室・医務室・客席断面詳細図（2）	93	建具記号表	15	鉄筋コンクリート造 増設壁詳細図（RW5）		
06	改修工事特記仕様書（6）	35	改修前 事務室・館長室・玄関ホール平面詳細図	65	改修前 2階ホール詳細図	94	建具表	16	鉄筋コンクリート造 増設壁詳細図（RW6・7）		
07	改修工事特記仕様書（7）	36	改修後 事務室・館長室・玄関ホール平面詳細図	66	改修後 2階ホール詳細図	95	屋根鉄骨塗装塗替詳細図	17	鉄筋コンクリート造 増設壁詳細図（RW8・13）		
08	改修工事特記仕様書（8）	37	ロビー平面詳細図（1）	67	1階建具記号表			18	鉄筋コンクリート造 増設壁詳細図（RW9・11）		
09	改修工事特記仕様書（9）	38	事務室断面詳細図	68	2階建具記号表	96	床改修図	19	鉄筋コンクリート造 増設壁詳細図（RW10・12）		
10	案内図・配置図	39	改修前 館長室・ロビー断面詳細図	69	建具表（1）	97	改修前 外構図	20	鉄筋コンクリート造 増設壁詳細図（RW14）		
	（アリーナ棟）	40	改修後 館長室・ロビー断面詳細図	70	建具表（2）	98	改修後 外構図	21	鉄筋コンクリート造 増設壁詳細図（RW15・16）		
11	仕上表	41	改修前 玄関ホール・ロビー断面詳細図	71	建具表（3）	99	仮設計画図	22	鉄筋コンクリート造 増設壁詳細図（RW17・19）		
12	改修前 1階平面図	42	改修後 玄関ホール・ロビー断面詳細図（1）	72	防水改修屋根伏図			23	鉄筋コンクリート造 増設壁詳細図（RW18）		
13	改修後 1階平面図	43	改修後 玄関ホール・ロビー断面詳細図（2）	73	防水改修詳細図（1）			24	鉄筋コンクリート造 増設壁詳細図（RW20）		
14	改修前 2階平面図	44	改修前 玄関ホール・大会議室平面詳細図	74	防水改修詳細図（2）			25	鉄筋コンクリート造 増設壁詳細図（RW21・24）		
15	改修後 2階平面図	45	改修後 玄関ホール・大会議室平面詳細図	75	防水改修詳細図（3）			26	鉄筋コンクリート造 増設壁詳細図（RW22・23）		
16	改修前 屋根伏図	46	ロビー平面詳細図（2）	76	アスベスト除去詳細図			27	EXP. J部拡張詳細図		
17	改修後 屋根伏図	47	大会議室断面詳細図		（プール棟）				（プール棟）		
18	改修前 立面図	48	改修前 玄関ホール・大会議室・ロビー断面詳細図	77	仕上表	sheet no	構 造	28	構造特記仕様書（1）		
19	改修後 立面図	49	改修後 玄関ホール・大会議室・ロビー断面詳細図	78	1階平面図	01	構造関係共通図（構造関係共通事項）	29	構造特記仕様書（2）		
20	改修前 1階天井伏図	50	改修前 玄関ホール・ロビー断面詳細図	79	2階平面図	02	構造関係共通図（配筋標準図（1））	30	補強位置図（伏図）		
21	改修後 1階天井伏図	51	改修後 玄関ホール・ロビー断面詳細図（1）	80	屋根伏図	03	構造関係共通図（配筋標準図（2））	31	補強位置図（軸組図）		
22	改修前 2階天井伏図	52	改修後 玄関ホール・ロビー断面詳細図（2）	81	立面図	04	構造関係共通図（配筋標準図（3））	32	鉄筋コンクリート造 増設壁 RW1・3詳細図		
23	改修後 2階天井伏図	53	改修前 会議室・女子更衣室・客席平面詳細図	82	1階天井伏図	05	構造関係共通図（配筋標準図（4））	33	鉄筋コンクリート造 増設壁 RW2詳細図		
24	改修前 器具庫・客席 平面詳細図（1）	54	改修後 会議室・女子更衣室・客席平面詳細図	83	2階天井伏図	06	構造関係共通図（鉄骨標準図（1））	34	鉄筋コンクリート造 増打増設壁詳細図		
25	改修後 器具庫・客席 平面詳細図（1）	55	改修前 会議室・女子更衣室・客席断面詳細図（1）	84	改修前 矩計図	07	構造関係共通図（鉄骨標準図（2））	35	屋根ブレース補強 鉄骨架構詳細図		
26	改修前 器具庫・客席 断面詳細図（1）	56	改修後 会議室・女子更衣室・客席断面詳細図（1）	85	改修後 矩計図		（アリーナ棟）				
27	改修後 器具庫・客席 断面詳細図（1）	57	改修前 会議室・女子更衣室・客席断面詳細図（2）	86	プール詳細図	08	構造特記仕様書（1）				
28	改修前 器具庫・客席 断面詳細図（2）	58	改修後 会議室・女子更衣室・客席断面詳細図（2）	87	改修前 競技場詳細図	09	構造特記仕様書（2）				
29	改修後 器具庫・客席 断面詳細図（2）	59	改修前 男子更衣室・医務室・客席平面詳細図	88	改修後 競技場詳細図	10	補強位置図（伏図・軸組図）				

M A 設計事務所

平成23年5月

表紙共135枚

[illegible]

4-2 外壁改修工事（モルタル塗り仕上げ外壁）	1 ひび割れ部改修工法	※樹脂注入工法（4.3.4） <table><tr><td>種 類</td><td>ひび割れ幅(mm)</td><td>注入口間隔(mm)</td><td>注入量(ml/m)</td></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上～1.0未満</td><td>200～300</td><td>※130 ・</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上～0.3未満</td><td>50～100</td><td>※ 40 ・</td></tr><tr><td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上～0.5未満</td><td>100～200</td><td>※ 70 ・</td></tr><tr><td></td><td>0.5以上～1.0未満</td><td>150～250</td><td>※130 ・</td></tr></table>	種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(ml/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	200～300	※130 ・					・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	50～100	※ 40 ・	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上～0.5未満	100～200	※ 70 ・		0.5以上～1.0未満	150～250	※130 ・	3 欠損部改修工法	・タイル部分張替え工法（4.5.7） タイル部分張替え工法用接着材 ※ポリマーセメントモルタル（4.2.2） ・変成シリコーン樹脂 ・ポリウレタン樹脂 張付け用材料 既成調合モルタル ・使用する	5 ①改修工法 2 見本の製作等 3 防犯建物部品 ④アルミウ製建具 ⑤鋼製建具 ⑥鋼製軽量建具 7 ステンレス製建具 8 木製建具 ⑨鍵	○複層仕上塗材	・複層塗材CE ・可とう形複層塗材CE ・複層塗材Si ・複層塗材E ・複層塗材RE ・複層塗材RS ・防水形複層塗材CE ○防水形複層塗材E ・防水形複層塗材RE ・防水形複層塗材RS	・	○ゆず肌状 上塗材 耐候性 ※耐候形3種 溶 媒 ※水系 ・溶剤系 樹 脂 ※アクリル系 外 観 ※つやあり ・つやなし ・メタリック																																																
	種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(ml/m)																																																																													
	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	200～300	※130 ・																																																																													
	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	50～100	※ 40 ・																																																																													
	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上～0.5未満	100～200	※ 70 ・																																																																													
		0.5以上～1.0未満	150～250	※130 ・																																																																													
	2 欠損部改修工法	※充填工法（4.2.2）（4.3.7） ・エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル ・モルタル塗替え工法（4.2.2）（4.4.9） 既成目地材 ・使用する （形状） 仕上げ厚又は全塗り厚が 25mm を超える場合の処置 ※図示	4 浮き部改修工法	（4.4.1.0～1.5）（4.5.1.5） <table><tr><th rowspan="2">改修工法の種類</th><th colspan="2">フッ化ビニル樹脂の本数(本/㎡)</th><th colspan="2">注入口の箇所数(箇所/㎡)</th><th>充填量(箇所/ml)</th><th>注入量(箇所/ml)</th></tr><tr><th>一般部</th><th>指定部</th><th>一般部</th><th>指定部</th><th></th><th></th></tr><tr><td>・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td><td>※16</td><td>※25</td><td></td><td></td><td>※25</td><td></td></tr><tr><td>・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td><td>※13</td><td>※20</td><td>※12</td><td>※20</td><td>※25</td><td>※25</td></tr><tr><td>・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法</td><td>※13</td><td>※20</td><td>※12</td><td>※20</td><td>※25</td><td>※50</td></tr><tr><td>・注入口付フッ化ビニル樹脂部分エポキシ樹脂注入工法</td><td>※9</td><td>※16</td><td></td><td></td><td>※25</td><td></td></tr><tr><td>・注入口付フッ化ビニル樹脂全面エポキシ樹脂注入工法</td><td>※9</td><td>※16</td><td>※9</td><td>※16</td><td>※25</td><td>※25</td></tr><tr><td>・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法</td><td>※9</td><td>※16</td><td>※9</td><td>※16</td><td>※25</td><td>※50</td></tr><tr><td>・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法</td><td>※9</td><td>※16</td><td></td><td></td><td>※25</td><td></td></tr><tr><td>・タイル部分張替え工法</td><td colspan="6"></td></tr><tr><td>・タイル張替え工法</td><td colspan="6"></td></tr></table>	改修工法の種類	フッ化ビニル樹脂の本数(本/㎡)		注入口の箇所数(箇所/㎡)		充填量(箇所/ml)	注入量(箇所/ml)	一般部	指定部	一般部	指定部			・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※16	※25			※25		・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12		※20	※25	※25	・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※13	※20	※12	※20	※25	※50	・注入口付フッ化ビニル樹脂部分エポキシ樹脂注入工法	※9	※16			※25		・注入口付フッ化ビニル樹脂全面エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9	※16	※25	※25	・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※9	※16	※9	※16	※25	※50	・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※9	※16			※25		・タイル部分張替え工法							・タイル張替え工法						
	改修工法の種類	フッ化ビニル樹脂の本数(本/㎡)		注入口の箇所数(箇所/㎡)		充填量(箇所/ml)	注入量(箇所/ml)																																																																										
		一般部	指定部	一般部	指定部																																																																												
・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※16	※25			※25																																																																												
・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	※25	※25																																																																											
・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※13	※20	※12	※20	※25	※50																																																																											
・注入口付フッ化ビニル樹脂部分エポキシ樹脂注入工法	※9	※16			※25																																																																												
・注入口付フッ化ビニル樹脂全面エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9	※16	※25	※25																																																																											
・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※9	※16	※9	※16	※25	※50																																																																											
・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※9	※16			※25																																																																												
・タイル部分張替え工法																																																																																	
・タイル張替え工法																																																																																	
3 浮き部改修工法	アンカーピン（4.2.2） ※ステンレス鋼（SUS304）呼び径 4mm の丸棒で全ネジ切り加工したもの。 注入口付アンカーピン ※ステンレス鋼(SUS304)呼び径 6mm（4.1.4）（4.2.2） タイル部分張替え工法 タイル部分張替え工法用接着材 ※ポリマーセメントモルタル（4.5.7） ・変成シリコーン樹脂 ・ポリウレタン樹脂 張付け用材料 既成調合モルタル ・使用する	アンカーピン（4.2.2） ※ステンレス鋼（SUS304）呼び径 4mm の丸棒で全ネジ切り加工したもの。 注入口付アンカーピン ※ステンレス鋼(SUS304)呼び径 6mm（4.1.4）（4.2.2） 充填工法 ・エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル（4.2.2）（4.3.7） モルタル塗替え工法（4.2.2）（4.4.9） 既製目地材 ・使用する （形状） 仕上げ厚又は全塗り厚が 25mm を超える場合の処置 ※図示 ・																																																																															
4-3 外壁改修工事（タイル張り仕上げ外壁）	1 タイル	タイルの形状、寸法等（4.2.2） 主な用途 形状寸法再生材の吸水率による区分 による区分 (mm) 適用 G I Ⅱ類 III類 施ゆう無ゆう 役 物 色 耐凍害性 備考	5 目地改修工法	・目地ひび割れ部改修工法（4.2.2）（4.5.1.6） 既成調合モルタル ・使用する ・伸縮調整目地改修工法（4.2.2）（4.5.1.6） 伸縮調整目地の位置及び寸法 ※図示	⑤鋼製建具	○鋼製建具	建具見本の製作 建具見本の程度 特殊な建具の仮組	・行う （建具符号：） ・工事に使用するものとして、あらかじめ製作する ・納まり等がわかる程度 ・行う （建具符号：）	（5.1.5） （5.1.5） （5.1.7）																																																																								
	2 ひび割れ部改修工法	※樹脂注入工法（4.3.4） <table><tr><td>種 類</td><td>ひび割れ幅(mm)</td><td>注入口間隔(mm)</td><td>注入量(ml/m)</td></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上～1.0未満</td><td>※200～300</td><td>※</td></tr><tr><td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上～0.3未満</td><td>※50～100</td><td>※ 40</td></tr><tr><td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上～0.5未満</td><td>※100～200</td><td>※ 70</td></tr><tr><td>・可とう性エポキシ樹脂</td><td>0.5以上～1.0未満</td><td>※150～250</td><td>※130</td></tr></table>	種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(ml/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300	※	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	※50～100	※ 40	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上～0.5未満	※100～200	※ 70	・可とう性エポキシ樹脂	0.5以上～1.0未満	※150～250	※130	4-4 1 既存塗膜等の除去及び下地処理	（4.6.3） <table><tr><th>工 法</th><th>処理範囲</th><th>下地面の補修</th></tr><tr><td>・サンダー工法</td><td>※図示</td><td rowspan="4">・ひび割れ部改修工法 ・浮き部改修工法 ・欠損部改修工法</td></tr><tr><td>・高圧水洗工法</td><td>※図示</td></tr><tr><td>・塗膜はく離剤工法</td><td>※図示</td></tr><tr><td>・水洗い工法</td><td>※図示</td></tr></table>	工 法	処理範囲	下地面の補修	・サンダー工法	※図示	・ひび割れ部改修工法 ・浮き部改修工法 ・欠損部改修工法	・高圧水洗工法	※図示	・塗膜はく離剤工法	※図示	・水洗い工法	※図示	2 下地調整材料	※下地調整塗材 ・ポリマーセメントモルタル ・防水形仕上げ塗材主材（4.6.3） 建物内部に使用するユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂又はホルムアルデヒド系防腐剤（以下、「ユリア樹脂等」という。）を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種	新規仕上塗材の種類（4.1.4）（4.2.2）(表4.2.4) <table><tr><th>種 類</th><th>呼び名</th><th>防火材料</th><th>仕上げの形状</th></tr><tr><td rowspan="6">・薄付け仕上塗材</td><td>・外装薄塗材Si</td><td>・</td><td rowspan="6">・砂壁状 ・ゆず肌状（・吹付け ・ローラー塗り） ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸状（・吹付け ・こて塗り） ・着色骨材砂壁状（・吹付け ・こて塗り） ・砂壁状じゅうらく ・京壁状じゅうらく ・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし 上塗材 ・適用する</td></tr><tr><td>・可とう形外装薄塗材Si</td><td>・</td></tr><tr><td>・外装薄塗材E</td><td>・</td></tr><tr><td>・可とう形外装薄塗材E</td><td>・</td></tr><tr><td>・防水形外装塗材E</td><td>・</td></tr><tr><td>・外装薄塗材S</td><td>・</td></tr><tr><td rowspan="3">・厚付け仕上塗材</td><td>・外装厚塗材C</td><td>・</td><td rowspan="3"></td></tr><tr><td>・外装厚塗材Si</td><td>・</td></tr><tr><td>・外装厚塗材E</td><td>・</td></tr></table>	種 類	呼び名	防火材料	仕上げの形状	・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Si	・	・砂壁状 ・ゆず肌状（・吹付け ・ローラー塗り） ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸状（・吹付け ・こて塗り） ・着色骨材砂壁状（・吹付け ・こて塗り） ・砂壁状じゅうらく ・京壁状じゅうらく ・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし 上塗材 ・適用する	・可とう形外装薄塗材Si	・	・外装薄塗材E	・	・可とう形外装薄塗材E	・	・防水形外装塗材E	・	・外装薄塗材S	・	・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材C	・		・外装厚塗材Si	・	・外装厚塗材E	・																
	種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(ml/m)																																																																													
	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300	※																																																																													
	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	※50～100	※ 40																																																																													
	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上～0.5未満	※100～200	※ 70																																																																													
	・可とう性エポキシ樹脂	0.5以上～1.0未満	※150～250	※130																																																																													
	工 法	処理範囲	下地面の補修																																																																														
	・サンダー工法	※図示	・ひび割れ部改修工法 ・浮き部改修工法 ・欠損部改修工法																																																																														
	・高圧水洗工法	※図示																																																																															
・塗膜はく離剤工法	※図示																																																																																
・水洗い工法	※図示																																																																																
種 類	呼び名	防火材料	仕上げの形状																																																																														
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Si	・	・砂壁状 ・ゆず肌状（・吹付け ・ローラー塗り） ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸状（・吹付け ・こて塗り） ・着色骨材砂壁状（・吹付け ・こて塗り） ・砂壁状じゅうらく ・京壁状じゅうらく ・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし 上塗材 ・適用する																																																																														
	・可とう形外装薄塗材Si	・																																																																															
	・外装薄塗材E	・																																																																															
	・可とう形外装薄塗材E	・																																																																															
	・防水形外装塗材E	・																																																																															
	・外装薄塗材S	・																																																																															
・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材C	・																																																																															
	・外装厚塗材Si	・																																																																															
	・外装厚塗材E	・																																																																															
2 ひび割れ部改修工法	※樹脂注入工法（4.3.4） <table><tr><td>種 類</td><td>ひび割れ幅(mm)</td><td>注入口間隔(mm)</td><td>注入量(ml/m)</td></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上～1.0未満</td><td>※200～300</td><td>※</td></tr><tr><td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上～0.3未満</td><td>※50～100</td><td>※ 40</td></tr><tr><td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上～0.5未満</td><td>※100～200</td><td>※ 70</td></tr><tr><td>・可とう性エポキシ樹脂</td><td>0.5以上～1.0未満</td><td>※150～250</td><td>※130</td></tr></table>	種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(ml/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300	※	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	※50～100	※ 40	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上～0.5未満	※100～200	※ 70	・可とう性エポキシ樹脂	0.5以上～1.0未満	※150～250	※130	エポキシ樹脂 ・低粘度形 ・中粘度形 コア抜取り検査 ・行う （抜取り部の補修方法：） ・Uカットシール材充填工法（4.3.5） ・シーリング材充填 充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 ・行う ・可とう性エポキシ樹脂	4-4 1 既存塗膜等の除去及び下地処理	（4.6.3） <table><tr><th>工 法</th><th>処理範囲</th><th>下地面の補修</th></tr><tr><td>・サンダー工法</td><td>※図示</td><td rowspan="4">・ひび割れ部改修工法 ・浮き部改修工法 ・欠損部改修工法</td></tr><tr><td>・高圧水洗工法</td><td>※図示</td></tr><tr><td>・塗膜はく離剤工法</td><td>※図示</td></tr><tr><td>・水洗い工法</td><td>※図示</td></tr></table>	工 法	処理範囲	下地面の補修	・サンダー工法	※図示	・ひび割れ部改修工法 ・浮き部改修工法 ・欠損部改修工法	・高圧水洗工法	※図示	・塗膜はく離剤工法	※図示	・水洗い工法	※図示	2 下地調整材料	※下地調整塗材 ・ポリマーセメントモルタル ・防水形仕上げ塗材主材（4.6.3） 建物内部に使用するユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂又はホルムアルデヒド系防腐剤（以下、「ユリア樹脂等」という。）を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種	新規仕上塗材の種類（4.1.4）（4.2.2）(表4.2.4) <table><tr><th>種 類</th><th>呼び名</th><th>防火材料</th><th>仕上げの形状</th></tr><tr><td rowspan="6">・薄付け仕上塗材</td><td>・外装薄塗材Si</td><td>・</td><td rowspan="6">・砂壁状 ・ゆず肌状（・吹付け ・ローラー塗り） ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸状（・吹付け ・こて塗り） ・着色骨材砂壁状（・吹付け ・こて塗り） ・砂壁状じゅうらく ・京壁状じゅうらく ・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし 上塗材 ・適用する</td></tr><tr><td>・可とう形外装薄塗材Si</td><td>・</td></tr><tr><td>・外装薄塗材E</td><td>・</td></tr><tr><td>・可とう形外装薄塗材E</td><td>・</td></tr><tr><td>・防水形外装塗材E</td><td>・</td></tr><tr><td>・外装薄塗材S</td><td>・</td></tr><tr><td rowspan="3">・厚付け仕上塗材</td><td>・外装厚塗材C</td><td>・</td><td rowspan="3"></td></tr><tr><td>・外装厚塗材Si</td><td>・</td></tr><tr><td>・外装厚塗材E</td><td>・</td></tr></table>	種 類	呼び名	防火材料	仕上げの形状	・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Si	・	・砂壁状 ・ゆず肌状（・吹付け ・ローラー塗り） ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸状（・吹付け ・こて塗り） ・着色骨材砂壁状（・吹付け ・こて塗り） ・砂壁状じゅうらく ・京壁状じゅうらく ・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし 上塗材 ・適用する	・可とう形外装薄塗材Si	・	・外装薄塗材E	・	・可とう形外装薄塗材E	・	・防水形外装塗材E	・	・外装薄塗材S	・	・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材C	・		・外装厚塗材Si	・	・外装厚塗材E	・																
	種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(ml/m)																																																																													
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300	※																																																																														
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	※50～100	※ 40																																																																														
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上～0.5未満	※100～200	※ 70																																																																														
・可とう性エポキシ樹脂	0.5以上～1.0未満	※150～250	※130																																																																														
工 法	処理範囲	下地面の補修																																																																															
・サンダー工法	※図示	・ひび割れ部改修工法 ・浮き部改修工法 ・欠損部改修工法																																																																															
・高圧水洗工法	※図示																																																																																
・塗膜はく離剤工法	※図示																																																																																
・水洗い工法	※図示																																																																																
種 類	呼び名	防火材料	仕上げの形状																																																																														
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Si	・	・砂壁状 ・ゆず肌状（・吹付け ・ローラー塗り） ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸状（・吹付け ・こて塗り） ・着色骨材砂壁状（・吹付け ・こて塗り） ・砂壁状じゅうらく ・京壁状じゅうらく ・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし 上塗材 ・適用する																																																																														
	・可とう形外装薄塗材Si	・																																																																															
	・外装薄塗材E	・																																																																															
	・可とう形外装薄塗材E	・																																																																															
	・防水形外装塗材E	・																																																																															
	・外装薄塗材S	・																																																																															
・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材C	・																																																																															
	・外装厚塗材Si	・																																																																															
	・外装厚塗材E	・																																																																															
2 ひび割れ部改修工法	※樹脂注入工法（4.3.4） <table><tr><td>種 類</td><td>ひび割れ幅(mm)</td><td>注入口間隔(mm)</td><td>注入量(ml/m)</td></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上～1.0未満</td><td>※200～300</td><td>※</td></tr><tr><td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上～0.3未満</td><td>※50～100</td><td>※ 40</td></tr><tr><td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上～0.5未満</td><td>※100～200</td><td>※ 70</td></tr><tr><td>・可とう性エポキシ樹脂</td><td>0.5以上～1.0未満</td><td>※150～250</td><td>※130</td></tr></table>	種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(ml/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300	※	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	※50～100	※ 40	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上～0.5未満	※100～200	※ 70	・可とう性エポキシ樹脂	0.5以上～1.0未満	※150～250	※130	エポキシ樹脂 ・低粘度形 ・中粘度形 コア抜取り検査 ・行う （抜取り部の補修方法：） ・Uカットシール材充てん工法（4.3.5） ・シーリング材充填 充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 ・行う ・可とう性エポキシ樹脂	4-4 1 既存塗膜等の除去及び下地処理	（4.6.3） <table><tr><th>工 法</th><th>処理範囲</th><th>下地面の補修</th></tr><tr><td>・サンダー工法</td><td>※図示</td><td rowspan="4">・ひび割れ部改修工法 ・浮き部改修工法 ・欠損部改修工法</td></tr><tr><td>・高圧水洗工法</td><td>※図示</td></tr><tr><td>・塗膜はく離剤工法</td><td>※図示</td></tr><tr><td>・水洗い工法</td><td>※図示</td></tr></table>	工 法	処理範囲	下地面の補修	・サンダー工法	※図示	・ひび割れ部改修工法 ・浮き部改修工法 ・欠損部改修工法	・高圧水洗工法	※図示	・塗膜はく離剤工法	※図示	・水洗い工法	※図示	2 下地調整材料	※下地調整塗材 ・ポリマーセメントモルタル ・防水形仕上げ塗材主材（4.6.3） 建物内部に使用するユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂又はホルムアルデヒド系防腐剤（以下、「ユリア樹脂等」という。）を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種	新規仕上塗材の種類（4.1.4）（4.2.2）(表4.2.4) <table><tr><th>種 類</th><th>呼び名</th><th>防火材料</th><th>仕上げの形状</th></tr><tr><td rowspan="6">・薄付け仕上塗材</td><td>・外装薄塗材Si</td><td>・</td><td rowspan="6">・砂壁状 ・ゆず肌状（・吹付け ・ローラー塗り） ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸状（・吹付け ・こて塗り） ・着色骨材砂壁状（・吹付け ・こて塗り） ・砂壁状じゅうらく ・京壁状じゅうらく ・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし 上塗材 ・適用する</td></tr><tr><td>・可とう形外装薄塗材Si</td><td>・</td></tr><tr><td>・外装薄塗材E</td><td>・</td></tr><tr><td>・可とう形外装薄塗材E</td><td>・</td></tr><tr><td>・防水形外装塗材E</td><td>・</td></tr><tr><td>・外装薄塗材S</td><td>・</td></tr><tr><td rowspan="3">・厚付け仕上塗材</td><td>・外装厚塗材C</td><td>・</td><td rowspan="3"></td></tr><tr><td>・外装厚塗材Si</td><td>・</td></tr><tr><td>・外装厚塗材E</td><td>・</td></tr></table>	種 類	呼び名	防火材料	仕上げの形状	・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Si	・	・砂壁状 ・ゆず肌状（・吹付け ・ローラー塗り） ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸状（・吹付け ・こて塗り） ・着色骨材砂壁状（・吹付け ・こて塗り） ・砂壁状じゅうらく ・京壁状じゅうらく ・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし 上塗材 ・適用する	・可とう形外装薄塗材Si	・	・外装薄塗材E	・	・可とう形外装薄塗材E	・	・防水形外装塗材E	・	・外装薄塗材S	・	・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材C	・		・外装厚塗材Si	・	・外装厚塗材E	・																
	種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(ml/m)																																																																													
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300	※																																																																														
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	※50～100	※ 40																																																																														
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上～0.5未満	※100～200	※ 70																																																																														
・可とう性エポキシ樹脂	0.5以上～1.0未満	※150～250	※130																																																																														
工 法	処理範囲	下地面の補修																																																																															
・サンダー工法	※図示	・ひび割れ部改修工法 ・浮き部改修工法 ・欠損部改修工法																																																																															
・高圧水洗工法	※図示																																																																																
・塗膜はく離剤工法	※図示																																																																																
・水洗い工法	※図示																																																																																
種 類	呼び名	防火材料	仕上げの形状																																																																														
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Si	・	・砂壁状 ・ゆず肌状（・吹付け ・ローラー塗り） ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸状（・吹付け ・こて塗り） ・着色骨材砂壁状（・吹付け ・こて塗り） ・砂壁状じゅうらく ・京壁状じゅうらく ・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし 上塗材 ・適用する																																																																														
	・可とう形外装薄塗材Si	・																																																																															
	・外装薄塗材E	・																																																																															
	・可とう形外装薄塗材E	・																																																																															
	・防水形外装塗材E	・																																																																															
	・外装薄塗材S	・																																																																															
・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材C	・																																																																															
	・外装厚塗材Si	・																																																																															
	・外装厚塗材E	・																																																																															
2 ひび割れ部改修工法	※樹脂注入工法（4.3.4） <table><tr><td>種 類</td><td>ひび割れ幅(mm)</td><td>注入口間隔(mm)</td><td>注入量(ml/m)</td></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上～1.0未満</td><td>※200～300</td><td>※</td></tr><tr><td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上～0.3未満</td><td>※50～100</td><td>※ 40</td></tr><tr><td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上～0.5未満</td><td>※100～200</td><td>※ 70</td></tr><tr><td>・可とう性エポキシ樹脂</td><td>0.5以上～1.0未満</td><td>※150～250</td><td>※130</td></tr></table>	種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(ml/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300	※	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	※50～100	※ 40	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上～0.5未満	※100～200	※ 70	・可とう性エポキシ樹脂	0.5以上～1.0未満	※150～250	※130	エポキシ樹脂 ・低粘度形 ・中粘度形 コア抜取り検査 ・行う （抜取り部の補修方法：） ・Uカットシール材充てん工法（4.3.5） ・シーリング材充填 充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 ・行う ・可とう性エポキシ樹脂	4-4 1 既存塗膜等の除去及び下地処理	（4.6.3） <table><tr><th>工 法</th><th>処理範囲</th><th>下地面の補修</th></tr><tr><td>・サンダー工法</td><td>※図示</td><td rowspan="4">・ひび割れ部改修工法 ・浮き部改修工法 ・欠損部改修工法</td></tr><tr><td>・高圧水洗工法</td><td>※図示</td></tr><tr><td>・塗膜はく離剤工法</td><td>※図示</td></tr><tr><td>・水洗い工法</td><td>※図示</td></tr></table>	工 法	処理範囲	下地面の補修	・サンダー工法	※図示	・ひび割れ部改修工法 ・浮き部改修工法 ・欠損部改修工法	・高圧水洗工法	※図示	・塗膜はく離剤工法	※図示	・水洗い工法	※図示	2 下地調整材料	※下地調整塗材 ・ポリマーセメントモルタル ・防水形仕上げ塗材主材（4.6.3） 建物内部に使用するユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂又はホルムアルデヒド系防腐剤（以下、「ユリア樹脂等」という。）を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種	新規仕上塗材の種類（4.1.4）（4.2.2）(表4.2.4) <table><tr><th>種 類</th><th>呼び名</th><th>防火材料</th><th>仕上げの形状</th></tr><tr><td rowspan="6">・薄付け仕上塗材</td><td>・外装薄塗材Si</td><td>・</td><td rowspan="6">・砂壁状 ・ゆず肌状（・吹付け ・ローラー塗り） ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸状（・吹付け ・こて塗り） ・着色骨材砂壁状（・吹付け ・こて塗り） ・砂壁状じゅうらく ・京壁状じゅうらく ・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし 上塗材 ・適用する</td></tr><tr><td>・可とう形外装薄塗材Si</td><td>・</td></tr><tr><td>・外装薄塗材E</td><td>・</td></tr><tr><td>・可とう形外装薄塗材E</td><td>・</td></tr><tr><td>・防水形外装塗材E</td><td>・</td></tr><tr><td>・外装薄塗材S</td><td>・</td></tr><tr><td rowspan="3">・厚付け仕上塗材</td><td>・外装厚塗材C</td><td>・</td><td rowspan="3"></td></tr><tr><td>・外装厚塗材Si</td><td>・</td></tr><tr><td>・外装厚塗材E</td><td>・</td></tr></table>	種 類	呼び名	防火材料	仕上げの形状	・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Si	・	・砂壁状 ・ゆず肌状（・吹付け ・ローラー塗り） ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸状（・吹付け ・こて塗り） ・着色骨材砂壁状（・吹付け ・こて塗り） ・砂壁状じゅうらく ・京壁状じゅうらく ・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし 上塗材 ・適用する	・可とう形外装薄塗材Si	・	・外装薄塗材E	・	・可とう形外装薄塗材E	・	・防水形外装塗材E	・	・外装薄塗材S	・	・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材C	・		・外装厚塗材Si	・	・外装厚塗材E	・																
	種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(ml/m)																																																																													
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300	※																																																																														
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	※50～100	※ 40																																																																														
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上～0.5未満	※100～200	※ 70																																																																														
・可とう性エポキシ樹脂	0.5以上～1.0未満	※150～250	※130																																																																														
工 法	処理範囲	下地面の補修																																																																															
・サンダー工法	※図示	・ひび割れ部改修工法 ・浮き部改修工法 ・欠損部改修工法																																																																															
・高圧水洗工法	※図示																																																																																
・塗膜はく離剤工法	※図示																																																																																
・水洗い工法	※図示																																																																																
種 類	呼び名	防火材料	仕上げの形状																																																																														
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Si	・	・砂壁状 ・ゆず肌状（・吹付け ・ローラー塗り） ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸状（・吹付け ・こて塗り） ・着色骨材砂壁状（・吹付け ・こて塗り） ・砂壁状じゅうらく ・京壁状じゅうらく ・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし 上塗材 ・適用する																																																																														
	・可とう形外装薄塗材Si	・																																																																															
	・外装薄塗材E	・																																																																															
	・可とう形外装薄塗材E	・																																																																															
	・防水形外装塗材E	・																																																																															
	・外装薄塗材S	・																																																																															
・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材C	・																																																																															
	・外装厚塗材Si	・																																																																															
	・外装厚塗材E	・																																																																															
2 ひび割れ部改修工法	※樹脂注入工法（4.3.4） <table><tr><td>種 類</td><td>ひび割れ幅(mm)</td><td>注入口間隔(mm)</td><td>注入量(ml/m)</td></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上～1.0未満</td><td>※200～300</td><td>※</td></tr><tr><td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上～0.3未満</td><td>※50～100</td><td>※ 40</td></tr><tr><td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上～0.5未満</td><td>※100～200</td><td>※ 70</td></tr><tr><td>・可とう性エポキシ樹脂</td><td>0.5以上～1.0未満</td><td>※150～250</td><td>※130</td></tr></table>	種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(ml/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300	※	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	※50～100	※ 40	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上～0.5未満	※100～200	※ 70	・可とう性エポキシ樹脂	0.5以上～1.0未満	※150～250	※130	エポキシ樹脂 ・低粘度形 ・中粘度形 コア抜取り検査 ・行う （抜取り部の補修方法：） ・Uカットシール材充てん工法（4.3.5） ・シーリング材充填 充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 ・行う ・可とう性エポキシ樹脂	4-4 1 既存塗膜等の除去及び下地処理	（4.6.3） <table><tr><th>工 法</th><th>処理範囲</th><th>下地面の補修</th></tr><tr><td>・サンダー工法</td><td>※図示</td><td rowspan="4">・ひび割れ部改修工法 ・浮き部改修工法 ・欠損部改修工法</td></tr><tr><td>・高圧水洗工法</td><td>※図示</td></tr><tr><td>・塗膜はく離剤工法</td><td>※図示</td></tr><tr><td>・水洗い工法</td><td>※図示</td></tr></table>	工 法	処理範囲	下地面の補修	・サンダー工法	※図示	・ひび割れ部改修工法 ・浮き部改修工法 ・欠損部改修工法	・高圧水洗工法	※図示	・塗膜はく離剤工法	※図示	・水洗い工法	※図示	2 下地調整材料	※下地調整塗材 ・ポリマーセメントモルタル ・防水形仕上げ塗材主材（4.6.3） 建物内部に使用するユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂又はホルムアルデヒド系防腐剤（以下、「ユリア樹脂等」という。）を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種	新規仕上塗材の種類（4.1.4）（4.2.2）(表4.2.4) <table><tr><th>種 類</th><th>呼び名</th><th>防火材料</th><th>仕上げの形状</th></tr><tr><td rowspan="6">・薄付け仕上塗材</td><td>・外装薄塗材Si</td><td>・</td><td rowspan="6">・砂壁状 ・ゆず肌状（・吹付け ・ローラー塗り） ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸状（・吹付け ・こて塗り） ・着色骨材砂壁状（・吹付け ・こて塗り） ・砂壁状じゅうらく ・京壁状じゅうらく ・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし 上塗材 ・適用する</td></tr><tr><td>・可とう形外装薄塗材Si</td><td>・</td></tr><tr><td>・外装薄塗材E</td><td>・</td></tr><tr><td>・可とう形外装薄塗材E</td><td>・</td></tr><tr><td>・防水形外装塗材E</td><td>・</td></tr><tr><td>・外装薄塗材S</td><td>・</td></tr><tr><td rowspan="3">・厚付け仕上塗材</td><td>・外装厚塗材C</td><td>・</td><td rowspan="3"></td></tr><tr><td>・外装厚塗材Si</td><td>・</td></tr><tr><td>・外装厚塗材E</td><td>・</td></tr></table>	種 類	呼び名	防火材料	仕上げの形状	・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Si	・	・砂壁状 ・ゆず肌状（・吹付け ・ローラー塗り） ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸状（・吹付け ・こて塗り） ・着色骨材砂壁状（・吹付け ・こて塗り） ・砂壁状じゅうらく ・京壁状じゅうらく ・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし 上塗材 ・適用する	・可とう形外装薄塗材Si	・	・外装薄塗材E	・	・可とう形外装薄塗材E	・	・防水形外装塗材E	・	・外装薄塗材S	・	・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材C	・		・外装厚塗材Si	・	・外装厚塗材E	・																
	種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(ml/m)																																																																													
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300	※																																																																														
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	※50～100	※ 40																																																																														
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上～0.5未満	※100～200	※ 70																																																																														
・可とう性エポキシ樹脂	0.5以上～1.0未満	※150～250	※130																																																																														
工 法	処理範囲	下地面の補修																																																																															
・サンダー工法	※図示	・ひび割れ部改修工法 ・浮き部改修工法 ・欠損部改修工法																																																																															
・高圧水洗工法	※図示																																																																																
・塗膜はく離剤工法	※図示																																																																																
・水洗い工法	※図示																																																																																
種 類	呼び名	防火材料	仕上げの形状																																																																														
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Si	・	・砂壁状 ・ゆず肌状（・吹付け ・ローラー塗り） ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸状（・吹付け ・こて塗り） ・着色骨材砂壁状（・吹付け ・こて塗り） ・砂壁状じゅうらく ・京壁状じゅうらく ・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし 上塗材 ・適用する																																																																														
	・可とう形外装薄塗材Si	・																																																																															
	・外装薄塗材E	・																																																																															
	・可とう形外装薄塗材E	・																																																																															
	・防水形外装塗材E	・																																																																															
	・外装薄塗材S	・																																																																															
・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材C	・																																																																															
	・外装厚塗材Si	・																																																																															
	・外装厚塗材E	・																																																																															
2 ひび割れ部改修工法	※樹脂注入工法（4.3.4） <table><tr><td>種 類</td><td>ひび割れ幅(mm)</td><td>注入口間隔(mm)</td><td>注入量(ml/m)</td></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上～1.0未満</td><td>※200～300</td><td>※</td></tr><tr><td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上～0.3未満</td><td>※50～100</td><td>※ 40</td></tr><tr><td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上～0.5未満</td><td>※100～200</td><td>※ 70</td></tr><tr><td>・可とう性エポキシ樹脂</td><td>0.5以上～1.0未満</td><td>※150～250</td><td>※130</td></tr></table>	種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(ml/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300	※	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	※50～100	※ 40	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上～0.5未満	※100～200	※ 70	・可とう性エポキシ樹脂	0.5以上～1.0未満	※150～250	※130	エポキシ樹脂 ・低粘度形 ・中粘度形 コア抜取り検査 ・行う （抜取り部の補修方法：） ・Uカットシール材充てん工法（4.3.5） ・シーリング材充填 充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 ・行う ・可とう性エポキシ樹脂	4-4 1 既存塗膜等の除去及び下地処理	（4.6.3） <table><tr><th>工 法</th><th>処理範囲</th><th>下地面の補修</th></tr><tr><td>・サンダー工法</td><td>※図示</td><td rowspan="4">・ひび割れ部改修工法 ・浮き部改修工法 ・欠損部改修工法</td></tr><tr><td>・高圧水洗工法</td><td>※図示</td></tr><tr><td>・塗膜はく離剤工法</td><td>※図示</td></tr><tr><td>・水洗い工法</td><td>※図示</td></tr></table>	工 法	処理範囲	下地面の補修	・サンダー工法	※図示	・ひび割れ部改修工法 ・浮き部改修工法 ・欠損部改修工法	・高圧水洗工法	※図示	・塗膜はく離剤工法	※図示	・水洗い工法	※図示	2 下地調整材料	※下地調整塗材 ・ポリマーセメントモルタル ・防水形仕上げ塗材主材（4.6.3） 建物内部に使用するユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂又はホルムアルデヒド系防腐剤（以下、「ユリア樹脂等」という。）を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種	新規仕上塗材の種類（4.1.4）（4.2.2）(表4.2.4) <table><tr><th>種 類</th><th>呼び名</th><th>防火材料</th><th>仕上げの形状</th></tr><tr><td rowspan="6">・薄付け仕上塗材</td><td>・外装薄塗材Si</td><td>・</td><td rowspan="6">・砂壁状 ・ゆず肌状（・吹付け ・ローラー塗り） ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸状（・吹付け ・こて塗り） ・着色骨材砂壁状（・吹付け ・こて塗り） ・砂壁状じゅうらく ・京壁状じゅうらく ・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし 上塗材 ・適用する</td></tr><tr><td>・可とう形外装薄塗材Si</td><td>・</td></tr><tr><td>・外装薄塗材E</td><td>・</td></tr><tr><td>・可とう形外装薄塗材E</td><td>・</td></tr><tr><td>・防水形外装塗材E</td><td>・</td></tr><tr><td>・外装薄塗材S</td><td>・</td></tr><tr><td rowspan="3">・厚付け仕上塗材</td><td>・外装厚塗材C</td><td>・</td><td rowspan="3"></td></tr><tr><td>・外装厚塗材Si</td><td>・</td></tr><tr><td>・外装厚塗材E</td><td>・</td></tr></table>	種 類	呼び名	防火材料	仕上げの形状	・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Si	・	・砂壁状 ・ゆず肌状（・吹付け ・ローラー塗り） ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸状（・吹付け ・こて塗り） ・着色骨材砂壁状（・吹付け ・こて塗り） ・砂壁状じゅうらく ・京壁状じゅうらく ・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし 上塗材 ・適用する	・可とう形外装薄塗材Si	・	・外装薄塗材E	・	・可とう形外装薄塗材E	・	・防水形外装塗材E	・	・外装薄塗材S	・	・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材C	・		・外装厚塗材Si	・	・外装厚塗材E	・																
	種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(ml/m)																																																																													
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300	※																																																																														
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	※50～100	※ 40																																																																														
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上～0.5未満	※100～200	※ 70																																																																														
・可とう性エポキシ樹脂	0.5以上～1.0未満	※150～250	※130																																																																														
工 法	処理範囲	下地面の補修																																																																															
・サンダー工法	※図示	・ひび割れ部改修工法 ・浮き部改修工法 ・欠損部改修工法																																																																															
・高圧水洗工法	※図示																																																																																
・塗膜はく離剤工法	※図示																																																																																
・水洗い工法	※図示																																																																																
種 類	呼び名	防火材料	仕上げの形状																																																																														
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Si	・	・砂壁状 ・ゆず肌状（・吹付け ・ローラー塗り） ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸状（・吹付け ・こて塗り） ・着色骨材砂壁状（・吹付け ・こて塗り） ・砂壁状じゅうらく ・京壁状じゅうらく ・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし 上塗材 ・適用する																																																																														
	・可とう形外装薄塗材Si	・																																																																															
	・外装薄塗材E	・																																																																															
	・可とう形外装薄塗材E	・																																																																															
	・防水形外装塗材E	・																																																																															
	・外装薄塗材S	・																																																																															
・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材C	・																																																																															
	・外装厚塗材Si	・																																																																															
	・外装厚塗材E	・																																																																															
2 ひび割れ部改修工法	※樹脂注入工法（4.3.4） <table><tr><td>種 類</td><td>ひび割れ幅(mm)</td><td>注入口間隔(mm)</td><td>注入量(ml/m)</td></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上～1.0未満</td><td>※200～300</td><</tr></table>	種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(ml/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300																																																																									
	種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(ml/m)																																																																													
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300																																																																															

10 自動ﾄﾞｱ開閉装置	(5.7.2～3)(表 5.7.1～3)				6 内装改修工事	① 改修範囲	既存間仕切壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁及び床の改修範囲 (6.1.3) ※壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ㊦図示						⑦ 木材等の接着剤 その他	壁紙施工用でん粉系接着剤、ユリア樹脂等を用いた接着剤のホルムアルデヒド放数量 ※規制対象外 ・第三種 (6.5.2)(6.8.2)(6.11.6)(6.13.2)(6.14.2)(6.16.3) 防腐処理 ・行う (6.5.2) 防蟻処理 ・行う (施工範囲 ※図示 ・) (6.5.2) 防腐、防蟻処理の種類及び品質 表面処理用木材保存 (防腐・防蟻) 剤はクロルピリホスを含有しない薬剤とし、監督職員の承諾を受けること。																																																																											
	自動ﾄﾞｱ開閉装置の性質		防 錆				センサーの種類		凍結防止装置		天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲 (6.1.3) ※壁面より両側 600mm 程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ㊦図示						野縁等の種類 屋 外 ※25型 ・19型 (6.6.2)(表 6.6.1) 屋 内 ※19型 ・25型																																																																								
	・ DSLD-1 ・ DSLD-2 ・ SSLD-1 ・ SSLD-2 ・ SWD-1 ・ SWD-2 ・ 図示		・ 適用する				・ 光線 (反射) スイッチ ・ 音波スイッチ ・ 電波スイッチ ・ タッチスイッチ ・ ペダルスイッチ ・ 押しボタンスイッチ ・ 多機能便所スイッチ		・ 行う		ビニル床シート等の除去 ※仕上げ材のみ (接着剤とも) (6.2.2) ㊦下地モルタルとも (※図示の範囲 ・撤去範囲全て) 合成樹脂塗床材の除去工法 ・機械的除去工法 ・目荒工法 (6.2.2) 改修後の床の清掃範囲 ※図示 (6.2.2) ポリマーセメントモルタル及びエポキシ樹脂モルタル (4.2.2)(6.2.2) 改修標準仕様書4.2.2.(d) (2)及び4.2.2(d) (1)による						既存の埋込みインサート ㊦使用する (6.6.4) あと施工アンカーの引抜き試験 ・行う (6.6.4) 屋外の軒天井、ピロティ天井等 (6.6.3～4) 工法 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を施工計画書として提出する 建築基準法に基づき定められた区分等 基準風速 Vo= (3 8) m/s 地表面粗度区分 (・Ⅰ ・Ⅱ ㊦Ⅲ ・Ⅳ) 耐風圧性を考慮した補強 ㊦図示 ㊦耐風圧1,850pa仕様 (玄関ポーチ) 天井下地材における耐震性を考慮した補強 (6.6.4) ※ 6.6.4 による ㊦天井のふところが3 mを超える場合 補強箇所 ※図示 ㊦2階ロビー天井 補強方法 ㊦図示 ㊦耐震天井工法																																																																								
	⑪ 自閉式上吊り引戸装置						自閉式上吊り引戸の性能 ※改修標準仕様書表5.8.1による ・ (5.8.3)(表 5.8.1)							③ 既存壁の撤去、下地補修						スタッド、ランナーの種類 ※表6.7.1 による ・図示 (6.7.3)(表 6.7.1) スタッドの高さが5 mを超える場合 ※図示																																																																					
	12 重量シャッター						シャッターの種類 ・一般重量シャッター 耐風圧性能 () N/m ² (5.9.2) ・外壁用防火シャッター 耐風圧性能 () N/m ² ・屋内用防火シャッター ・屋内用防煙シャッター 開閉機能による種類 ※上部電動式 (手動併用) ・上部手動式 (5.9.2)(表 5.9.1) 一般重量シャッターのシャッターケース ・設ける (5.9.2)							④ 木下地等 ㊦						帯電防止 ・性能評価 (JIS A 1455) 1.2以上～3.2未満 (6.8.2) 又は体積電気抵抗値 (JIS A 1454) 1×10 ⁷ ～1×10 ¹⁰ Ω程度 ・ 耐動荷重 JIS A 1454による、へこみ試験、残留へこみ試験、滑り性試験、摩擦性試験、層間はく離強度試験 (発泡層のあるビニル床シートのみ) 及びキャスト性試験等の試験後、異常がないこと																																																																					
	13 軽量シャッター						開閉形式 ※手動式 ・上部電動式 (手動併用) (5.10.2)(表 5.10.1) 耐風圧 強度 () N/m ² (5.10.2) スラット 材 質 ※JISG3312(塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) 又は、 (5.10.3) JISG3318(塗装溶融亜鉛－5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯) ・ 形 状 ・インターロッキング形 ・オーバーラッピング形 (5.10.4)							⑤ 集材材等 ㊦						ホルムアルデヒド放数量 ※規制対象外 ・第三種 (6.5.2) ・構造用集成材 (6.5.2)																																																																					
	⑭ ガラス						・合わせガラス (5.12.2) <table><tr><td>品 種</td><td>構成種類</td><td>性 能</td></tr><tr><td>※フロート合わせガラス</td><td>※フロート板合わせガラス ・熱線吸収、フロート板合わせガラス</td><td>・Ⅰ類</td></tr><tr><td>・網入磨き合わせガラス</td><td>・網入磨き、フロート板合わせガラス ・網入磨き、熱線吸収板合わせガラス</td><td>・Ⅱ-1類 ・Ⅱ-2類 ・Ⅲ類</td></tr></table> ㊦強化ガラス (5.12.2) <table><tr><td>材料板ガラスによる種類</td><td>種 類</td><td>性 能</td></tr><tr><td>※フロートガラス</td><td>※フロート強化ガラス ・熱線吸収強化ガラス</td><td>・Ⅰ類 ㊦Ⅲ類</td></tr><tr><td>・型板ガラス</td><td>※型板強化ガラス</td><td></td></tr></table> ・熱線吸収板ガラス (5.12.2) <table><tr><td>品 種</td><td>性 能</td><td>色 調</td></tr><tr><td>※熱線吸収フロート板ガラス</td><td>・1種 ・2種</td><td>・ブルー ・グレー ・ブロンズ</td></tr><tr><td>・熱線吸収 網入磨き板ガラス</td><td></td><td></td></tr></table> ・複層ガラス (5.12.2)(9.4.2) <table><tr><td>品 種</td><td>断熱性</td><td>日射熱遮へい性</td></tr><tr><td>・断熱複層ガラス</td><td>・1種 ・2種 ・3種</td><td>U 1 U 2 ・U－3－1 ・U－3－2</td></tr><tr><td>・日射熱遮へい複層ガラス</td><td>・4種 ・5種</td><td>E 4 E 5</td></tr></table> ・熱線反射板ガラス (5.12.2)(5.12.4) <table><tr><td>品 種</td><td>色 調</td></tr><tr><td>※熱線反射ガラス</td><td>・ブルー ・グレー</td></tr><tr><td>・高性能熱線反射ガラス</td><td>・ブロンズ ・シルバー</td></tr></table> ガラスの種類 <table><tr><td>品 種</td><td>日射熱遮へい性</td><td>耐久性</td><td>ガラスの種類</td></tr><tr><td>※熱線反射ガラス</td><td>・1種</td><td>A 種</td><td rowspan="3"></td></tr><tr><td>・高性能熱線反射ガラス</td><td>・2種</td><td>・A 種 ・B 種</td></tr><tr><td></td><td>・3種</td><td>B 種</td></tr></table> 反射皮膜面 ※内面 ・外面 映像調整 ※行わない ・行う (16.3.4) ・倍強度ガラス (5.12.2) <table><tr><td>材料板ガラスによる種類の名称</td><td>色 調</td></tr><tr><td>※フロート倍強度ガラス</td><td></td></tr><tr><td>・熱線吸収倍強度ガラス</td><td>・グレー ・ブルー ・ブロンズ ・</td></tr></table> ㊦ガラスの留め材及び溝の大きさ (9.6.1)(5.12.2) <table><tr><td>建具の種類</td><td>ガラス留め材</td><td>ガラス溝の大きさ (mm)</td></tr><tr><td>アルミニウム製</td><td>※シーリング材 ・ガスケット ※グレイジングチャンネル形 ・</td><td>※標準仕様書表16.13.1による ・図示 ・</td></tr><tr><td>鋼製及び鋼製軽量</td><td>※シーリング材</td><td>※標準仕様書表16.13.1による</td></tr><tr><td>ステンレス製</td><td>※シーリング材</td><td>※標準仕様書表16.13.1による</td></tr></table>							品 種	構成種類	性 能	※フロート合わせガラス	※フロート板合わせガラス ・熱線吸収、フロート板合わせガラス	・Ⅰ類	・網入磨き合わせガラス	・網入磨き、フロート板合わせガラス ・網入磨き、熱線吸収板合わせガラス	・Ⅱ-1類 ・Ⅱ-2類 ・Ⅲ類	材料板ガラスによる種類	種 類	性 能	※フロートガラス	※フロート強化ガラス ・熱線吸収強化ガラス	・Ⅰ類 ㊦Ⅲ類	・型板ガラス	※型板強化ガラス		品 種	性 能	色 調	※熱線吸収フロート板ガラス	・1種 ・2種	・ブルー ・グレー ・ブロンズ	・熱線吸収 網入磨き板ガラス			品 種	断熱性	日射熱遮へい性	・断熱複層ガラス	・1種 ・2種 ・3種	U 1 U 2 ・U－3－1 ・U－3－2	・日射熱遮へい複層ガラス	・4種 ・5種	E 4 E 5	品 種	色 調	※熱線反射ガラス	・ブルー ・グレー	・高性能熱線反射ガラス	・ブロンズ ・シルバー	品 種	日射熱遮へい性	耐久性	ガラスの種類	※熱線反射ガラス	・1種	A 種		・高性能熱線反射ガラス	・2種	・A 種 ・B 種		・3種	B 種	材料板ガラスによる種類の名称	色 調	※フロート倍強度ガラス		・熱線吸収倍強度ガラス	・グレー ・ブルー ・ブロンズ ・	建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ (mm)	アルミニウム製	※シーリング材 ・ガスケット ※グレイジングチャンネル形 ・	※標準仕様書表16.13.1による ・図示 ・	鋼製及び鋼製軽量	※シーリング材	※標準仕様書表16.13.1による	ステンレス製	※シーリング材	※標準仕様書表16.13.1による		
	品 種	構成種類	性 能																																																																																						
	※フロート合わせガラス	※フロート板合わせガラス ・熱線吸収、フロート板合わせガラス	・Ⅰ類																																																																																						
	・網入磨き合わせガラス	・網入磨き、フロート板合わせガラス ・網入磨き、熱線吸収板合わせガラス	・Ⅱ-1類 ・Ⅱ-2類 ・Ⅲ類																																																																																						
材料板ガラスによる種類	種 類	性 能																																																																																							
※フロートガラス	※フロート強化ガラス ・熱線吸収強化ガラス	・Ⅰ類 ㊦Ⅲ類																																																																																							
・型板ガラス	※型板強化ガラス																																																																																								
品 種	性 能	色 調																																																																																							
※熱線吸収フロート板ガラス	・1種 ・2種	・ブルー ・グレー ・ブロンズ																																																																																							
・熱線吸収 網入磨き板ガラス																																																																																									
品 種	断熱性	日射熱遮へい性																																																																																							
・断熱複層ガラス	・1種 ・2種 ・3種	U 1 U 2 ・U－3－1 ・U－3－2																																																																																							
・日射熱遮へい複層ガラス	・4種 ・5種	E 4 E 5																																																																																							
品 種	色 調																																																																																								
※熱線反射ガラス	・ブルー ・グレー																																																																																								
・高性能熱線反射ガラス	・ブロンズ ・シルバー																																																																																								
品 種	日射熱遮へい性	耐久性	ガラスの種類																																																																																						
※熱線反射ガラス	・1種	A 種																																																																																							
・高性能熱線反射ガラス	・2種	・A 種 ・B 種																																																																																							
	・3種	B 種																																																																																							
材料板ガラスによる種類の名称	色 調																																																																																								
※フロート倍強度ガラス																																																																																									
・熱線吸収倍強度ガラス	・グレー ・ブルー ・ブロンズ ・																																																																																								
建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ (mm)																																																																																							
アルミニウム製	※シーリング材 ・ガスケット ※グレイジングチャンネル形 ・	※標準仕様書表16.13.1による ・図示 ・																																																																																							
鋼製及び鋼製軽量	※シーリング材	※標準仕様書表16.13.1による																																																																																							
ステンレス製	※シーリング材	※標準仕様書表16.13.1による																																																																																							
⑮ ガラス用フィルム						名 称						種 類	張り面	性能値・仕様	⑥ 床張り用合板及び その他の合板 ㊦																																																																										
						※ガラス飛散防止フィルム						第2種	※内張り ・外張り	飛散防止率 D1・断熱仕様	⑥ 床張り用合板及び その他の合板 ㊦																																																																										
						品質 JIS A5759による												⑬ ビニル幅木																																																																							
16 付属電気設備						電動シャッター、自動扉、電動オーバーヘッドドアの電動機が三相電動機0.4KW以上の場合、機器付属の操作盤内に電動機保護用遮断機及び進相用コンデンサーを設置する												⑭ カーペット敷き ㊦																																																																							

特記仕様書（建築改修工事編）（4）														平成22年度版 高知県土木部建築課			
M A 設 計 事 務 所														1級建築士 登録第 136008 信清和呂			
1級建築士 登録第 136008 信清和呂														平成23年4月			
県民体育館耐震補強その他建築主体工事														平成23年4月改正			

③鉄筋の継手

継手方法等

④全て重ね継手

(8.3.4)(8.4.2)

部 位

継手方法

呼び名 (mm)

柱・梁の主筋

・ガス圧接 ・機械式継手

耐力壁の鉄筋

・重ね継手

その他の鉄筋()

・重ね継手

主筋及び耐力壁の重ね継手の長さ

(8.3.4)

・構造関係共通図（配筋標準図）3.1(a) による

○フックのありなしにかかわらず、40d(軽量コンクリートの場合は50d)と、

構造関係共通図（配筋標準図）3.1(a) 表3.1の重ね継手長さのうち大きい値とする

・図示による()

継手位置図

○構造関係共通図（配筋標準図）5.1、6.1、7.1、7.3、8.1による

・図示による()

④鉄筋の定着の方法及び長さ

鉄筋の定着方法

(8.3.4)

○構造関係共通図（配筋標準図）3.1(b)による

○図示による()

鉄筋の定着の長さ

(8.3.4)

○構造関係共通図（配筋標準図）3.1(b)による

・フックのありなしにかかわらず、40d(軽量コンクリートの場合は50d)と、

構造関係共通図（配筋標準図）3.1(b) 表3.3の定着長さのうち大きい値とする

○図示による()

⑤鉄筋のかぶり厚さ及び間隔(溶接金網含む)

最小かぶり厚さ(目地底から算出を行う)

(8.3.5)

○構造関係共通図（配筋標準図）表4.1による

・図示による()

柱及び梁の主筋にD29以上の使用の有無

○無し

・有り 適用箇所()

最小かぶり厚さ

・鉄筋径の1.5倍以上

軽量コンクリートで土に接する部分

○無し

・有り 適用箇所()

・構造関係共通図（配筋標準図）表4.1に加える厚さ ()mm

耐久性上不利な部分(塩害等を受けるおそれのある部分等)

○無し

・有り 適用箇所()

・構造関係共通図（配筋標準図）表4.1に加える厚さ ()mm

鉄筋相互のあき(特殊な鉄筋を除く)

(8.3.5)(図8.3.4)

○構造関係共通図（配筋標準図）4.1による

○図示による()

6 圧接完了後の試験

外観試験

※行う (全数)

全数試験

(8.3.8)

・行わない

・行う

※超音波探傷試験

適用箇所

・図示による()

抜取試験

(5.4.9)(5.4.10)

・行わない

・行う

・超音波探傷試験

・引張り試験

試験の箇所数等

・標準仕様書 5.4.9、5.4.10による

適用箇所

・図示による()

⑦既存部分の処理

既存コンクリートの目荒らしの程度

(8.19.3)(8.20.3)(8.21.3)

○既存柱、梁面 打継ぎ面の15～30％程度

○既存壁 打継ぎ面の10～15％程度

・

既存コンクリートの目荒らしの範囲

(8.19.3)(8.20.3)(8.21.3)

○平均深さ2～5mm（最大7mm）程度の凹面を、全体にわたってつける。

・

8-2 ①コンクリートの使用骨材による種類及び強度

普通コンクリートの設計基準強度

(6.2.3)(8.1.3)(8.1.4)(表6.2.1)

設計基準強度 (N/mm²)

スランプ

適用箇所

・24

○21

18

図示

軽量コンクリートの設計基準強度

(6.2.3)(8.1.3)(8.10.3)(表6.2.1)

設計基準強度 (N/mm²)

スランプ

適用箇所

②レディーミクストコンクリートの類別

類 別

(8.1.3)(表8.1.1)

※Ⅰ類（JIS A 5308「レディーミクストコンクリート」に適合） ・Ⅱ類

③セメント

種 類

(8.2.5)(6.13.2)(表8.2.3)

○普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 使用部位()

普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、水和熱が7日目で352J/g 以下、かつ28日目で 402J/g 以下のものとする。

・高炉セメントB種 [G] 使用部位()

・フライアッシュセメントB種 [G] 使用部位()

④骨材

アルカリシリカ反応性による区分

(8.2.5)

○A ・B

⑤混和材料

○混和剤

(8.2.5)(8.5.8)

混和剤の種類

○改修標準仕様書 8.2.5(f)(1)による

・混和材

混和材の種類

・改修標準仕様書 8.2.5(f)(2)による

⑥コンクリート強度の気温による補正值

室内の工事における温度補正

(8.5.5)

○行わない

適用箇所()

・行う

7 無筋コンクリート

適用箇所

(6.14.1)

・標準仕様書 6.14.1(d)による箇所

・標準仕様書 6.14.1(d)以外の箇所

・図示による()

設計基準強度

(6.14.3)

・18 (N/mm²)

スランプ

(6.14.3)

・15cm ・18cm

8 高い強度のコンクリート

混和材料

(8.9.3)

・改修標準仕様書 8.9.3(b)(1)による

・改修標準仕様書 8.9.3(b)(1)以外の混和材料の使用

種類 ()

湿潤養生期間

(8.9.7)(表8.9.1)

・改修標準仕様書表8.9.1による

型枠の存置期間

(8.9.8)

・図示による()

9 ひび割れ誘発目地

目地寸法

(6.6.3)(6.9.2)(9.6.3)

・標準仕様書 9.6.3による

間隔・位置・形状

(6.9.2)

・図示による()

⑩コンクリートの仕上り

○改修標準仕様書 表8.1.2による

(8.1.4)(表8.1.2)

合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ

(8.1.4)(8.2.6)(表8.1.3)

種 別

適用箇所

・A種

○B種

図示

・C種

⑪打増し厚さ(打放し仕上げ部)

・打放し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る)

(8.7.9)

・20mm ○30mm

・打放し仕上げの打増し厚さ(内部に面する部分に限る)

・10mm ・20mm

⑫型枠

せき板の材料

(8.2.6)

○合板(○12mm ・15mm)

断熱材の兼用

(6.9.3)

○行わない ・行う

M C R工法用シート

(6.9.3)

・用いる

打増し厚さ

・20mm

打増し範囲

・図示による()

○用いない

スリーブの材種

(8.2.6)(表8.2.4)

○改修標準仕様書 8.2.6(f)(2)及び改修標準仕様書 表8.2.4による

⑬型枠の最小存置期間

○改修標準仕様書 8.7.9(c)(2)による

(8.7.9)(表8.7.3)

⑭コンクリートの単位水量測定

実施要領

○構造関係共通図（構造関係共通事項） 構－4 施工方法等計画書関連等 コンクリートの単位水量測定による

15 コンクリートの打込み工法等

部位等のコンクリートの打設工法の指定

(8.19.8)(8.21.5)

補強工法

打設工法

部 位

○現場打ちコンクリート壁の増設工事

・工法指定なし

○全ての増設壁 ・図示による()

○流込み工法 8.19.8(a)(1),(b)

・圧入工法 8.19.8(a)(2),(c)

・

・全ての増設壁 ・図示による()

・鉄筋コンクリート柱の溶接金網巻き及び溶接閉鎖フープ巻き工法

・工法指定なし

○全ての増設壁 ・図示による()

・流込み工法 8.19.8(a)(1),(b)

・圧入工法 8.19.8(a)(2),(c)

・

・全ての増設壁 ・図示による()

・

・工法指定なし

・流込み工法 8.19.8(a)(1),(b)

・圧入工法 8.19.8(a)(2),(c)

鉄筋コンクリート柱の溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法での型枠等

(8.21.5)

柱頭柱脚の隙間部間の型枠

・発泡プラスチック保温材等を埋込む

・

柱頭柱脚の隙間寸法

・図示による()

既存柱外周部あと打ちコンクリート又はモルタルの厚さ

○図示による()

8-3 ①鉄骨製作工場

鉄骨製作工場の加工能力

(8.1.5)

※建築基準法第77条の56に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認定を受けた(株)日本鉄骨評価センター及び(株)全国鉄骨評価機構(旧(社)全国鐵構工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める(R)グレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場

○監督職員の承諾する工場(標準仕様書 7.1.1 以外の適用範囲に限る)

②施工管理技術者

○適用する

(7.1.4)(7.12.2)(8.1.5)(8.14.2)

・適用しない

③鋼材

材質等

(8.2.7)(表8.2.5)

種類の記号

適用箇所 (主要な部分)

規 格

図示

図示

○JIS規格による

・JIS規格による

・JIS規格による

・JIS規格による

・JIS規格による

・JIS規格による

有効細長比(圧縮材に限る)

※ 図示による

④高力ボルト

ボルトの区分

(8.2.8)(8.13.7)

○トルシア形高力ボルト

セットの種類

・2種(S10T)

・JIS形高力ボルト

セットの種類

・2種(F10T)

高力ボルトの径

(8.2.8)

○図示による()

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等

(8.1.6)

・構造関係共通図（鉄骨標準図） 1-1 縁端距離及びボルト間隔 による

○図示による

すべり係数試験

(8.13.2)

※行わない

・行う

試験方法等

・図示による()

5 普通ボルト

ボルト及びナットの材料

(7.2.3)

○標準仕様書 表7.2.3による

座金

(7.2.3)

○標準仕様書 7.2.3(d)による

ボルトの径

(7.2.3)

○図示による()

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等

(8.1.6)

○構造関係共通図（鉄骨標準図） 1-1 縁端距離及びボルト間隔 による

特記仕様書（建築改修工事編）（6）

平成22年度版

高知県土木部建築課

M A 設計事務所

1級建築士 登録第 136008 信清和呂

意匠 06

平成23年4月

県民体育館耐震補強その他建築主体工事

平成23年4月改正

6 溶融亜鉛めっき 高力ボルト	セットの種類 ・ 1種 (F8T相当) 溶融亜鉛めっき高力ボルトの径 ・ 図示による () 溶融亜鉛めっき高力ボルトのボルト孔の径 ・ 審査 (評定又は大臣認定) を受けた内容による ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ・ 構造関係共通事項 構造関係共通図 (鉄骨標準図) 1-1 縁端距離及びボルト間隔 による 摩擦面の処理 ・ プラスト処理 (表面粗度50μm Rz 以上) ・ りん酸塩処理 すべり耐力等の確認方法 ※すべり耐力試験 試験方法等 ・ 図示による ()	(8 . 2 . 8)	(8 . 2 . 8)	(8 . 1 . 6)	(7 . 1 2 . 4)																																														
	7 アンカーボルト	適用 ・ 建方用アンカー 材質 ・ SS400 適用箇所 ・ 図示による () ・ 構造用アンカー 材質 ・ SNR400B 適用箇所 ・ 図示による () アンカーボルト及びナットのねじの種類、規格、及び仕上げの程度 (7 . 2 . 4) (表 7 . 2 . 3) ・ JIS II 13-2004 「 (社) 日本鋼構造協会規格 / 建築構造用転造ねじアンカーボルト ナット・座金のセット」 適用箇所 ・ 図示による () ・ 標準仕様書 表7.2.3による 適用箇所 ・ 図示による () 形状、寸法 (7 . 1 0 . 3) 構造用 ・ 図示による () 建方用 ・ 図示による ()	(7 . 2 . 4) (7 . 1 0 . 3)																																																
⑧ 溶接材料	溶接材料 ○改修標準仕様書 8.2.9(a)(b)による。 ・ 改修標準仕様書 8.2.9(a)(b)以外の溶接材料 材料及び使用箇所 ・ 図示による ()	(8 . 2 . 9)																																																	
9 ターンバックル	種類 建築用ターンバックル胴 ・ 割 枠 式 建築用ターンバックルボルト ・ 羽子板ボルト ねじの呼び ・ 図示による ()	(7 . 2 . 6)		(7 . 2 . 6)																																															
10 デッキプレート	材質、形状及び寸法 (7 . 2 . 7) <table><tr><td></td><td>適用箇所</td><td>材質・形状・寸法</td><td>備 考</td></tr><tr><td>・ 構造床</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 合成スラブ</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 床型枠用</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 開口部補強要領 (補強筋の定着長さ等を含む) ・ 図示による () 鉄骨部材への溶接方法 ・ 図示による () 耐火認定 ・ 有り 耐火時間 ・ 図示による () ・ 無し		適用箇所	材質・形状・寸法	備 考	・ 構造床				・ 合成スラブ				・ 床型枠用																																					
	適用箇所	材質・形状・寸法	備 考																																																
・ 構造床																																																			
・ 合成スラブ																																																			
・ 床型枠用																																																			
⑪ スタッド	材質、形状及び寸法 ○図示 ※ 頭付きスタッド JIS B 1198 呼び名等 <table><tr><td>呼 び 名</td><td>呼び長さ (mm)</td><td>適 用 箇 所</td></tr><tr><td>・ 16</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 19</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 22</td><td></td><td></td></tr></table>	呼 び 名	呼び長さ (mm)	適 用 箇 所	・ 16			・ 19			・ 22																																								
呼 び 名	呼び長さ (mm)	適 用 箇 所																																																	
・ 16																																																			
・ 19																																																			
・ 22																																																			
		12 柱底均しモルタル	モルタルの種類 (8 . 2 . 1 0) ※ 無収縮モルタル 無収縮モルタルの材料及び調合 (8 . 2 . 1 0) 材料、調合等 ・ 改修標準仕様書 8.2.10による 品質及び試験方法 ・ 改修標準仕様書 8.2.8による 工法の種別 (7 . 1 0 . 3) (表 7 . 6 . 2) ・ 標準仕様書 表7.10.2 (※ A 種 [モルタル厚さ50] ・ B 種 [モルタル厚さ30]) による 開先の形状 (8 . 1 4 . 4) ○図示による () ・ 構造関係共通図 (鉄骨標準図) 1-2による スカラップの形状 (8 . 1 4 . 7) ○図示による () ・ 構造関係共通図 (鉄骨標準図) 1-4による エンドタブの切除する部分 (8 . 1 4 . 7) ・ 見え掛り部となる部分 ・ 図示による () ・ 見え隠れ部となる部分 ・ 図示による () ○切除する部分なし 溶接部の余盛り高さ (8 . 1 4 . 7) ※ (社) 日本建築学会 「 JASS6鉄骨工事」 付則6「鉄骨精度検査基準」 付表3[溶接]による エンドタブ・裏あて金 ※ 鋼材の鋼種はSN-Bとし、引張強さによる区分は母材と同等とする。 鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件 ・ 図示による () ・ 構造関係共通図 (鉄骨標準図) 1-4による 適用箇所 ・ 図示による () ・ 柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部 浸透探傷試験又は磁粉探傷試験 (8 . 1 4 . 1 1) ・ 行わない ○行う 適用部位 ※ 割れの疑いのある表面欠陥 完全溶込み部の超音波探傷試験 (表 7 . 6 . 2) (表 7 . 6 . 3) (表 7 . 6 . 4) (8 . 1 4 . 1 1) ・ 行わない ○行う ○工場溶接の場合 AQL(%) (7 . 6 . 1 1) (表 7 . 6 . 2) (表 7 . 6 . 3) (表 7 . 6 . 4) ○4.0 ・ 2.5 <table><tr><td>節</td><td>○全て</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>検査水準</td><td>○第6水準</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 適用箇所 ・ 図示による () ○全数 (8 . 1 4 . 1 1) 適用箇所 ・ 図示による () ・ 工事現場溶接の場合 AQL(%) (7 . 6 . 1 1) (表 7 . 6 . 2) (表 7 . 6 . 3) (表 7 . 6 . 4) ・ 4.0 ・ 2.5 適用箇所 ・ 図示による () ・ 全数 (8 . 1 4 . 1 1) 適用箇所 ・ 図示による () 突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査 (8 . 1 4 . 1 1) 独立行政法人建築研究所監修 「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による ・ 抜き取り検査① ※ 抜き取り検査② 塗料の種類 (7 . 3 . 2) (8 . 1 6 . 3) (表 7 . 3 . 1) ○鉄鋼面の錆止め塗料 屋外 ・ 改修標準仕様書 7.3.2 表7.3.1 A種 屋内 ○改修標準仕様書 7.3.2 表7.3.1 (A) 種 ・ 亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料 ・ 改修標準仕様書 7.3.2 表7.3.2 () 種 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面 (鉄骨に溶接されたものに限る) ・ 改修標準仕様書 7.3.2 表7.3.1 () 種 耐火被覆材の接着する面への塗装 ・ 行わない ・ 行う 適用箇所 ・ 図示による () 塗料の種類 ・ 改修標準仕様書 7.3.2 表7.3.1 () 種 ・ 改修標準仕様書 7.3.2 表7.3.2 () 種	節	○全て				検査水準	○第6水準				⑬ 溶接接合	14 入熱、パス間温度 の溶接条件	⑮ 溶接部の試験	⑯ 錆止め塗装																																		
節	○全て																																																		
検査水準	○第6水準																																																		
		17 耐火被覆	種別 (8 . 1 7 . 2 ～ 8 . 1 7 . 7) <table><tr><th>種 別</th><th>材料・工法</th><th>適用箇所 (部位・部分)</th></tr><tr><td rowspan="4">・ 耐火材吹付け</td><td>・ 乾式吹付けロックウール</td><td></td></tr><tr><td>・ 半乾式吹付けロックウール</td><td></td></tr><tr><td>・ 湿式ロックウール</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">・ 耐火板張り</td><td>・ 繊維混入けい酸カルシウム板</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">・ 耐火材巻付け</td><td>・ 高断熱ロックウール</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td>ラス張りモルタル塗り</td><td>—</td><td></td></tr></table> 材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする 性能 <table><tr><th>性能</th><th>適用箇所 (部位・部分)</th></tr><tr><td>・ 3 0 分耐火</td><td></td></tr><tr><td>・ 1 時間耐火</td><td></td></tr><tr><td>・ 2 時間耐火</td><td></td></tr><tr><td>・ 3 時間耐火</td><td></td></tr></table> 18 建方精度 ※ (社) 日本建築学会 「 JASS6鉄骨工事」 付則6「鉄骨精度基準」 付表 [工事現場] による (7 . 1 0 . 2) 19 アンカーボルトの保持 及び埋込み工法 構造用アンカーフレームの形状及び寸法 (7 . 2 . 4) (7 . 1 0 . 3) ・ 図示による () 建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法 種別 (表 7 . 1 0 . 1) ・ A 種 ・ B 種 ・ C 種 20 軽量形鋼構造 接合部 (ボルト接合の場合) (7 . 1 1 . 2) ○ 普通ボルト接合 21 溶融亜鉛めっき (基礎、主要構造部及びその他 構造耐力上主要な部分に限る) 種別等 (7 . 1 2 . 3) (表 1 4 . 2 . 2) <table><tr><th>亜鉛めっきの種別</th><th>材 料</th></tr><tr><td>A種</td><td>最小板厚 6.0mm 以上の形鋼、鋼板</td></tr><tr><td>B種</td><td>最小板厚 3.2mm 以上、6.0mm 未満の形鋼、鋼板</td></tr><tr><td>C種</td><td>普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類 最小板厚 2.3mm 以上、3.2mm 未満の形鋼、鋼板</td></tr></table> 素地ごしらは、JIS H 8641 による 適用箇所 ・ 図示による () 22 鉄骨ブレース設置後 の仕上げ ○図示による () (8 . 2 0 . 9) ・	種 別	材料・工法	適用箇所 (部位・部分)	・ 耐火材吹付け	・ 乾式吹付けロックウール		・ 半乾式吹付けロックウール		・ 湿式ロックウール				・ 耐火板張り	・ 繊維混入けい酸カルシウム板				・ 耐火材巻付け	・ 高断熱ロックウール				ラス張りモルタル塗り	—		性能	適用箇所 (部位・部分)	・ 3 0 分耐火		・ 1 時間耐火		・ 2 時間耐火		・ 3 時間耐火		亜鉛めっきの種別	材 料	A種	最小板厚 6.0mm 以上の形鋼、鋼板	B種	最小板厚 3.2mm 以上、6.0mm 未満の形鋼、鋼板	C種	普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類 最小板厚 2.3mm 以上、3.2mm 未満の形鋼、鋼板	18 建方精度	19 アンカーボルトの保持 及び埋込み工法	⑳ 軽量形鋼構造	21 溶融亜鉛めっき (基礎、主要構造部及びその他 構造耐力上主要な部分に限る)	㉒ 鉄骨ブレース設置後 の仕上げ
種 別	材料・工法	適用箇所 (部位・部分)																																																	
・ 耐火材吹付け	・ 乾式吹付けロックウール																																																		
	・ 半乾式吹付けロックウール																																																		
	・ 湿式ロックウール																																																		
・ 耐火板張り	・ 繊維混入けい酸カルシウム板																																																		
・ 耐火材巻付け	・ 高断熱ロックウール																																																		
ラス張りモルタル塗り	—																																																		
性能	適用箇所 (部位・部分)																																																		
・ 3 0 分耐火																																																			
・ 1 時間耐火																																																			
・ 2 時間耐火																																																			
・ 3 時間耐火																																																			
亜鉛めっきの種別	材 料																																																		
A種	最小板厚 6.0mm 以上の形鋼、鋼板																																																		
B種	最小板厚 3.2mm 以上、6.0mm 未満の形鋼、鋼板																																																		
C種	普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類 最小板厚 2.3mm 以上、3.2mm 未満の形鋼、鋼板																																																		
		8-4 ①あと施工アンカー	材料等 (8 . 2 . 4) ○金属系アンカー セット方式 ○本体打込み式 ・ 接合部の種類、径、長さ ○図示による () ・ 性能確認試験 ○実施しない ・実施する 試験方法及び試験数 ・ 図示による () ・ ○接着系アンカー セット方式 ○カプセル式 ・ 接着剤の品質 ○有機系 ・無機系 アンカー筋の種類 ○改修標準仕様書 表8.2.1の異形棒鋼 (表 8 . 2 . 1) 性能確認試験 ○実施しない ・実施する 試験方法及び試験数 ・ 図示による () ・	特記仕様書 (建築改修工事編) (7)		平成 2 2 年度版	高知県土木部建築課																																												
		M A 設 計 事 務 所 1級建築士 登録第 136008 信清和呂 意匠 07 平成23年4月																																																	
		県民体育館耐震補強その他建築主体工事 平成 2 3 年 4 月 改 正																																																	

	②穿孔前の埋込み配管等の探査	探査範囲 ⓐあと施工アンカー施工部分全て ・ 探査方法 ⓐ鉄筋探知機（金属探知器）により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出を行う ・はつり出しによる ・	(8.1.1.2)	3 スリット充填材	耐火材 ・使用しない ・使用する 使用箇所及び仕様 ・図示による（ ・ 遮音材 ・使用しない ・使用する 使用箇所及び仕様 ・図示による（ ・	(8.2.2.2)	3 屋上緑化改修工事 [G]	植栽基盤及び材料 ※屋上緑化軽量システム 芝及び地被類の樹種並びに種類等 ※図示 見切り材、舗装材、水抜き管、マルチング材等 ※図示 工 法 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を施工計画書として提出する 建築基準法に基づき定められた区分等 基準風速 V0=()m/s 地表面粗度区分 (・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ) 支柱 ・設置する (種類・図示・) かん水装置 ・設置する (工事区分は図示による) 既存保護層の撤去 ・行う	(9.6.2)
		③施工確認試験	試験の適用 ・実施しない ⓐ実施する 試験方法 ⓐ引張試験 ・ 確認強度 ・図示による（ ・		(8.1.1.5)	(8.2.2.2)		4 透水性アスファルト舗装 [G]	路床の材料 ・遮断層 ※川砂、海砂又は良質な山砂 厚さは図示による (9.7.3) ・凍上抑制層 ※再生クラッシャー・クラッシャー・切込み砂利・砂 厚さは図示による ・フィルター層 ※砂 厚さは図示による 路床安定処理 ・行う ※添加材料による安定処理 種類 ・普通ポルトランドセメント ・フライアッシュセメントB種 ・生石灰（ ） ・消石灰（ ） 添加量 kg/m ³ (目標CBR ※5以上・ ・) ・ジオテキスタイル 単位面積質量 60g/m ³ 以上 厚さ (mm) 0.5～1.0 引張強さ 98N/5cm (10kgf/5cm) 以上 浸水係数 1.5×10 ⁻¹ cm/sec以上 盛土の種別 ・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・建設汚泥から再生した処理土 [G] C種の場合（建設発生土受入量（ ）m ³ 発生場所： D種の場合は「セメント及びセメント系固化工材を使用した改良土の六価クロム溶出試験実施要領（案）」により、六価クロム溶出試験を行う。 路床土の支持力比（CBR）試験 ※行う ・行わない 路床の締固め度試験 ※行う ・行わない 砂の粒度試験 ※行う ・行わない 発生土の処理 ※構外搬出適切処理 「建設発生土情報交換システム」を活用し、適切に処理する 搬出調査等を監督職員に提出する 受入施設名： 受入場所： 受入条件 ・交通整理員 ・鉄板敷 ・土質試験 ・構内指定場所に敷き均し ・構内指定場所にたい積 路盤材料 ・再生クラッシャーラン [G] ・クラッシャーラン鉄鋼スラグ [G] ・ 路盤厚さ (mm) 車道部 ※図示 歩道部 ※図示 路盤の締固め度試験 ※行う ・行わない 舗装材料及び厚さ (9.7.5～6) 車道部 ※ポリマー改質アスファルトⅠ型 厚さ (mm) ※図示 ・50 ・ 歩道部 ※ストレートアスファルト 厚さ (mm) ※図示 ・30 ・ 透水性アスファルト混合物等の抽出試験 ※行う ・行わない (9.7.9)
8-5	①モルタル及びグラウト材	構造体用モルタル (8.2.1.0)(8.5.1.0) ・改修標準仕様書 8.2.10 及び 8.5.10 による 柱底均しモルタル (8.2.1.0) ・無収縮モルタル グラウト材 (8.2.1.0) ⓐ無収縮グラウト材（セメント、混和剤、砂は無収縮モルタルに準ずる） 無収縮グラウトの品質及び試験方法 ブリージング 練り混ぜ2時間後のブリーディング率：2.0%以下 無収縮性 材 齢 7 日 収縮しない 圧縮強度 材 齢 3 日 20N/mm ² 以上 材 齢 2 8 日 40N/mm ² 以上 塩化物量 0.30kg/m ³ 以下 試験方法 1) 日本道路公団規格（JHS）312-1999「無収縮モルタル品質管理試験方法」による。プレミックス形と現場調合形で混和材が同一の場合はプレミックス形のみとする。 2) 塩化物量の試験は、JIS A 1144「フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験方法」による。		9 環境配慮改修工事	施工調査 ・分析によるアスベスト含有建材の調査 分析方法 ※ JIS A1481「建材製品中のアスベスト含有率測定方法」による ・ 分析結果については、監督職員に報告すること 材料名 定性分析 定量分析 ・ (室) ・ (室) ・ (室) ・ (室) ・ (室) ・ (室) 採取箇所は図示 アスベスト粉じん濃度測定 (9.1.1) 測定時期、場所及び測定点 適用 測定名称 測定時期 測定場所 測定点 (各施工箇所ごと) ⓐ 測定1 処理作業前 処理作業室内 ⓐ計3点（アリーナ棟 5 点) ⓑ 測定2 調査対象室外部の付近 ⓐ計2点（プール棟無アリーナ棟で兼ねる) ⓒ 測定3 処理作業室内 ⓐ計3点（アリーナ 5 点) ⓓ 測定4 処理作業中 負圧・除じん装置の排出 出口吹出し風速1m/sec以下の位置 吹出し口 ⓐ計2点 ⓔ 測定5 処理作業室外(敷地境界) ⓐ計4点 ⓕ 測定6 処理作業後(シート養生中) 処理作業室内 ⓐ計3点（アリーナ棟 5 点) ⓖ 測定7 処理作業後シート 処理作業室内 ⓐ計2点 ⓗ 測定8 撤去後1週間以降 調査対象室外部の付近 ⓐ計2点（プール棟無アリーナ棟で兼ねる) 測定方法 メンブレンフィルタ直径(mm) 測定3 測定1,2,4,6,7,8 測定5 25 25 47 試料の吸引流量(l/min) ・1 ・ ・5 ・ ・10 ・ 試料の吸引時間(min) ・5 ・ ・120 ・ ・240 ・ アスベスト含有建材の処理 (9.1.3) ⓐアスベスト含有吹付け材の除去 除去対象範囲 ※図示 除去工法 ※改修標準仕様書9.1.3(b)(ⅰ)～(iv)による ・ 除去したアスベスト含有吹付け材等の処理 ※密封処理 ・セメント固化 除去したアスベスト含有吹付け材の熔融固化 ・無 ・有 場所 () 処理費 () ・アスベスト含有保温材等の除去 (9.1.4) 除去対象範囲 ※図示 作業場の隔離 ・行う ⓐアスベスト含有成形板の除去 (9.1.5) 除去対象範囲 ※図示 断熱材は、原則としてグリーン購入法における特定調達品目を使用すること。 ロックウール、グラスウール、フェノールフォーム、ユリア樹脂又はメラミン樹脂を (9.5.2) 使用した断熱材のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種 ・断熱材の打込み及び張付け (9.5.2) 発泡剤の種類 種 類 厚さ(mm) 施工箇所 ・ヒート法® リスチレンフォーム保温材 A種 ・保温板(2種b) ・25 ・ ※一般部 ※押出法® リスチレンフォーム保温材 A種 ・保温板(3種b) ・25 ・ ・接地板部分 ・ ・硬質ウレタンフォーム保温材 A種 ・フェノールフォーム保温材 A種 ・断熱材現場発泡工法 (9.5.3) 断熱材の種類 ※A種 1 ・ B種 1 厚さ (mm) ・25 ・30 ・ 施工箇所 ※窓回り等の断熱材補修部分、ルーフトレイン回りの床版下等、部分的に後張りとしなければならない箇所 ・図示 ・				
8-6	1 適用範囲	連続繊維補強工法 ・連続シートを柱に巻き付けて補強する工法 ・			②断熱材 [G]	10 その他 1 視覚障害者用床タイル ②天井点検口	1 視覚障害者用床タイル ②天井点検口	(6.8.2) 施工箇所 種類 寸法 (mm) 厚さ (mm) ※塩化ビニル製 ※300×300 ※7.0 ・レジンコンクリート製 ※300×300 ・磁器又はせっ器質タイル ※300×300 ブロックパターンは JIS T 9251による 材 種 寸 法 形 式 外枠 内枠 枠の許容差 外枠と内枠のクリアランス ※アルミニウム製 ⓐ450×450 ⓐ一般形 ・屋内外用 ・額縁タイプ ⓐ額縁タイプ ±0.5mm 片側 ・ ⓐ600×600 ⓐ屋内用 ⓐ目地タイプ ・目地タイプ 2.0mm以内 ・ ⓐ密閉形 アルミニウム合金押出形材は JIS H 4100 A6063S-T5 により、表面処理は陽極酸化被膜 JIS H 8601(AA6)（外材についてはB種又は同等品以上）をおこなったものとする。 内枠、外枠のコーナピース、及び吊り金物、取付ボルトは鋼板に亜鉛めっき等の防錆処理をおこなったものとする。 内枠の仕上材、留付金具はアルミニウム合金押出形材、亜鉛めっき鋼板の類とする。 ⓐ5箇所（RW-5・RW-8・RW-13・RW-14・RW-17 各1箇所）	
	2 連続繊維シート	連続繊維の材料 (8.2.1.1) ・炭素繊維 ・アラミド繊維 ・ 連続繊維の材質 (8.2.1.1) 引張強度（含浸硬化後） ・ () N/mm ヤング係数（含浸硬化後） ・ () N/mm ひび割れ部改修 (8.2.1.7)(4.1.4) ・行わない ・行う 範囲 ・図示による（ ） 種類 ・改修標準仕様書 4.1.4(a),(b)による 連続繊維補強材の引張強度試験 (8.2.1.7) ・行わない ・行う 引張り強度試験 ※JIS A 1191（コンクリート用連続繊維シートの引張り試験方法）による 試験数量 ・図示による（ ） 連続繊維補強材の付着強度試験 (8.2.1.7) ・行わない ・行う 試験数量 ・図示による（ ） 3 連続繊維補強後の仕上げ (8.2.1.8) ・図示による（ ） ・							
8-7	1 スリットの方式	・完全 ・部分 設置箇所 ・図示による（ ） 耐震スリット部詳細 ・図示による（ ）			耐震スリット新設工事	断熱材は、原則としてグリーン購入法における特定調達品目を使用すること。 ロックウール、グラスウール、フェノールフォーム、ユリア樹脂又はメラミン樹脂を (9.5.2) 使用した断熱材のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種 ・断熱材の打込み及び張付け (9.5.2) 発泡剤の種類 種 類 厚さ(mm) 施工箇所 ・ヒート法® リスチレンフォーム保温材 A種 ・保温板(2種b) ・25 ・ ※一般部 ※押出法® リスチレンフォーム保温材 A種 ・保温板(3種b) ・25 ・ ・接地板部分 ・ ・硬質ウレタンフォーム保温材 A種 ・フェノールフォーム保温材 A種 ・断熱材現場発泡工法 (9.5.3) 断熱材の種類 ※A種 1 ・ B種 1 厚さ (mm) ・25 ・30 ・ 施工箇所 ※窓回り等の断熱材補修部分、ルーフトレイン回りの床版下等、部分的に後張りとしなければならない箇所 ・図示 ・	特記仕様書（建築改修工事編）（8） M A 設 計 事 務 所 1級建築士 登録第 136008 信清和呂 県民体育館耐震補強その他建築主体工事 平成23年4月改正	平成22年度版 高知県土木部建築課	
	2 スリットの施工	既存撤去部の配管等の探査 ・鉄筋探査機（金属探知器）により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う ・はつりだしによる スリットの幅及び深さ (8.2.2.2) ・図示による（ ）							

③エキスパンションジョイント金物

④天井見切り縁

⑥消防法窓踏台

⑦ショーケース

⑧暗幕

⑨駐輪場

⑩カーテン

⑪防球ネット

⑫棚

⑬押出成形プレート(ECP)

⑭折板葺

⑮耐火被覆

⑯金属成形板張り

材質

・アルミニウム

・ステンレス

クリアランス

・50

①100

・150

耐火性能

①有り

(

屋根

・外壁1時間

)

・無し

形状

バラベット

・外壁

・外壁コーナー

・内壁コーナー

・天井コーナー

材種

※アルミニウム既製品

①塩化ビニル既製品

図示

一時取外し

・再取付け

図示

一時取外し

・再取付け

図示

図示

一時取外し

・再取付け

図示

一時取外し

・再取付け

図示

一時取外し

・再取付け

図示

(8.5.2～4)(表8.5.1～2)

パネルの種類	表面形状	厚さ(mm)	幅(mm)	凹凸・充填等	パネルの取付け工法			
	①F	・50	・60	①15	・有	①無		
①外壁パネル	・D	・50	・60	600	・有	・無	・A種	①B種
	・T		60		・有	・無		

F：フラットパネル D：デザインパネル T：タイルベースパネル

外壁パネルの工法

(8.5.3)

建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を施工計画書として提出する

建築基準法に基づき定められた区分等

基準風速

Vo=(38)m/s

地表面粗度区分

(Ⅰ・Ⅱ①ⅢⅣ)

パネル相互の目地幅(mm)

※長辺8以上、短辺15以上

(8.5.3～4)

出隅及び入隅のパネル接合目地の目地幅

※15

(8.5.3～4)

(1.3.3.2)(表1.3.2.1)

施工箇所	形式	長尺金属板の種類	厚さ(mm)	形状(mm)	軒先面戸板耐火性能	
屋根	※重ね形	※塗装溶融55%7Aミクロン亜鉛合金	※0.6	※図示	※有り	※30分
	①はせ締め形	めっき鋼板及び銅帯(CGLCCR-20-A2150)	①0.8	・山高(165)	・なし	・なし
		・塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び銅帯(CGCCR-20-Z25)		・山どけり(303)		

形式

①重ね形又ははせ締め形

・かん合形

断熱材

※有り

(種別：ガラス繊維シート 厚さ(5mm)：耐火性能：30分)

・無し

建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法を施工計画書計画書(1.3.3.3)として提出する

建築基準法に基づき定められた区分等

基準風速

Vo=(38)m/s

地表面粗度区分

(Ⅰ・Ⅱ①ⅢⅣ)

積雪区分

建設省告示第1455号 別表(Ⅰ)

①半乾式吹付けロックウール

ア10

屋根30分耐火

FP030RF-9324

アスベスト除去折板面

(1.4.6.2)(表1.4.2.1)

種別	製法	形状	寸法(mm)	板厚(mm)	表面処理
①アルミニウム	①押出し	山型・平型(平)	110	1.0	①B-1種(平)
・	・ロール	山型・平型(リブ)	120		①B-2種(・フッ素・フッ素系)
・プレス	・プレス	山型・平型(リブ)			・フッ素系(スチレン)

取付け用下地

※標準仕様書14.4による

・図示

(1.4.6.3)

③アスファルト舗装

④コンクリート舗装

5路面表示用塗料

23植栽地の確認

2植栽基盤の整備

③植込み用土

④土壌改良材

⑤支柱

6幹巻き用材料

⑨新植、移植樹木、芝等の枯保証

24電気・機械開口補強

(2.2.4.2～3)(表2.2.4.1)

舗装の種類	車道部の基礎	備考
①アスファルト舗装	①無し	・有り

アスファルト

①再生アスファルト

G

・ストレートアスファルト

(2.2.4.3)

骨材

※碎石

・アスファルトコンクリート再生骨材

G

加熱アスファルト混合物等の種類

(2.2.4.4)(表2.2.4.6)

区分	※一般地域	・寒冷地域
表層	※密粒度アスファルト混合物(13)	※密粒度アスファルト混合物(13F)
	・細粒度アスファルト混合物(13)	・細粒度ギャップアスファルト混合物(13F)
基層	粗粒度アスファルト混合物(20)	

シーコート施工

・行う

(2.2.4.5)

試験

・アスファルト混合物等の抽出試験

(2.2.4.6)

早強セメント

・使用する

(2.2.5.2～6)

注入目地材料

※低弾性タイプ

・高弾性タイプ

試験

・コンクリート版の厚さ試験

(2.2.4.6)

(JIS K 5665(路面表示用塗料)による)

種類	施工	適用	色	幅(mm)	塗布厚さ(mm)	揮発性有機溶剤の含有率
・1種	G	常温	液状	※白	・150	※1.0
・2種	G	加熱	・	・100	・	塗料総質量に対して5%以下
※3種1号		溶融	砕体状			

G

低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料

土壌の水素イオン濃度(pH)試験

・行う

(2.3.1.3)

水溶性塩類(EC)の試験

・行う

(2.3.2.2)(2.3.2.4)

植栽	工法	有効土層の厚さ(cm)	整備範囲	土壌改良材
・樹木	※A種	樹高12m以上	(※100・120・150)	・葉張り部分
	・B種	樹高7m以上12m未満	(※80・100)	・植栽部分
	・C種	樹高3m以上7m未満	(※60・80)	・図示
	・D種	樹高3m未満	(※50・60)	
※芝、地被類	※B種	※20	・	・植栽部分
	・	・		・図示

植栽基盤の排水設備

・設ける

(・暗きよ

・開きよ

・排水層

・整穴排水

・)

※現場発生土の良質土

・客土

(2.3.2.3)

①パーク堆肥

G

<仕様>

有機物の含有率(乾物)

：70%以上

炭素窒素比(C/N比)

：35以下

陽イオン交換容量(乾物)

：70meq/100g以上

pH

：5.5～7.5

水分

：55～65%

幼植物試験の結果

：生育阻害その他の異常が認められない

窒素全量(現物)

：0.5%以上

りん酸全量(現物)

：0.2%以上

加里全量(現物)

：0.1%以上

施工箇所の土壌及び植栽する植物の性質から使用が不適な場合、及び調達困難な場合は監督職員と協議を行うものとする。

・汚泥発酵肥料(下水汚泥コンポスト)

G

「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第一の基準に適合する原料を使用したもので、植栽試験の調査の結果、害が認められないものとする

有機物の含有率(乾物)

：35%以上

炭素窒素比(C/N比)

：20以下

pH

：8.5以下

水分

：50%以下

窒素全量(現物)

：0.8%以上

りん酸全量(現物)

：1.0%以上

アルカリ分(現物)

：15%以下

(ただし、土壌の酸度を矯正する目的で使用する場合はこの限りでない)

施工箇所の土壌及び植栽する植物の性質から使用が不適な場合、及び調達困難な場合は監督職員と協議を行うものとする。

支柱材

※丸太(間伐材)

G

・真竹

(2.3.3.2)

形式

・添え柱形

①鳥居形

・ハツ掛け形

①布掛け形

・ワイヤ掛け形

・地下埋設形

(2.3.3.3)

※幹巻き用テープ

・わら、こも

(2.3.3.2)

新植樹木(芝張り、吹付けは種及び地被類を含む)の枯補償の期間

※引渡しの日から1年

・無し

(2.3.3.4)(2.3.3.6)(2.3.4.7)

移植樹木の枯損処置を行う期間

※引渡しの日から1年

・無し

天井(RW-14)

1250×250

6か所

1250×150

2か所

300×300

2か所

950×950

1か所

天井(RW-15)

1250×250

1か所

天井(RW-17)

1250×250

6か所

300×300

2か所

950×950

1か所

天井(RW-16)

1250×250

4か所

1250×150

2か所

625×250

1か所

300×300

1か所

天井(RW-18)

1250×250

6か所

1250×150

1か所

300×300

2か所

天井(RW-19)

1250×250

6か所

300×300

1か所

天井(RW-20)

1250×250

6か所

300×300

2か所

外壁改修フロー及び数量

・コンクリート打放し仕上げ外壁の場合

外壁調査(施工数量調査)

旧仕上の撤去

・全面

※図示

ひび割れ部改修

欠損部改修

シーリング改修

樹脂注入工法(注1)

A)m

B)m

C)m

D)m

ウレタン材充填工法

m

シーリング工法

m

充填工法

100×300×30mm程度

ヶ所

錆鉄筋部補修工法

幅100mm程度

m

シーリング再充填工法

mm×mm

mm

mm

m

下地調整材

・全面

※図示

仕上塗材仕上

・全面

※図示

モルタル塗り仕上げ外壁の場合

外壁調査(施工数量調査)

旧仕上の撤去

・全面

※図示

ひび割れ部改修

欠損部改修

浮き部改修

シーリング改修

モルタル撤去

・しない

・する

フッ素樹脂注入工法・注入口付

樹脂注入工法(注1)

A)m

B)m

C)m

D)m

ウレタン材充填工法

m

シーリング工法

m

充填工法

m²

モルタル塗替工法

m²

カッター切り

m

部分工事

一般部分

m²

指定部分

m²

全面工事

一般部分

m²

指定部分

m²

全面工事

セメントスラリー

一般部分

m²

指定部分

m²

シーリング再充填工法

mm×mm

mm

mm

m

下地調整材

・全面

※図示

仕上塗材仕上

・全面

※図示

タイル張り仕上げ外壁の場合

外壁調査(施工数量調査)

ひび割れ部改修

欠損部改修

浮き部改修

シーリング改修

目地改修

タイル撤去

・しない

・する

フッ素樹脂注入工法・注入口付

樹脂注入工法(注1)

A)m

B)m

C)m

D)m

ウレタン材充填工法

m

タイル部分張替工法

m²

カッター切り

m

タイル張替工法

m²

カッター切り

m

部分工事

一般部分

m²

指定部分

m²

全面工事

一般部分

m²

指定部分

m²

全面工事

セメントスラリー

一般部分

m²

指定部分

m²

シーリング再充填工法

mm×mm

mm

mm

m

目地ひび割れ改修

mm×mm

mm

mm

m

伸縮目地改修

mm×mm

mm

mm

m

(注1)ひび割れ幅(mm)が、A)0.2以上1.0未満、B)0.2以上0.3未満、C)0.3以上0.5未満、D)0.5以上1.0未満を示す

A)は自動式低圧エポキシ樹脂注入工法を示し、

B)・C)・D)は手動式エポキシ樹脂注入工法、機械式エポキシ樹脂注入工法を示す

特記仕様書(建築改修工事編)(9)

平成22年度版

高知県土木部建築課

MA設計事務所

1級建築士登録第136008

信清和呂

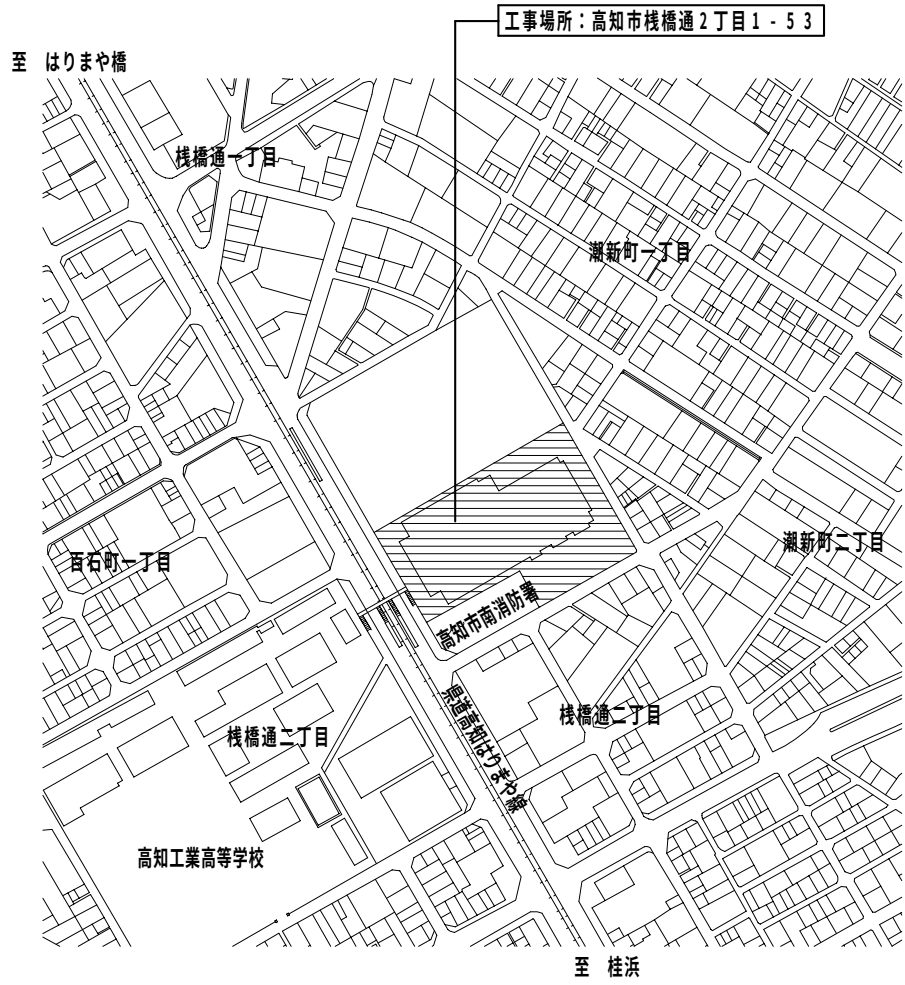
意匠

09

平成23年4月

県民体育館耐震補強その他建築主体工事

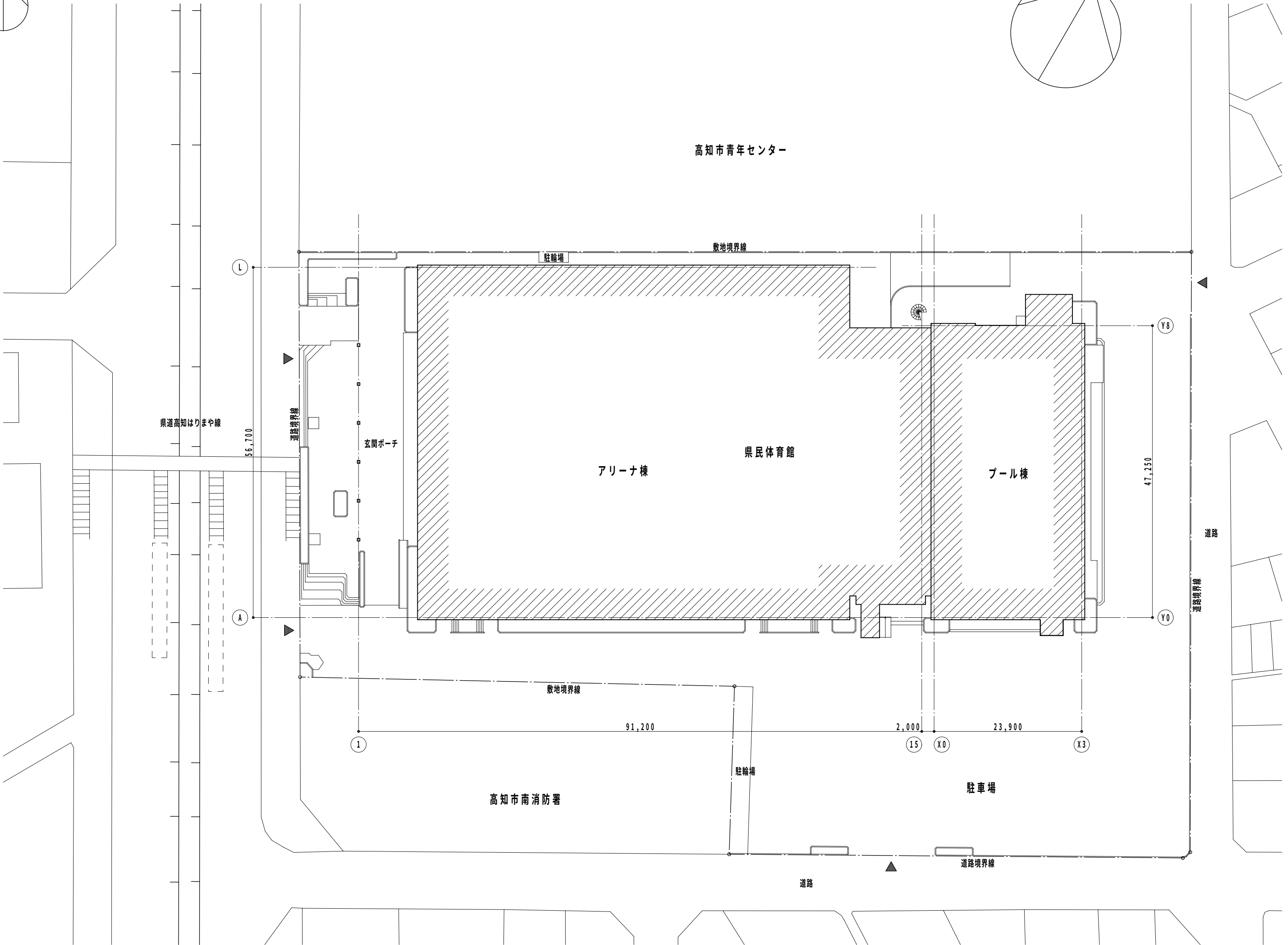
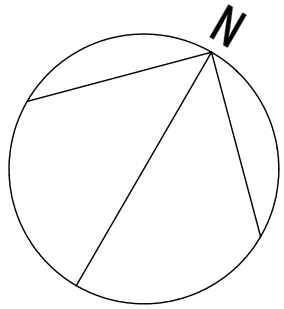
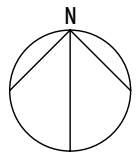
平成23年4月改正



案内図

工事内容（アリーナ棟）		
Ⅰ 耐震補強工事		
鉄筋コンクリート造増設壁	24箇所	
鉄骨ブレース補強壁	8箇所	
E X P . J 部拡張	1箇所	
既存ガラス飛散防止フィルム貼り	3箇所	
消防法窓用難台設置	5箇所	
その他外構	1式	
Ⅱ 屋根防水改修工事		
アリーナ屋根	1式	
車寄せ屋根	1式	
Ⅲ アスベスト除去工事		
1階玄関ホール	1式	
2階ロビー・車寄せ屋根	1式	
Ⅳ 内装改修工事		
1階競技場床	1式	

工事内容（プール棟）		
Ⅰ 耐震補強工事		
鉄筋コンクリート造増設壁	3箇所	
鉄筋コンクリート造増打増設壁	1箇所	
屋根水平ブレース増設	8箇所	
接合部補強	14箇所	
Ⅱ アスベスト除去工事		
1階プール	1式	
2階競技場	1式	
Ⅲ 内装改修工事		
2階競技場床	1式	



配置図 1 / 500

Special note
introductory remarks

□  工事建物



M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

県民体育館耐震補強その他建築主体工事

date	drawn by	checked by
5 / '11		信清和呂

案内図・配置図

scale 1 / 500

意匠

10

内部仕上表										
階	室 名	通り名 (補強位置)	補強工法		床	巾 木	壁	天 井	廻 縁	備 考
1 階	玄関ホール	2 通り E－F・I－J 間 3 通り C－F・I－K 間	R W	改修前	ビニル床タイル・モルタル 一部撤去	ビニル巾木H＝7 5 一部撤去	モルタル 一部撤去	モルタル 一部撤去		
				改修後	ビニル床タイルA (モルタル)	ビニル巾木H＝7 5	複層塗材E (石こうボードA12.5直張り)	E P－G (既存コンクリート面CM－2)		
		全体	アスベスト 一部撤去	改修前				ひる石吹付A5 撤去		
				改修後				吹付用軽量骨材A5 (既存コンクリート面)		
	事務室	3 通り K－L 間	R W	改修前	ビニル床タイル・モルタル 一部撤去	ビニル巾木H＝7 5 一部撤去	モルタル 一部撤去	石こうボードA9・LGS天井下地 一部撤去	塩ビ製 一部撤去	
				改修後	ビニル床タイルB (モルタル)	ビニル巾木H＝7 5	E P－G (石こうボードA12.5直張り)	E P－G (石こうボードA9.5) (LGS天井下地) E P－G 塗替え (既存石こうボード)	塩ビ製	
	館長室	3 通り J－K 間	R W	改修前	タイルカーペット・モルタル 一部撤去	ビニル巾木H＝7 5 一部撤去	モルタル 一部撤去	岩綿吸音板A9・石こうボードA9・LGS天井下地 撤去	塩ビ製 撤去	
				改修後	タイルカーペット (モルタル)	ビニル巾木H＝7 5	E P－G (石こうボードA12.5直張り)	岩綿吸音板A9 (石こうボードA9.5) (LGS天井下地)	塩ビ製	
	大会議室	3 通り A－E 間	R W	改修前	ビニル床シート・モルタル 一部撤去	ビニル巾木H＝7 5 一部撤去	モルタル 一部撤去	岩綿吸音板A9・石こうボードA9・LGS天井下地 撤去	塩ビ製 撤去	
				改修後	ビニル床シート (モルタル)	ビニル巾木H＝7 5	E P－G (石こうボードA12.5直張り)	岩綿吸音板A9 (石こうボードA9.5) (LGS天井下地)	塩ビ製	
	会議室	A 通り 4－5 間	R W	改修前	ビニル床シート・モルタル 一部撤去	ビニル巾木H＝7 5 一部撤去	モルタル 一部撤去	石こうボードA9・LGS天井下地 撤去	塩ビ製 撤去	
				改修後	ビニル床シート (モルタル)	ビニル巾木H＝7 5	E P－G (石こうボードA12.5直張り)	E P－G (石こうボードA9.5) (LGS天井下地)	塩ビ製	
	女子更衣室	A 通り 5－6 間	R W	改修前	ビニル床シート・モルタル 一部撤去	ビニル巾木H＝7 5 一部撤去	モルタル 一部撤去	石こうボードA9・LGS天井下地 撤去	塩ビ製 撤去	
				改修後	ビニル床シート (モルタル)	ビニル巾木H＝7 5	E P－G (石こうボードA12.5直張り)	E P－G (石こうボードA9.5) (LGS天井下地)	塩ビ製	
	男子更衣室	A 通り 8－1 0 間	R W	改修前	ビニル床シート・モルタル 一部撤去	ビニル巾木H＝7 5 一部撤去	モルタル 一部撤去	石こうボードA9・LGS天井下地 撤去	塩ビ製 撤去	
				改修後	ビニル床シート (モルタル)	ビニル巾木H＝7 5	E P－G (石こうボードA12.5直張り)	E P－G (石こうボードA9.5) (LGS天井下地)	塩ビ製	
医務室	A 通り 9－1 0 間 1 0 通り A－C 間	R W	改修前	ビニル床シート・モルタル 一部撤去	ビニル巾木H＝7 5 一部撤去	モルタル 一部撤去	石こうボードA9・LGS天井下地 撤去	塩ビ製 撤去		
			改修後	ビニル床シート (モルタル)	ビニル巾木H＝7 5	E P－G (石こうボードA12.5直張り)	E P－G (石こうボードA9.5) (LGS天井下地)	塩ビ製		
控室	1 0 通り A－C 間	R W	改修前	ビニル床シート・モルタル 一部撤去	ビニル巾木H＝7 5 一部撤去	モルタル 一部撤去	石こうボードA9・LGS天井下地 撤去	塩ビ製 撤去		
			改修後	ビニル床シート (モルタル)	ビニル巾木H＝7 5	E P－G (石こうボードA12.5直張り)	E P－G (石こうボードA9.5) (LGS天井下地)	塩ビ製		
器具庫	5－7・ L 通り 8 通り k 1.1 間 1.1 通り k 1－L 間	R W	改修前	モルタル 一部撤去	モルタル巾木H＝7 5 一部撤去	コンクリート打放し	コンクリート打放し			
			改修後	モルタル	モルタル巾木H＝7 5	コンクリート打放し	コンクリート打放し			
廊下 (1) (2)	A－E・J－L 間 3 通り	R W	改修前	ビニル床シート・モルタル 一部撤去	ビニル巾木H＝7 5 一部撤去	モルタル 一部撤去	石こうボードA9・LGS天井下地 一部撤去	塩ビ製 一部撤去		
			改修後	ビニル床シート (モルタル)	ビニル巾木H＝7 5	E P－G (石こうボードA12.5直張り)	E P－G (石こうボードA9.5 LGS天井下地)	塩ビ製		
競技場	全体	内装改修	改修前	桜フローリングA18UC						
			改修後	既存フローリング面サンダー掛けUC					コートライン引き	
2 階	ロビー	3 通り E－F・I－J 間	R W	改修前	ビニル床シート・モルタル 一部撤去	ビニル巾木H＝7 5 一部撤去	モルタル 一部撤去 石こうボードA12 一部撤去	ケイカル板A6・LGS天井下地 撤去 有孔ケイカル板A6・LGS天井下地 撤去	塩ビ製 撤去	
				改修後	ビニル床シート (モルタル)	ビニル巾木H＝7 5	多彩模様塗料塗り (石こうボードA12.5直張り)	アルミスパンドレリア1 リブ (LGS天井下地)	アルミ製	窓舞台 新設
		全体	アスベスト 撤去		ビニル床シート・モルタル 一部撤去			ケイカル板A6・LGS天井下地 撤去 有孔ケイカル板A6・LGS天井下地 撤去 E P－G (ケイカル板A6) (LGS天井下地) E P－G (有孔ケイカル板A6) (LGS天井下地)	塩ビ製 撤去 塩ビ製	
				客席	3 通り C－F・I－K 間 A 通り 4－6・8－1 0 間 L 通り 5－7・9－1 1 間	R W S B	改修前	ビニル床シート・モルタル 一部撤去	ビニル巾木H＝7 5 一部撤去	モルタル 一部撤去 有孔石こうボードA9 一部撤去
			改修後	ビニル床シート (モルタル)	ビニル巾木H＝7 5	E P－G (石こうボードA12.5直張り) E P－G (有孔石こうボードA9.5)	E P－G (既存コンクリート面CM－2) E P－G (石こうボードA9.5) (LGS天井下地)		カーテンボックス 新設 暗幕 (電動装置共) 再取付 窓舞台 新設	
			ホール	B、C 通り 1 5－X 0 間	E X P、J	改修前		ビニル巾木H＝7 5 一部撤去	モルタル 一部撤去	石こうボードA9・LGS天井下地 一部撤去
				改修後		ビニル巾木H＝7 5	E P－G (モルタル)	E P－G (石こうボードA9.5) (LGS天井下地)	塩ビ製	E X P、J 金物 新設
備考	R W : 鉄筋コンクリート造増設壁									
	S B : 鉄骨ブレース補強壁									
	E X P、J : E X P、J 部拡幅									

Special note
introductory remarks

□ ○○○ (○○○) : 仕上 (仕上下地) を示す
ビニル床タイルA : H T A 2.5
ビニル床タイルB : C T A 2



M A 設 計 事 務 所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1 級建築士 登録第 136008 信清和呂

県民体育館耐震補強その他建築主体工事 (アリーナ棟)

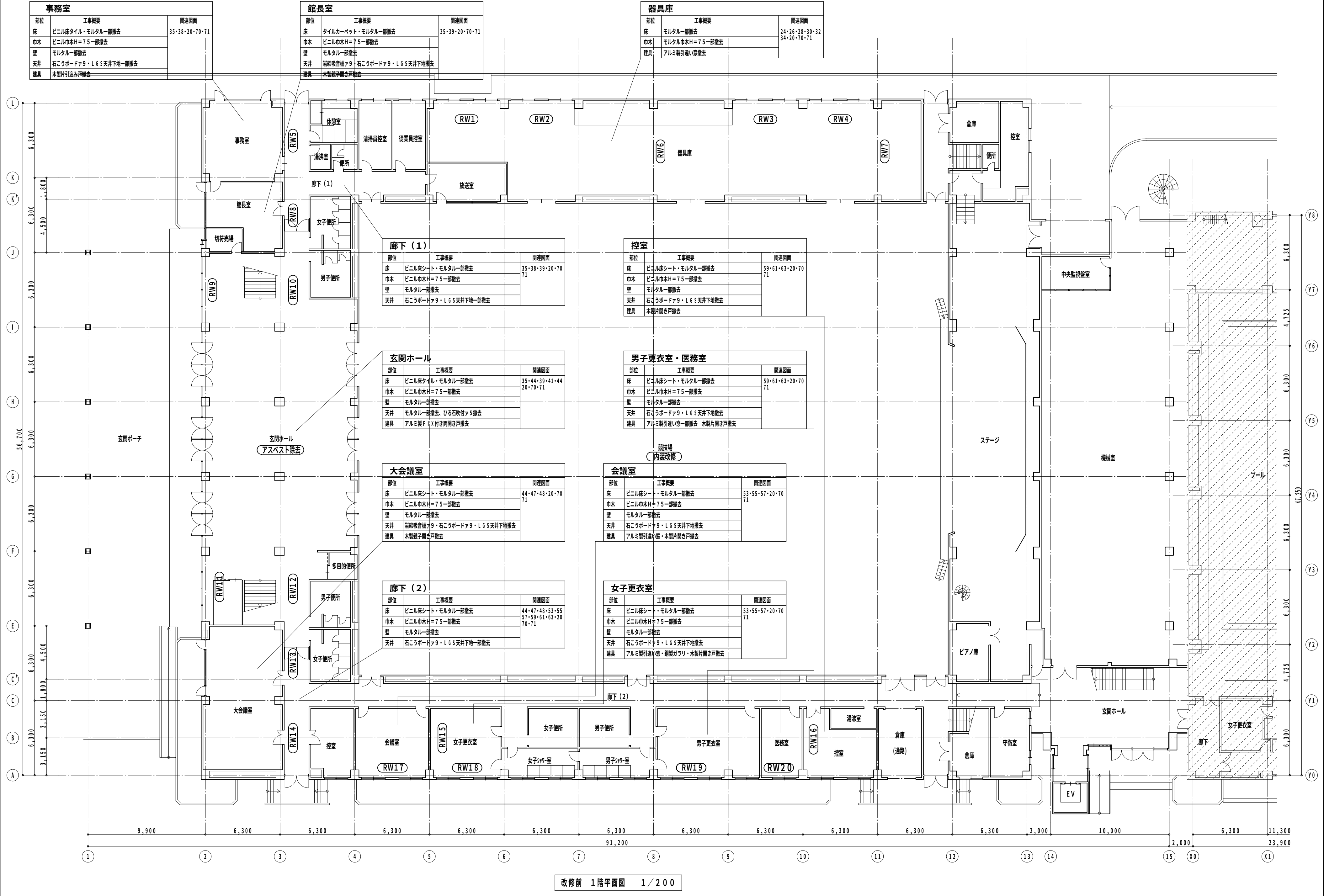
date	drawn by	checked by
5 / '11		信清和呂

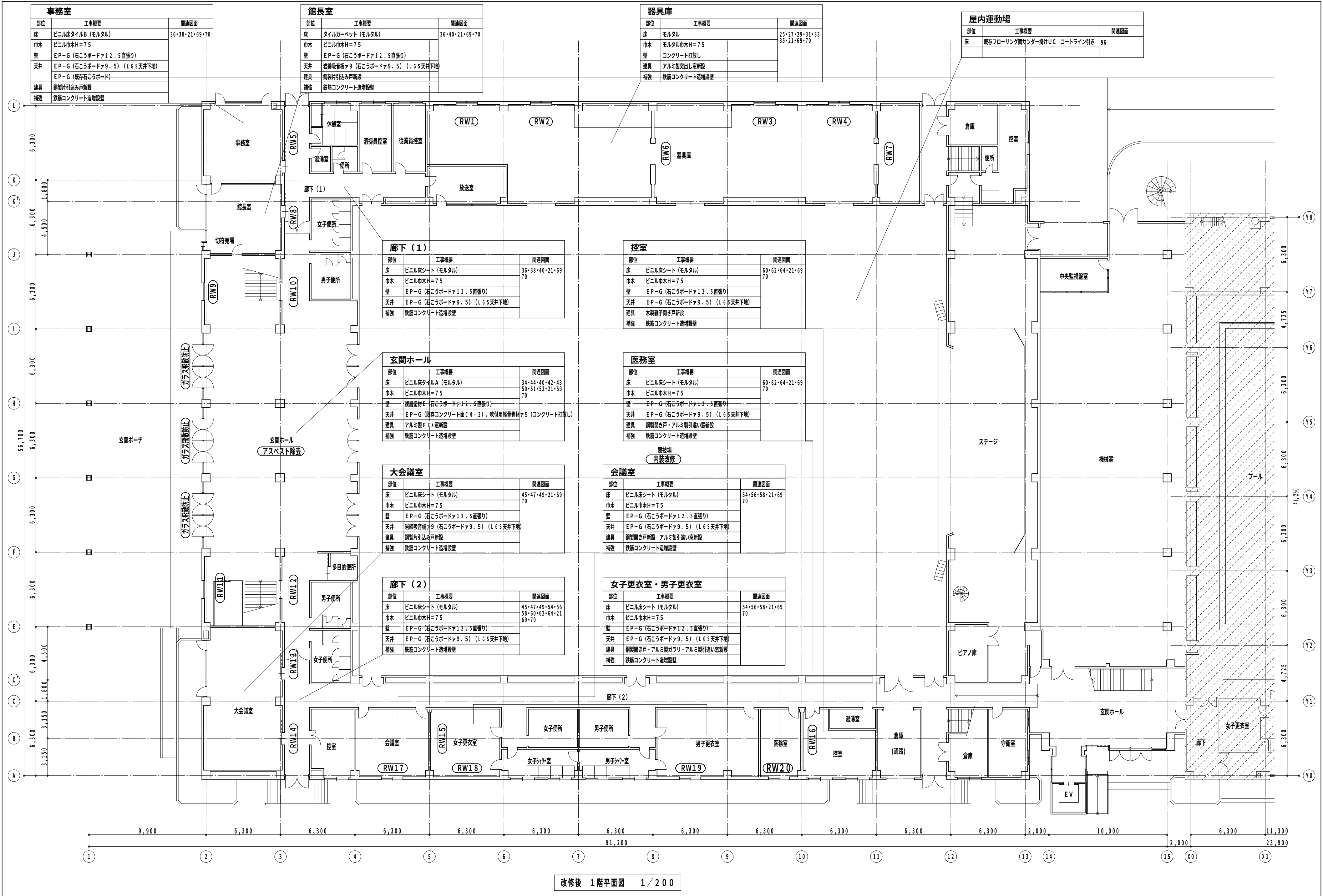
仕上表

scale /

意匠

1 1





改修後 1階平面図 1 / 200

Special note
introductory remarks

- RW 鉄筋コンクリート造増設壁
- SB 鉄骨ブレース補強壁
- EXP. J EXP. J部拡張

- ガラス飛散防止
- 窓用踏み台

- 既存ガラス飛散防止フィルム貼り
- 消防法窓用踏み台設置

- 防水改修
- アスベスト除去

- 屋根防水改修
- アスベスト除去

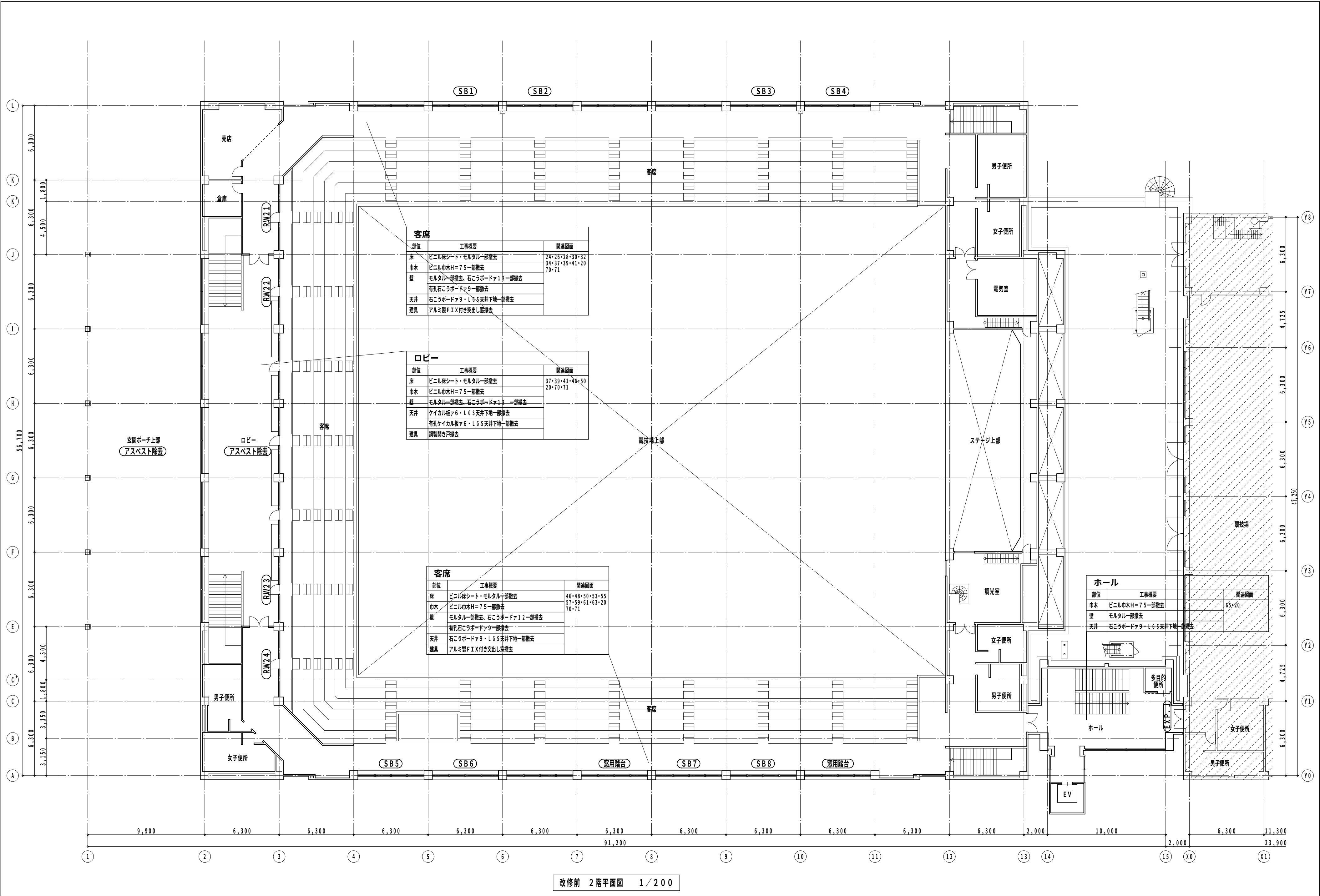


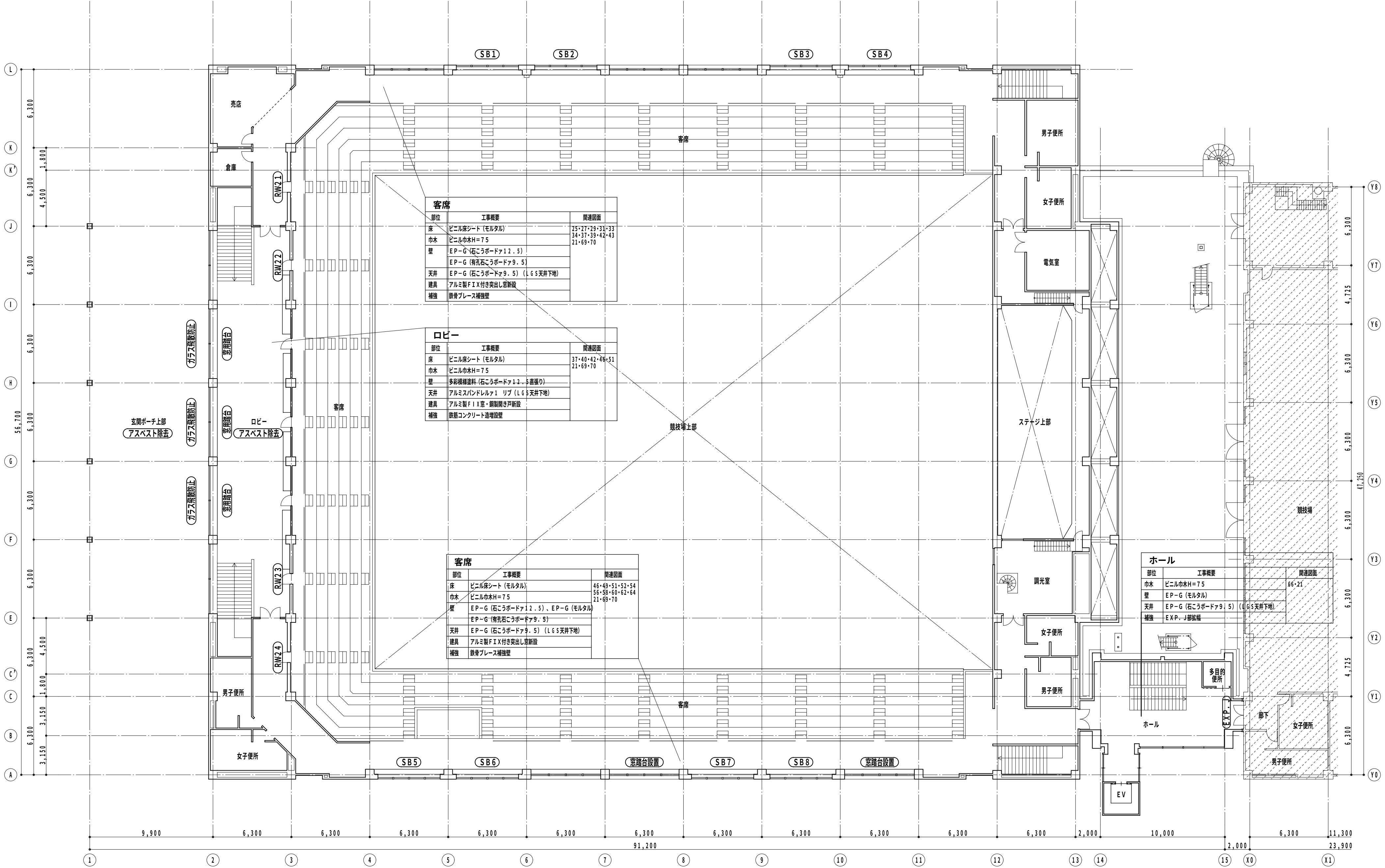
M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

県民体育館耐震補強その他建築主体工事（アリーナ棟）
date 5 / '11 drawn by checked by 信清和呂

改修後 1階平面図
scale 1 / 200

意匠
13





客席	部位	工事概要	関連図面
床	ビニル床シート (モルタル)	25・27・29・31・33	
巾木	ビニル巾木H=75	34・37・39・42・43	
壁	EP-G (石こうボード12.5)	21・69・70	
天井	EP-G (石こうボード9.5) (LGS天井下地)		
建具	アルミ製FIX付き突出し窓新設		
補強	鉄骨ブレース補強壁		

ロビー	部位	工事概要	関連図面
床	ビニル床シート (モルタル)	37・40・42・48・51	
巾木	ビニル巾木H=75	21・69・70	
壁	多彩模様塗料 (石こうボード12.5・重張り)		
天井	アルミスパンデルレアル リブ (LGS天井下地)		
建具	アルミ製FIX窓・鋼製開き戸新設		
補強	鉄筋コンクリート造増設壁		

客席	部位	工事概要	関連図面
床	ビニル床シート (モルタル)	46・49・51・52・54	
巾木	ビニル巾木H=75	56・58・60・62・64	
壁	EP-G (石こうボード12.5)・EP-G (モルタル)	21・69・70	
天井	EP-G (石こうボード9.5) (LGS天井下地)		
建具	アルミ製FIX付き突出し窓新設		
補強	鉄骨ブレース補強壁		

ホール	部位	工事概要	関連図面
巾木	ビニル巾木H=75	66・21	
壁	EP-G (モルタル)		
天井	EP-G (石こうボード9.5) (LGS天井下地)		
補強	EXP-J部拡張		

- Special note
introductory remarks
- RW

鉄筋コンクリート造増設壁

ガラス飛散防止

既存ガラス飛散防止フィルム貼り

防水改修

屋根防水改修

SB

鉄骨ブレース補強壁

窓用踏台

消防法窓用踏台設置

EXP.J

EXP.J部拡張

アスベスト除去

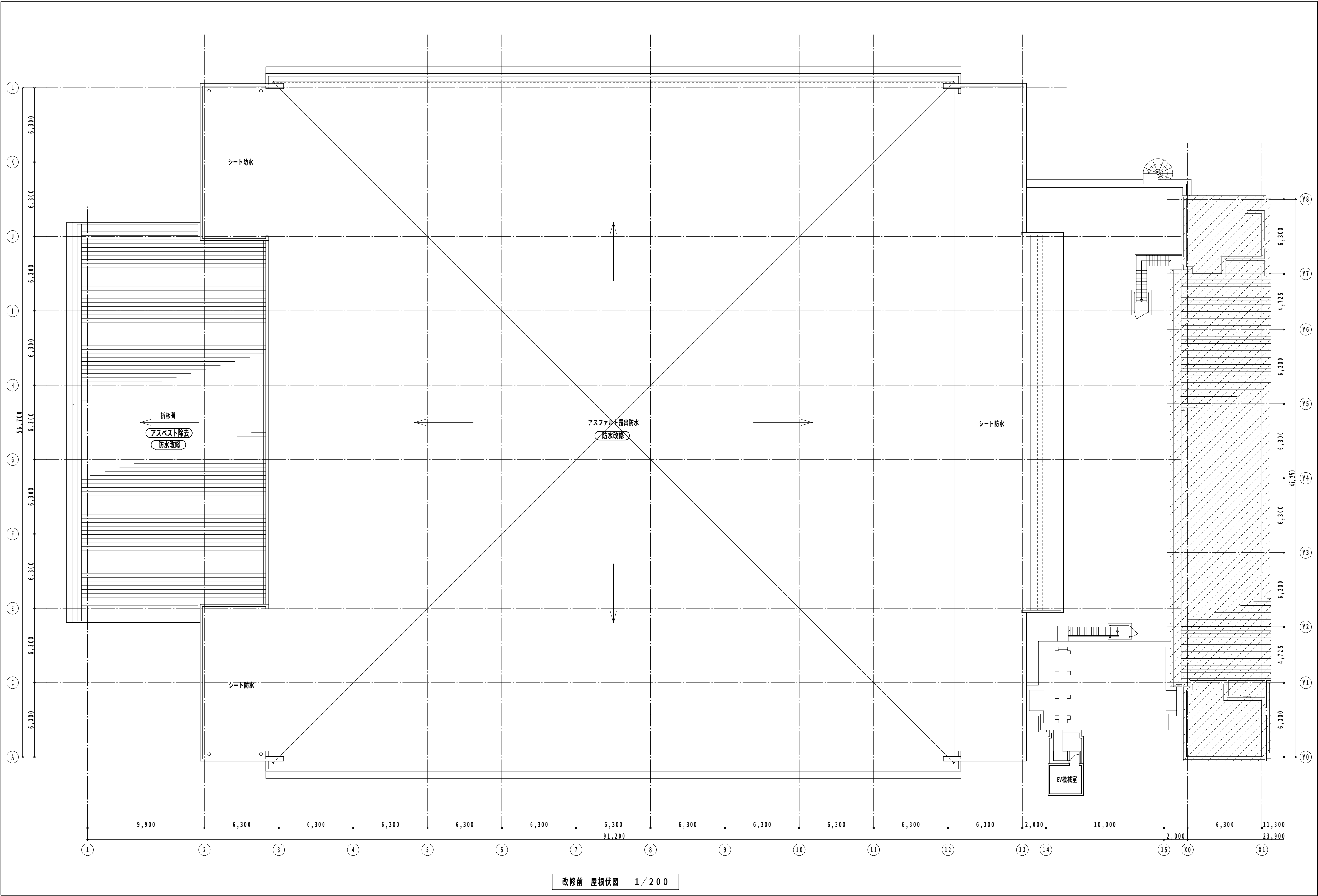
アスベスト除去



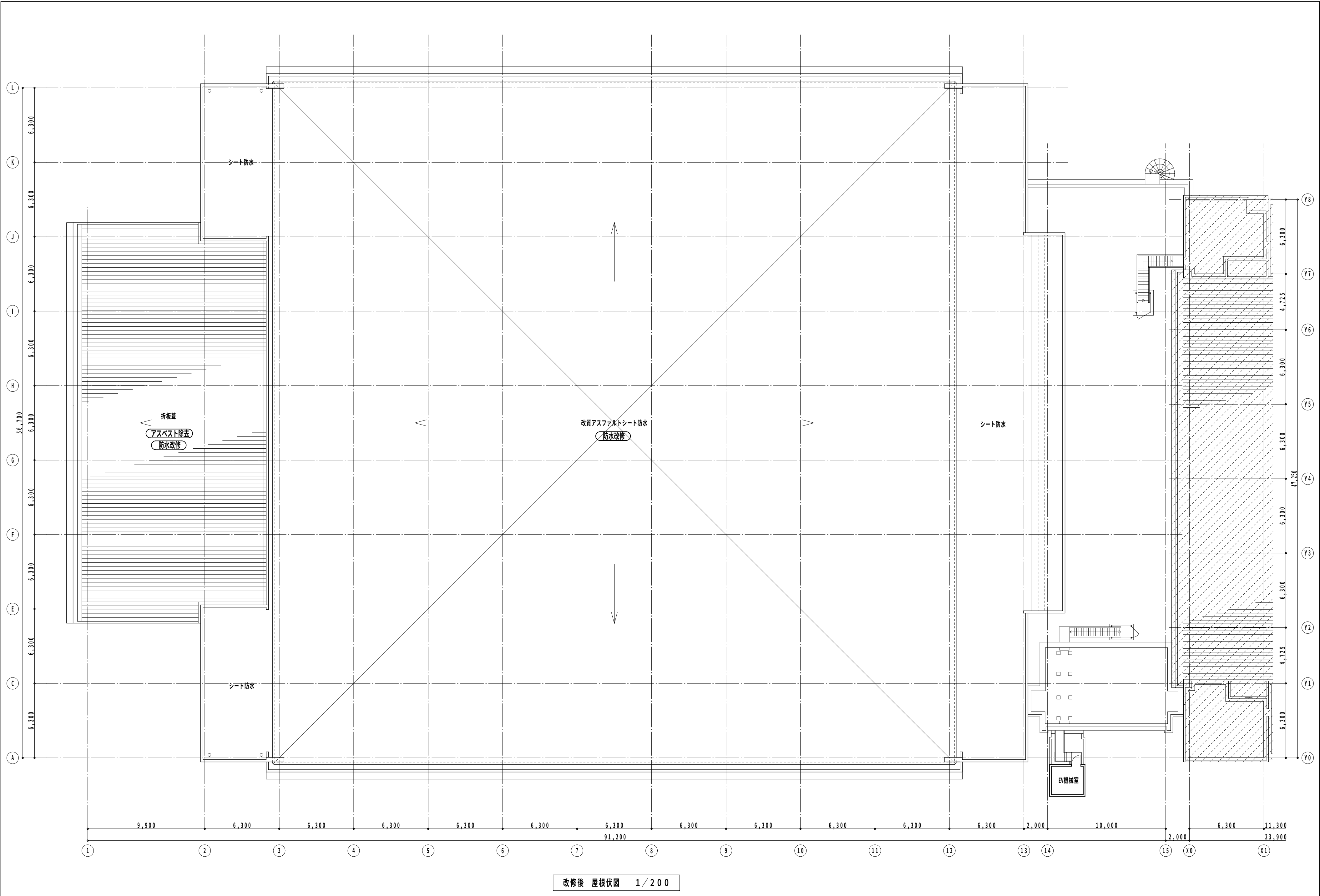
M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

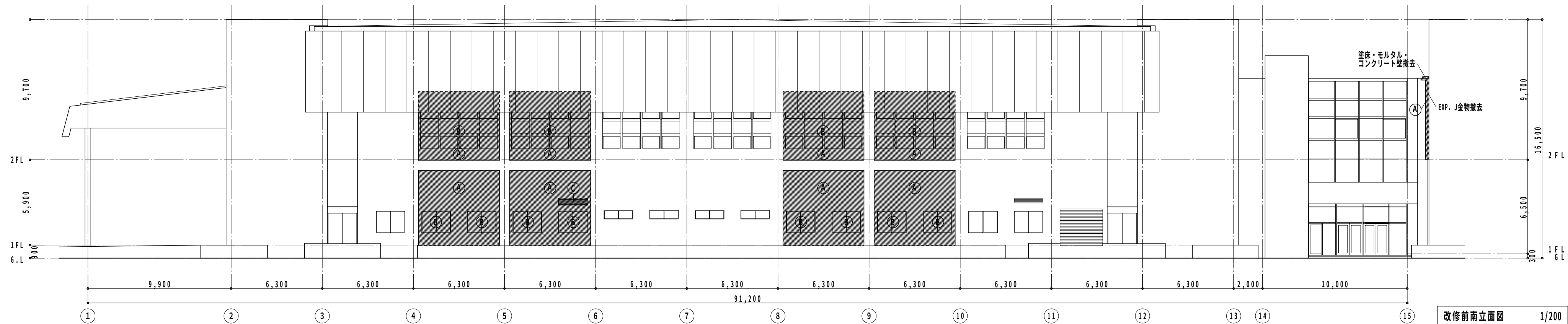
県民体育館耐震補強その他建築主体工事 (アリーナ棟)
date 5 / '11 drawn by checked by 信清和呂

改修後 2階平面図
scale 1 / 200
意匠 15

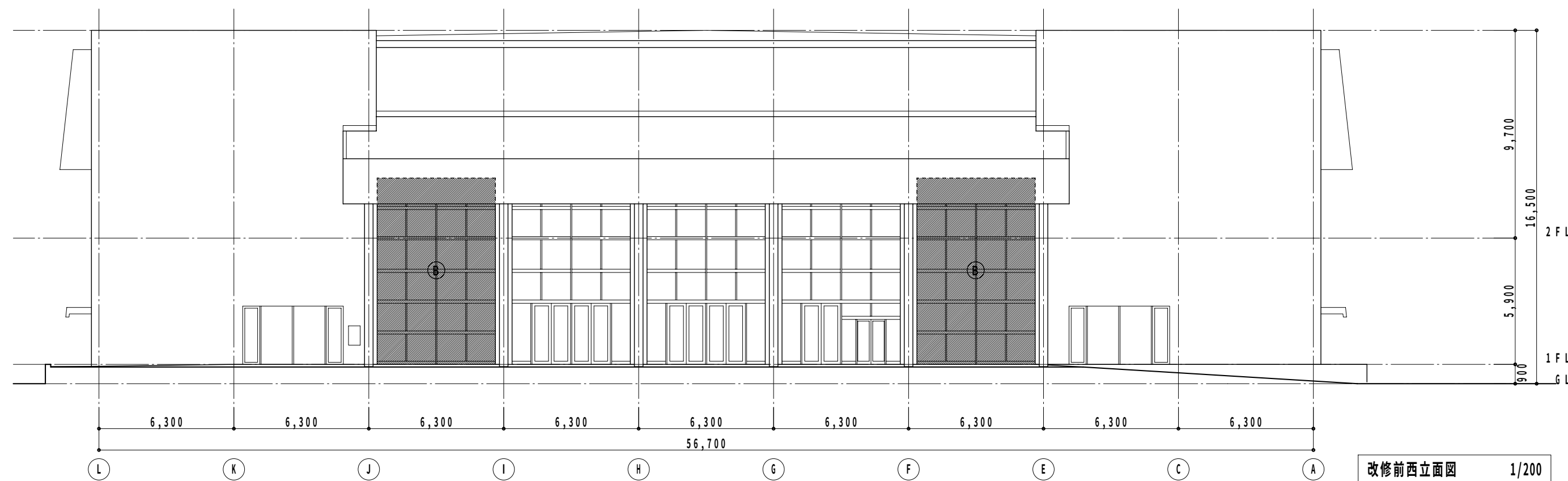


改修前 屋根伏図 1/200



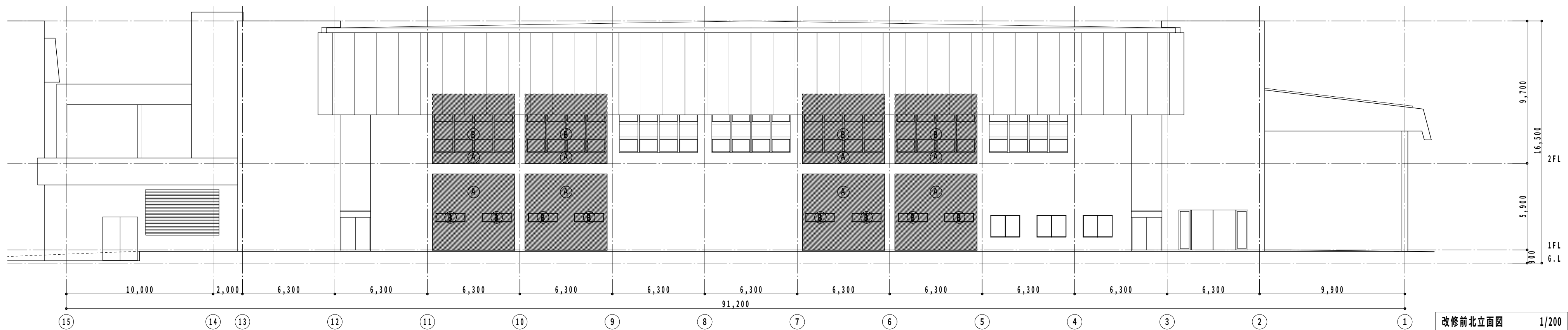


改修前南立面図 1/200

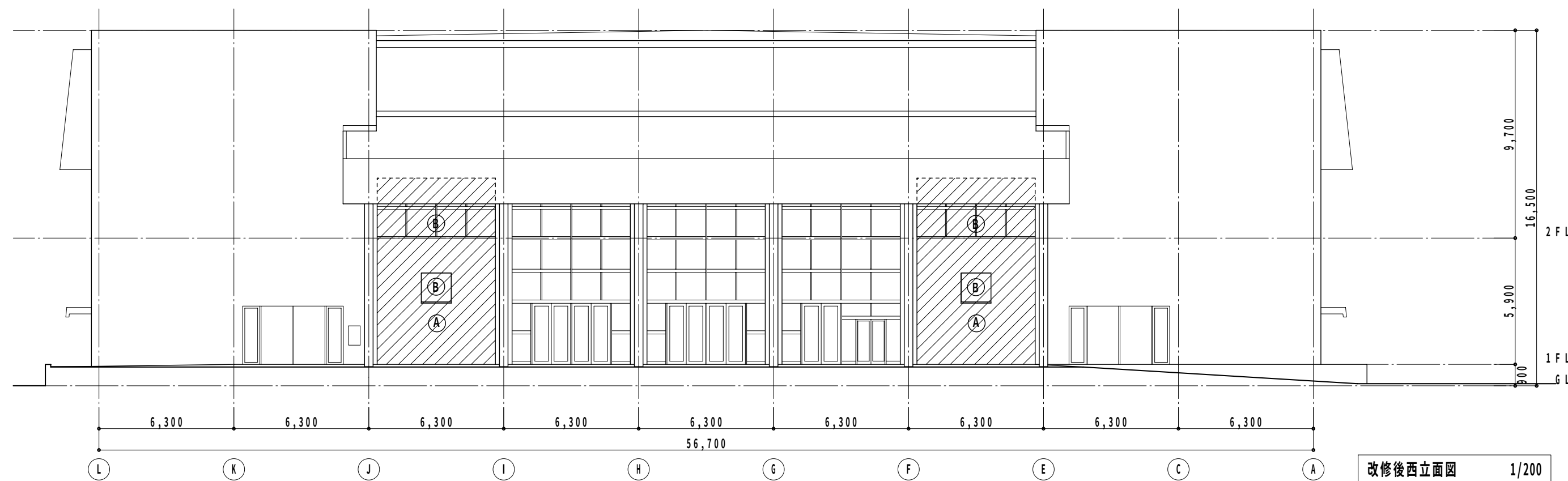
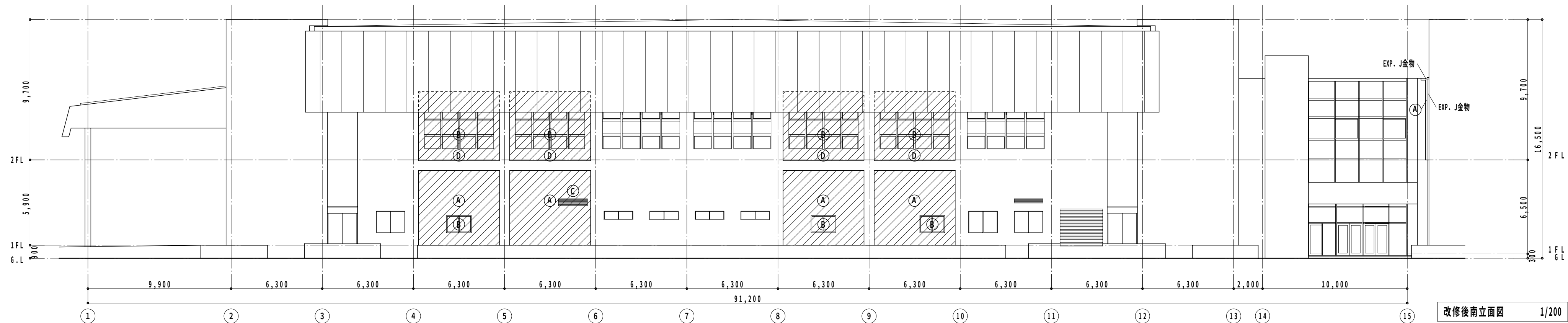


改修前西立面図 1/200

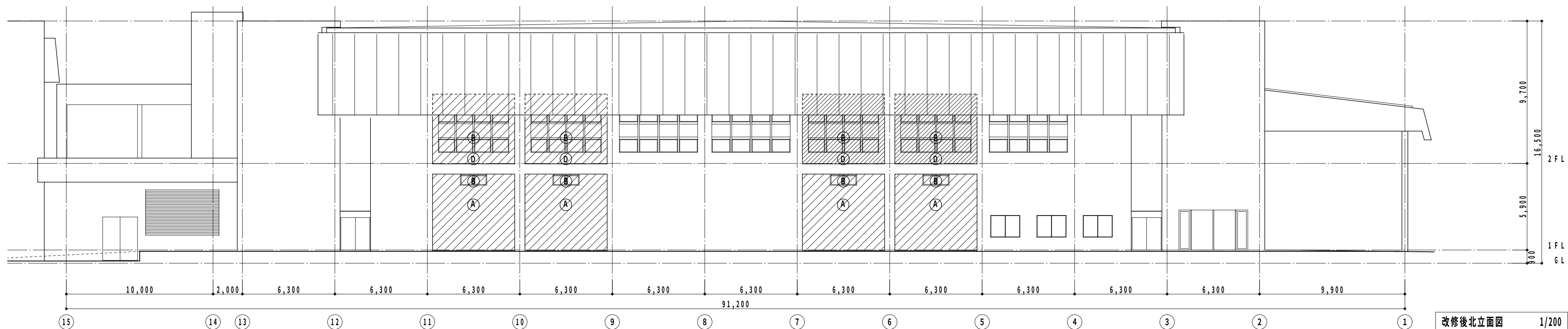
仕上表	
記号	仕上
(A)	モルタル・コンクリート壁撤去
(B)	アルミ製建具撤去
(C)	スチール製ガリ撤去
凡例	撤去範囲を示す



改修前北立面図 1/200



仕上表	
記号	仕上
(A)	防水形複層塗材 E (コンクリート打放し)
(B)	アルミ製建具新設
(C)	アルミ製ガラリ新設
(D)	防水形複層塗材 E (押出し成形セメント材 α 15)
凡例	...改修範囲を示す



Special note
introductory remarks

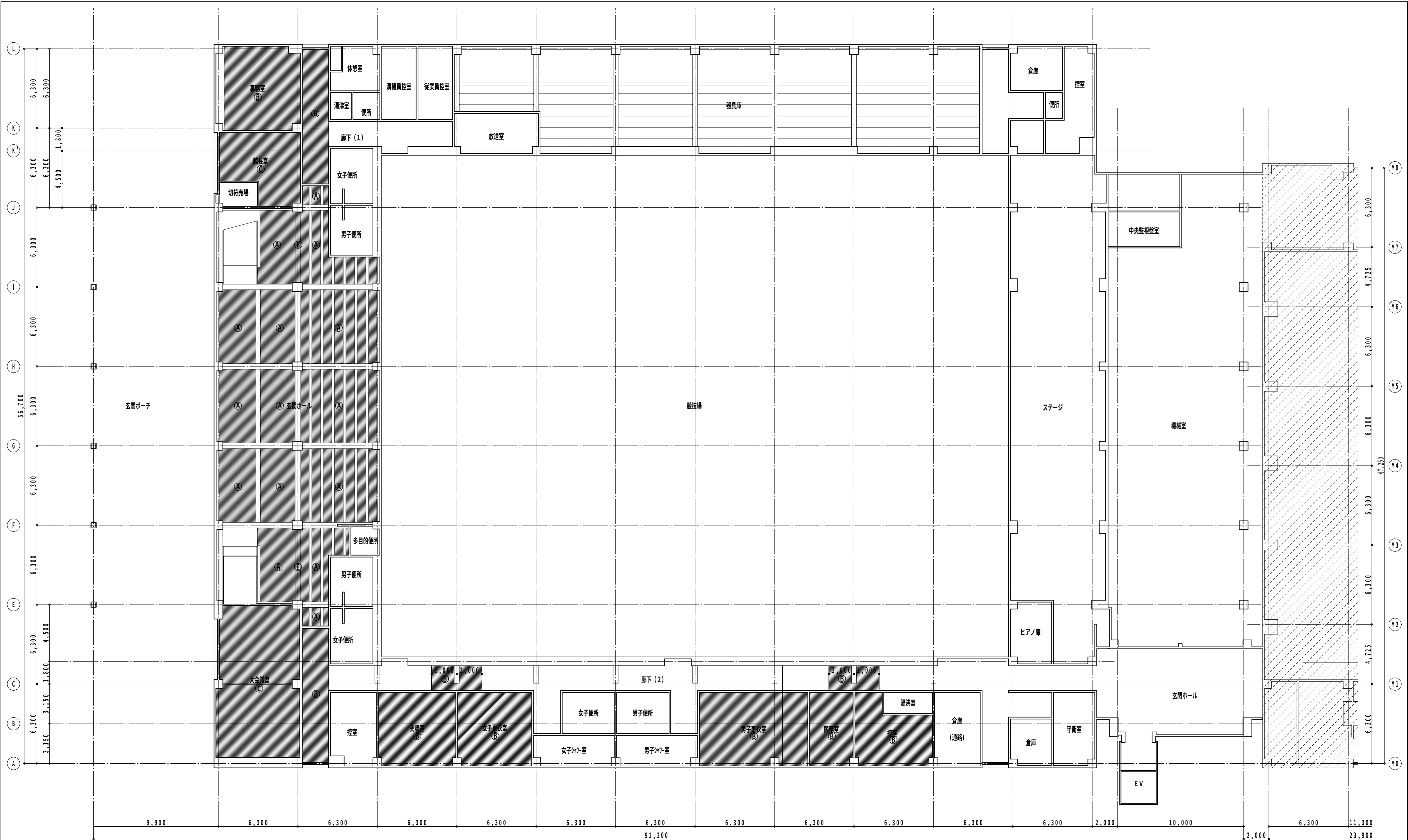


M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

県民体育館耐震補強その他建築主体工事 (アリーナ棟)
date 5 / '11 drawn by checked by 信清和呂

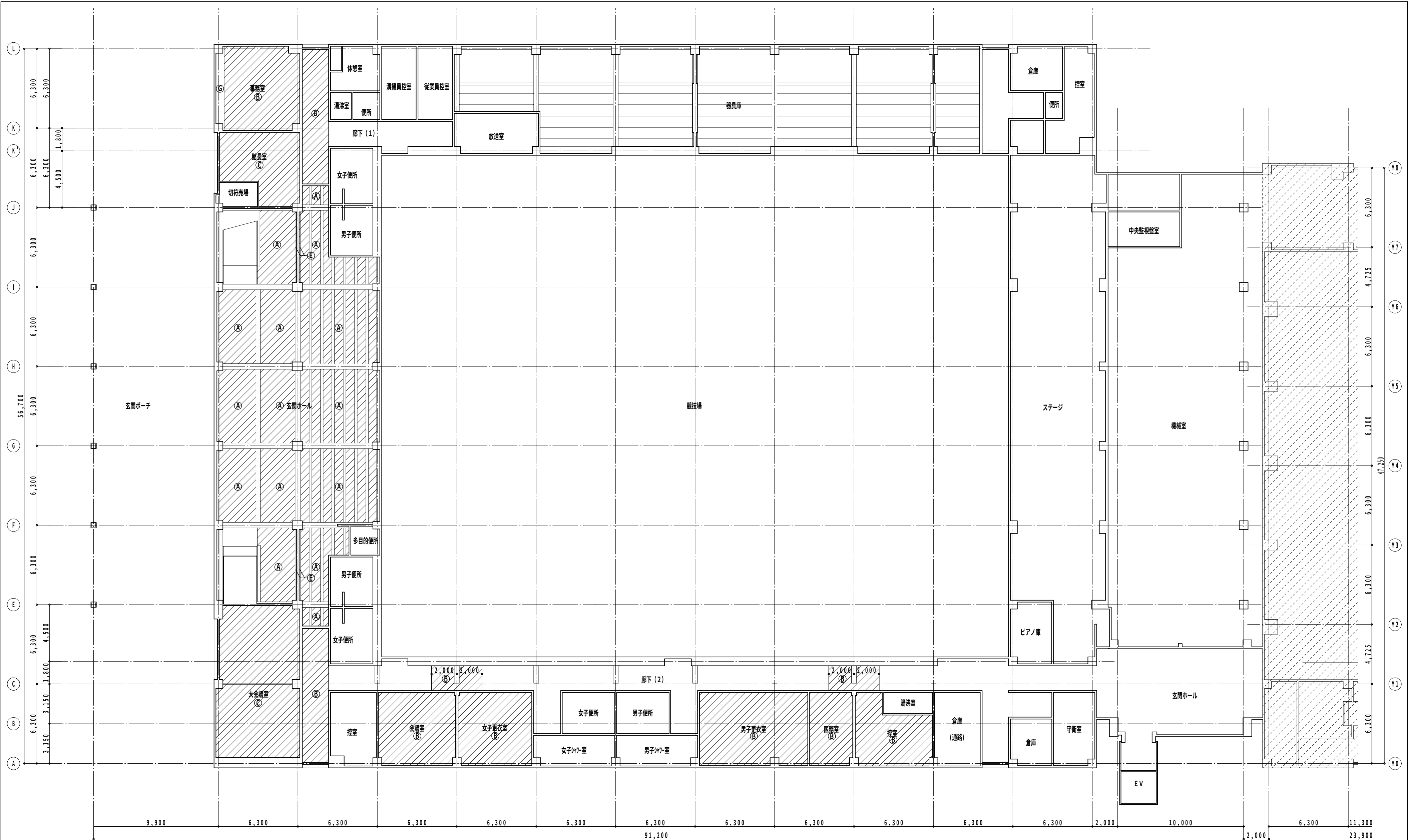
改修後 立面図
scale 1 / 200

意匠
19



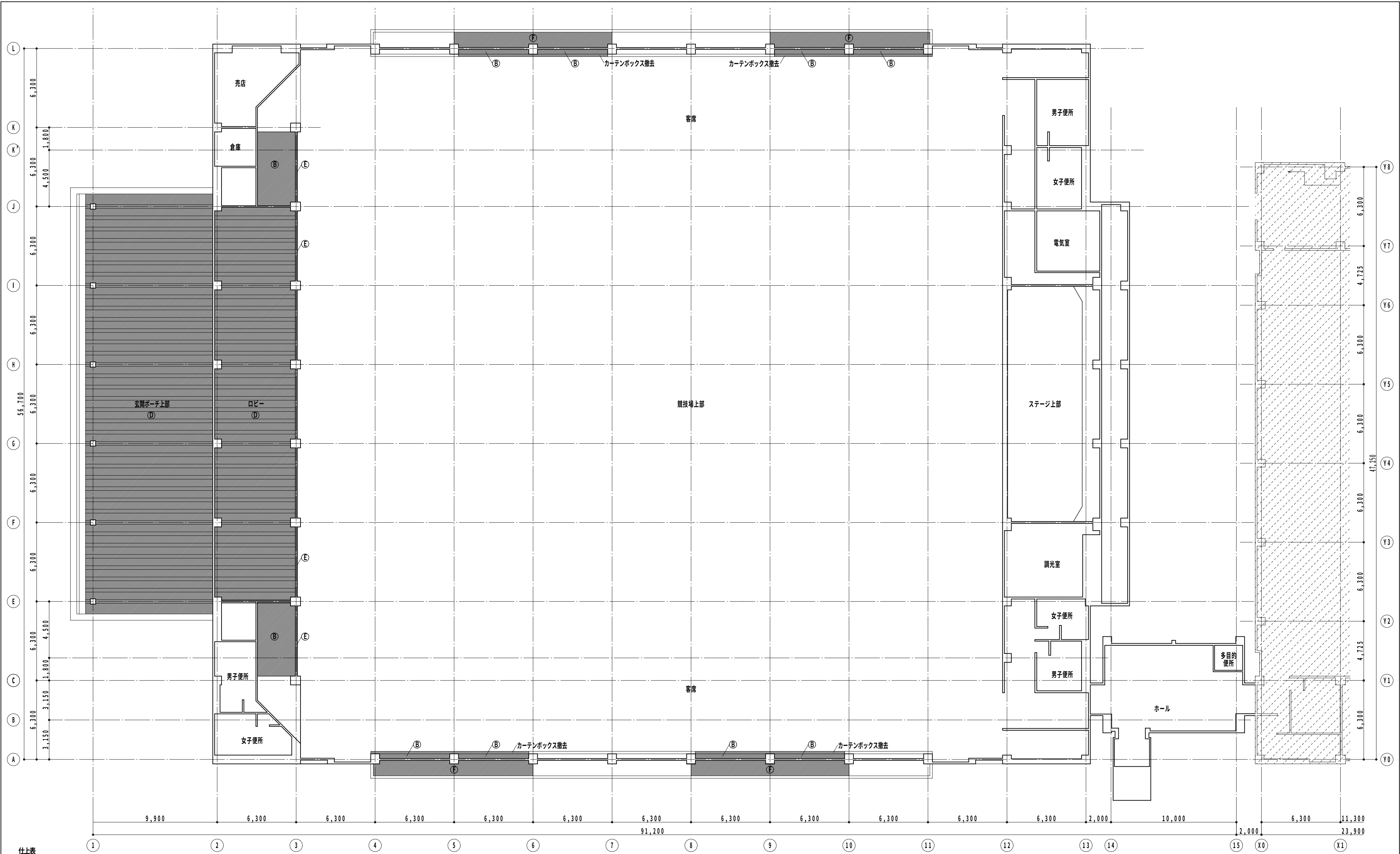
仕上表	
仕 上	
① ひる石付撤去	⑤ モルタル撤去
② 石こうボード9.5 (LGS天井下地) 撤去	⑥ フレキシブルボード4 撤去
③ 岩綿吸音板9・石こうボード9 (LGS天井下地) 撤去	
④ ケイカル板9・有孔ケイカル板9 (LGS天井下地) 撤去	

凡例 ... 撤去範囲を示す



仕上表			
仕 上			
Ⓐ	吹付用軽量骨材α5 (既存コンクリート面)	Ⓔ	EP-G (既存コンクリート面CM-2)
Ⓑ	EP-G (石こうボードα9.5) (LGS天井下地)	Ⓕ	DP (フレキシブルボードα4)
Ⓒ	岩綿吸音板α9 (石こうボードα9.5) (LGS天井下地)	Ⓖ	EP-G塗替え (既存石こうボード)
Ⓓ	アルミスバンドレリア1 リブ (LGS天井下地)		

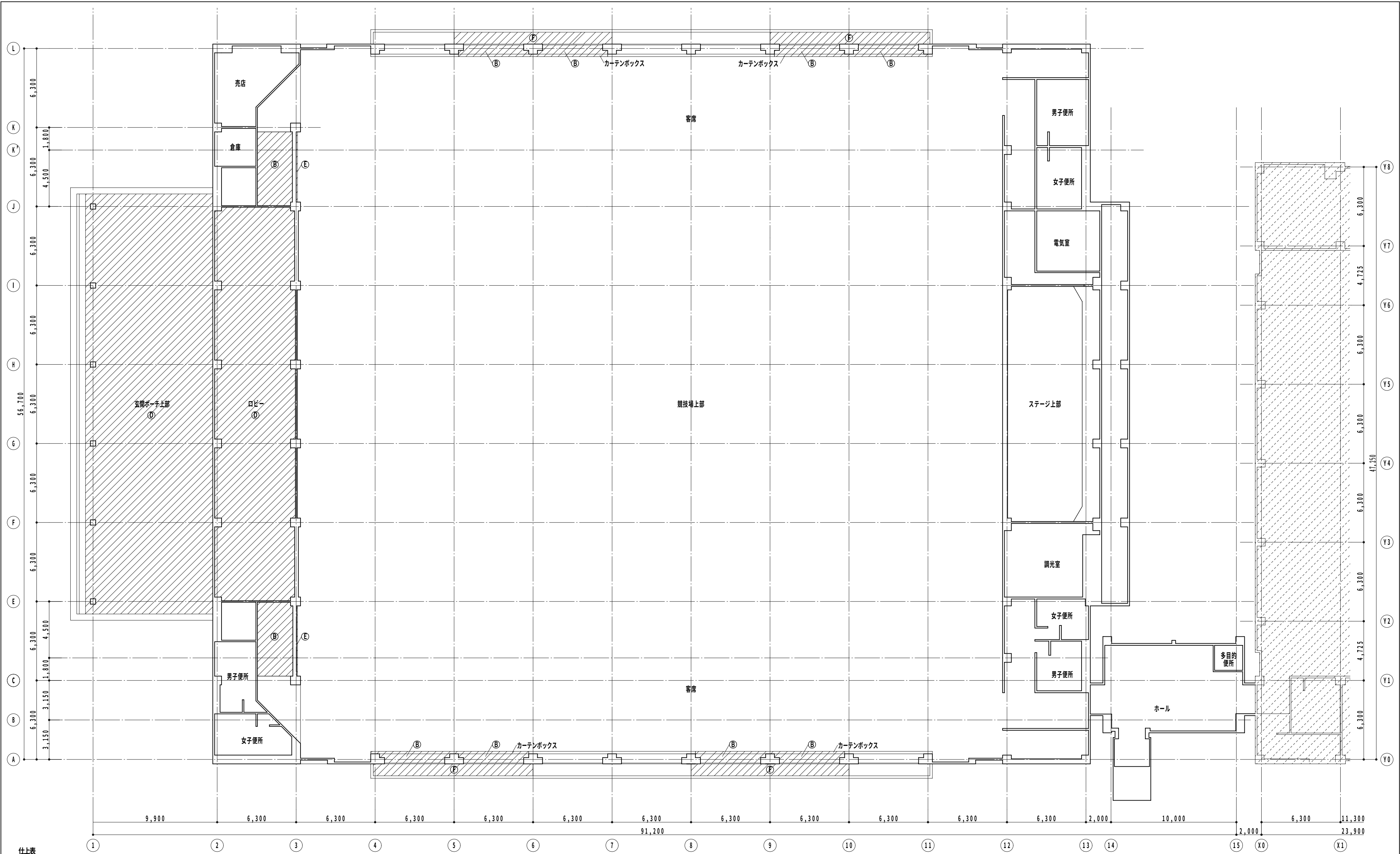
凡例 ... 改修範囲を示す



仕上表	
仕 上	
① ひる石吹付撤去	⑤ モルタル撤去
② 石こうボード9.5 (LGS天井下地) 撤去	⑥ フレキシブルボード4 撤去
③ 岩綿吸音板7・石こうボード9 (LGS天井下地) 撤去	
④ ケイカル板7・有孔ケイカル板6 (LGS天井下地) 撤去	

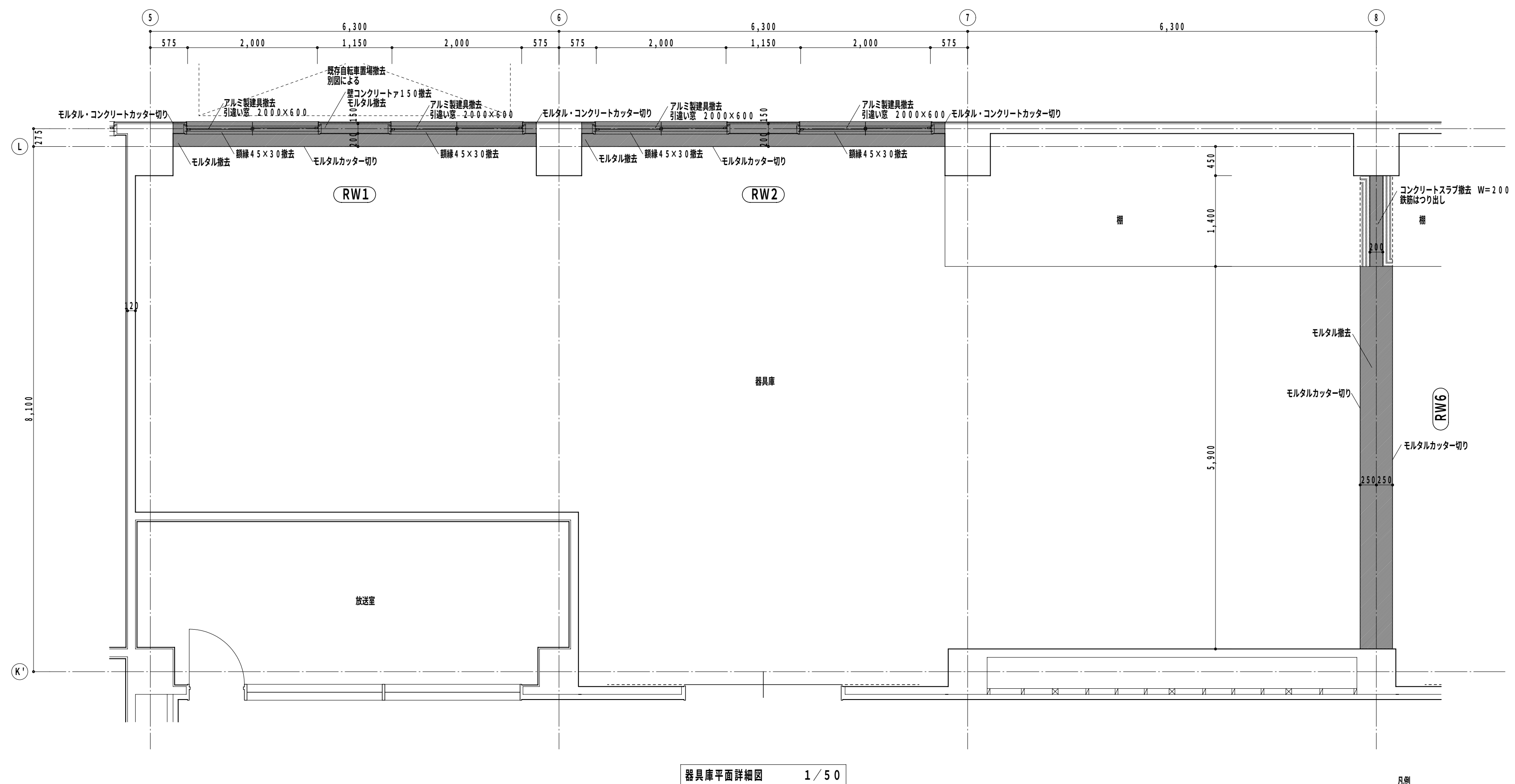
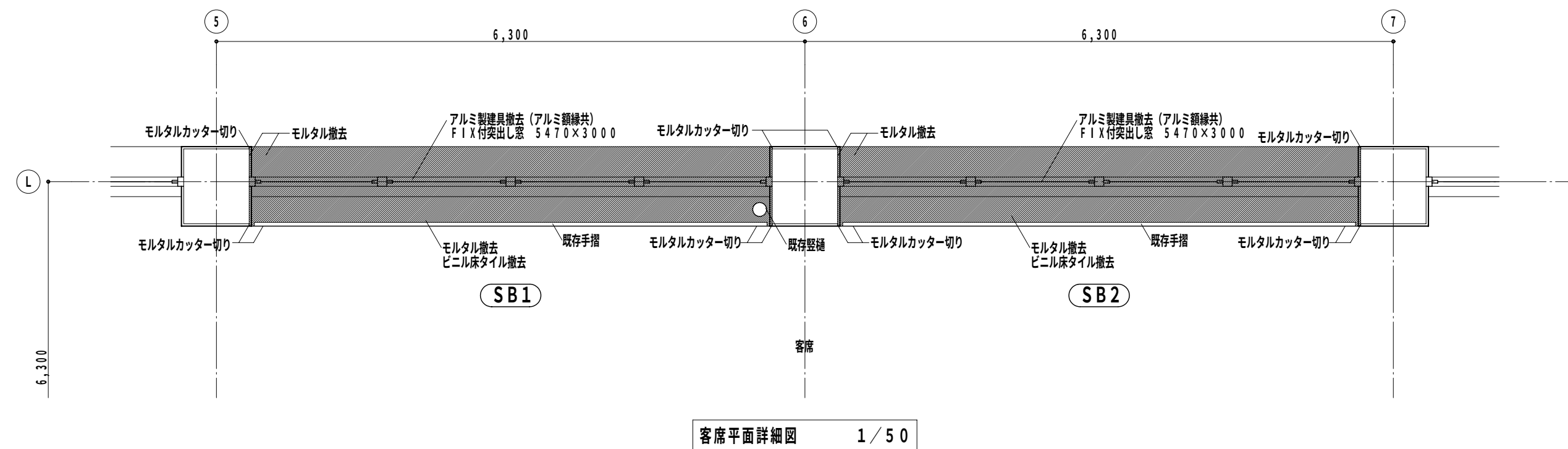
凡例  ... 撤去範囲を示す

改修前 2階天井伏図 1/200



仕上表			
仕		上	
Ⓐ	吹付用軽量骨材ア5 (既存コンクリート面)	Ⓔ	EP-G (既存コンクリート面CM-2)
Ⓑ	EP-G (石こうボードア9.5) (LGS天井下地)	Ⓕ	DP (フレキシブルボード4)
Ⓒ	岩綿吸音板ア9 (石こうボードア9.5) (LGS天井下地)	Ⓖ	EP-G塗替え (既存石こうボード)
Ⓓ	アルミスパンドレラ1 リブ (LGS天井下地)		

凡例 ... 改修範囲を示す



凡例

・・・撤去範囲を示す

RW1 · 2 · 6 SB1 · 2

Special note ☐
introductory remarks



M A 設 計 事 務 所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE

1級建築士 登録第136008 信清和呂

県民体育館耐震補強その他建築主体工事（アリーナ棟）

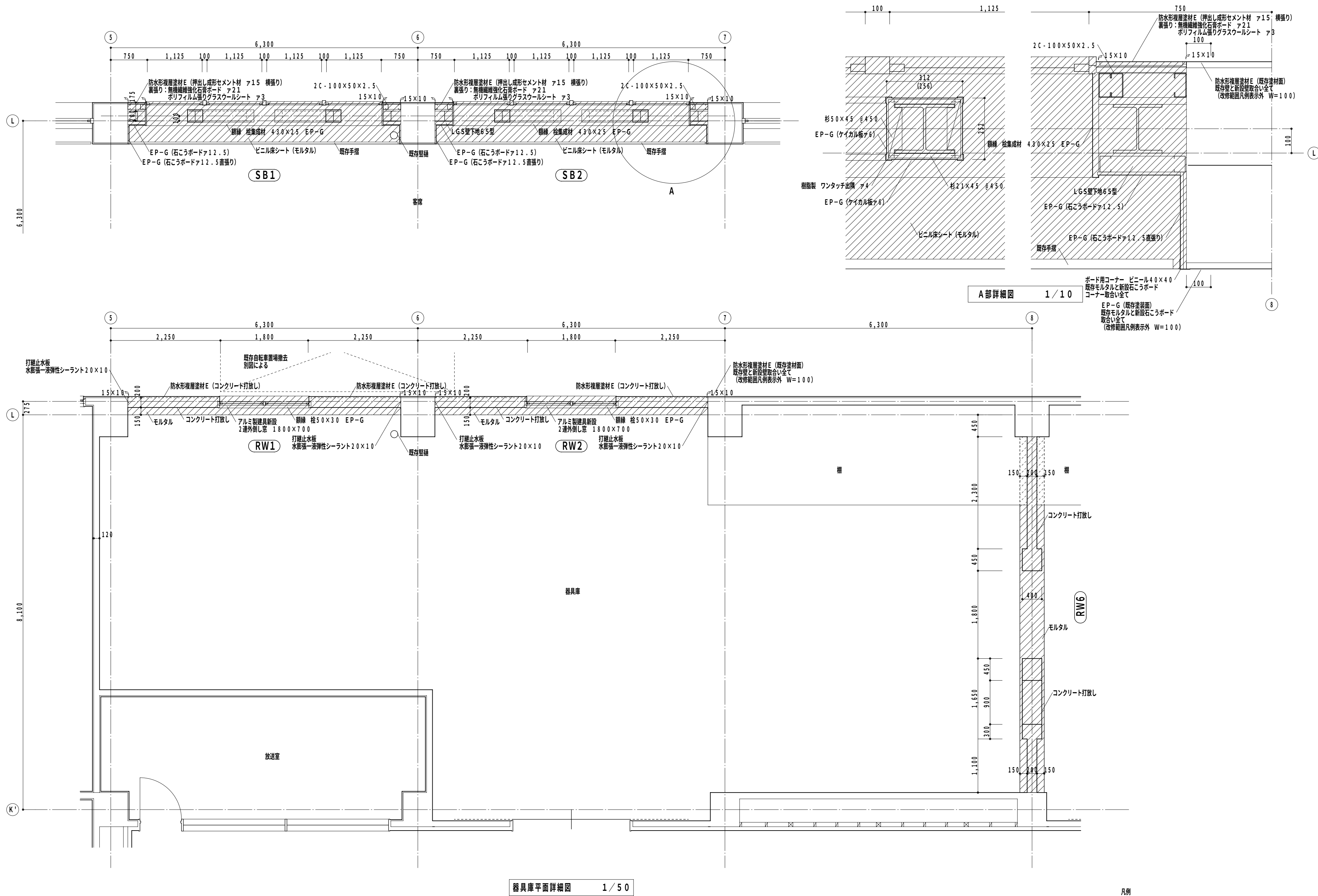
date	drawn by	checked by
3 / '11		信清

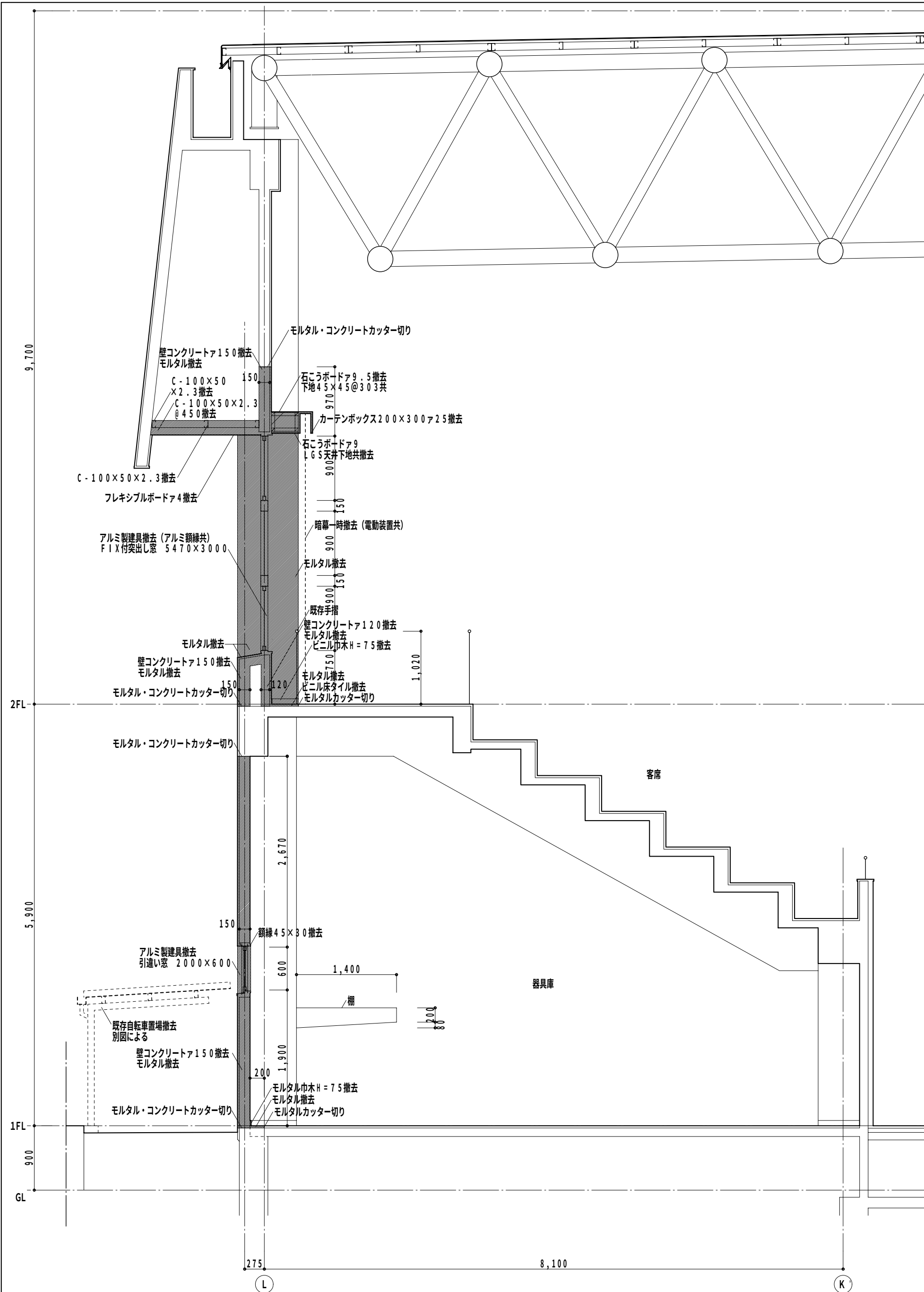
改修前 器具庫・客席
平面詳細図(1)

scale 1 / 50

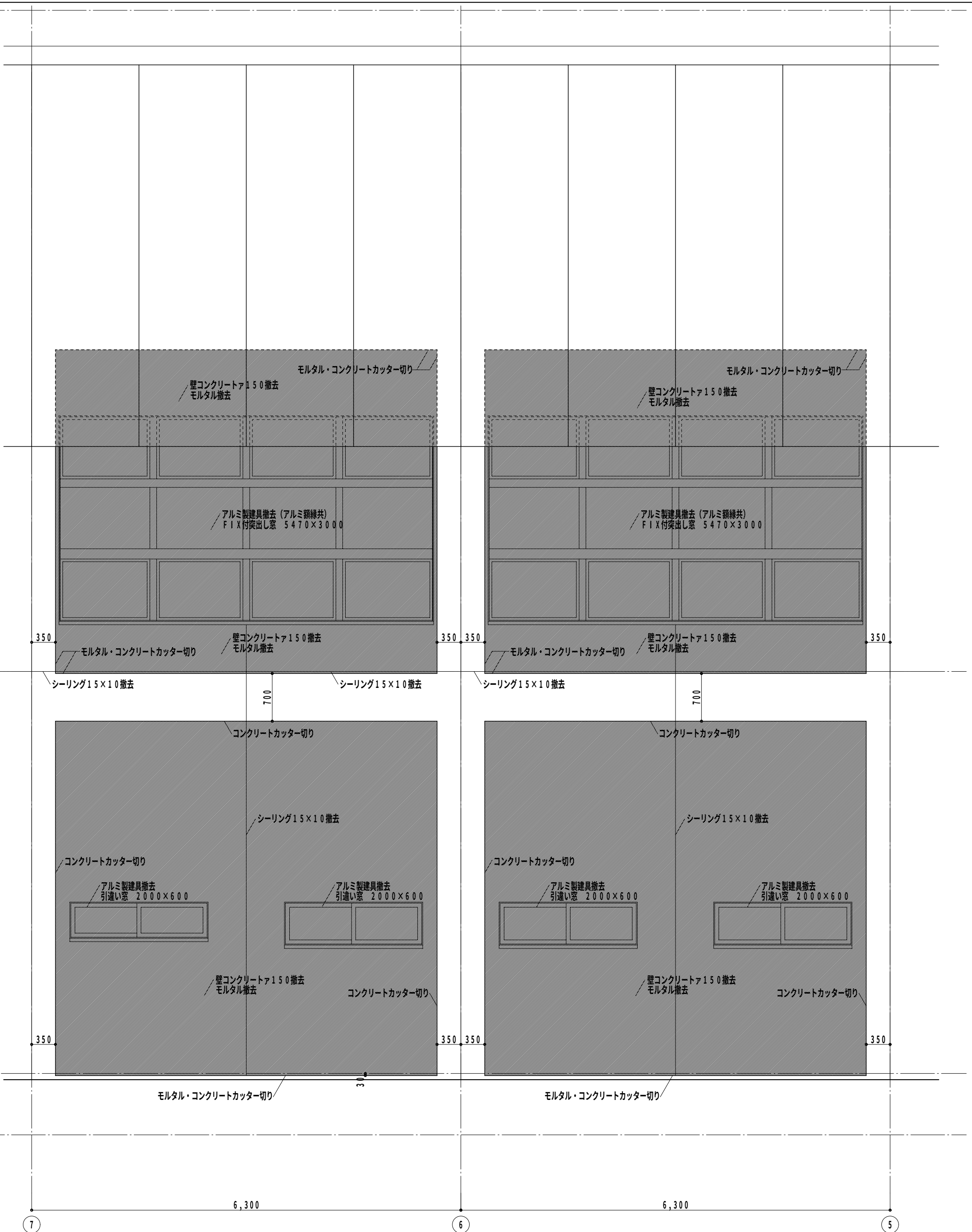
意匠

24



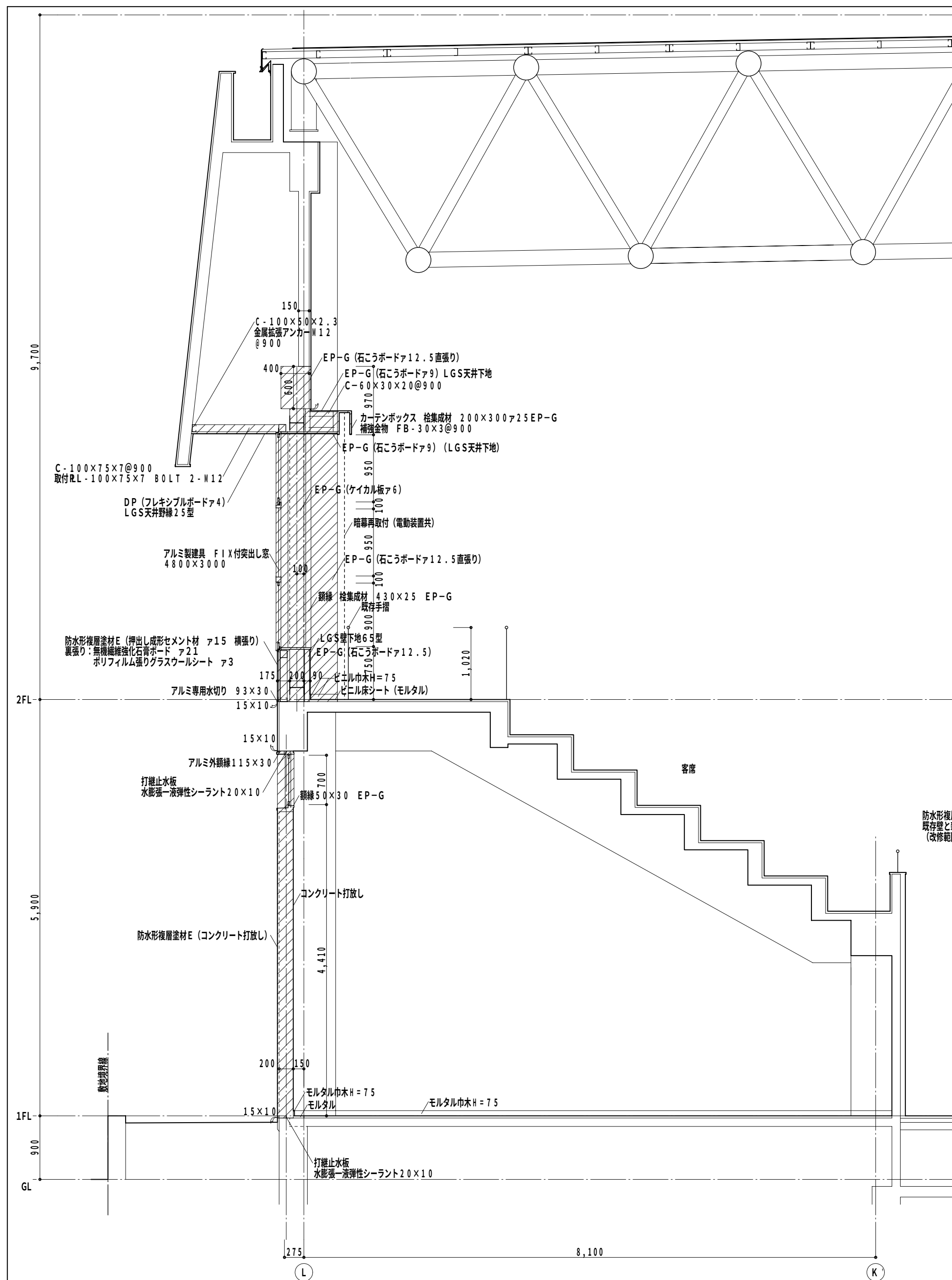


5通りK'-L間断面詳細図 1/50

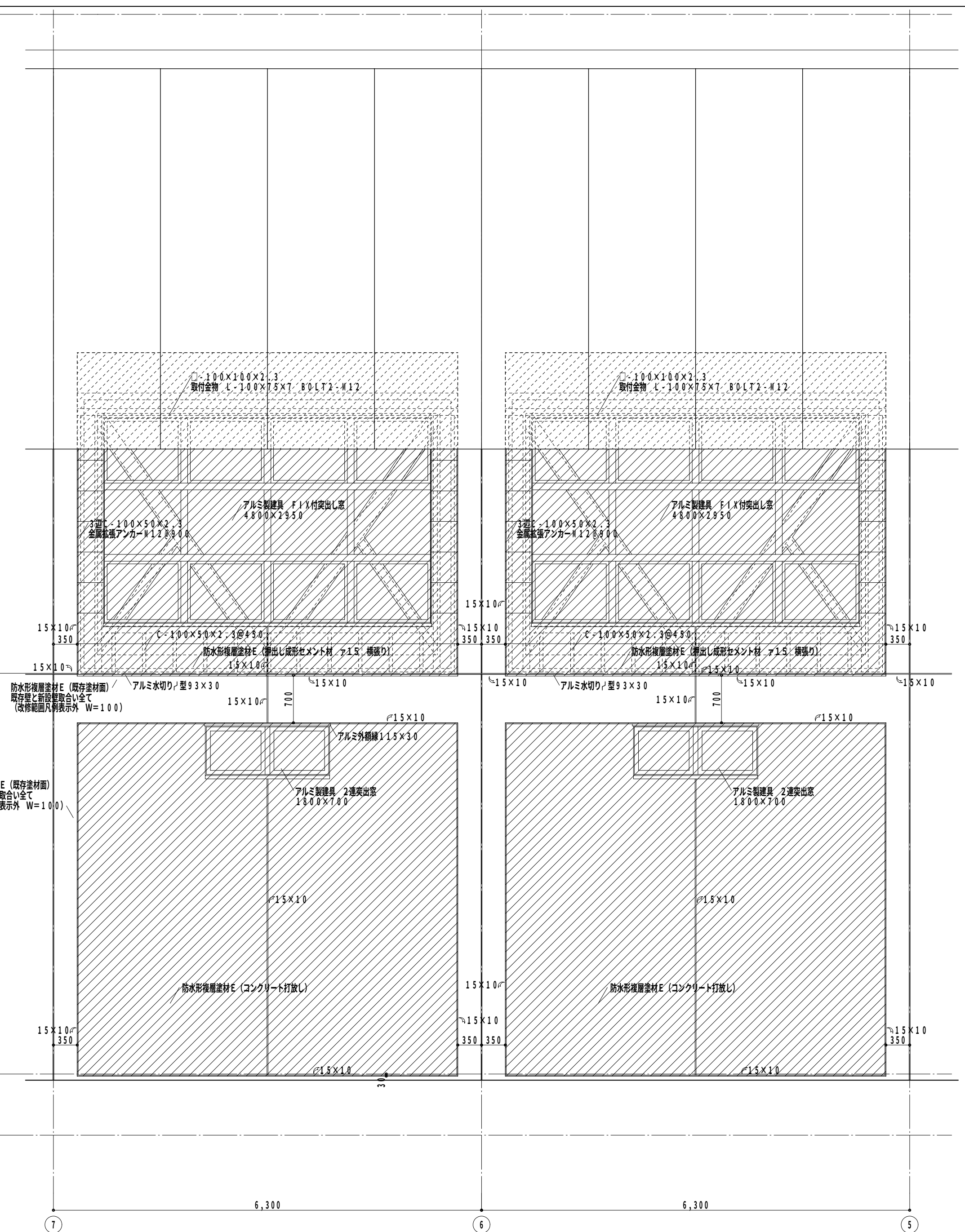


L通り5-7間立面詳細図 1/50

凡例
...撤去範囲を示す (RW1・2・6 SB1・2)



5通りK'-L間断面詳細図 1 / 50



L通り5-7間立面詳細図 1 / 50

凡例

・・・改修範囲を示す

RW1 · 2 · 6 SB1 · 2

Special note ☐
introductory remarks



M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE

1級建築士 登録第136008 信清和呂

県民体育館耐震補強その他建築主体工事（アリーナ棟）

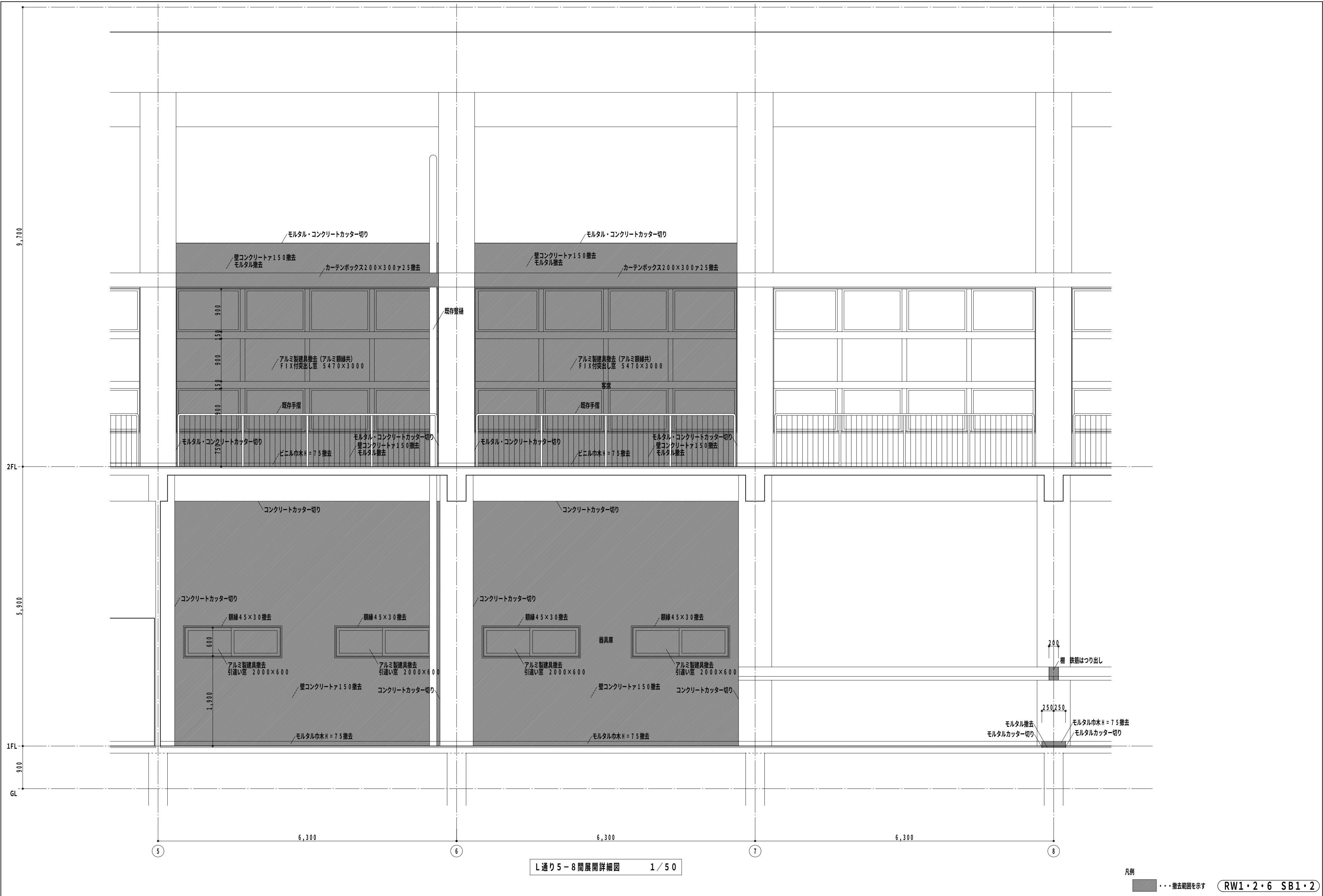
date	drawn by	checked by
3 / '11		信清

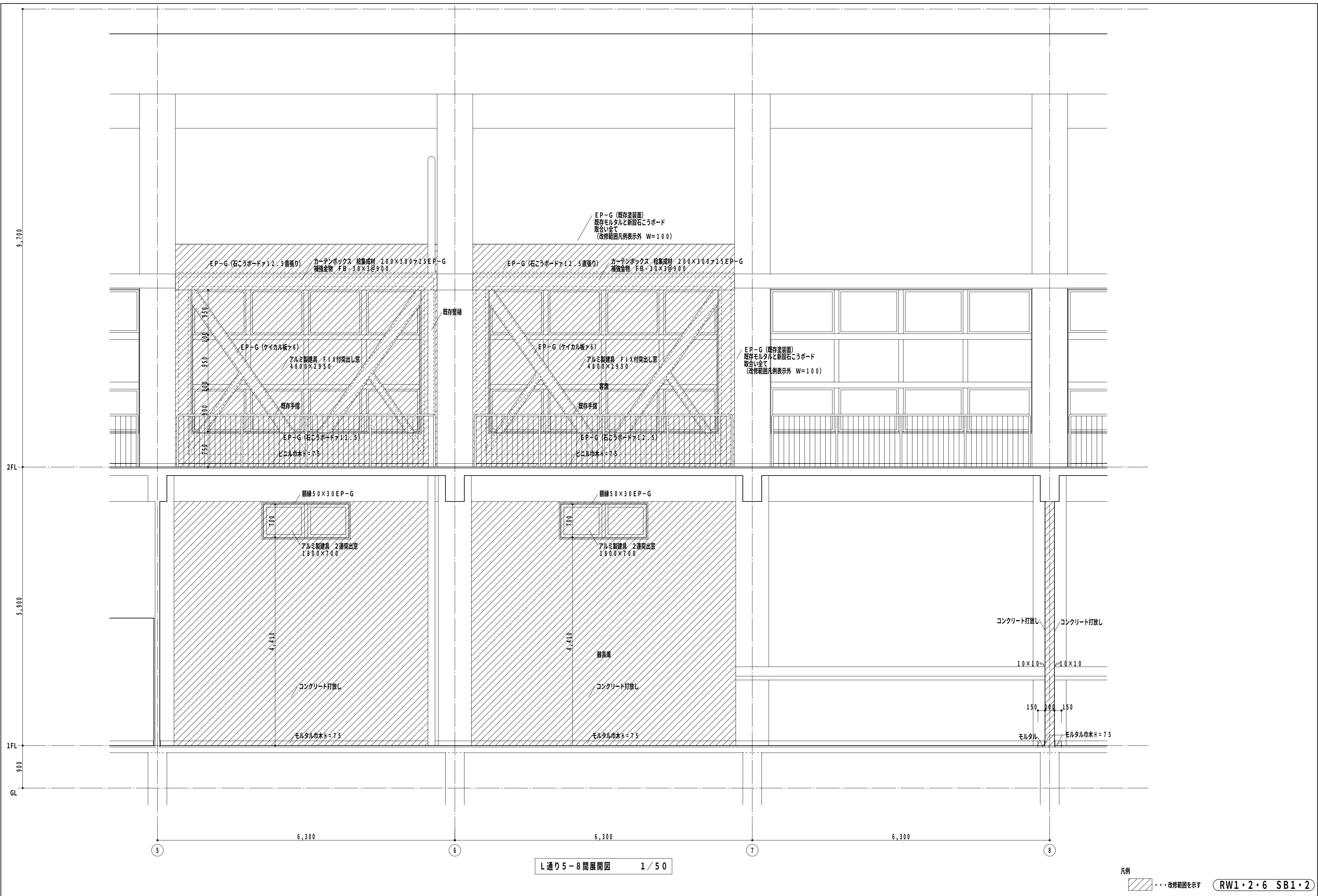
改修後 器具庫・客席
断面詳細図(1)

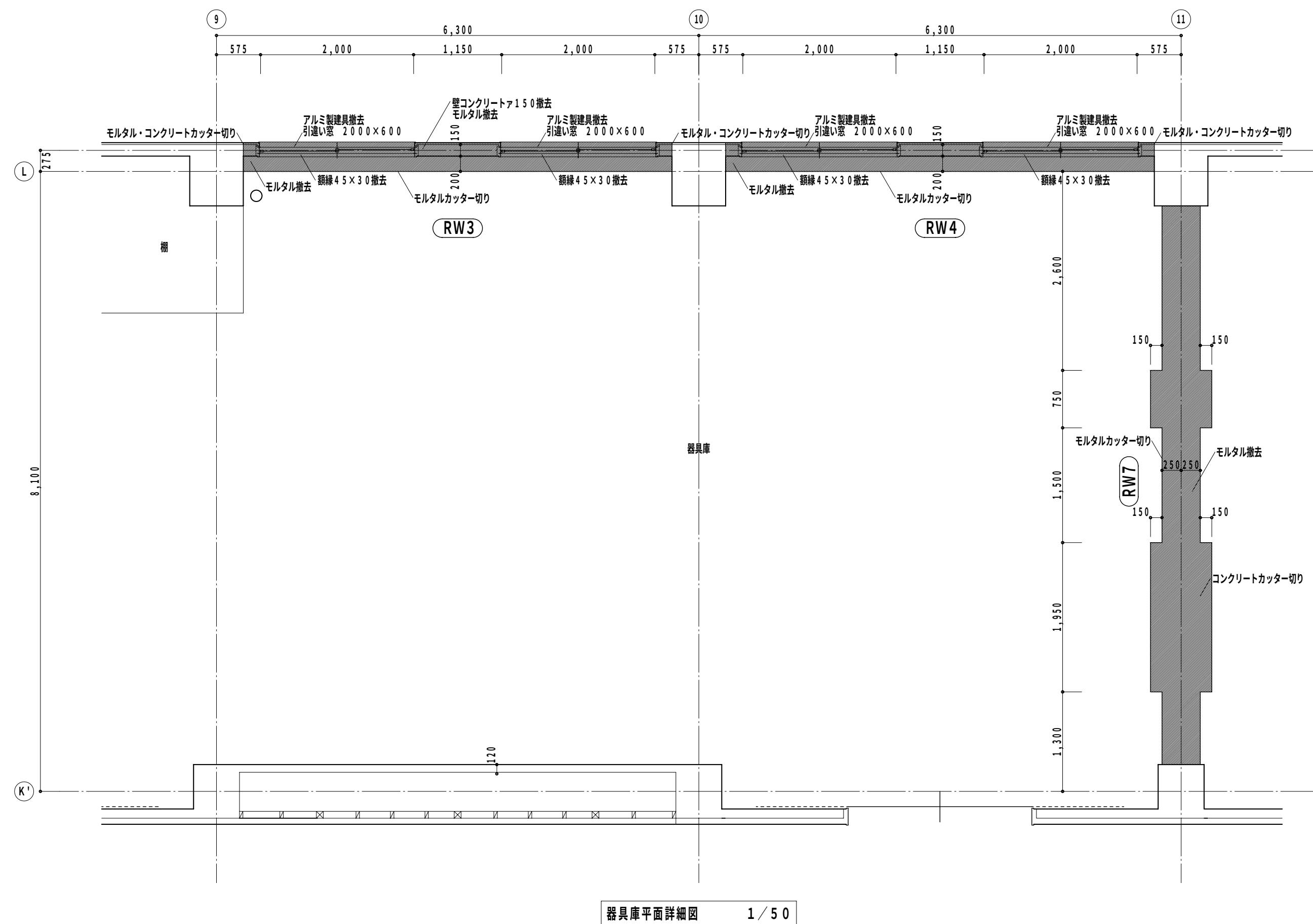
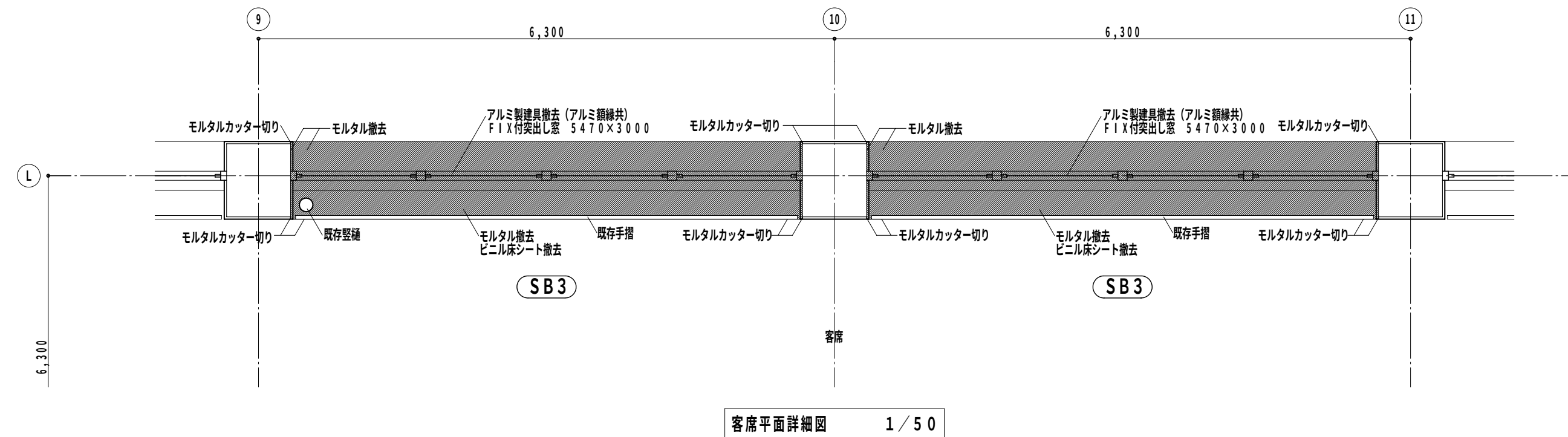
scale 1 / 50

意匠

27







凡例

...撤去範囲を示す

RW3 · 4 · 7 SB3 · 4

Special note
introductory remarks

M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE

1 級建築士 登録第 136008 信清和呂

県民体育館耐震補強その他建築主体工事（アリーナ棟）

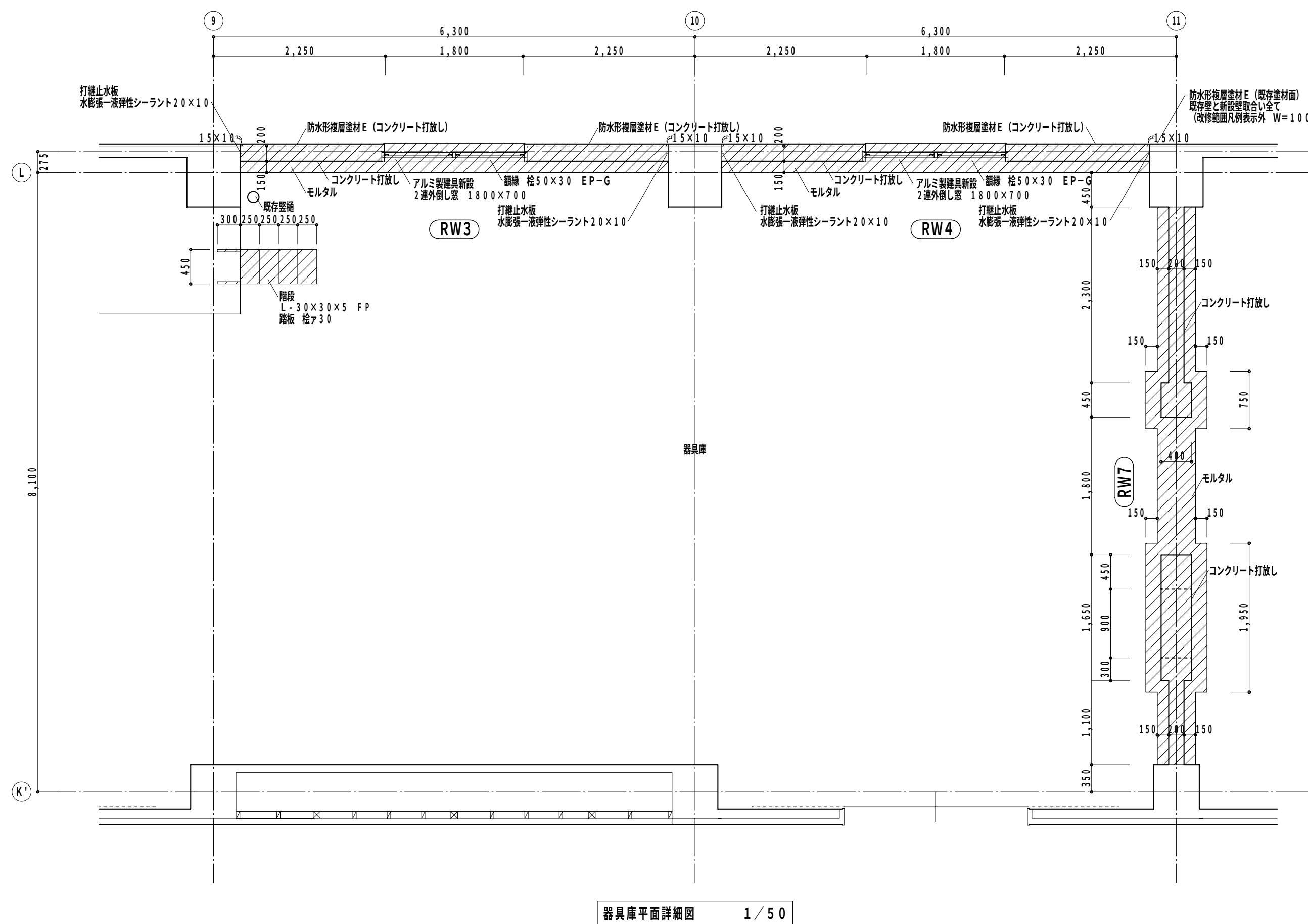
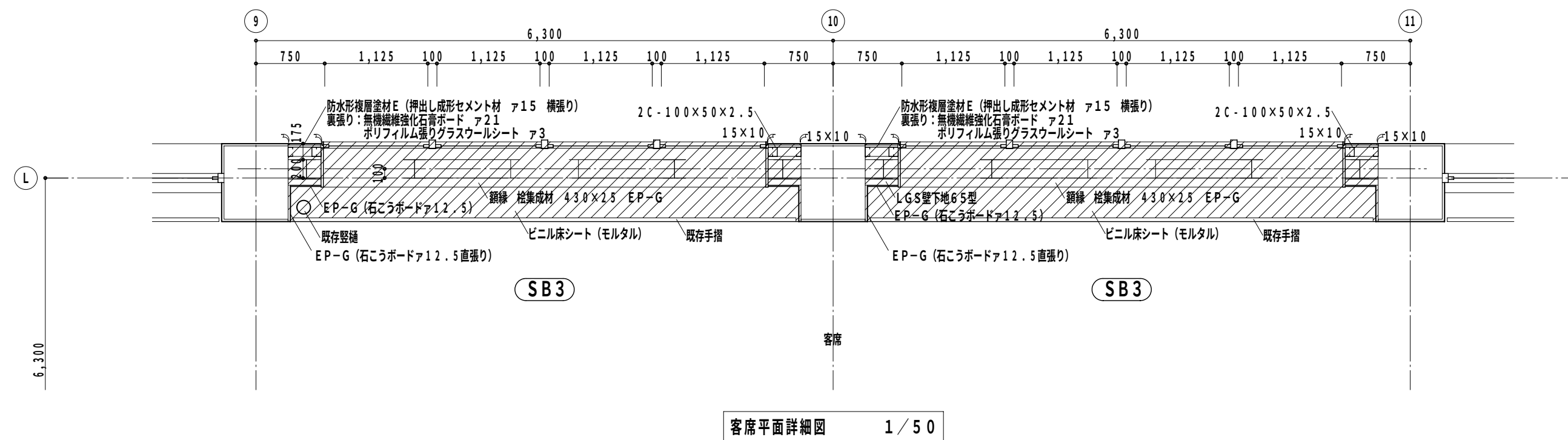
date	drawn by	checked by
3 / '11		信清

改修前 器具庫・客席
平面詳細図 (2)

scale 1 / 50

意匠

30



凡例

 ...改修範囲を示す

RW3 · 4 · 7 SB3 · 4

Special note ☐
introductory remarks



M A 設 計 事 務 所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

県民体育館耐震補強その他建築主体工事（アリーナ棟）

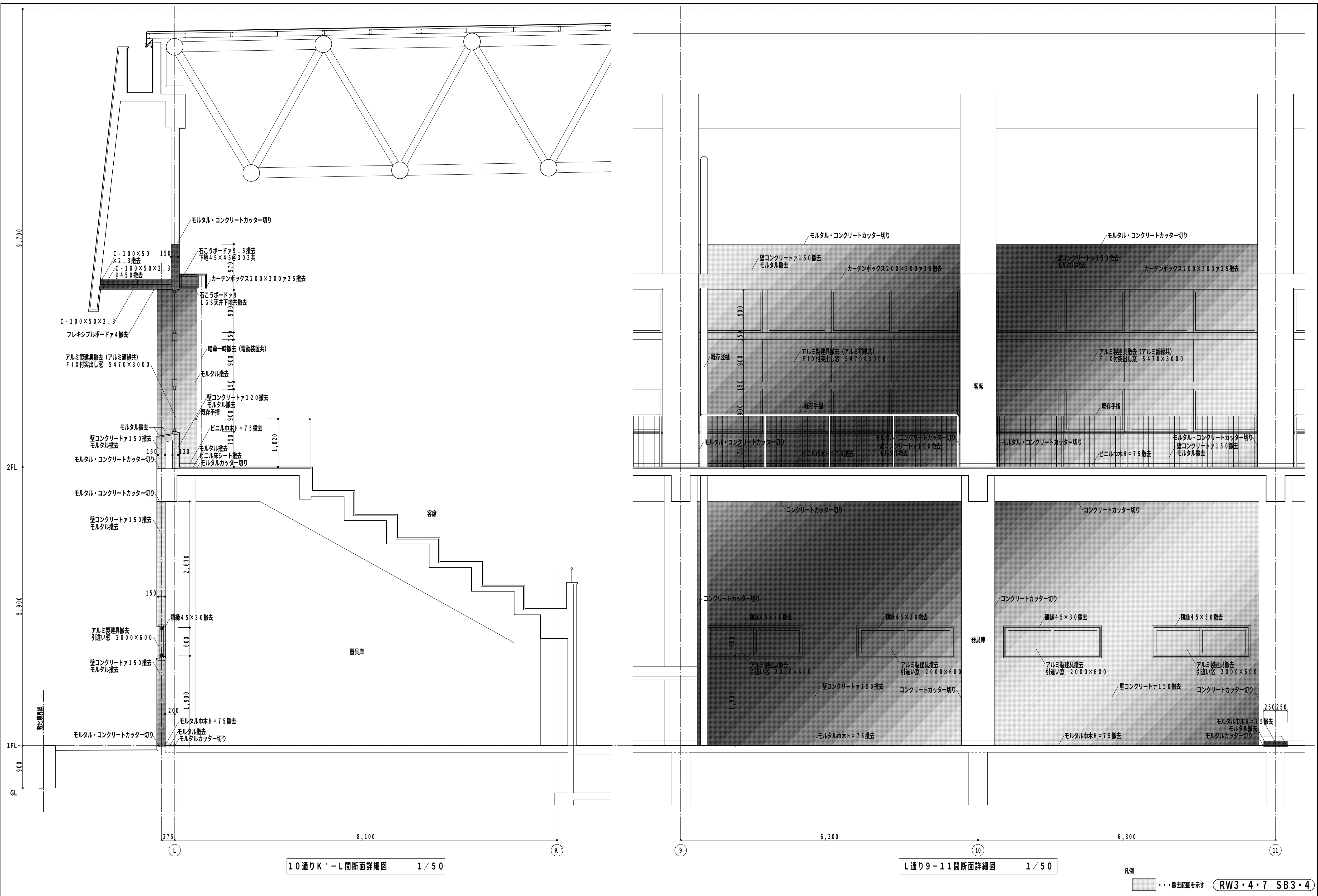
date	drawn by	checked by
3 / '11		信清和呂

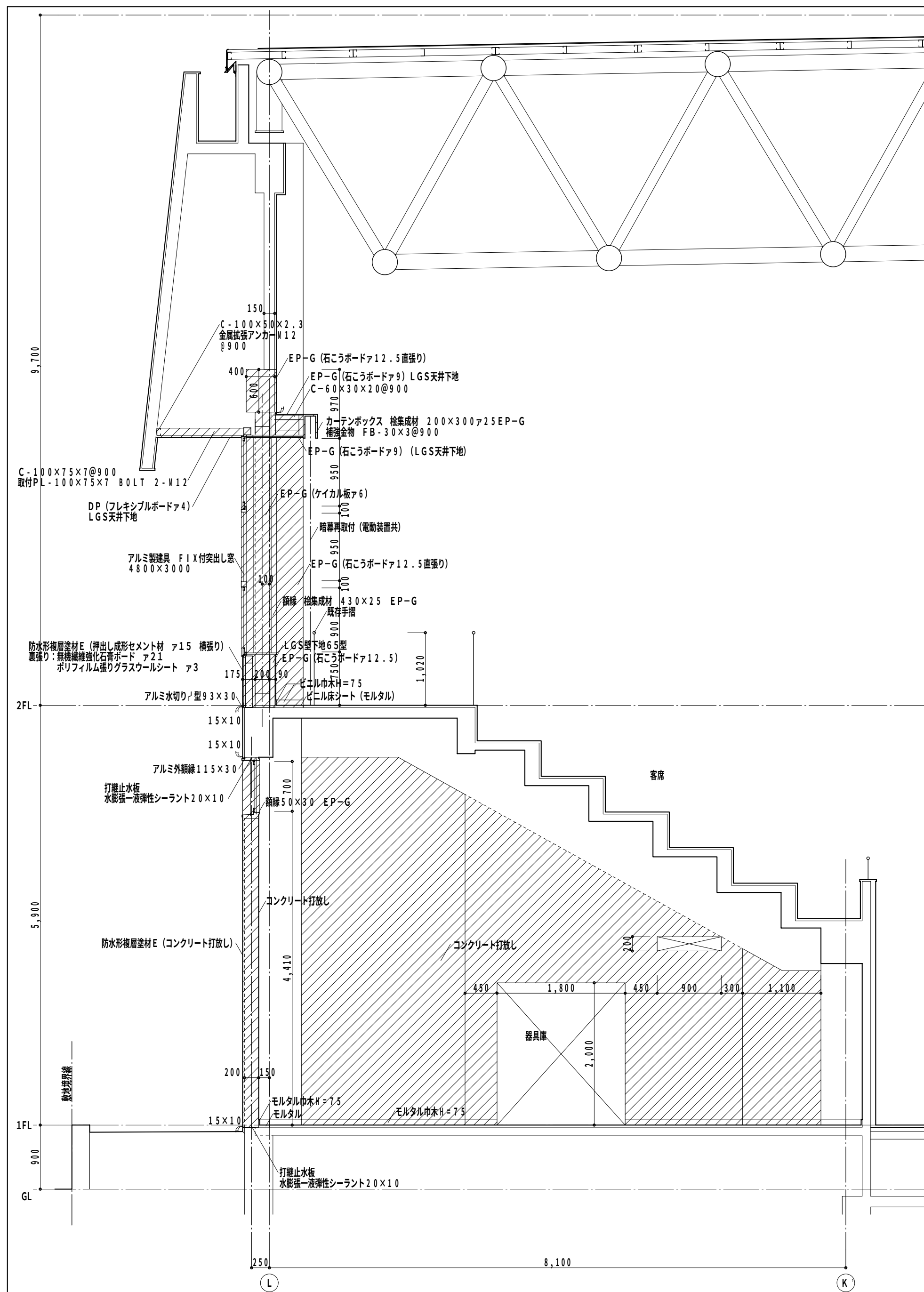
改修後 器具庫・客席
平面詳細図 (2)

scale 1 / 50

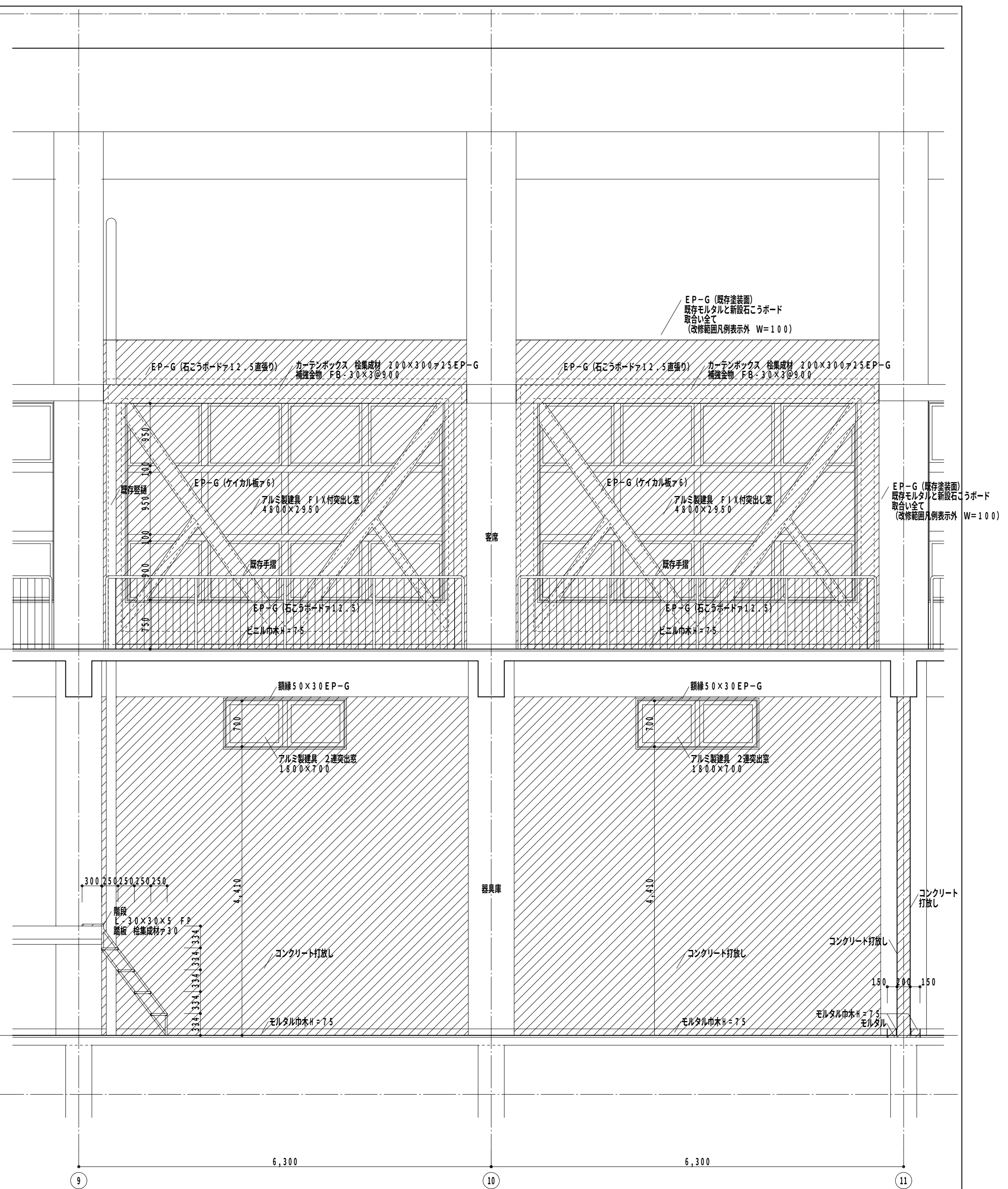
意匠

31





10通りK'-L間断面詳細図 1/50



L通り9-11間断面詳細図 1 / 50

凡例

・・・改修範囲を示す

RW3 · 4 · 7 SB3 · 4

Special note ☐
introductory remarks



M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE

1級建築士 登録第136008 信清和呂

県民体育館耐震補強その他建築主体工事（アリーナ棟）

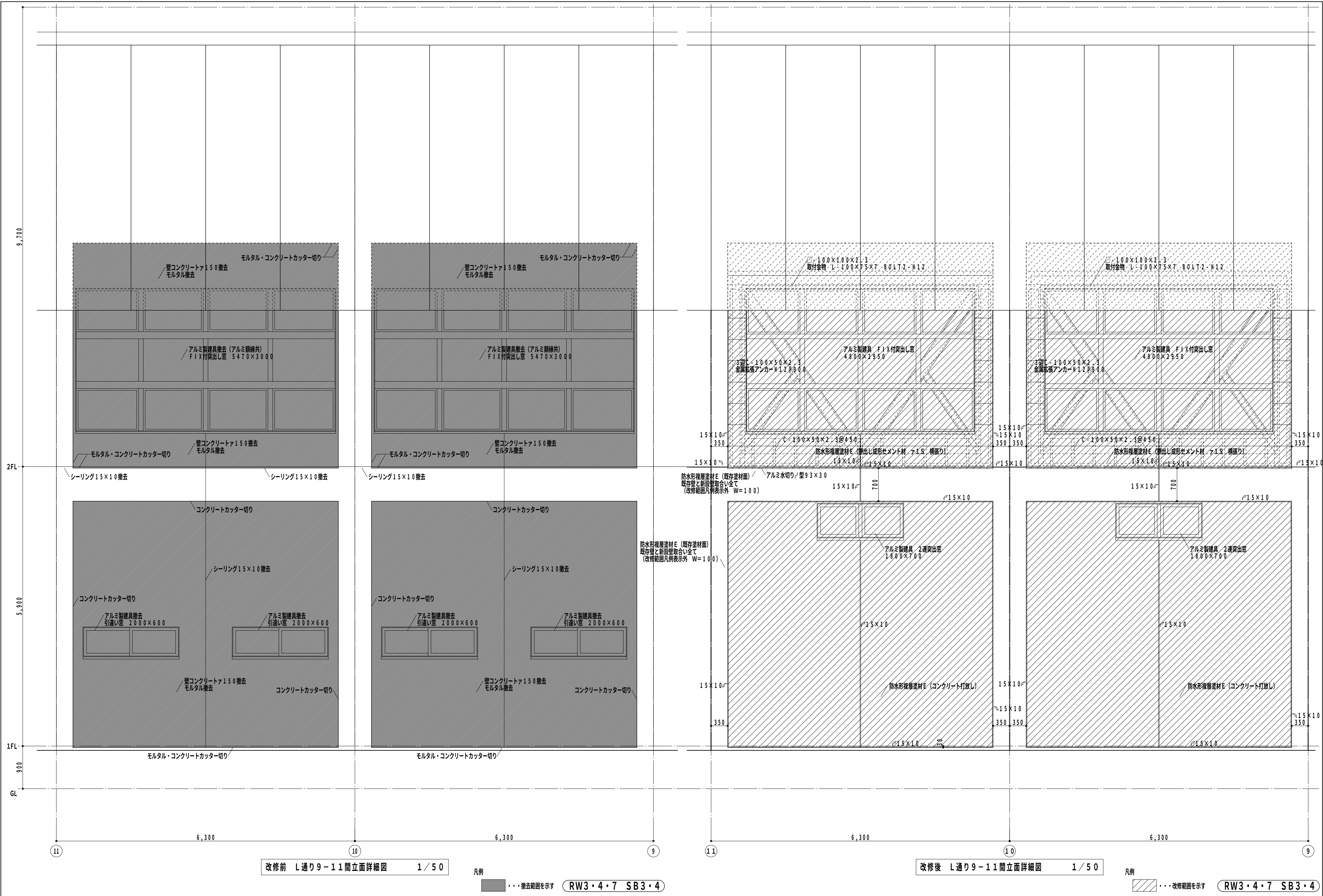
date	drawn by	checked by
3 / '11		信清

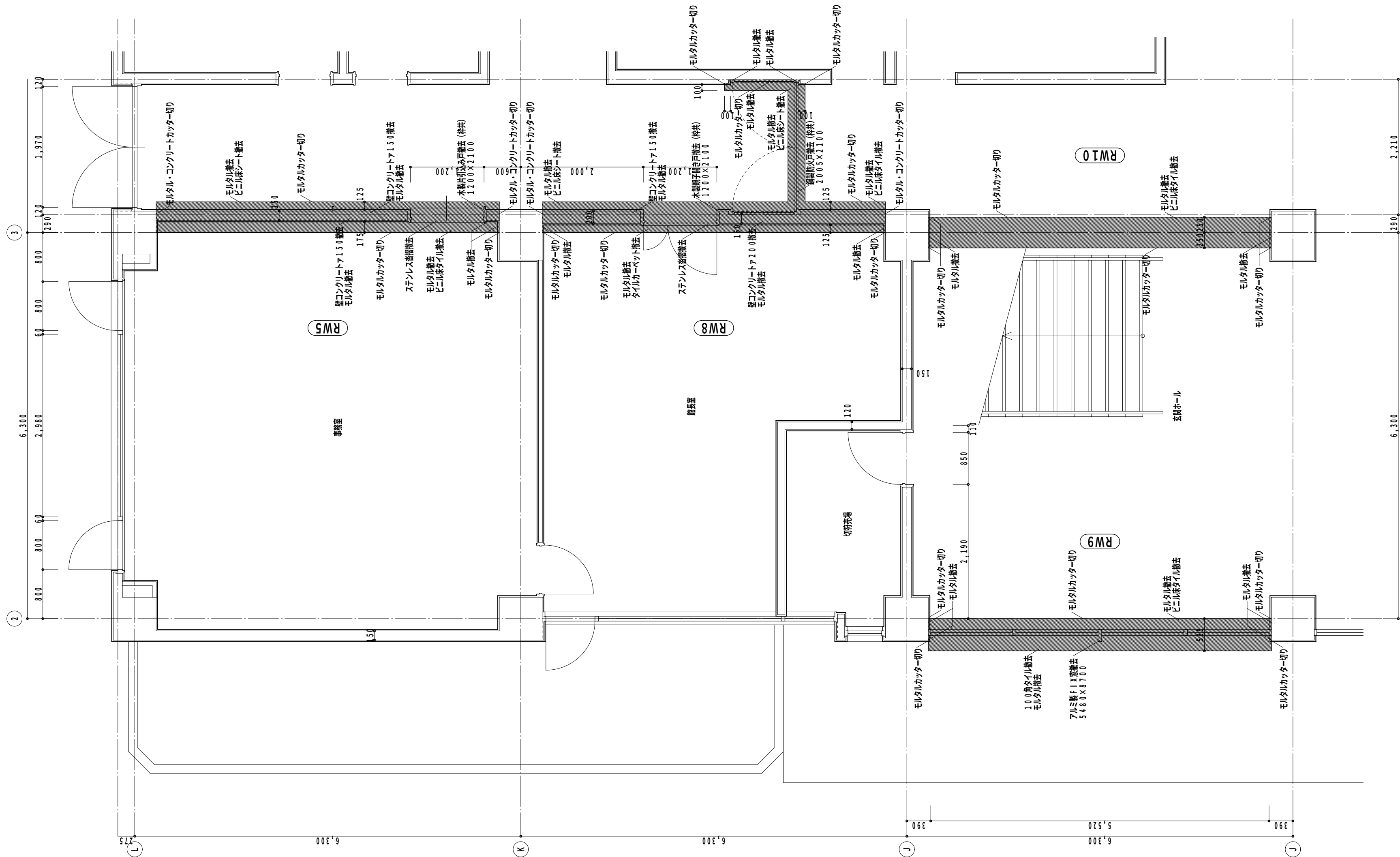
改修後 器具庫・客席
断面詳細図 (3)

scale 1 / 50

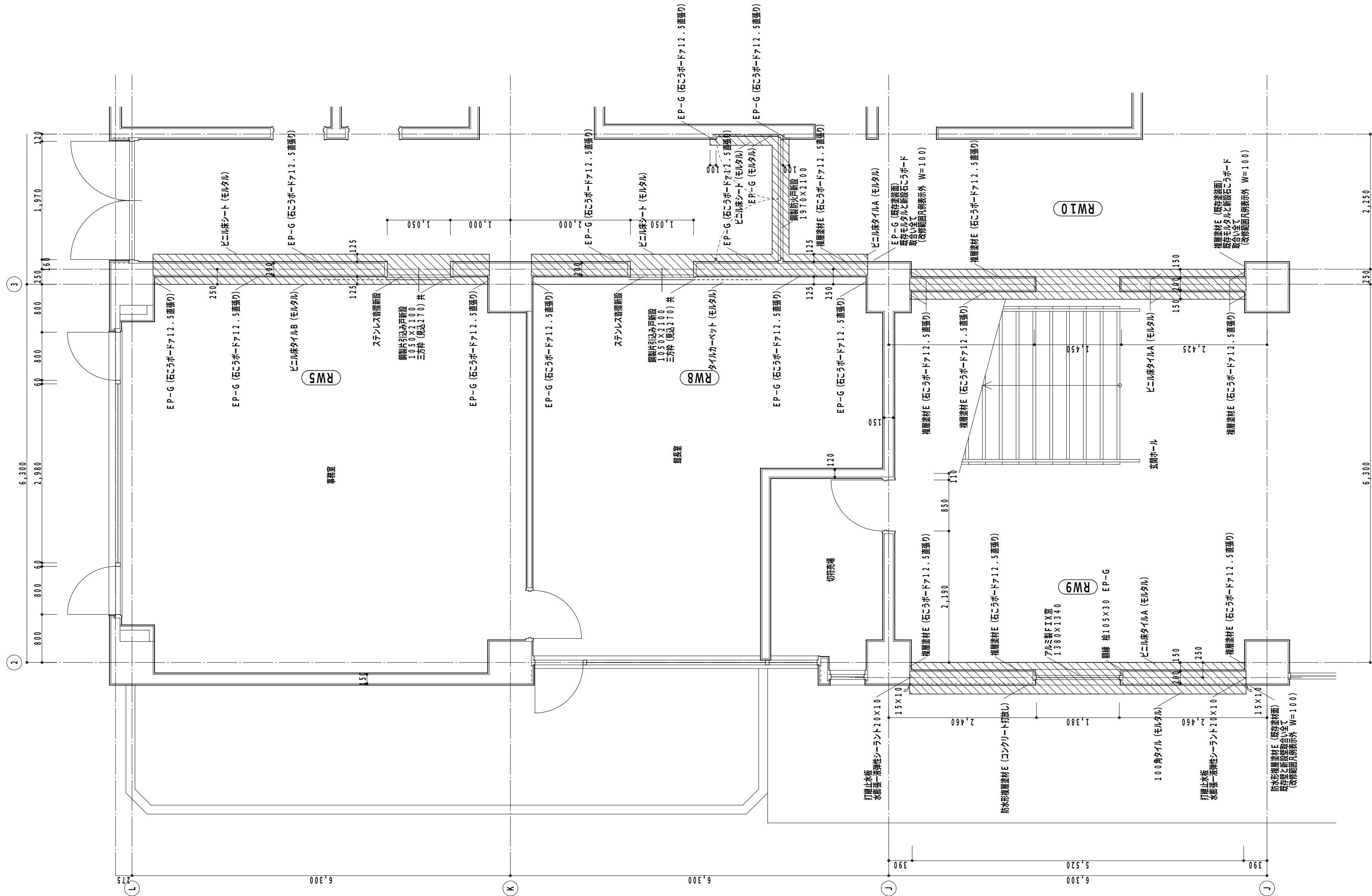
意匠

33





凡例
...撤去範囲を示す
RW5・8・9・10



凡例
... 改修範囲を示す
RW5・8・9・10

Special note
introductory remarks



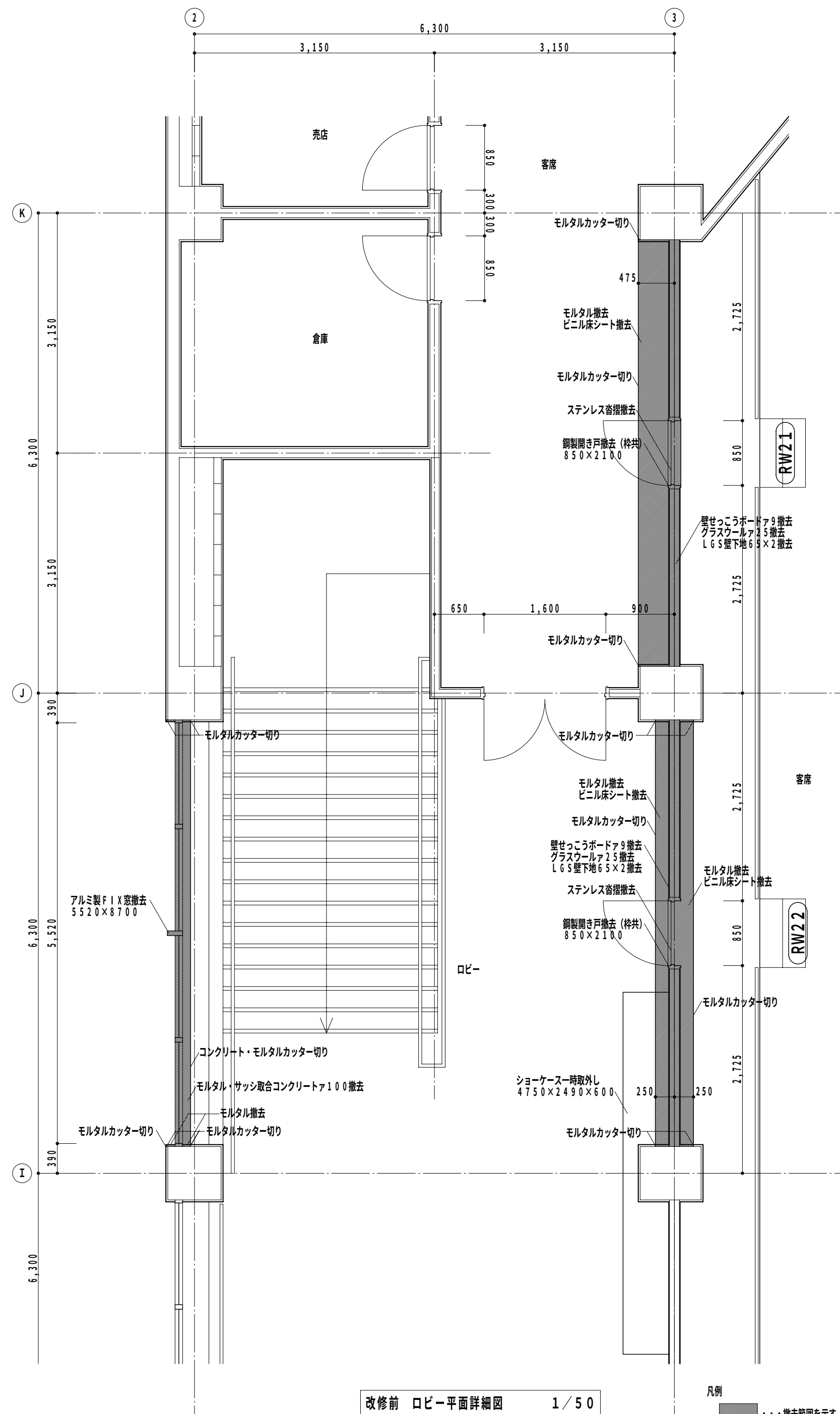
M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

県民体育館耐震補強その他建築主体工事（アリーナ棟）
date 3 / '11 drawn by checked by 信清和呂

改修後 事務室・館長室・
玄関ホール平面詳細図
scale 1 / 50

意匠
36

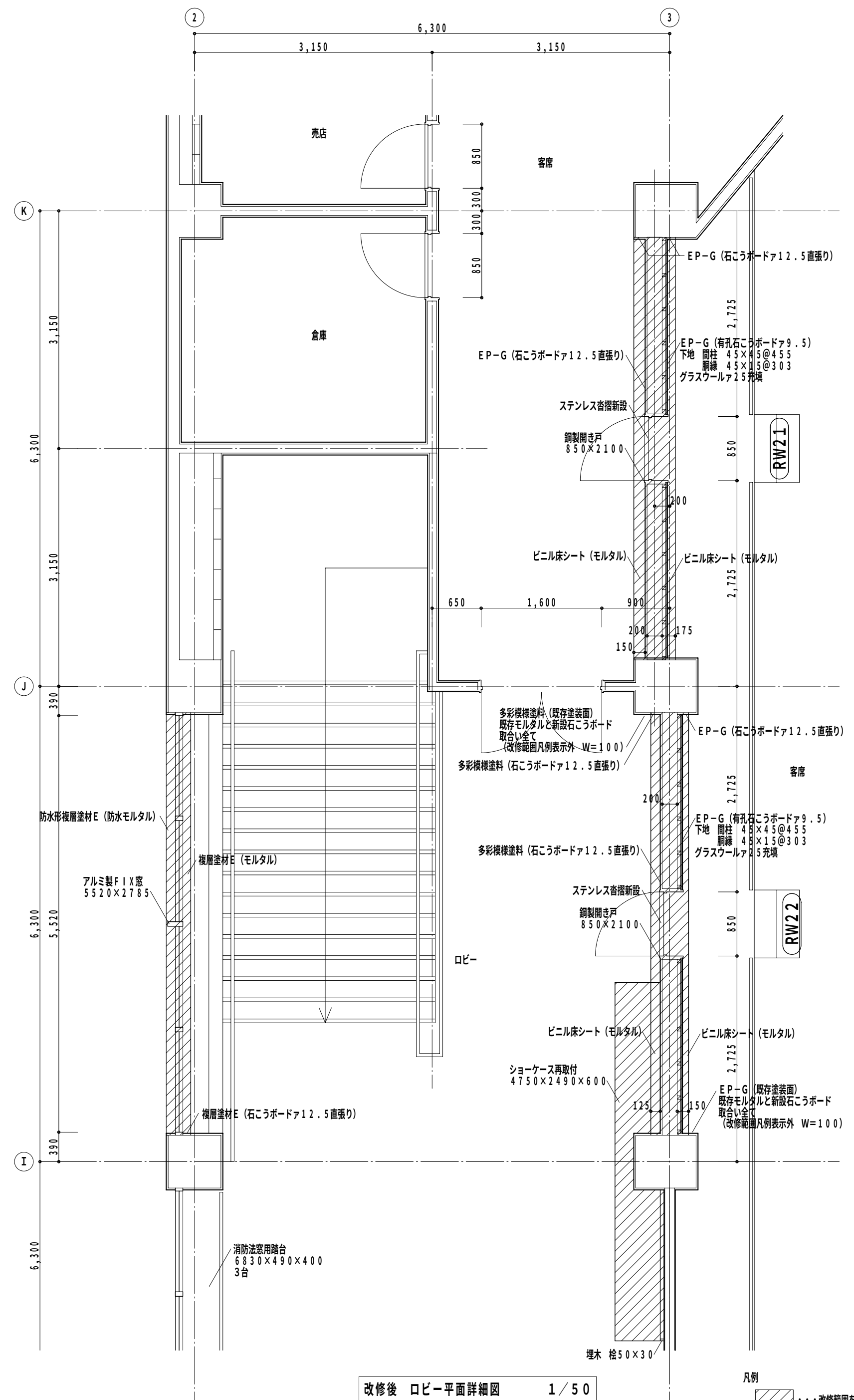
ロビー平面詳細図 1 / 50



凡例

・・・撤去範囲を示す

RW21 · 22



凡例

・・・改修範囲を示す

RW21 · 22

Special note
introductory remarks

M A 設 計 事 務 所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
 1級建築士 登録第136008 信清和呂

県民体育館耐震補強その他建築主体工事（アリーナ棟）

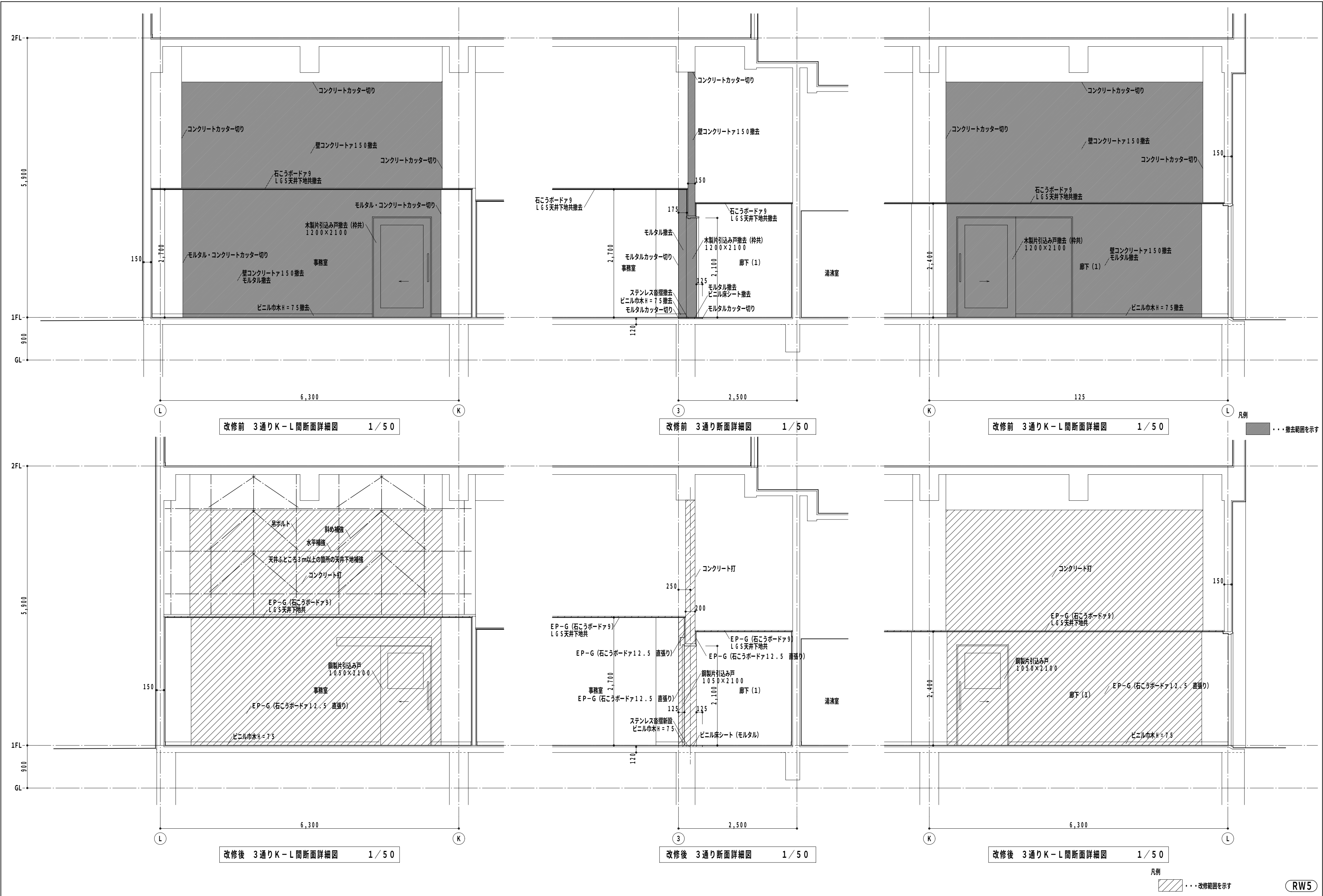
date	drawn by	checked by
3 / '11		信清和呂

ロビー平面詳細図(1)

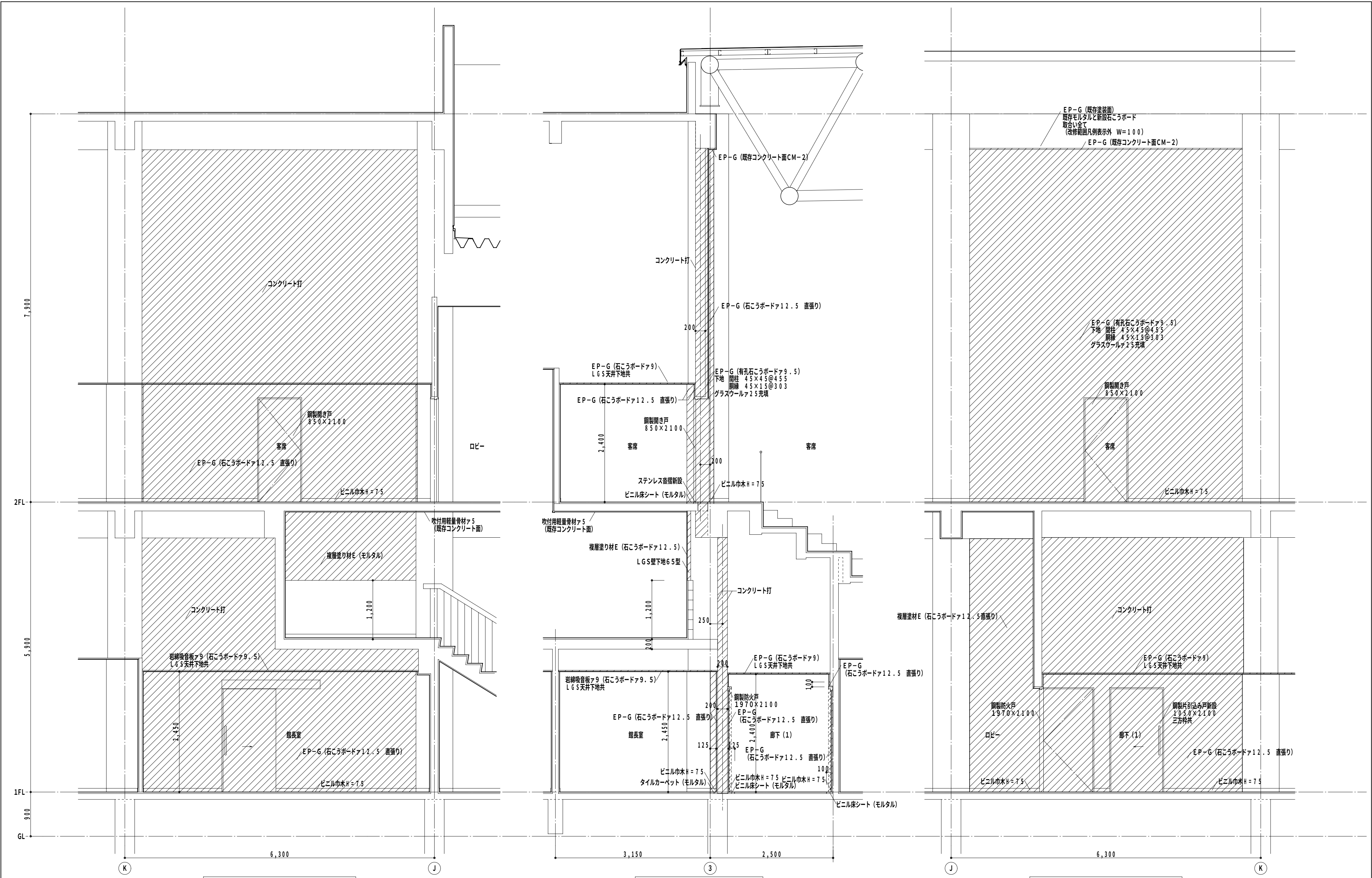
scale 1 / 50

意匠

37





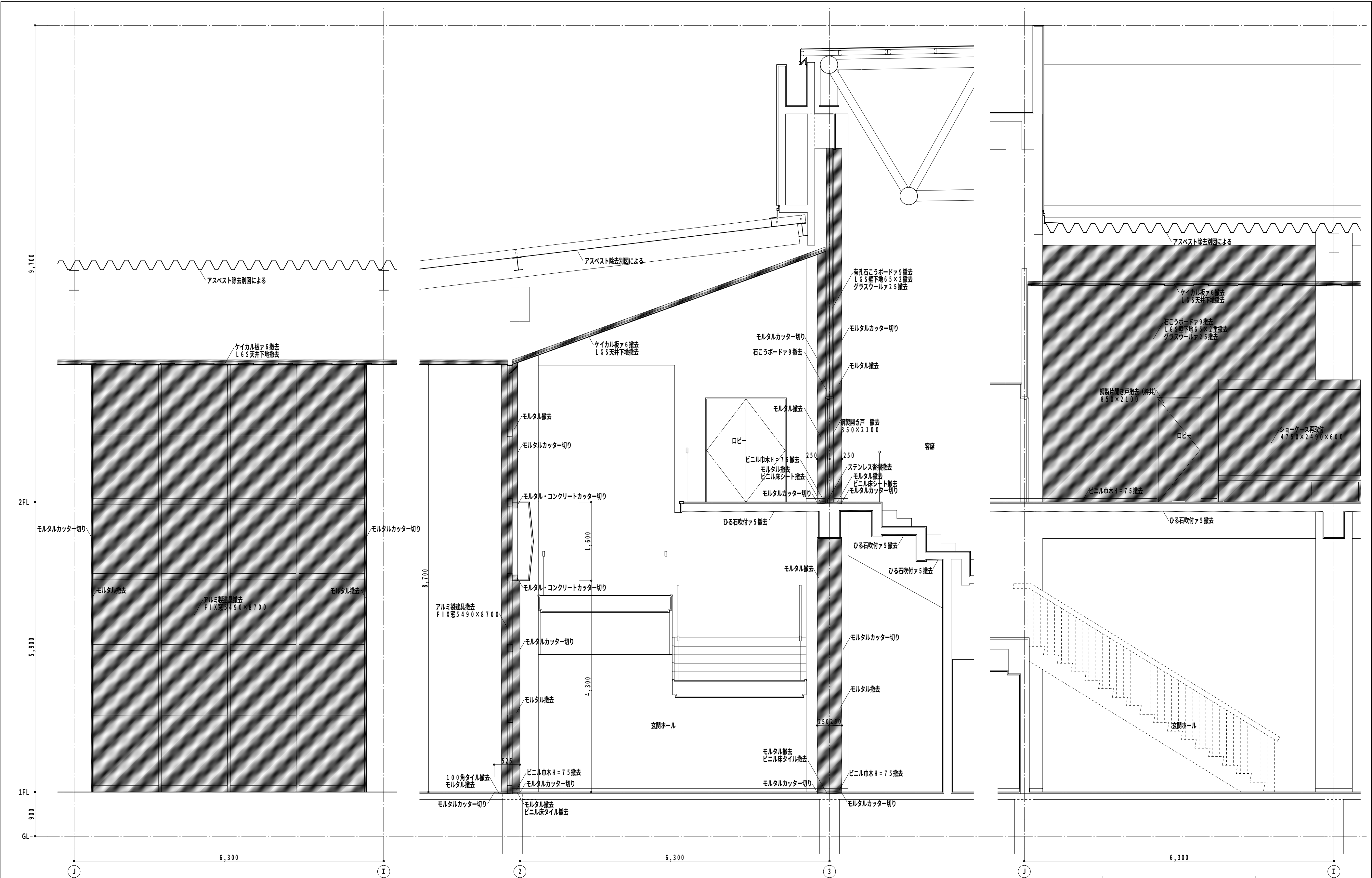


3通り J-K 間断面詳細図 1 / 50

3通り断面詳細図 1 / 50

3通り J-K 間断面詳細図 1 / 50

凡例
... 改修範囲を示す
吹付け用軽量骨材はアスベスト除去工事

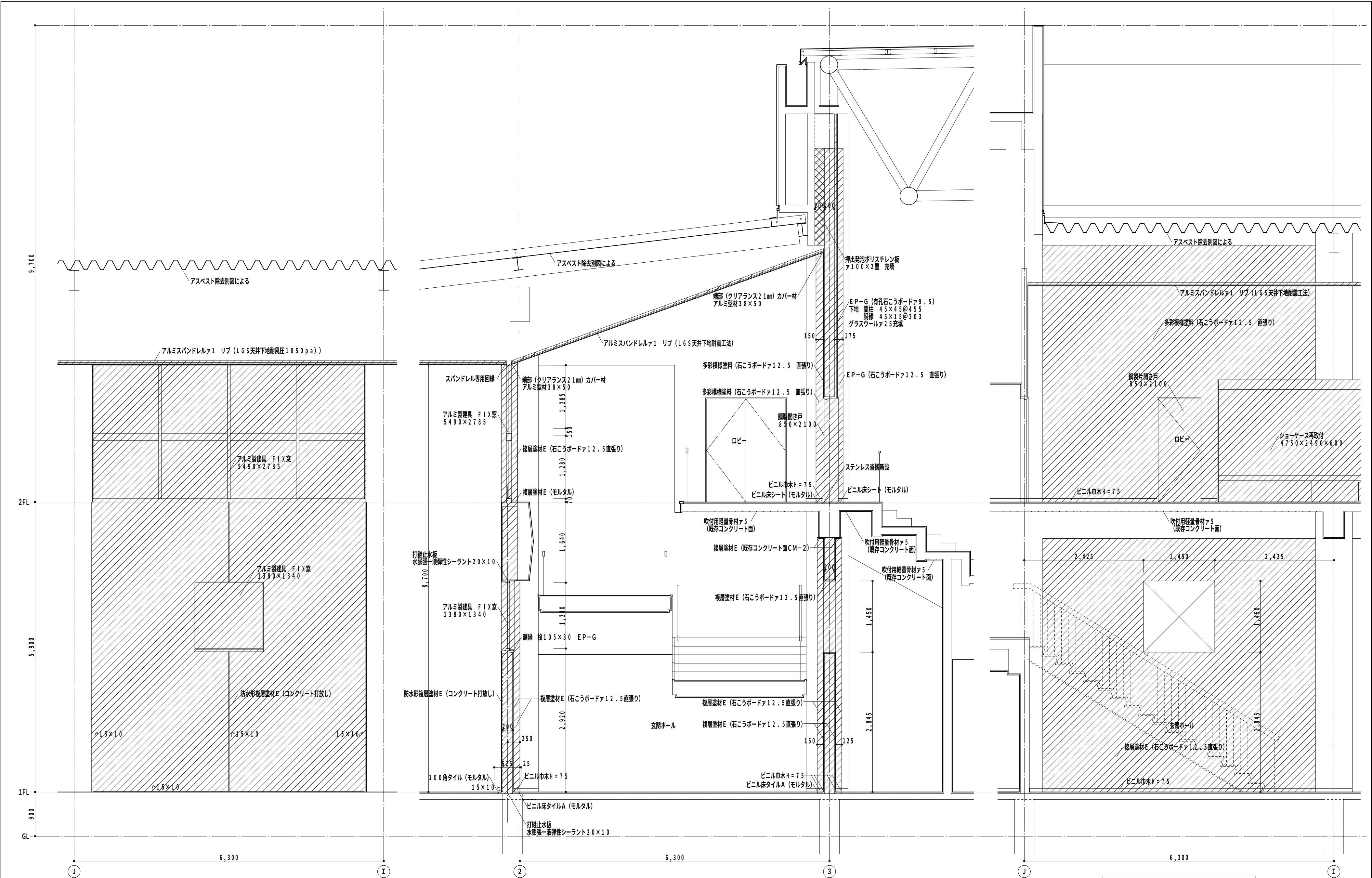


2 通り I-J 間立面詳細図 1 / 5 0

2・3 通り I-J 間断面詳細図 1 / 5 0

3 通り I-J 間断面詳細図 1 / 5 0

凡例
... 撤去範囲を示す
天井ひる石吹付・ケイカル板撤去はアスベスト除去工事



2通りI-J間立面詳細図 1/50

2・3通りI-J間断面詳細図 1/50

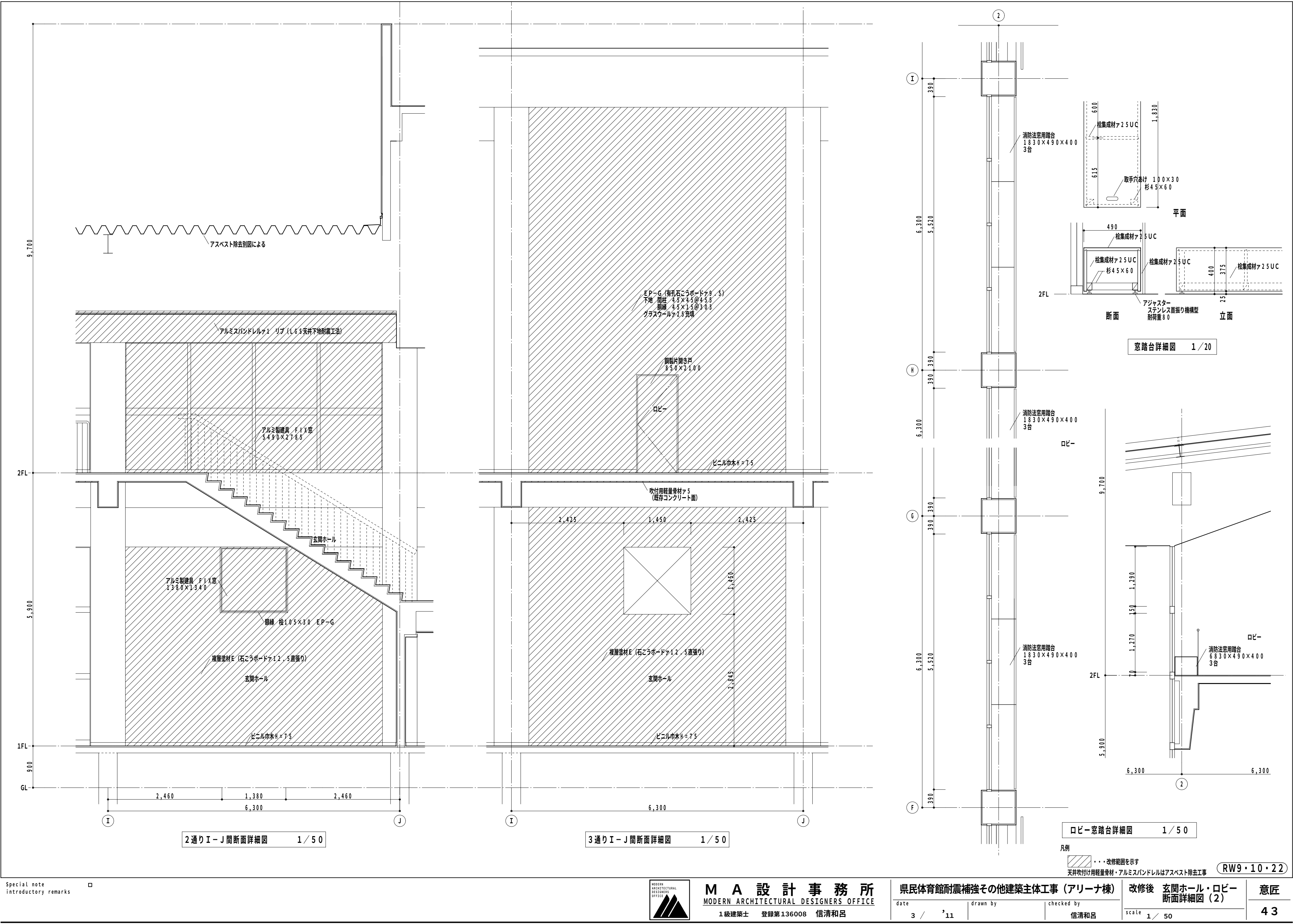
3通りI-J間断面詳細図 1/50

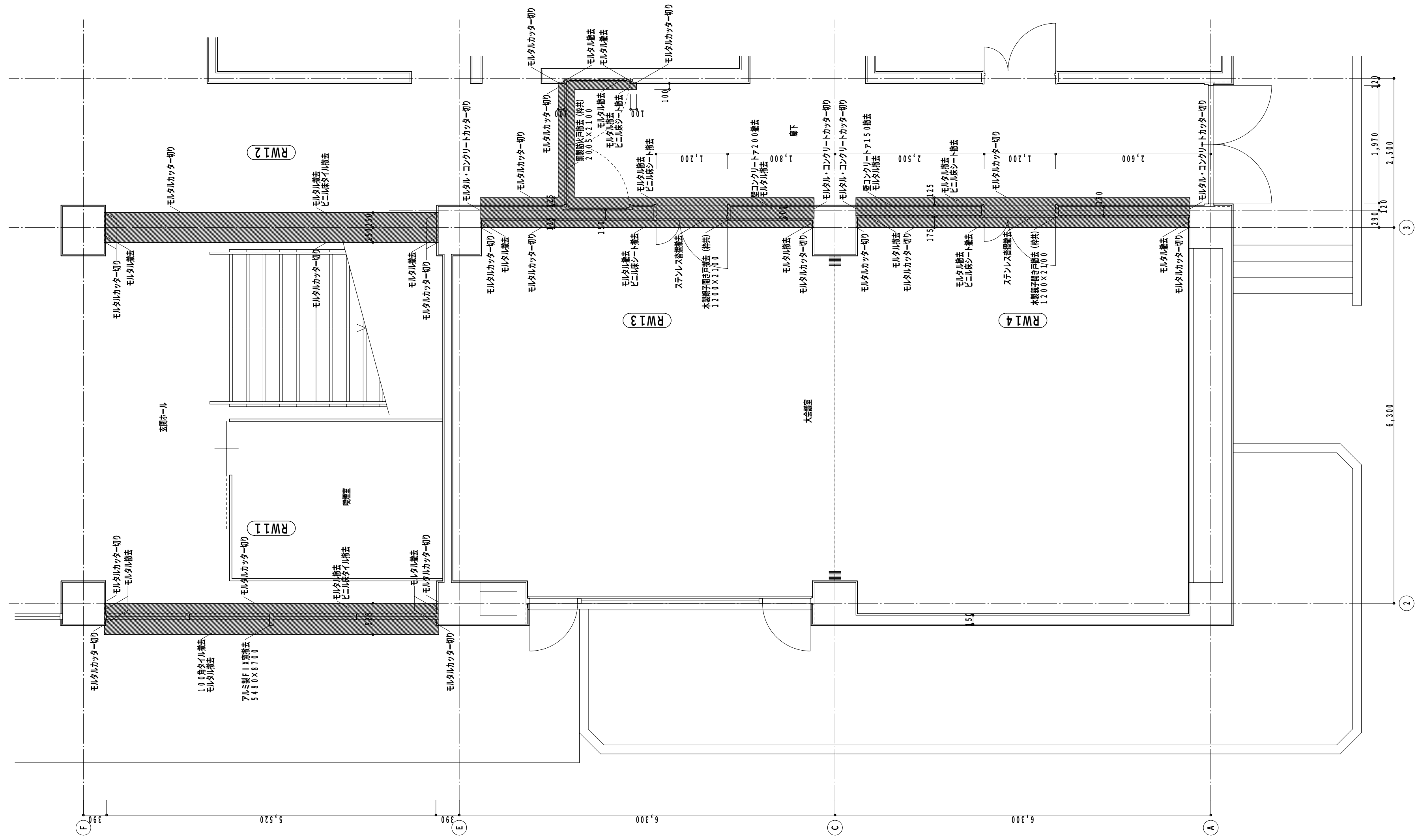
凡例

... 改修範囲を示す

天井吹付け用軽量骨材・アルミサンドレラはアスベスト除去工事

RW9・10・22





凡例
.....撤去範囲を示す (RW11・12・13・14)

Special note
introductory remarks



M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

県民体育館耐震補強その他建築主体工事（アリーナ棟）

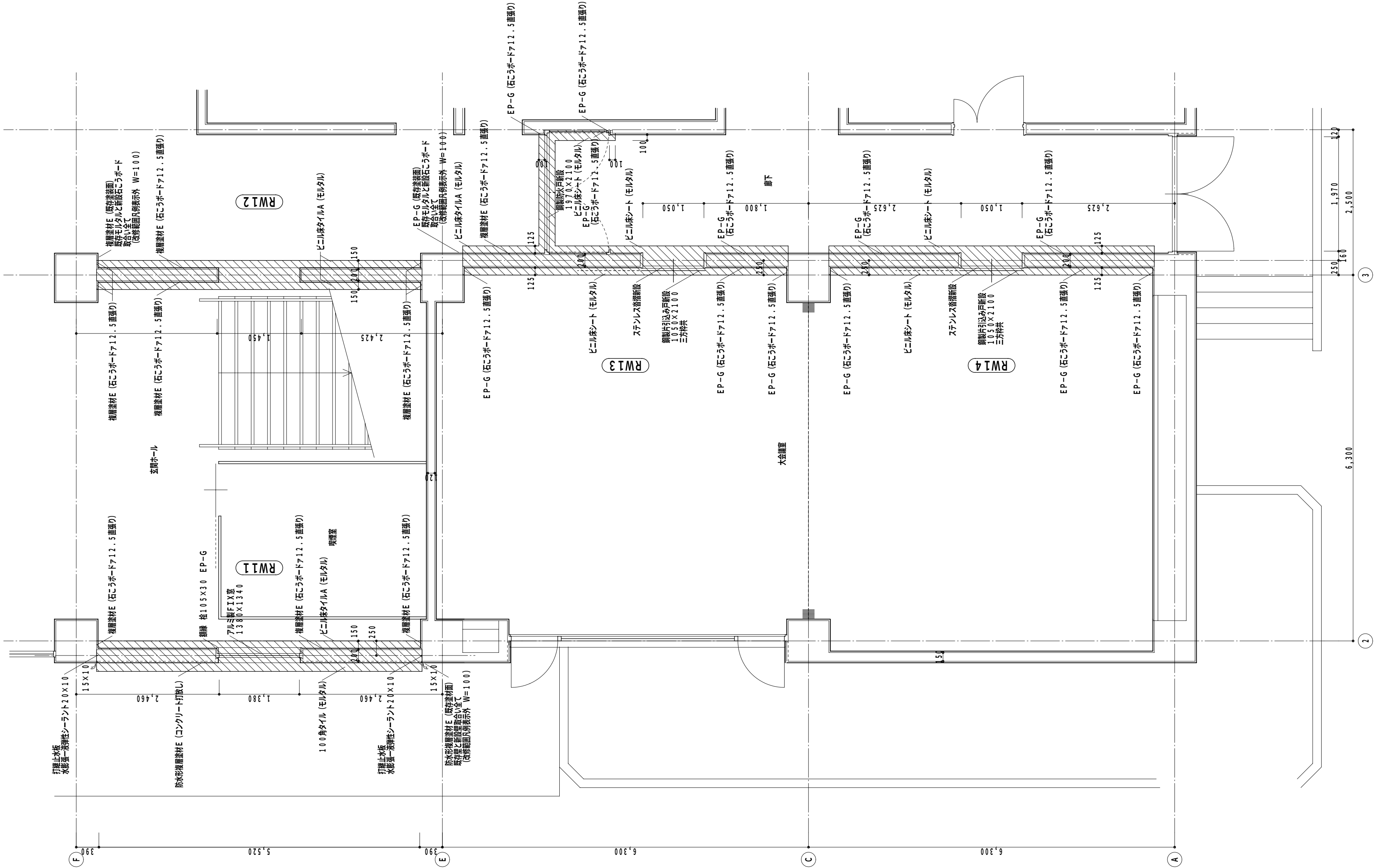
date	drawn by	checked by
3 / '11		信清和呂

改修後 玄関ホール・大会議室
平面詳細図

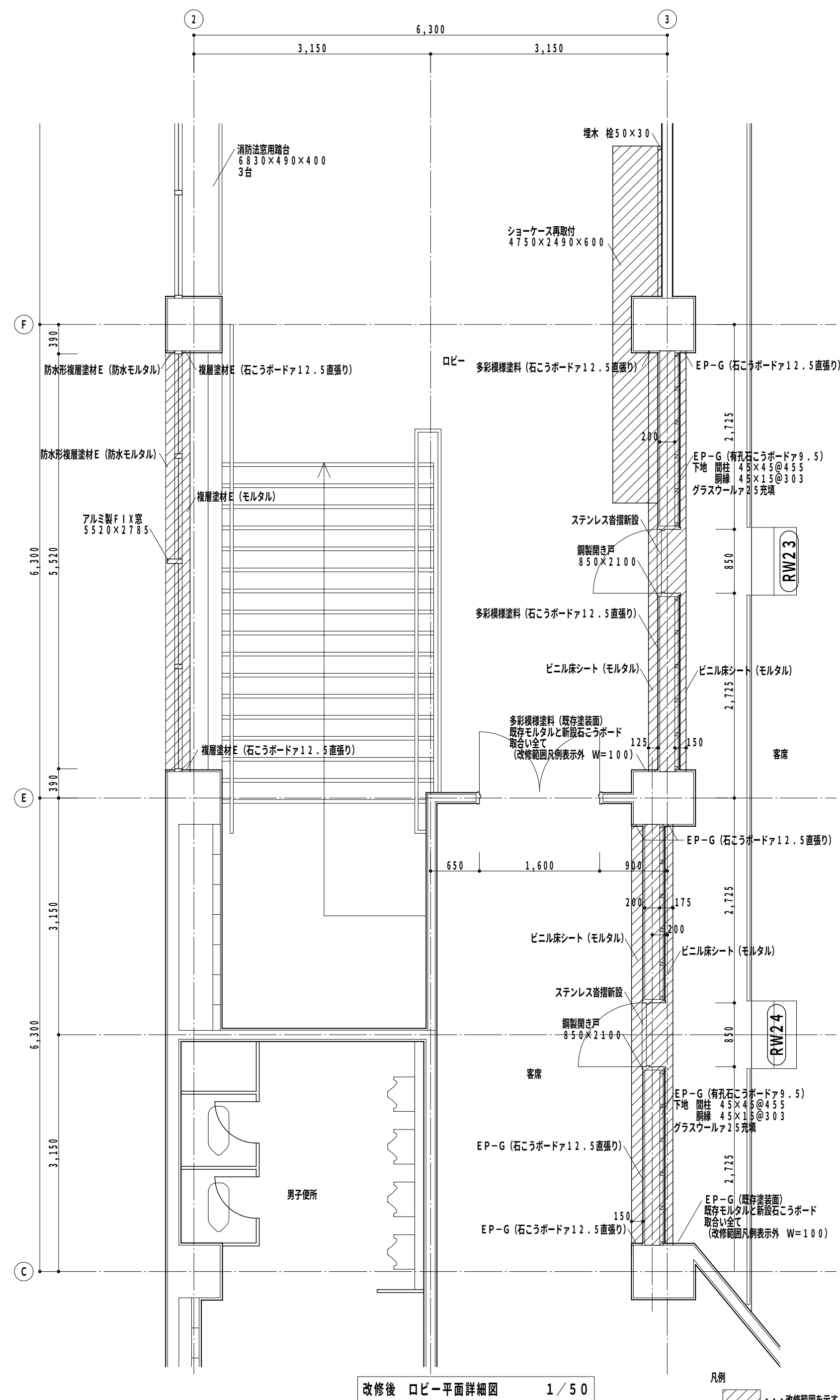
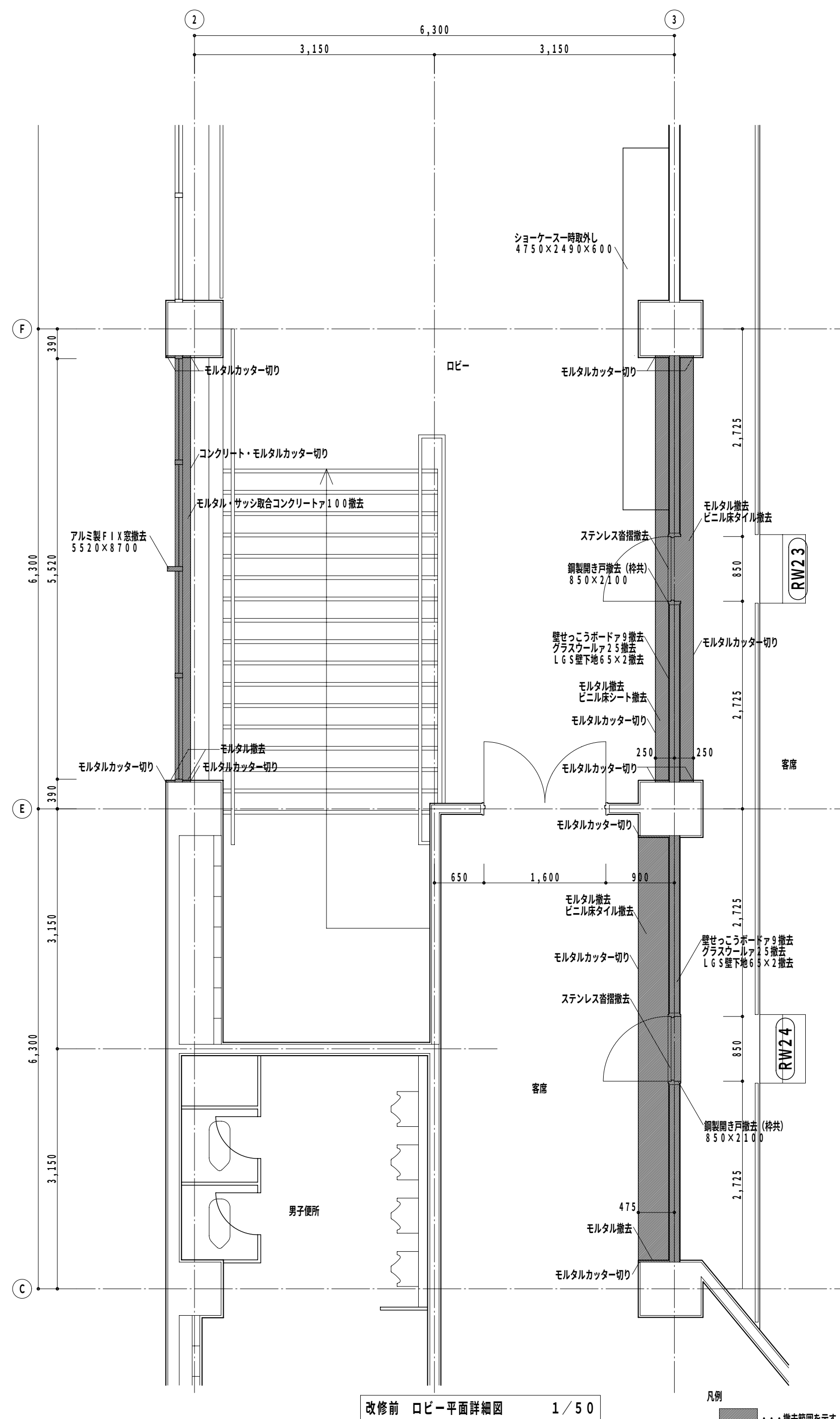
scale 1 / 50

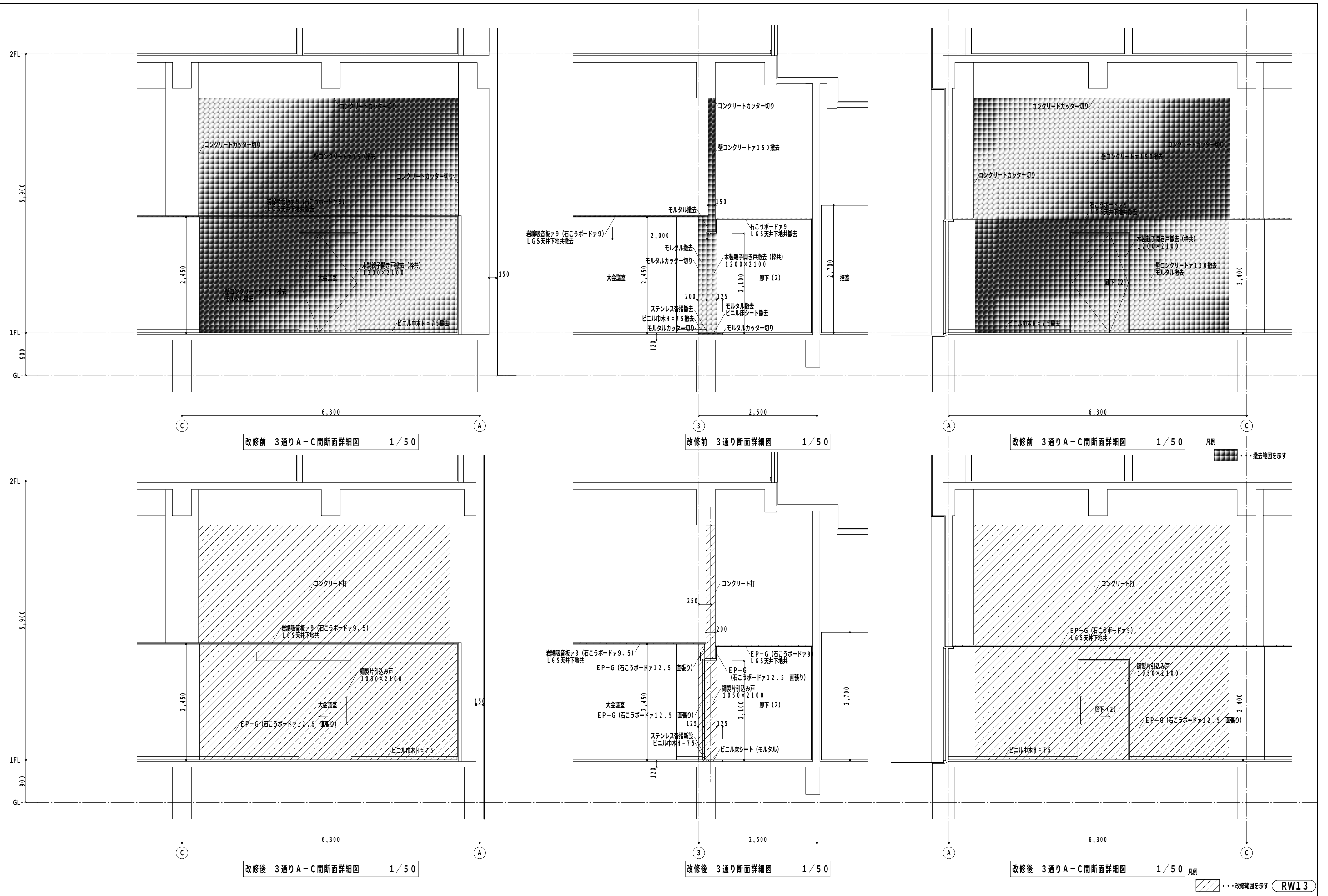
意匠

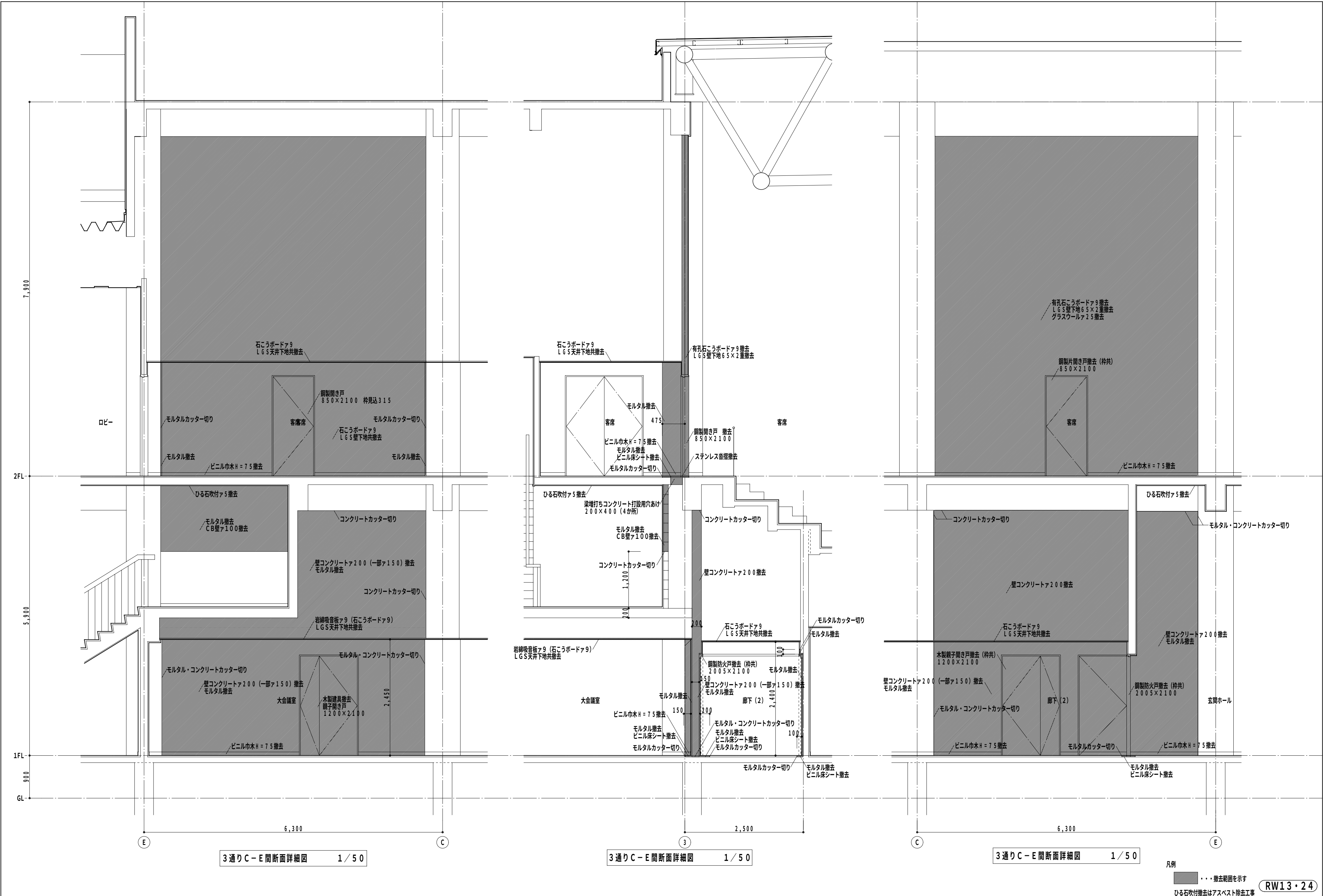
45

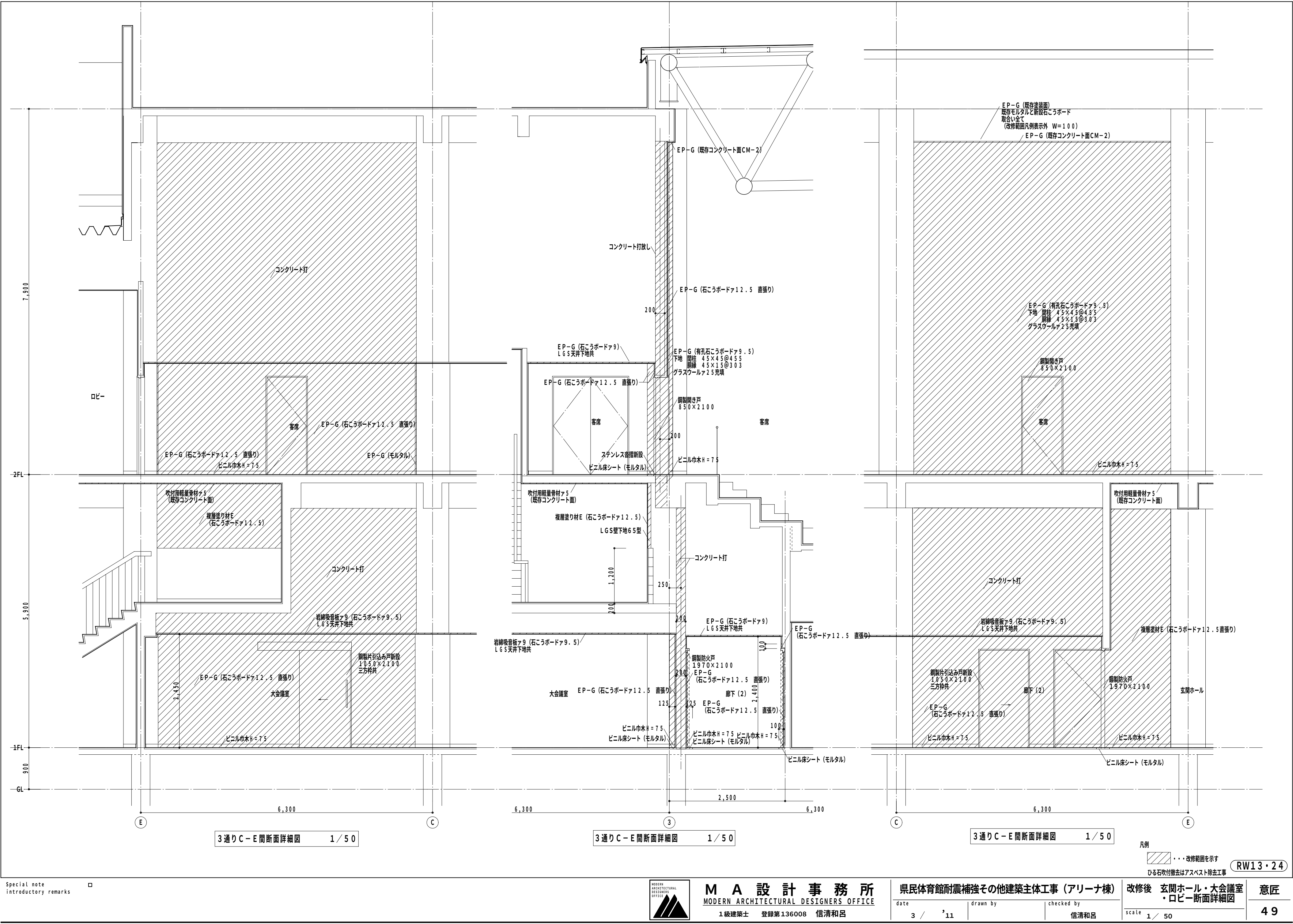


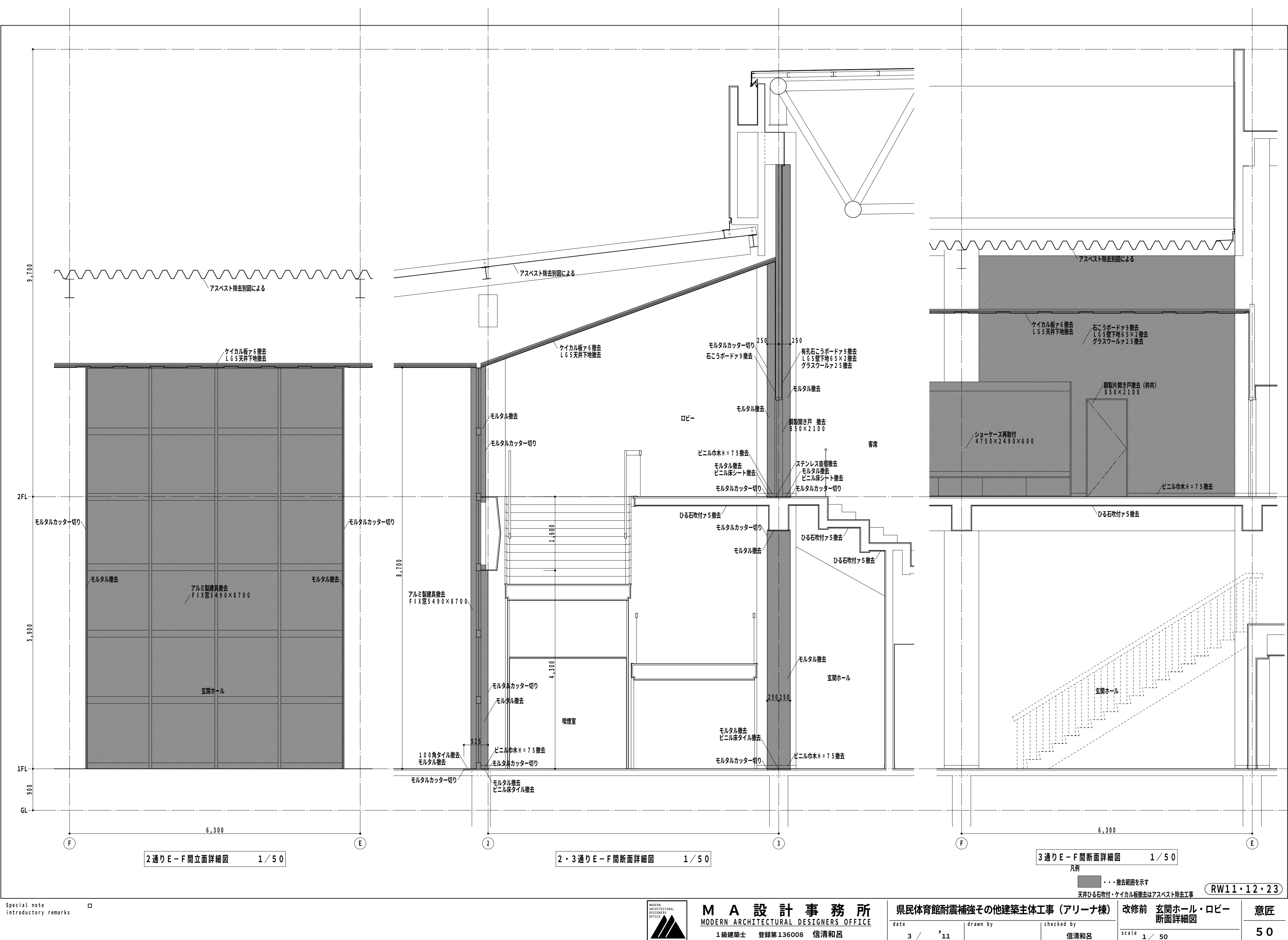
凡例
...改修範囲を示す (RW11・12・13・14)

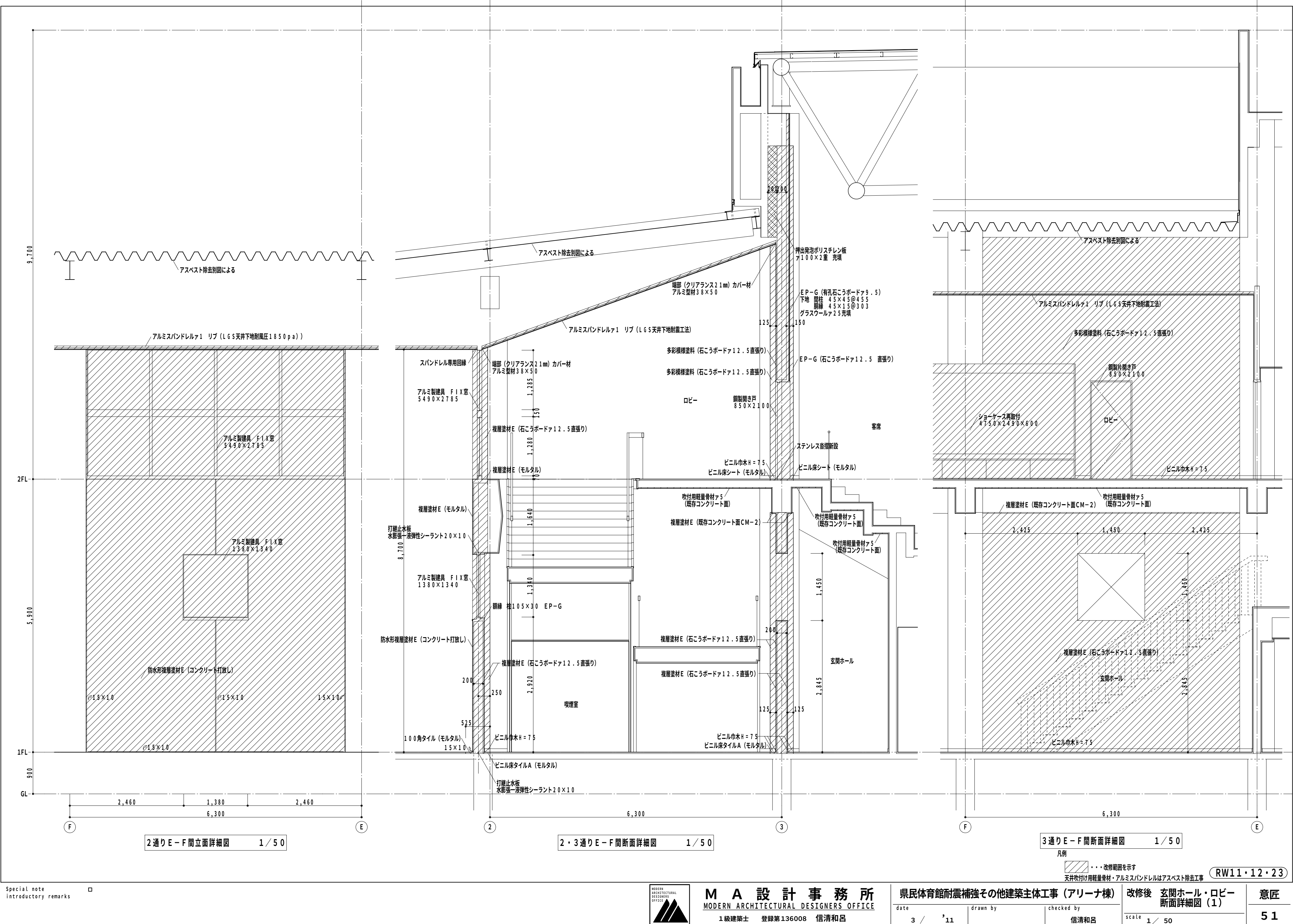


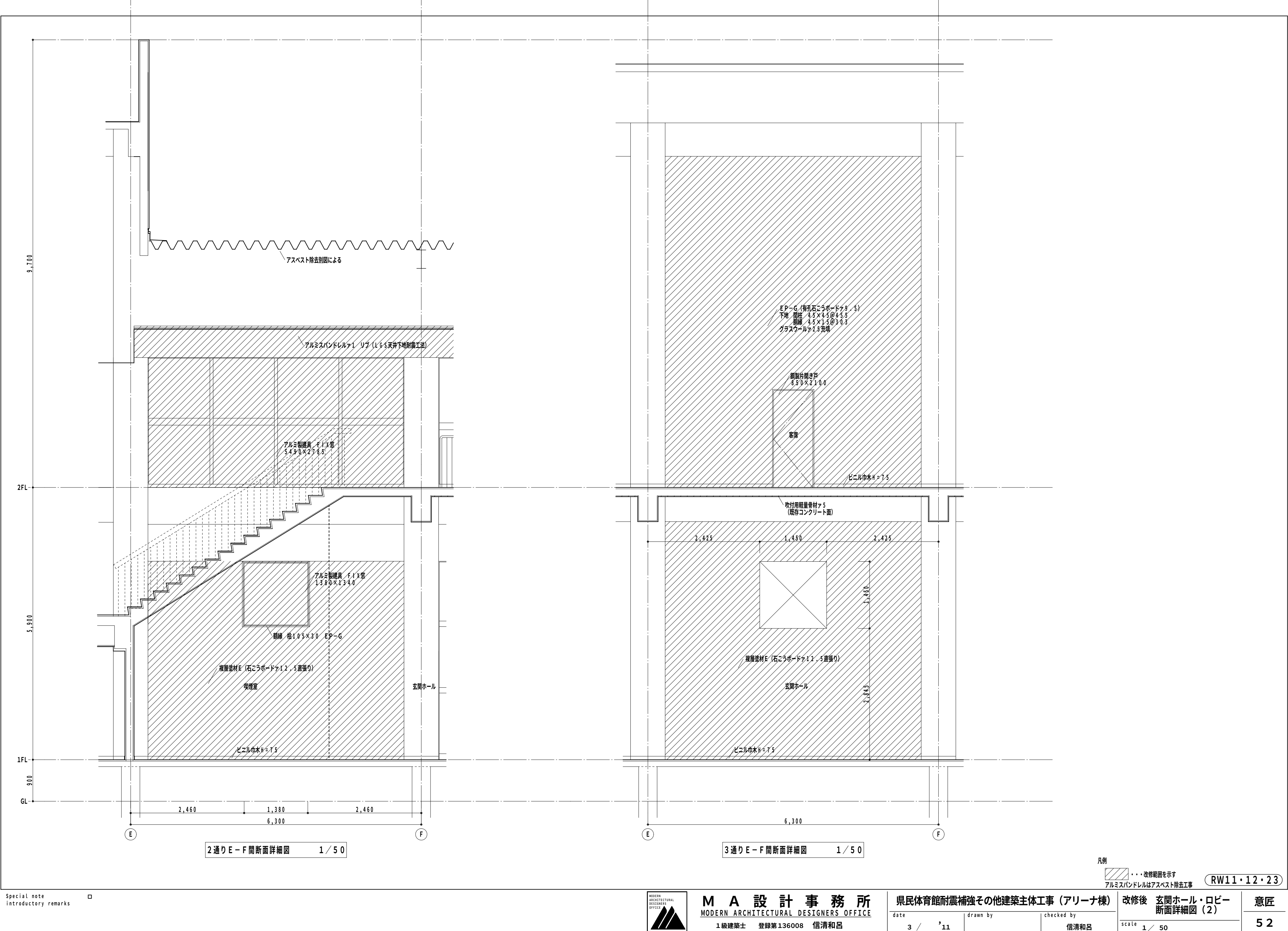


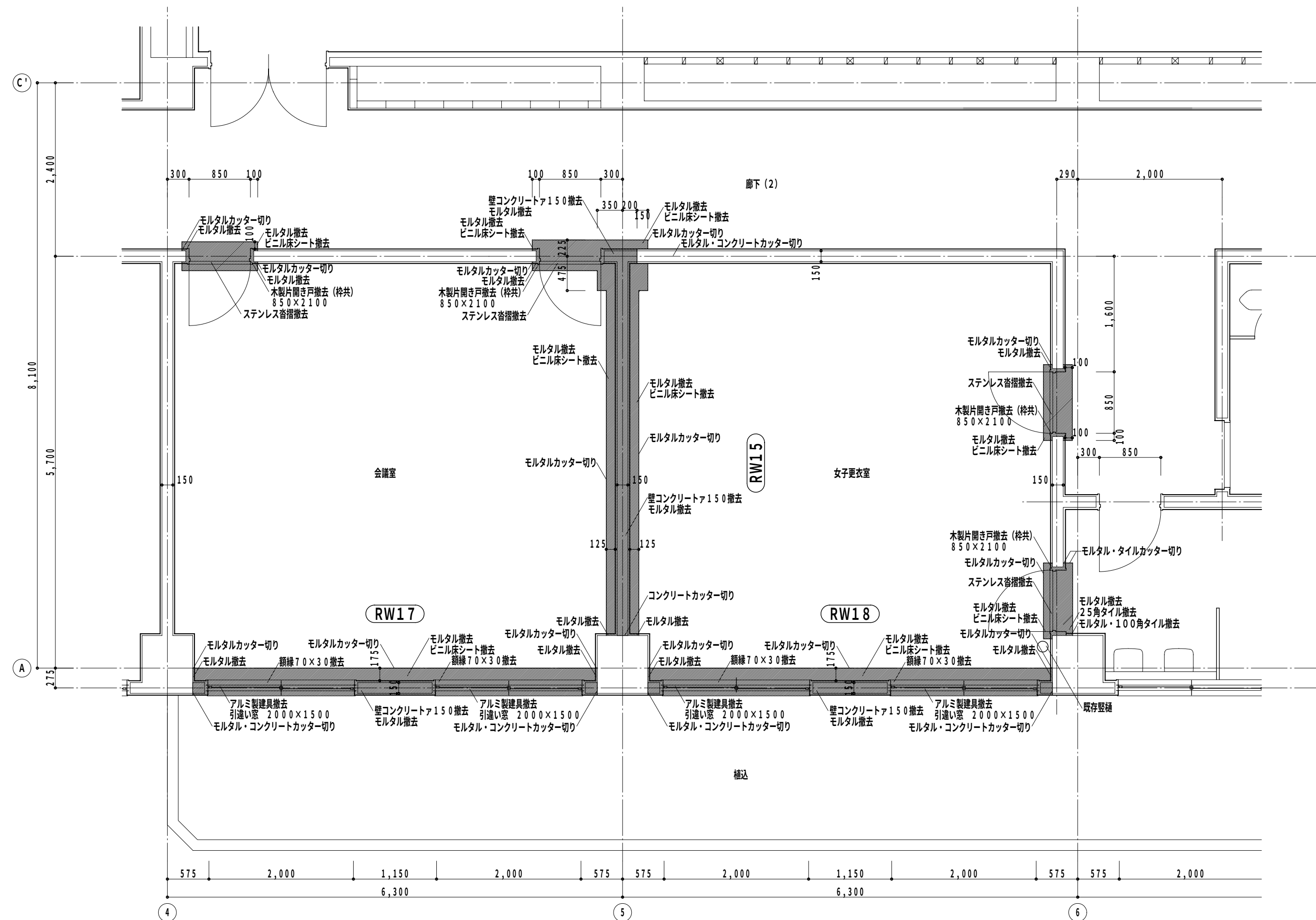




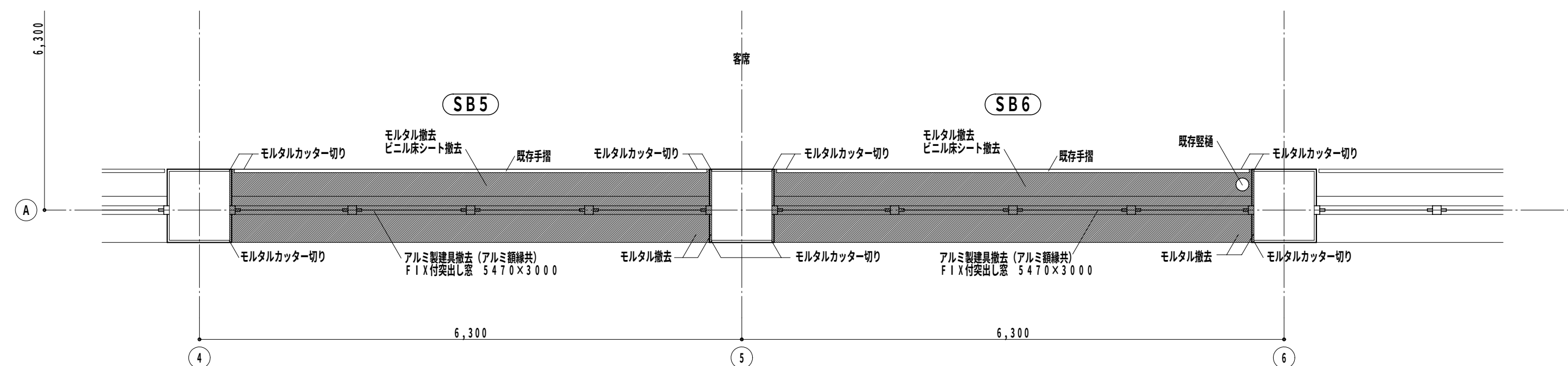








会議室・女子更衣室平面詳細図 1/50



客席平面詳細図 1/50

凡例

...撤去範囲を示す

RW15・17・18 SB5・6

Special note
introductory remarks

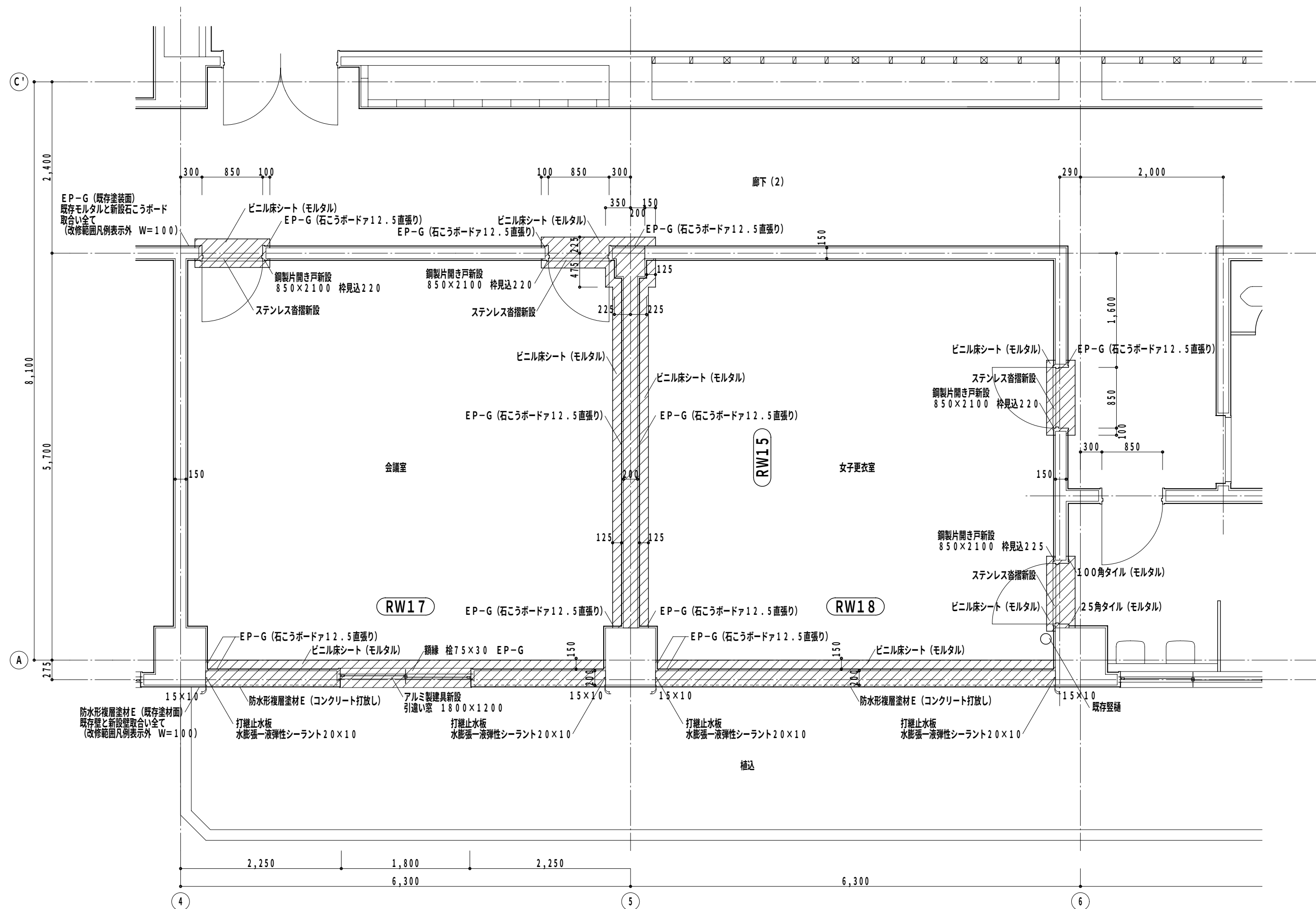


M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

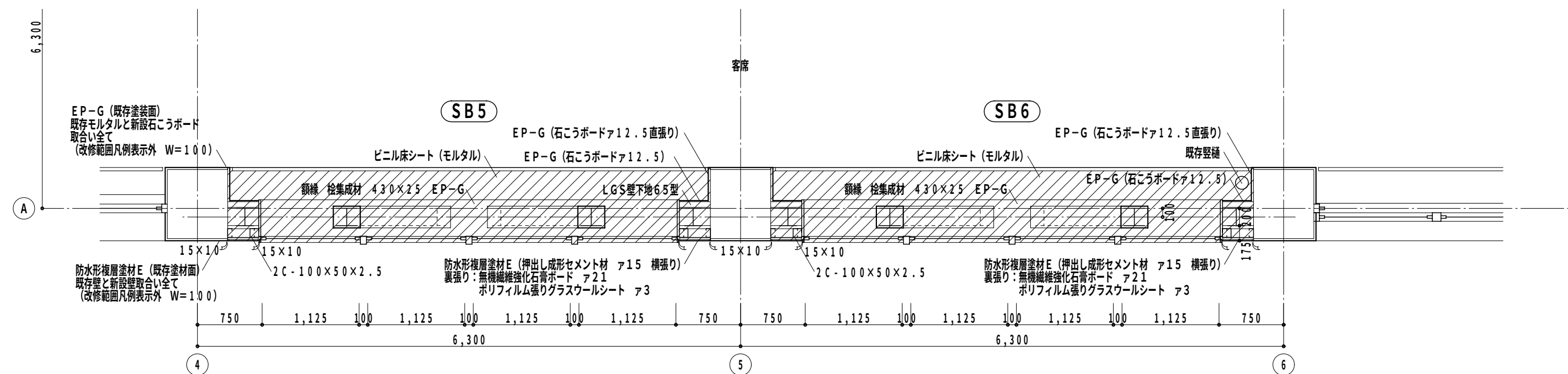
県民体育館耐震補強その他建築主体工事（アリーナ棟）
date 3 / '11 drawn by checked by 信清和呂

改修前 会議室・女子更衣室・
客席平面詳細図
scale 1/50

意匠
53



会議室・女子更衣室平面詳細図 1/50



客席平面詳細図 1/50

凡例

.....改修範囲を示す

RW15・17・18 SB5・6

Special note
introductory remarks

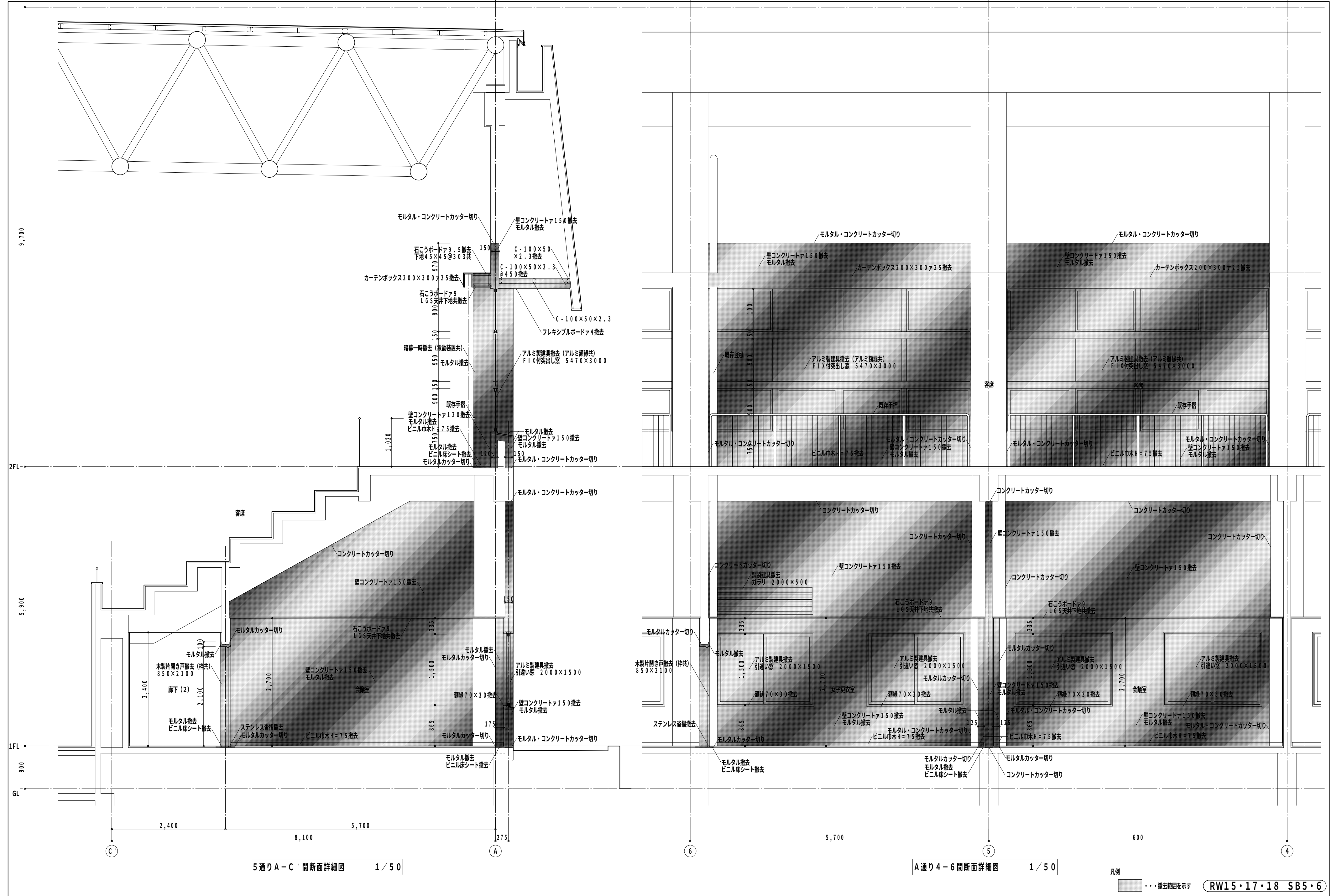


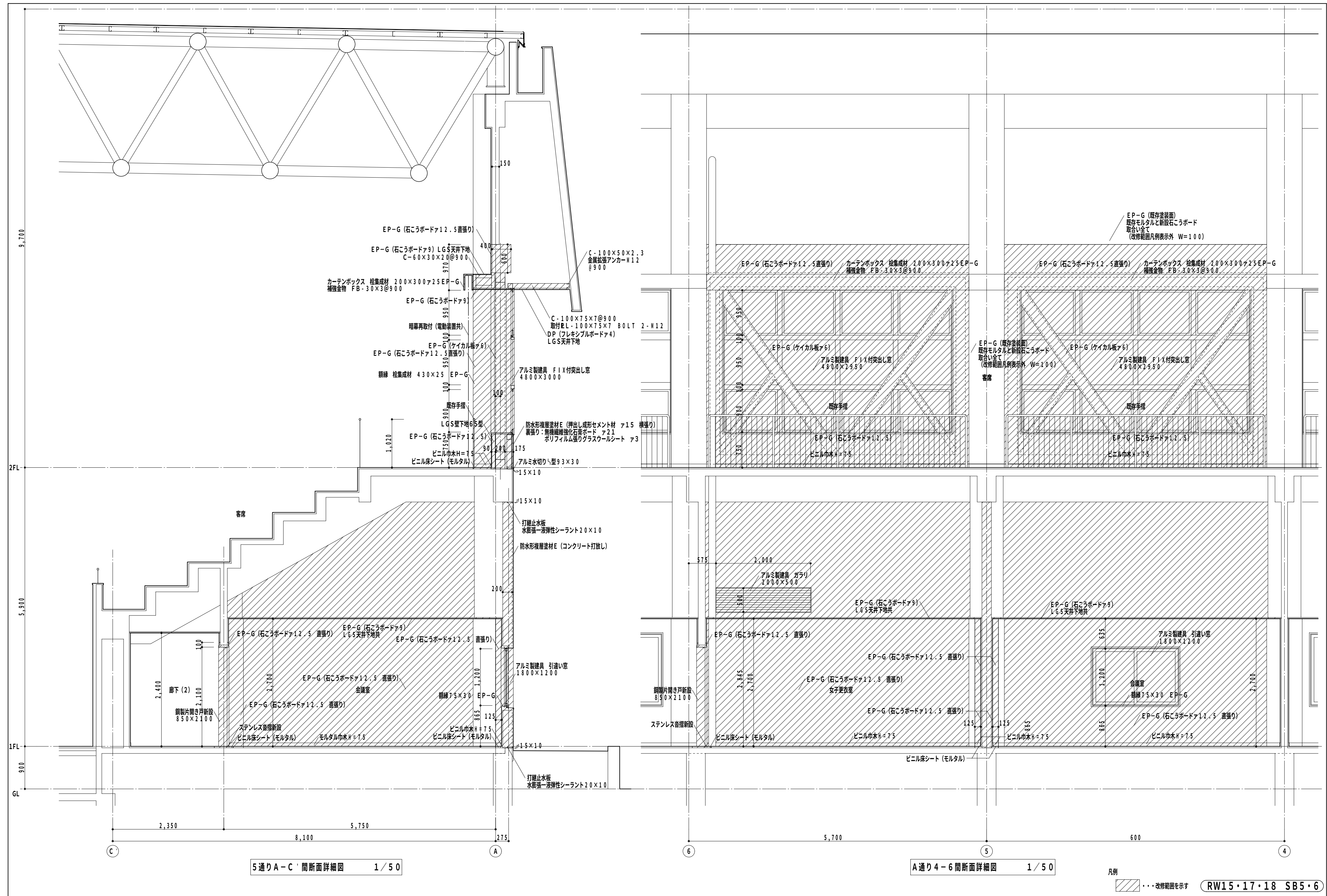
M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

県民体育館耐震補強その他建築主体工事（アリーナ棟）
date 3 / '11 drawn by checked by 信清和呂

改修後 会議室・女子更衣室・
客席平面詳細図
scale 1/50

意匠
54





5通りA-C 間断面詳細図 1/50

A通り4-6 間断面詳細図 1/50

凡例
..... 改修範囲を示す

RW15・17・18 SB5・6

Special note
introductory remarks

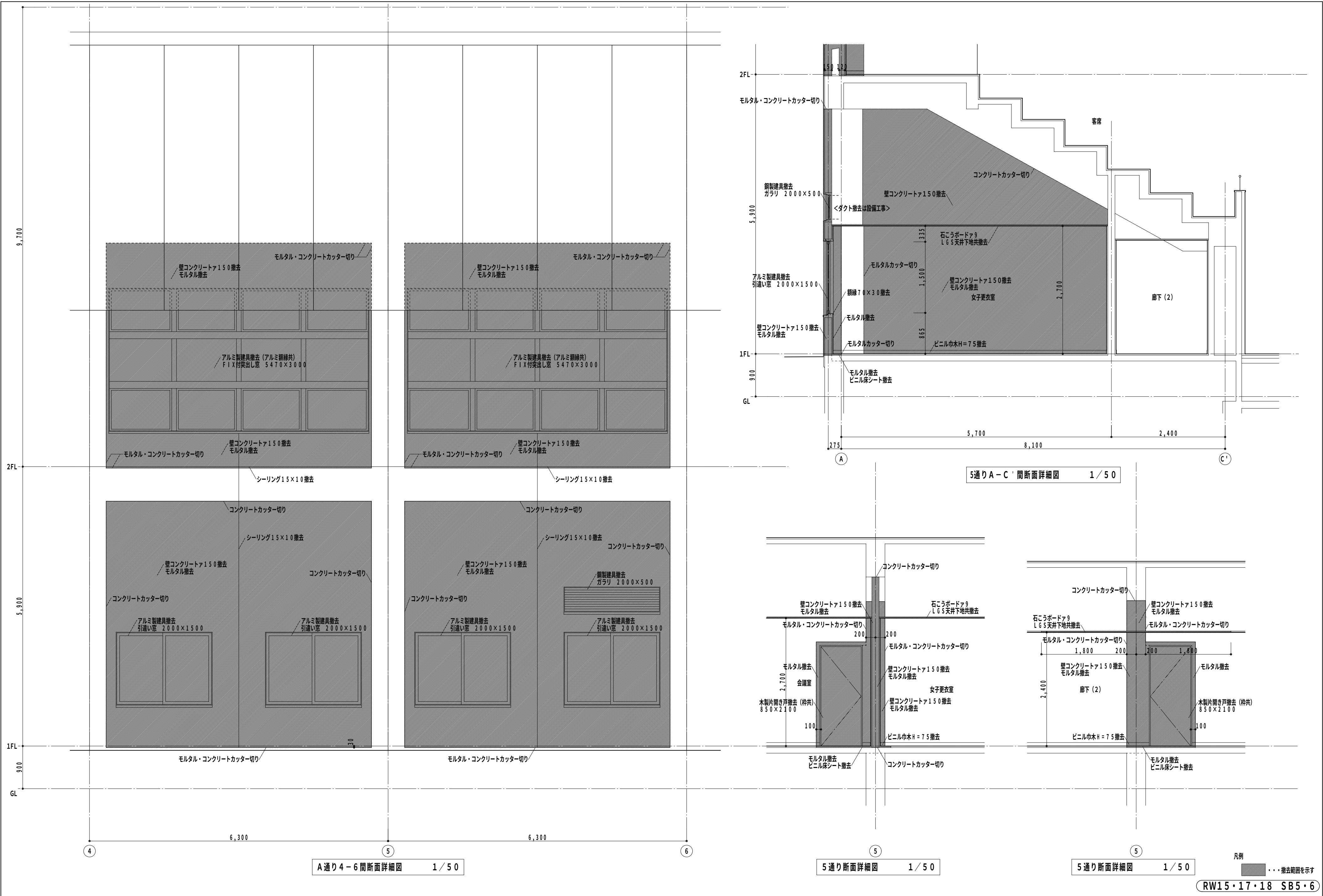


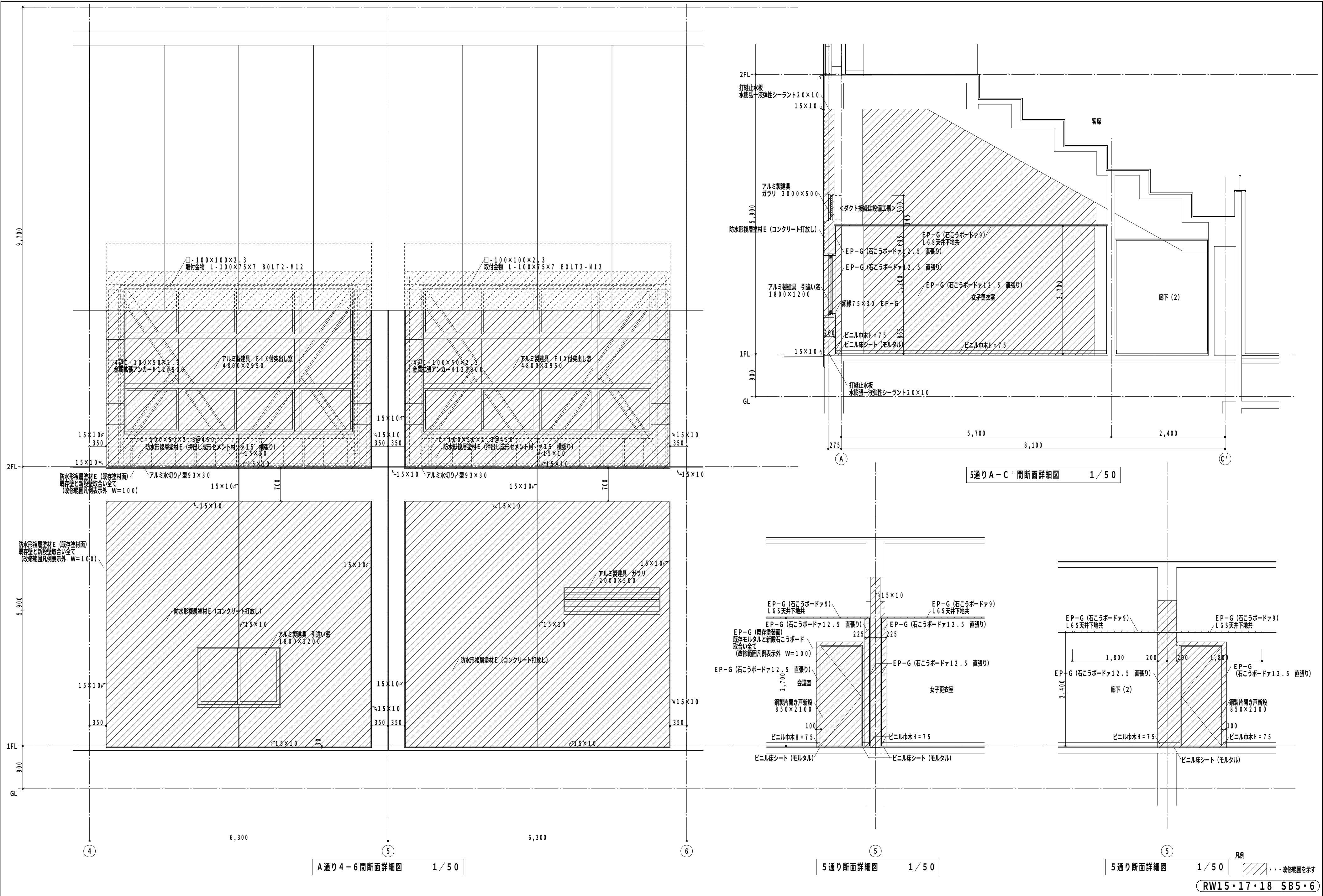
M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

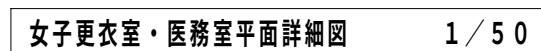
県民体育館耐震補強その他建築主体工事（アリーナ棟）
date 3 / '11 drawn by 信清和呂 checked by 信清和呂

改修後 会議室・女子更衣室・
客席断面詳細図（1）
scale 1/50

意匠
56

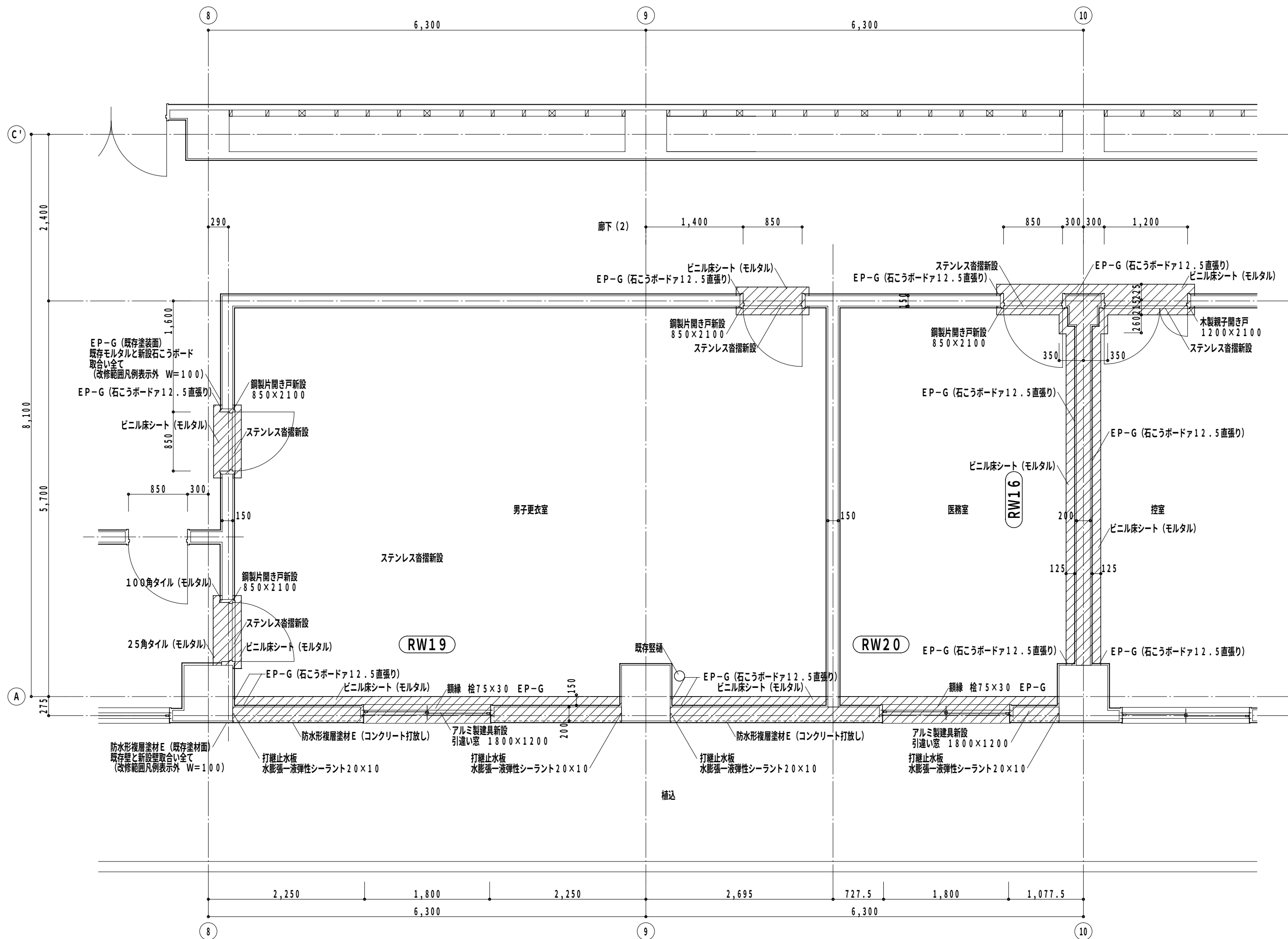




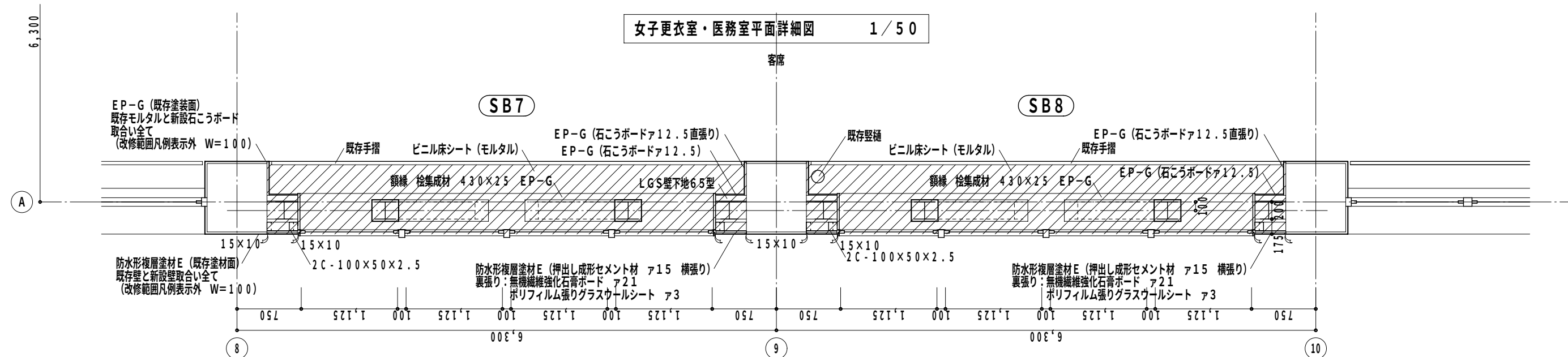


RW16 • 19 • 20 SB7 • 8





女子更衣室・医務室平面詳細図 1/50



客席平面詳細図 1/50

凡例
.....改修範囲を示す

RW16・19・20 SB7・8

Special note
introductory remarks

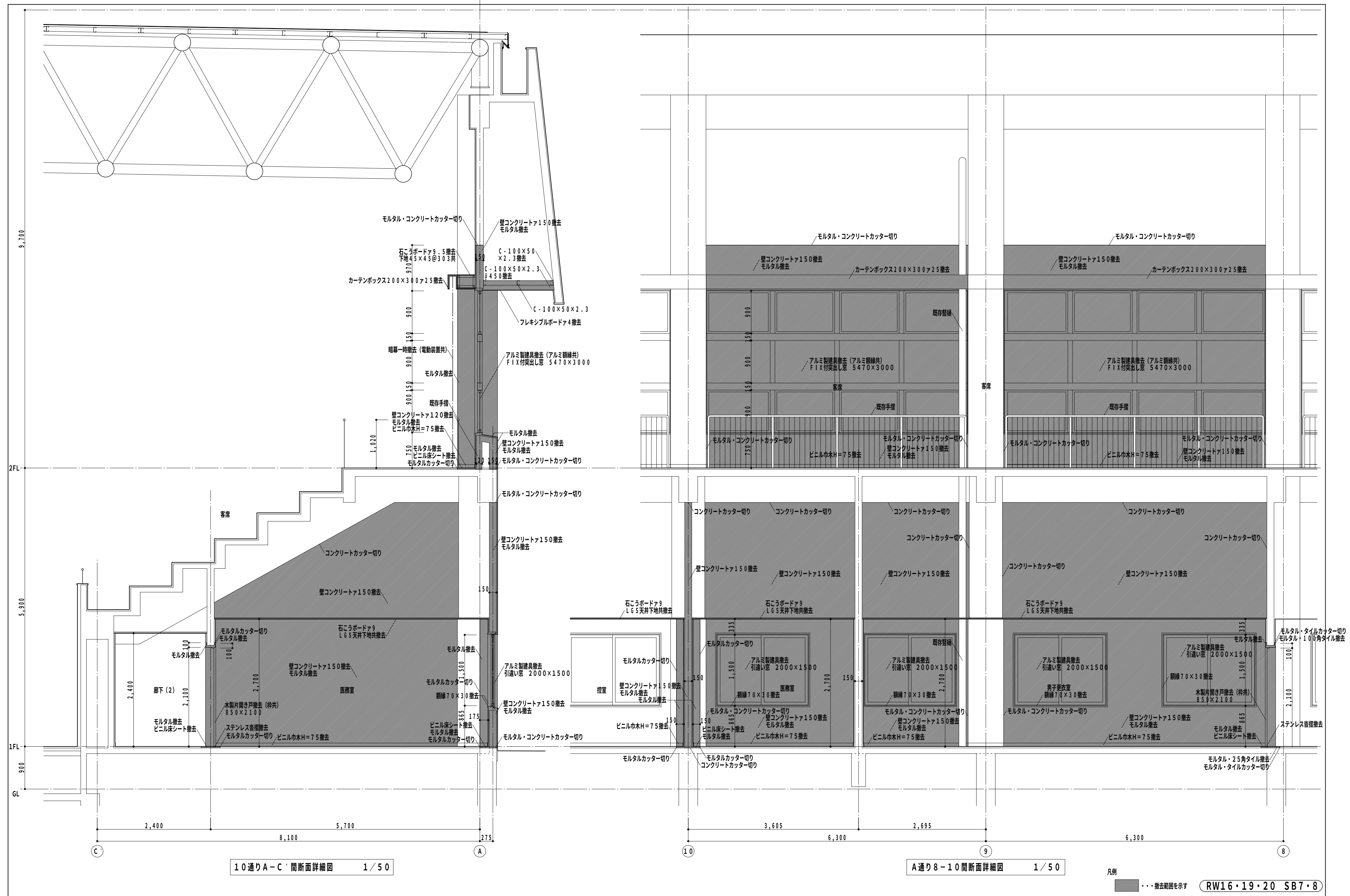


M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

県民体育館耐震補強その他建築主体工事(アリーナ棟)
date 3 / '11 drawn by checked by 信清和呂

改修後 男子更衣室・医務室・
客席平面詳細図
scale 1 / 50

意匠
60



Special note
introductory remarks



M A 設 計 事 務 所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

県民体育館耐震補強その他建築主体工事（アリーナ棟）

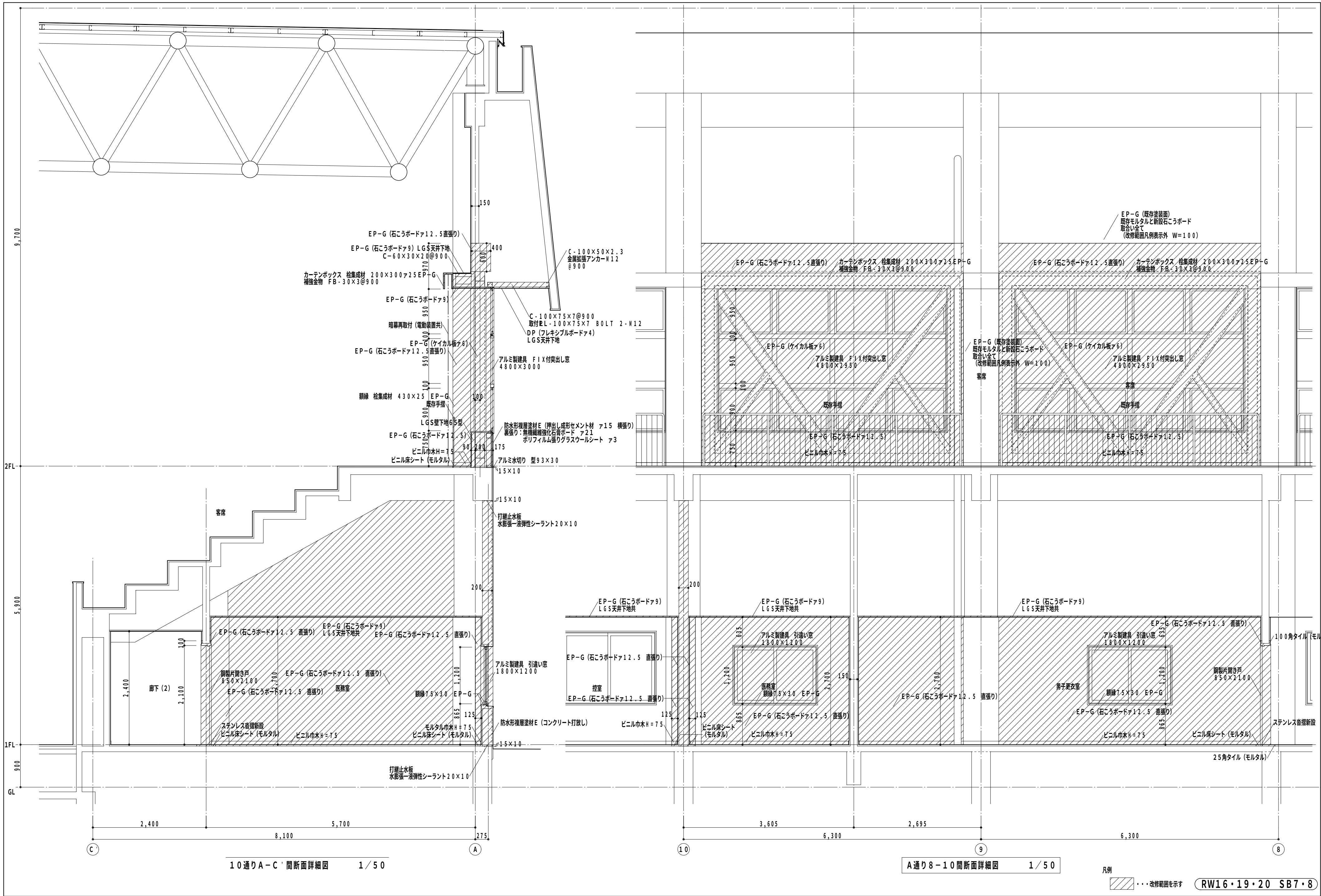
date	drawn by	checked by
3 / '11		信清和呂

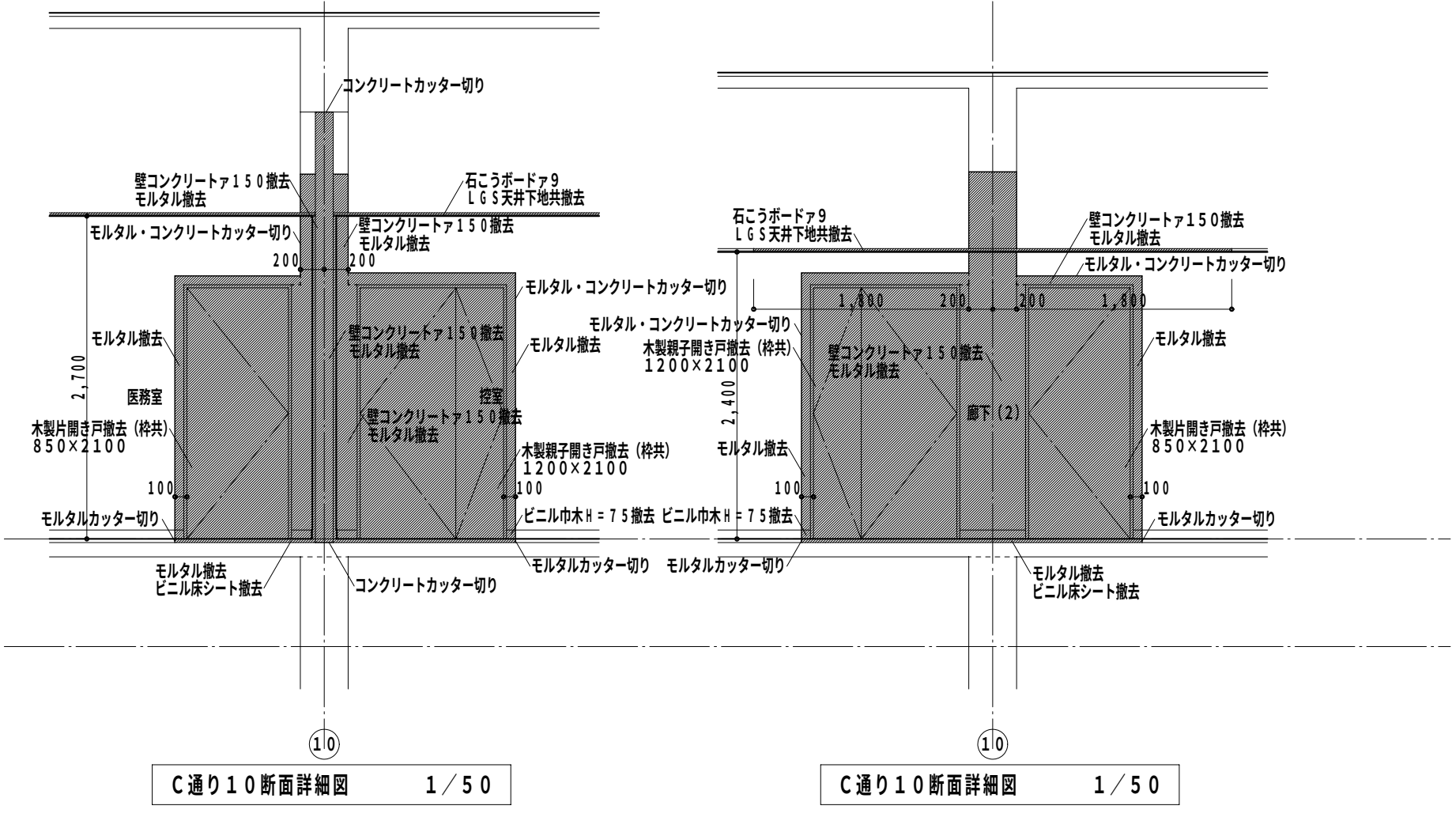
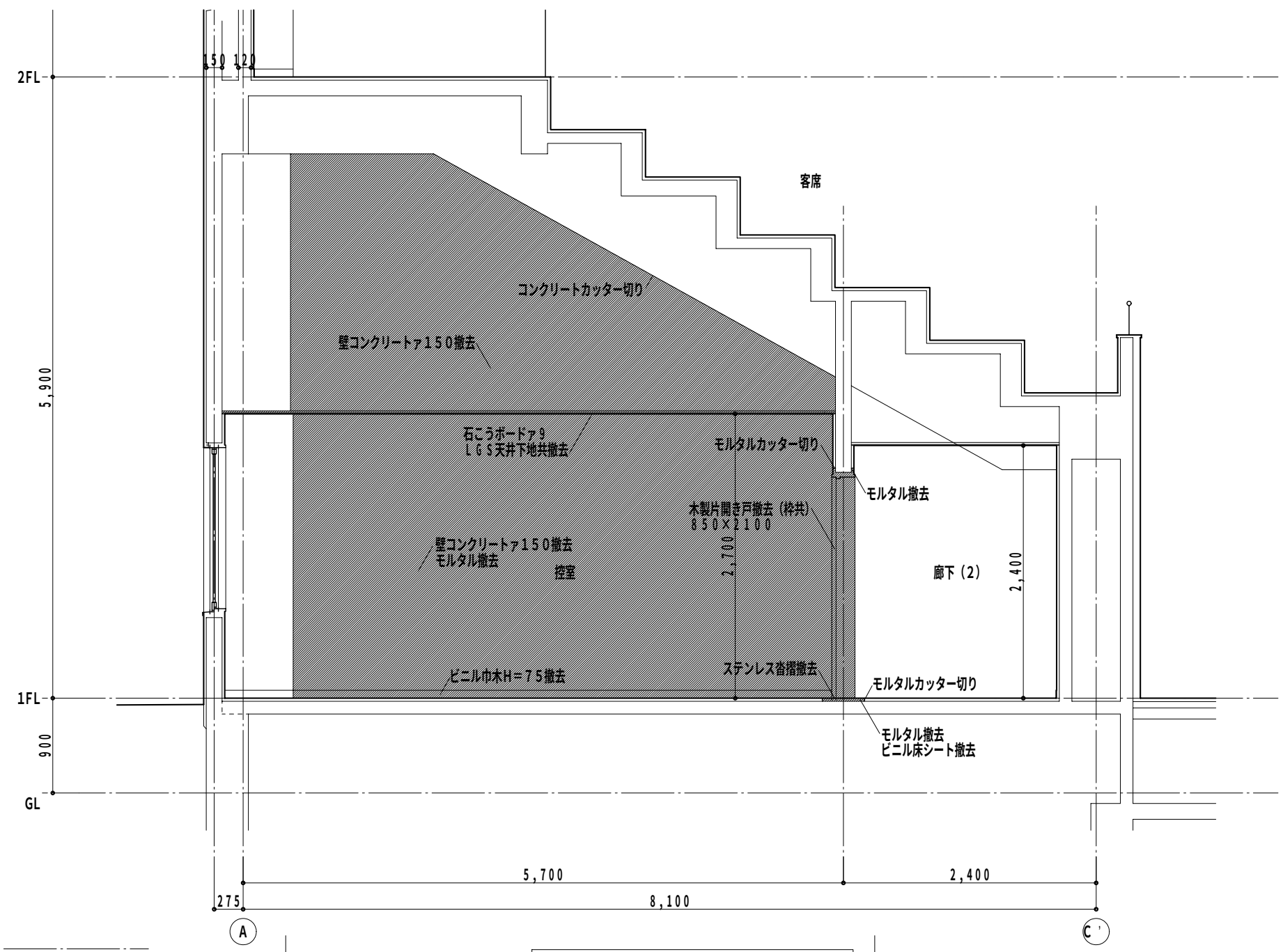
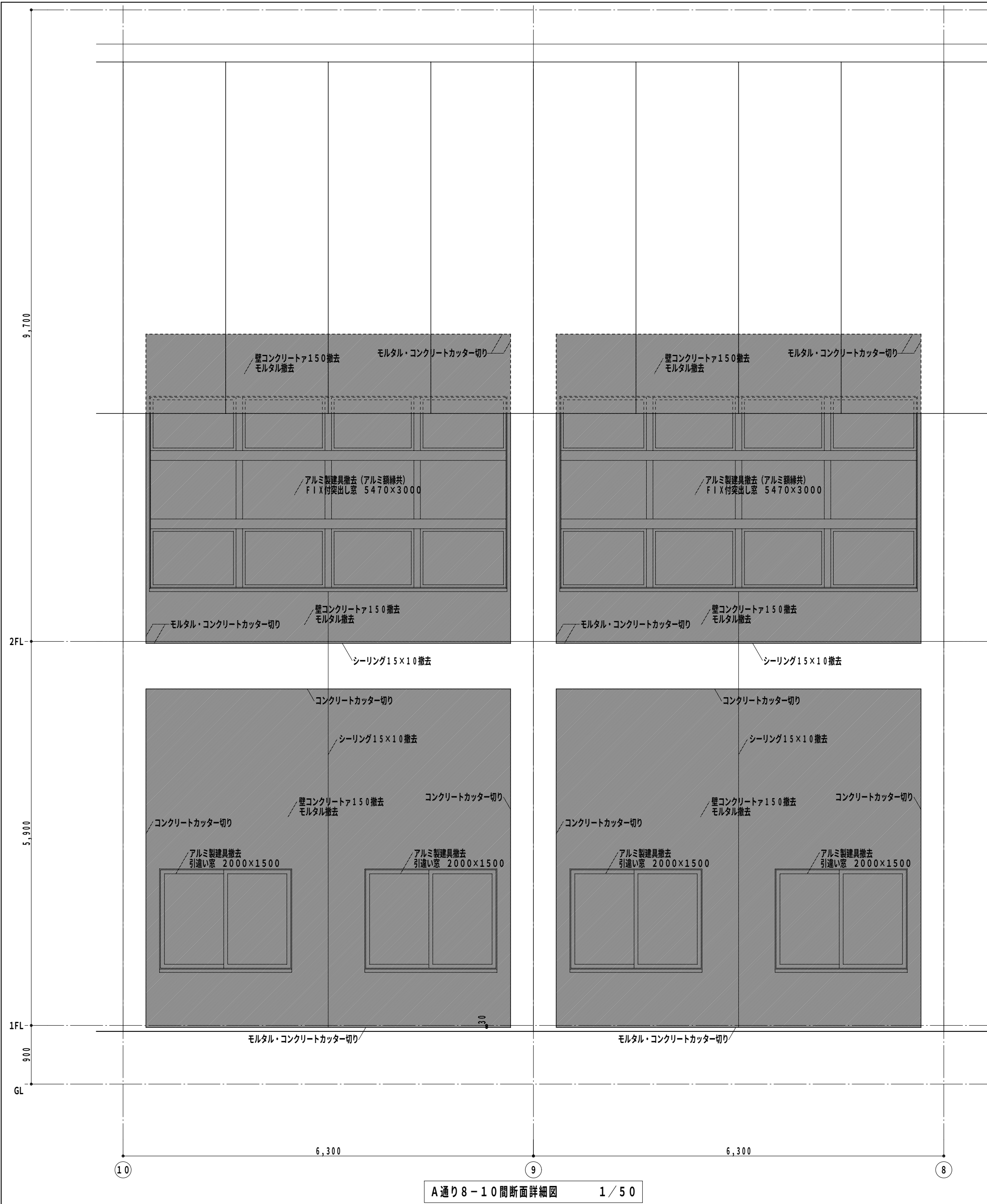
改修前 男子更衣室・医務室・
客席断面詳細図 (1)

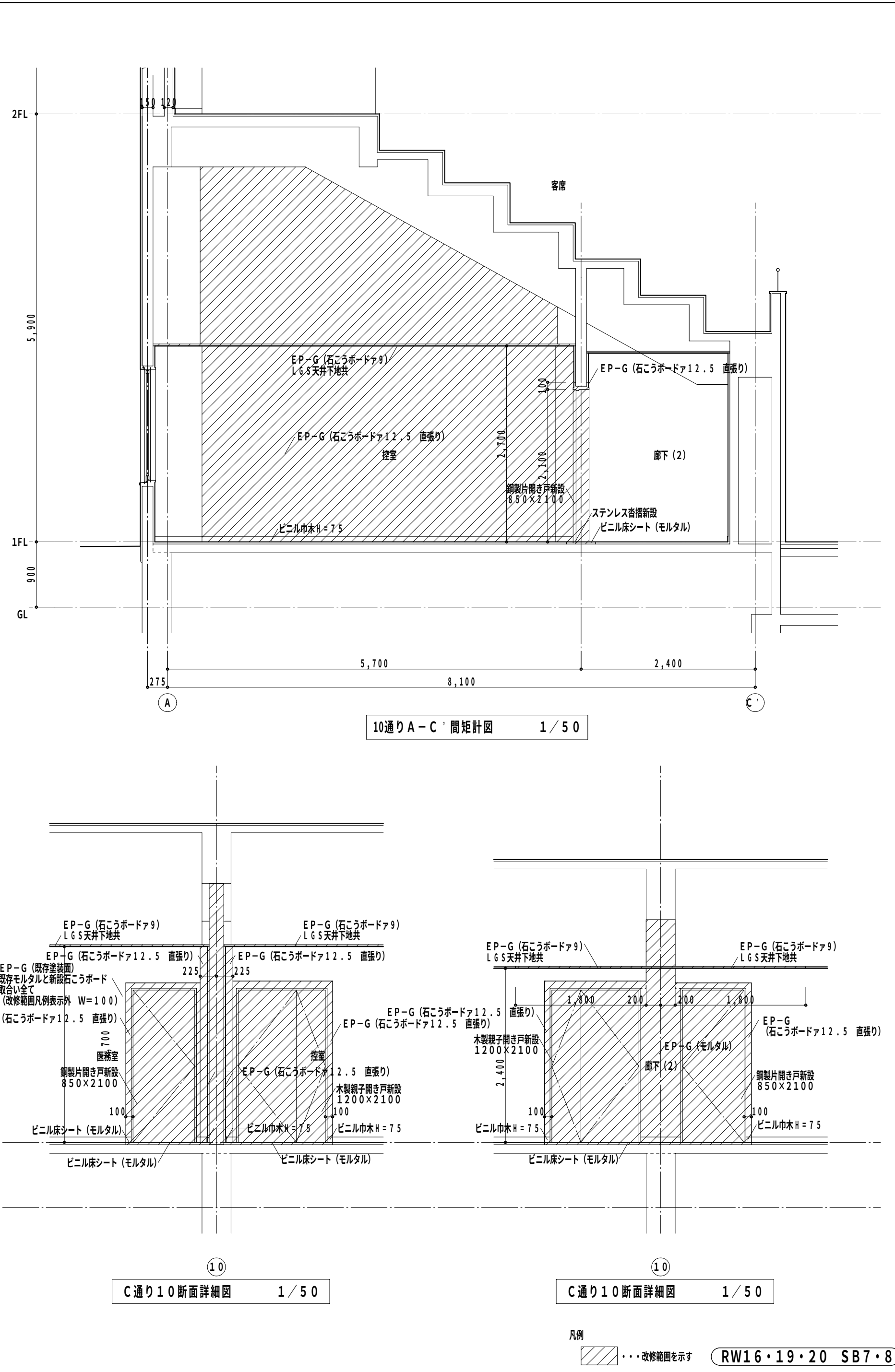
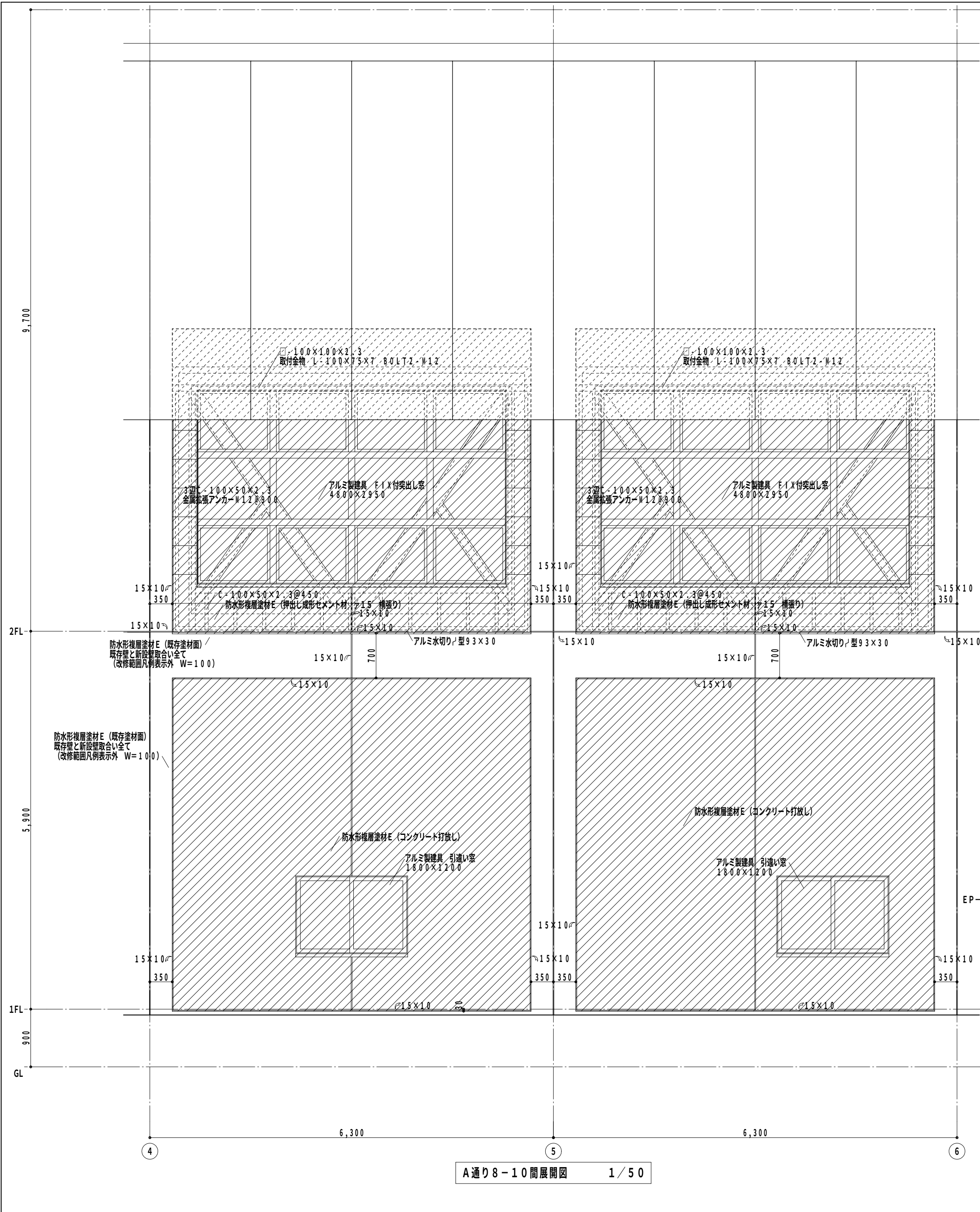
scale 1 / 50

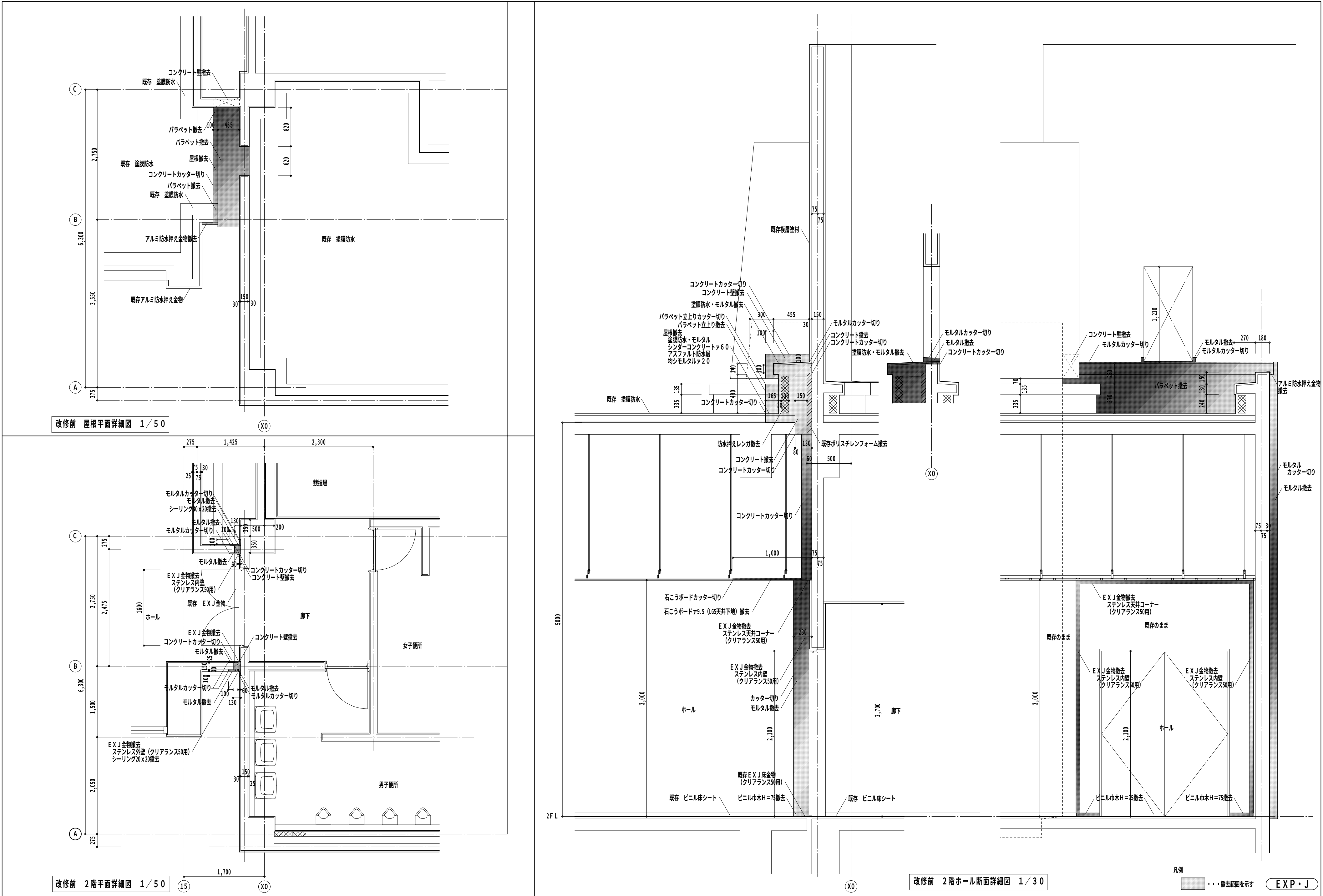
意匠

61









Special note
introductory remarks

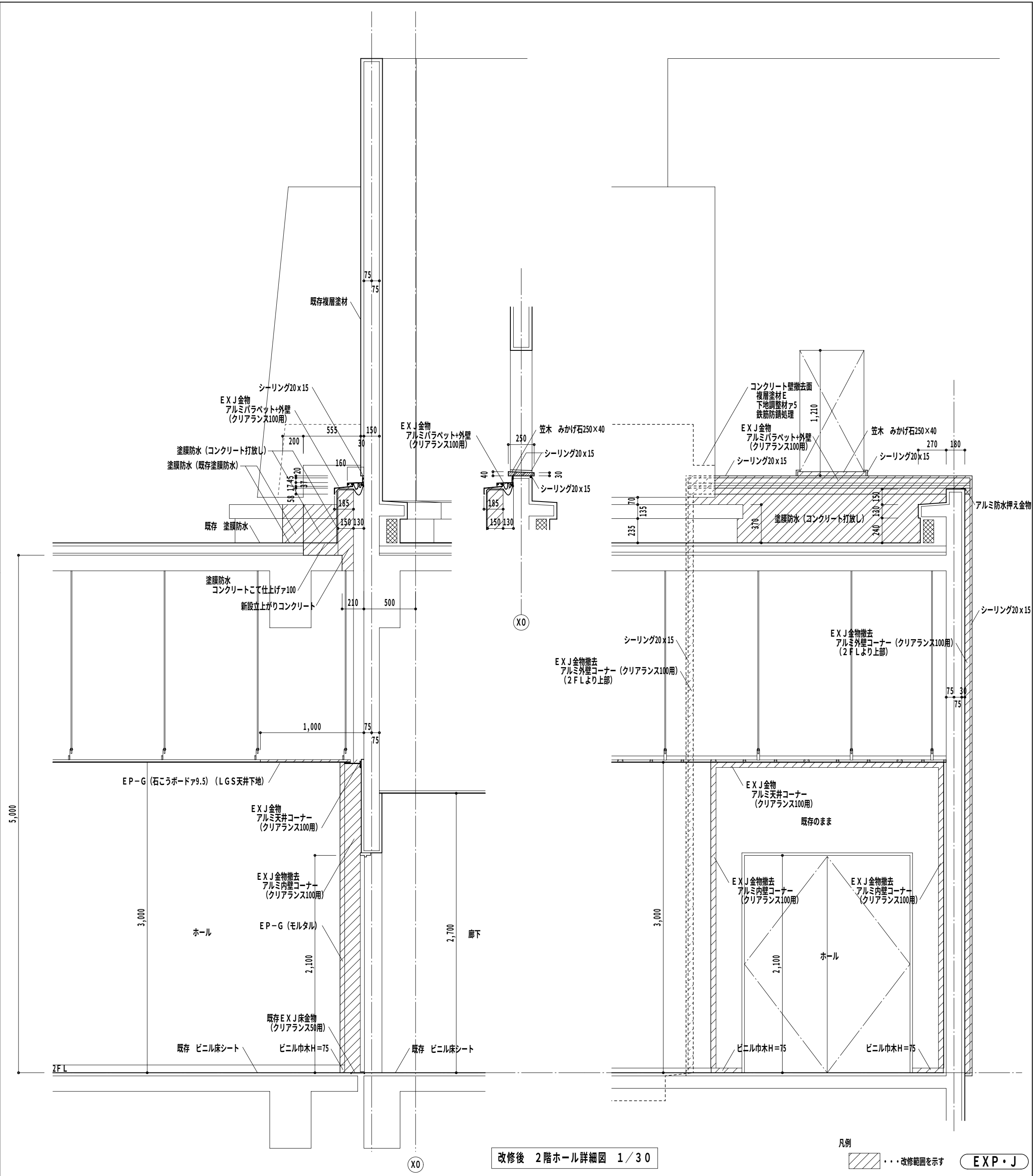
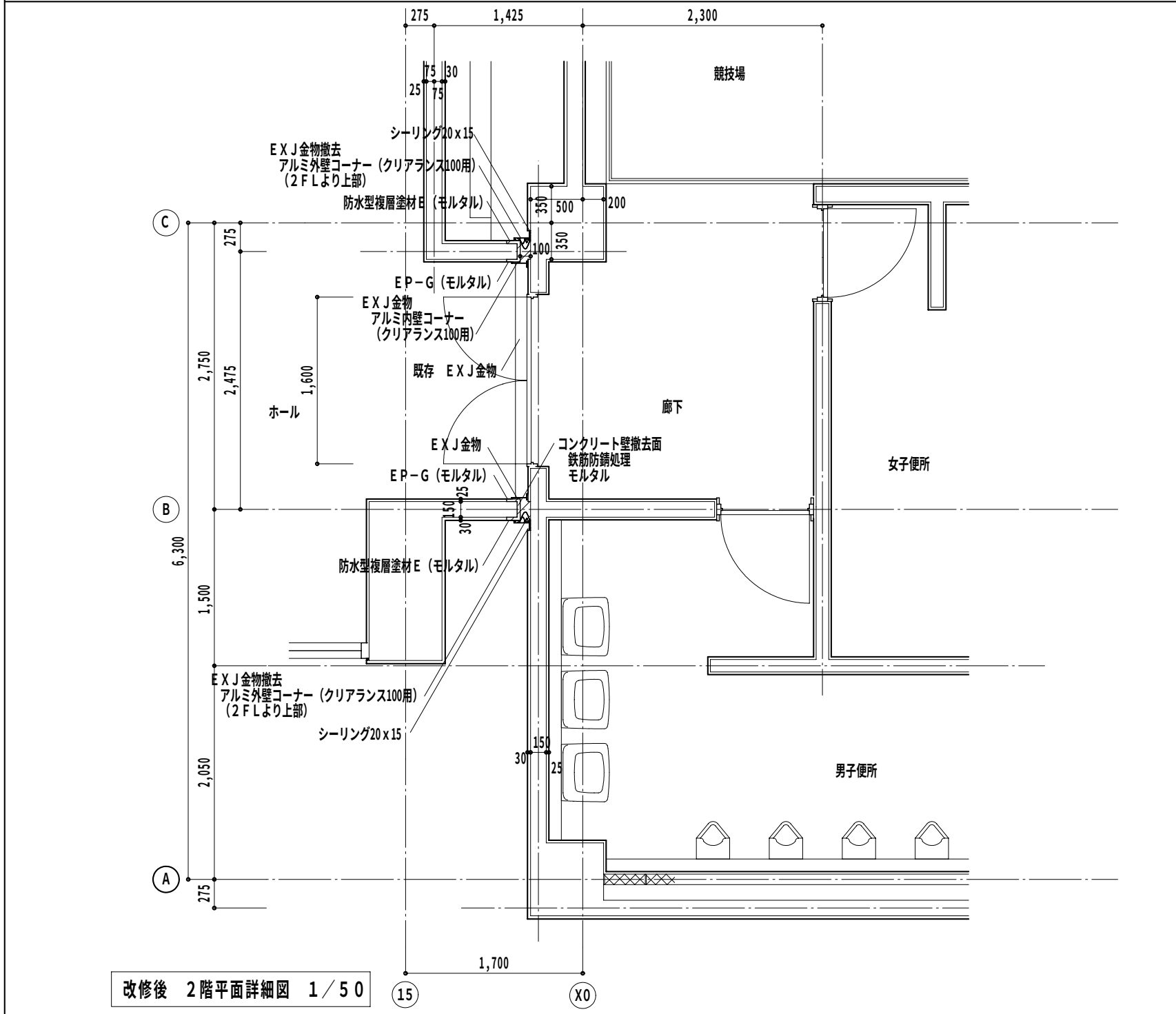
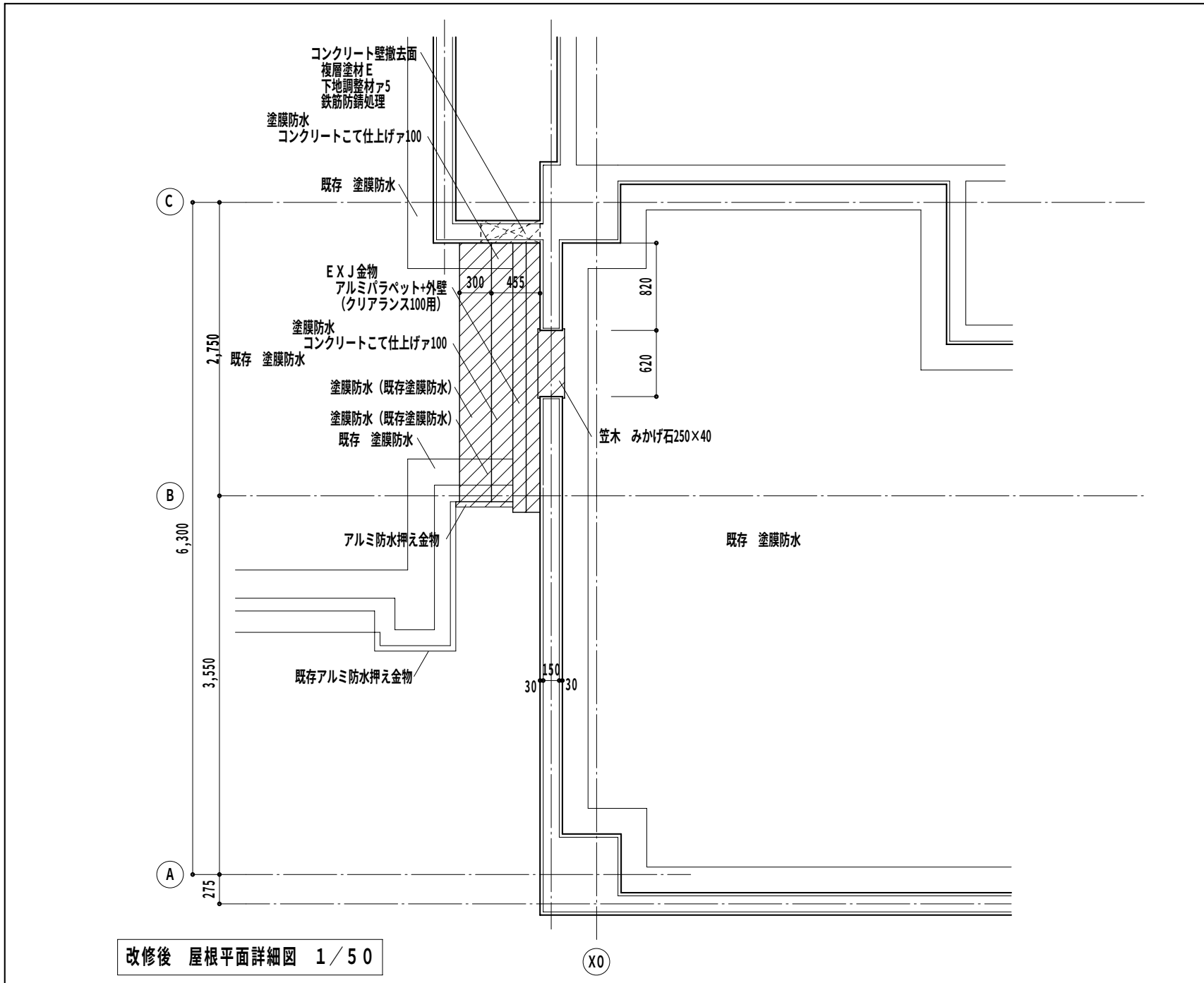


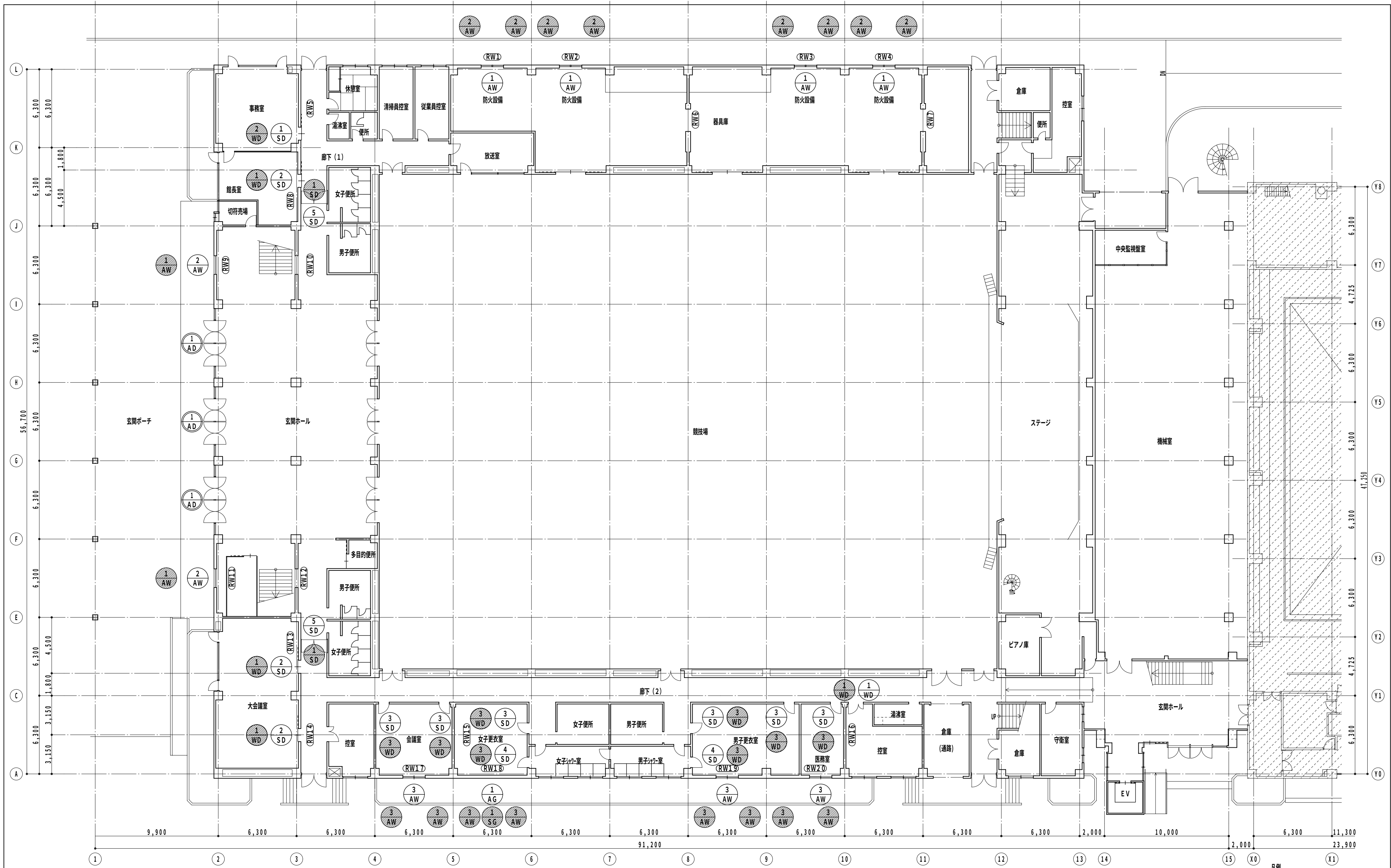
M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

県民体育館耐震補強その他建築主体工事（アリーナ棟）
date 3 / '11 drawn by checked by 信清和呂

改修前 2階ホール詳細図
scale 1/ 50・30

意匠
65





改修後 1階平面図 1/200

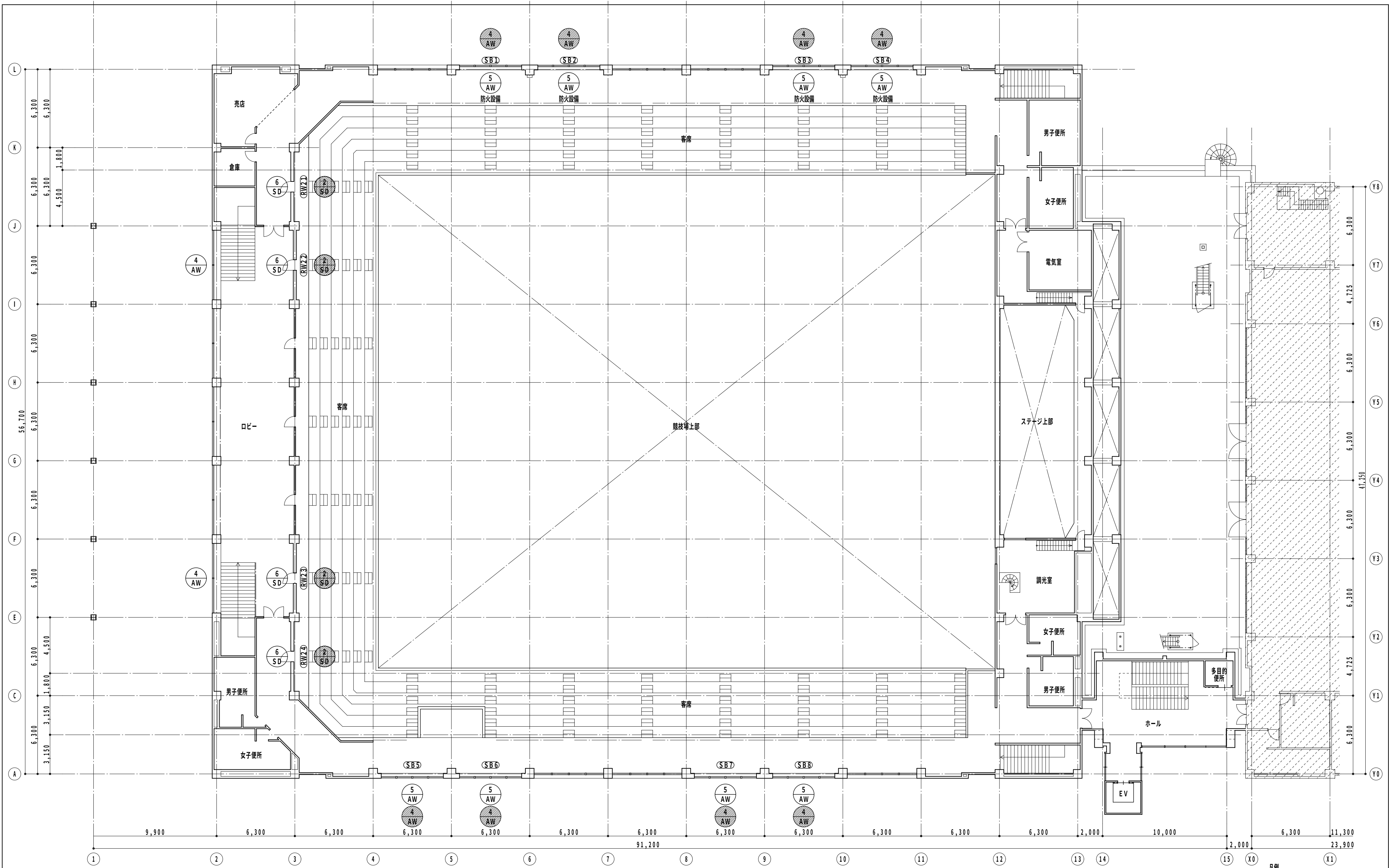
Special note
introductory remarks



M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

県民体育館耐震補強その他建築主体工事（アリーナ棟）
date 5 / '11 drawn by checked by 信清和呂

1階建具記号表
scale 1 / 200
意匠 67



改修後 2階平面図 1/200

Special note
introductory remarks

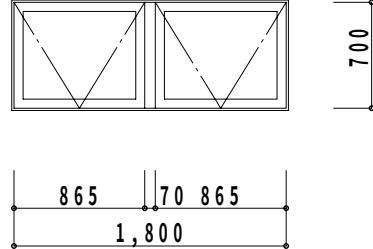
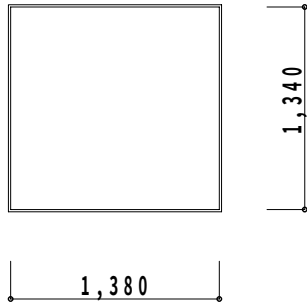
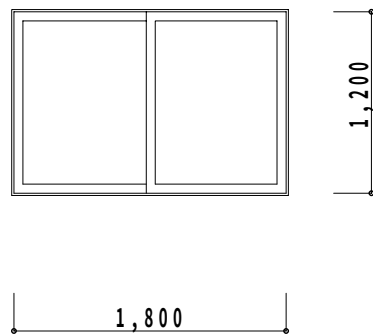
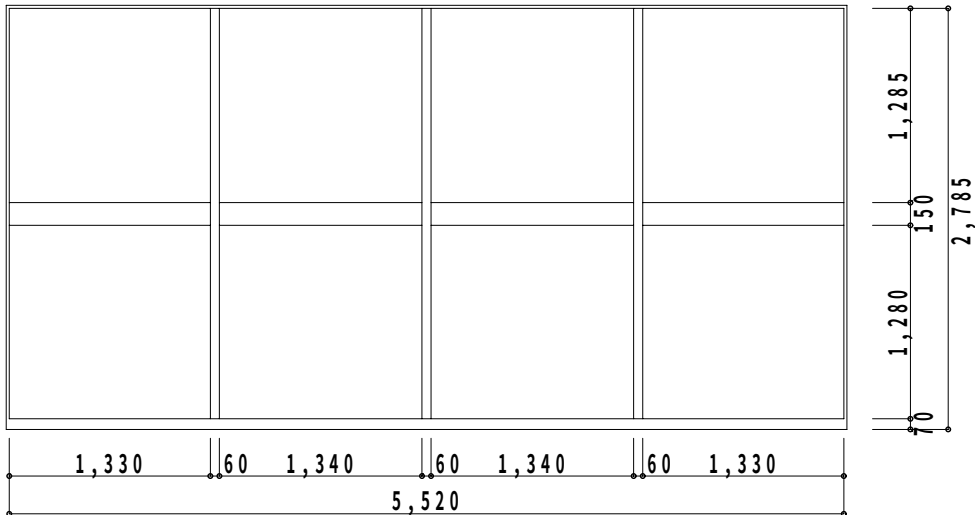
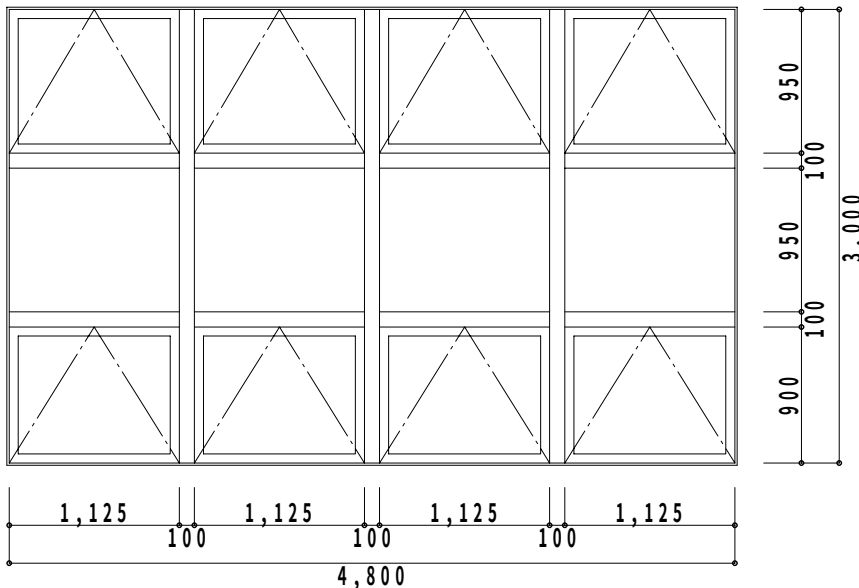
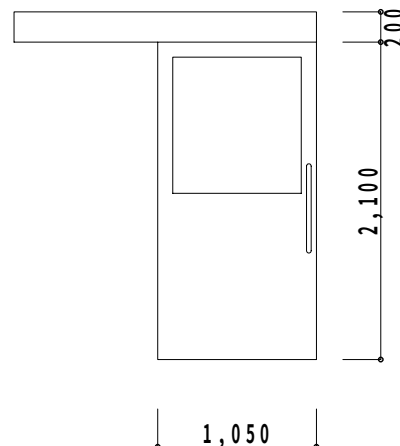
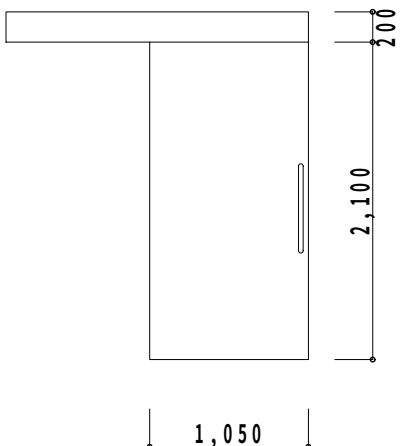
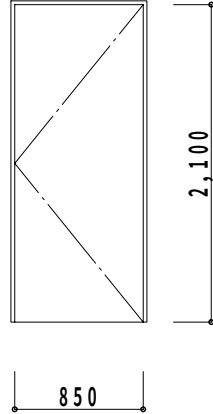
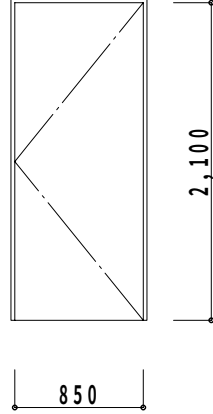
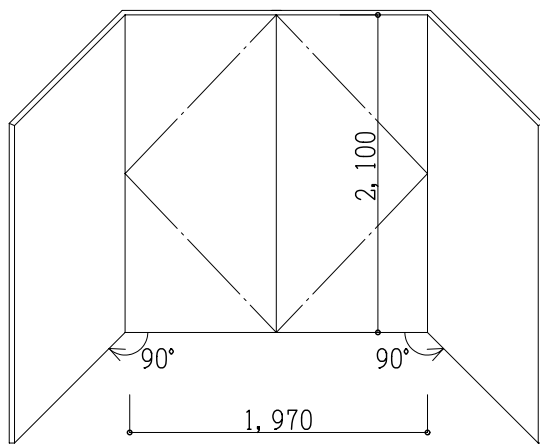
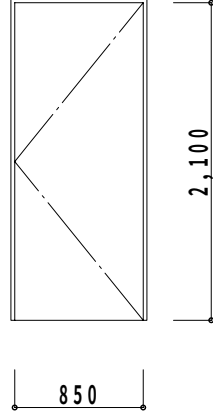


M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

県民体育館耐震補強その他建築主体工事（アリーナ棟）
date 5 / '11 drawn by checked by 信清和呂

2階建具記号表
scale 1 / 200

意匠
68

番号 記号		名称		1 AW		2連外倒し窓（RC枠）（防火設備）		2 AW		FIX窓（RC枠）		3 AW		引違い窓（RC枠）		4 AW		FIX窓（RC枠）	
材種 仕上 金物	見込 硝子	姿図 寸法																	
備考																			
数量	場所	4	1階 器具庫	2	1階 ロビー	3	1階 会議室 女子更衣室 男子更衣室 医務室	2	2階 ロビー										
番号 記号		名称		5 AW		FIX付突出し窓（鉄骨 半外枠）（防火設備）		1 SD		片引込み戸（面付）		2 SD		片引込み戸（面付）		3 SD		片開き戸	
材種 仕上 金物	見込 硝子	姿図 寸法																	
備考																			
数量	場所	1	1階 事務室	3	1階 館長室 大会議室	6	1階 会議室 男子更衣室 女子更衣室 医務室												
番号 記号		名称		4 SD		片開き戸		5 SD		防火戸		6 SD		片開き戸					
材種 仕上 金物	見込 硝子	姿図 寸法																	
備考																			
数量	場所	8	2階 客席	2	1階 男子更衣室 女子更衣室	2	1階 通路	4	2階 ロビー 通路										
材種		見込		アルミ		70		スチール		扉 40 枠225		スチール		枠80 扉40		スチール		扉 40 枠315	
仕上		硝子		B-1種		強化5（4箇所）網入りみがき6.8（4箇所）		DP		DP塗り		スチール		扉 40 枠315		DP		扉 40 枠315	
金物				オペレーター 4辺アングル 他付属金物1式				ドアチェック（常閉）レバーハンドル錠 ステンレス資摺W=40 付属金物1式		フロアヒンジ 煙感知器連動装置 ステンレス資摺W=40 他付属金物1式		ドアチェック（常閉）レバーハンドル錠 ステンレス資摺W=40 他付属金物1式				ドアチェック（常閉）レバーハンドル錠 ステンレス資摺W=40 付属金物1式			
備考																			
数量	場所	8	2階 客席	2	1階 男子更衣室 女子更衣室	2	1階 通路	4	2階 ロビー 通路										

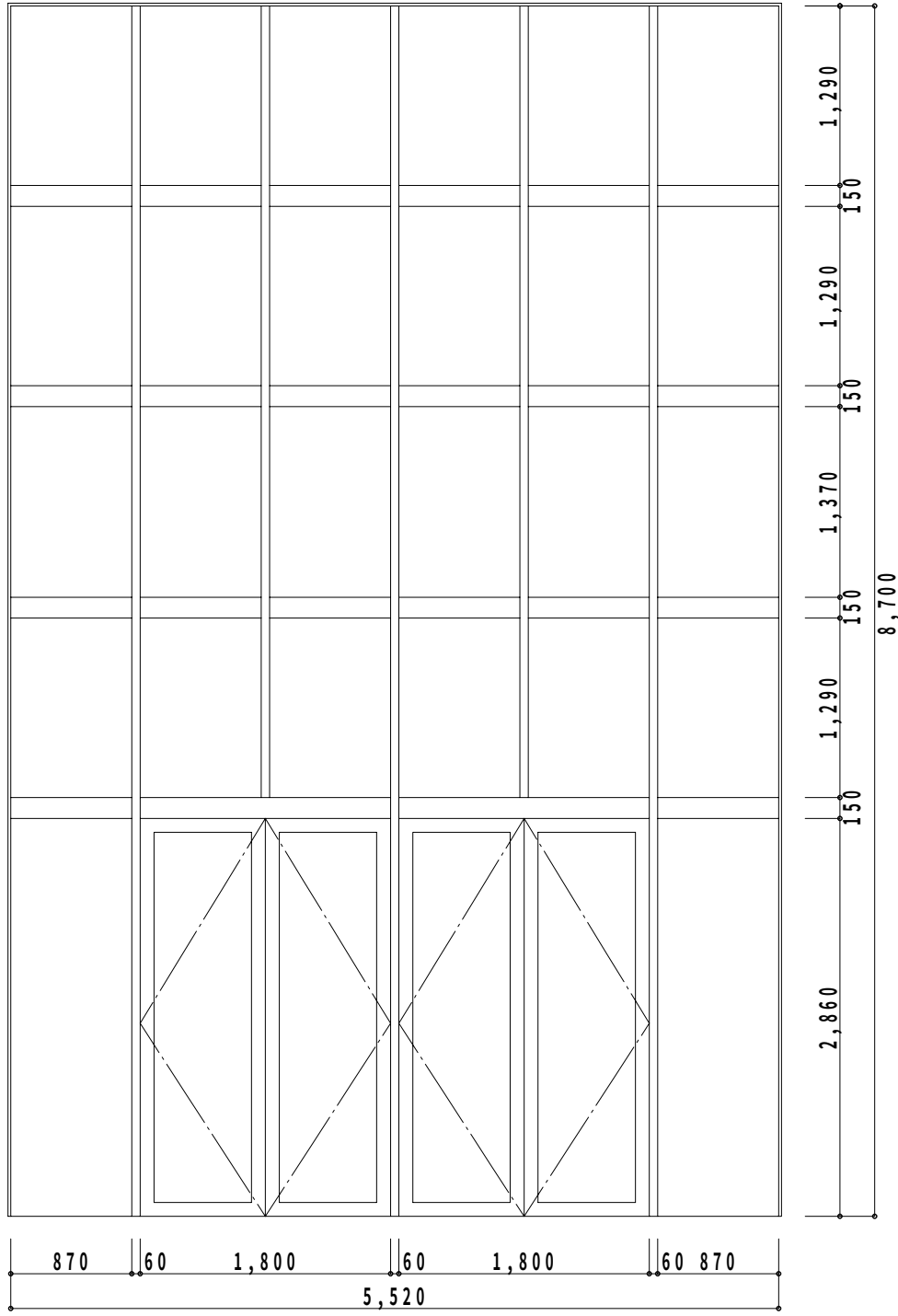
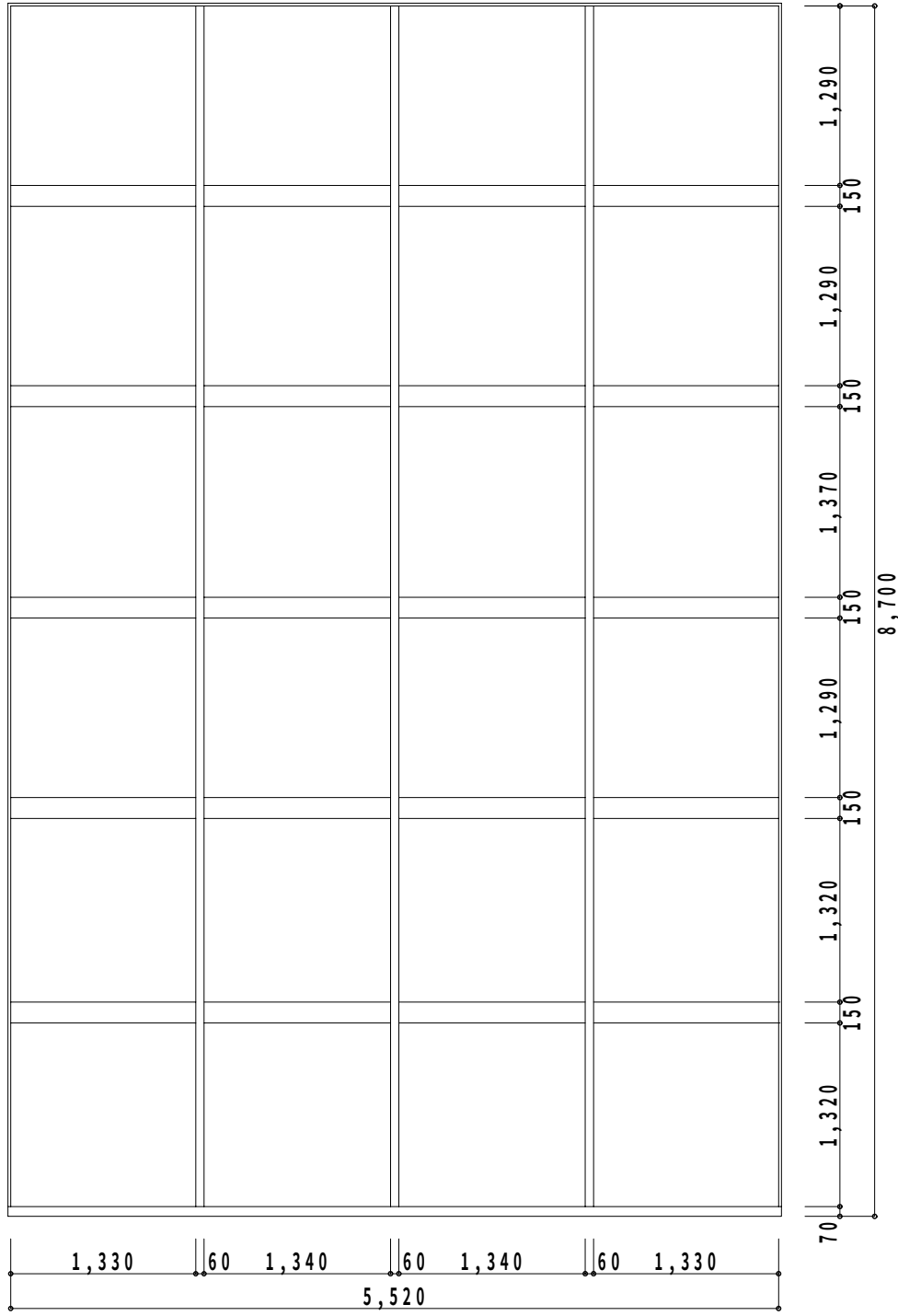
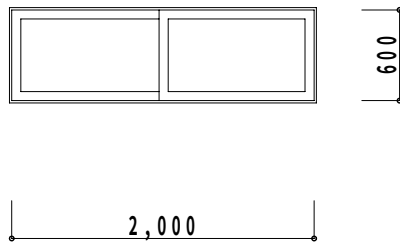
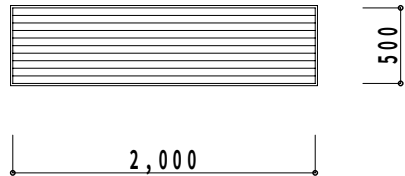
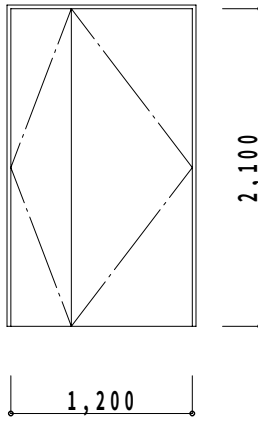
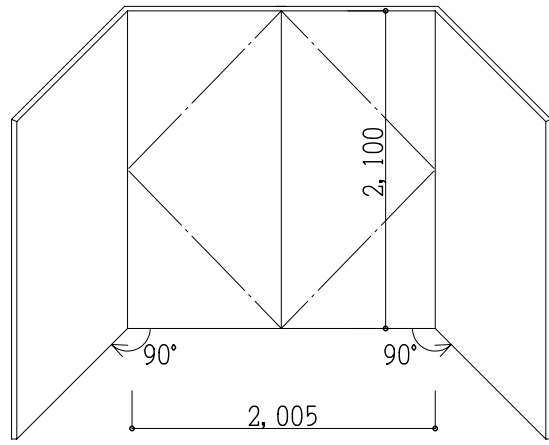
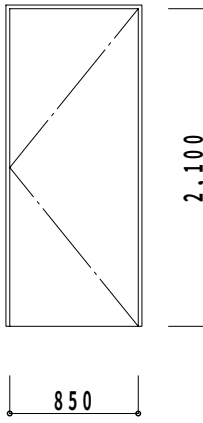
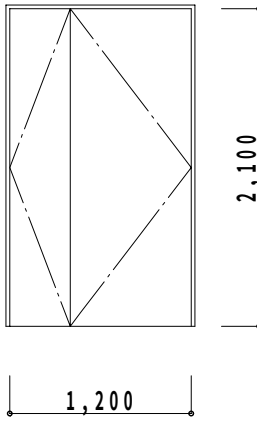
Special note □
introductory remarks



M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

date	drawn by	checked by
3 / '11		信清和呂

建具表 (1)
scale 1 / 50

① AD 名称		F I X付両開き戸（改修）		① AW F I X窓（撤去）		② AW 引違い窓（撤去）									
姿図 寸法															
	材種	見込	アルミ			1 2 5	アルミ	8 0							
	仕上	硝子				トーメイ 6	B-1種	網入り型 6 . 8							
	金物		飛散防止フィルム張り			ドアチェック（常閉）レバーハンドル錠 付属金物 1 式									
	備考														
数量	場所	3	1階 ロビー	2	1階 ロビー	8	1階 器具庫								
① 記号	名称	① AG ガラリ	① WD 親子開き戸	① SD 防火戸（撤去）	② SD 片開き戸（撤去）	① WD 親子開き戸（撤去）									
姿図 寸法															
	材種	見込	アルミ	7 0	シナベニヤ 戸縁枠	3 6	スチール	枠 8 0 扉 4 0	スチール	扉 4 0 枠 8 0	シナベニヤ	3 6			
	仕上	硝子	B-1種	EP-G	ドアチェック 丁番 6 レバーハンドル錠 フランス落し ステンレス咨摺 W = 4 0										
	金物		水切り L = 1 4 8 チャンバー接続金物 ステンレス防鳥網 付属金物 1 式			フロアヒンジ・煙感知器連動装置撤去									
	備考														
数量	場所	1	1階 女子更衣室（天井内）	1	1階 控室	2	1階 通路	4	2階 ロビー 通路	3	1階 大会議室・館長室・控室				

Special note
introductory remarks

□

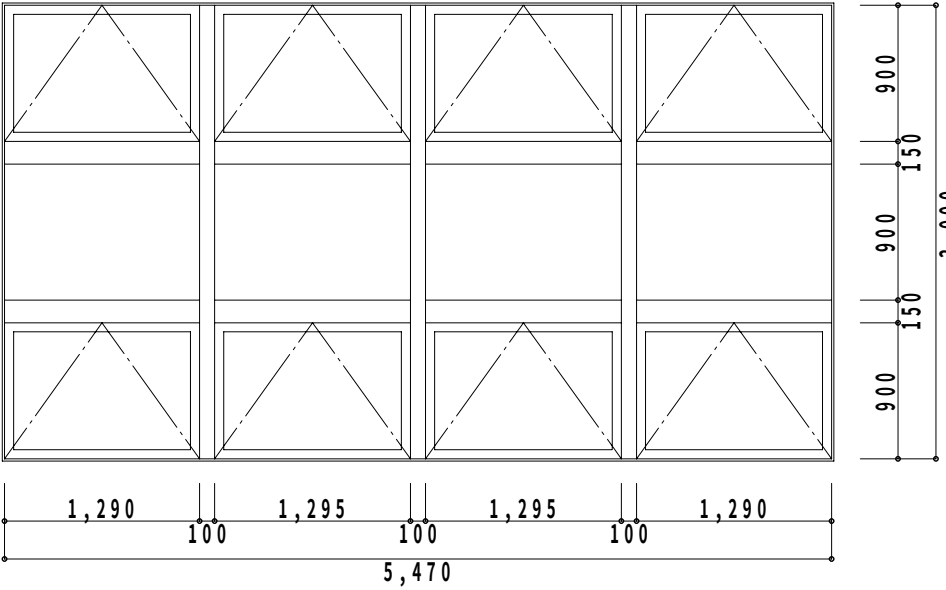
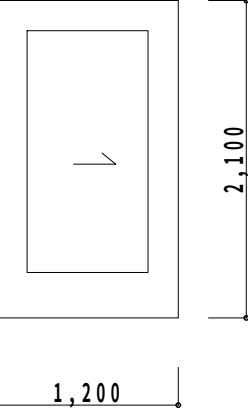
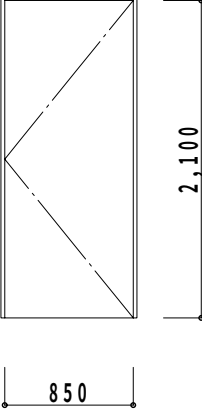
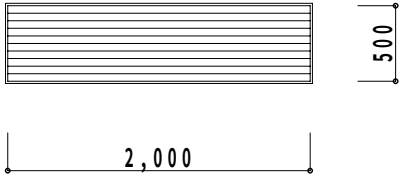


M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第 136008 信清和呂

date 3 / '11
drawn by
checked by 信清和呂

建具表 (2)
scale 1 / 50

意匠
7 0

番号 記号		名称		4 FW		F I X 付突出し窓 (撤去)		2 WD		片引込み戸 (撤去)		1 WD		片開き戸 (撤去)			
材種 仕上 金物		見込 硝子		姿図 寸法													
備考		数量		場所				1		1階 事務室		8		1階 会議室 男子更衣室 女子更衣室 医務室			
番号 記号		名称						1 SG		ガラリ							
材種 仕上 金物		見込 硝子		姿図 寸法				スチール		80							
備考		数量		場所		8		2階 客席									
番号 記号		名称															
材種 仕上 金物		見込 硝子		姿図 寸法													
備考		数量		場所													

Special note
introductory remarks

□

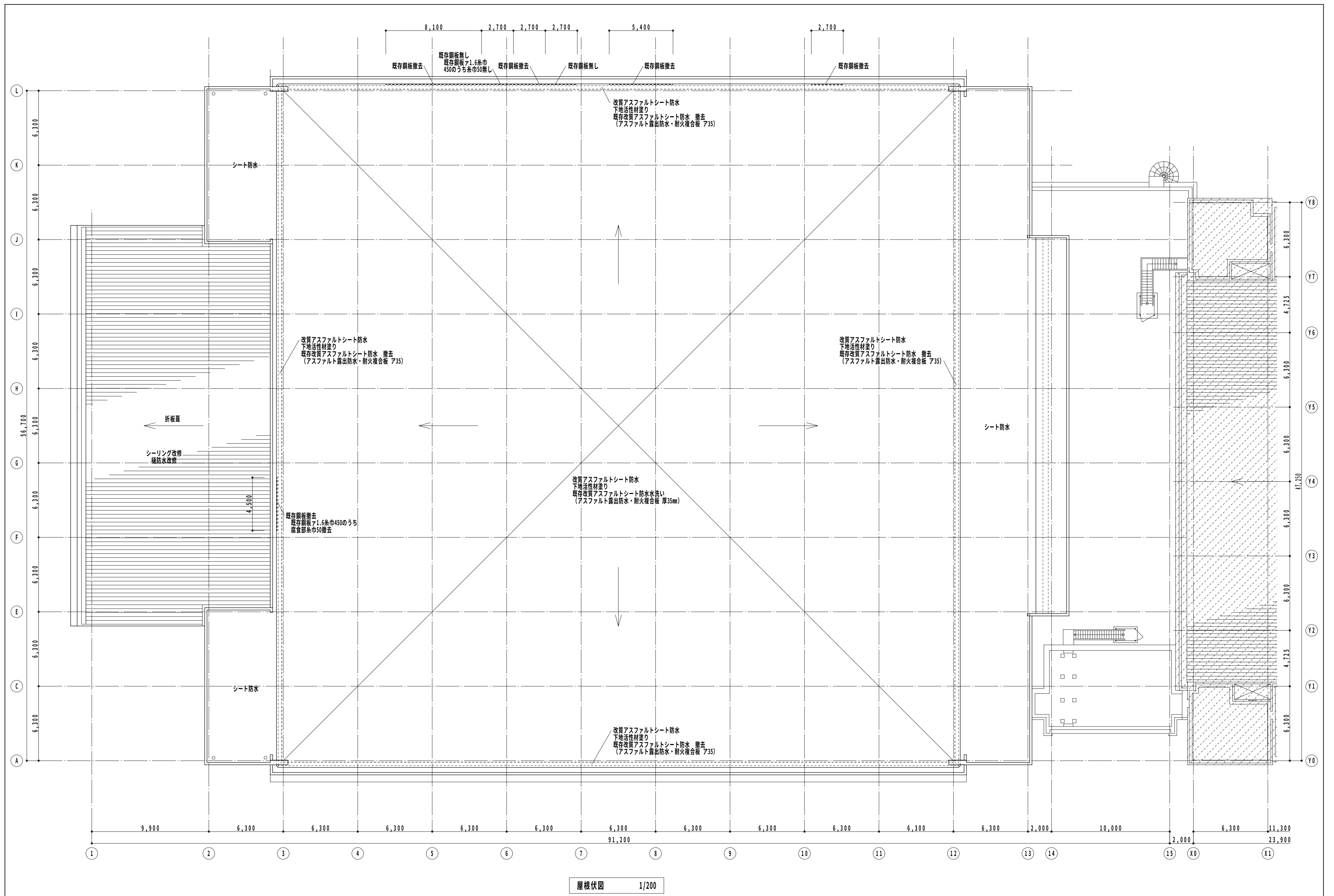


M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

date	drawn by	checked by
3 / '11		信清和呂

建具表 (2)
scale 1 / 50

意匠
7 1



Special note ☐
introductory remarks



M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

県民体育館耐震補強その他建築主体工事（アリーナ棟）

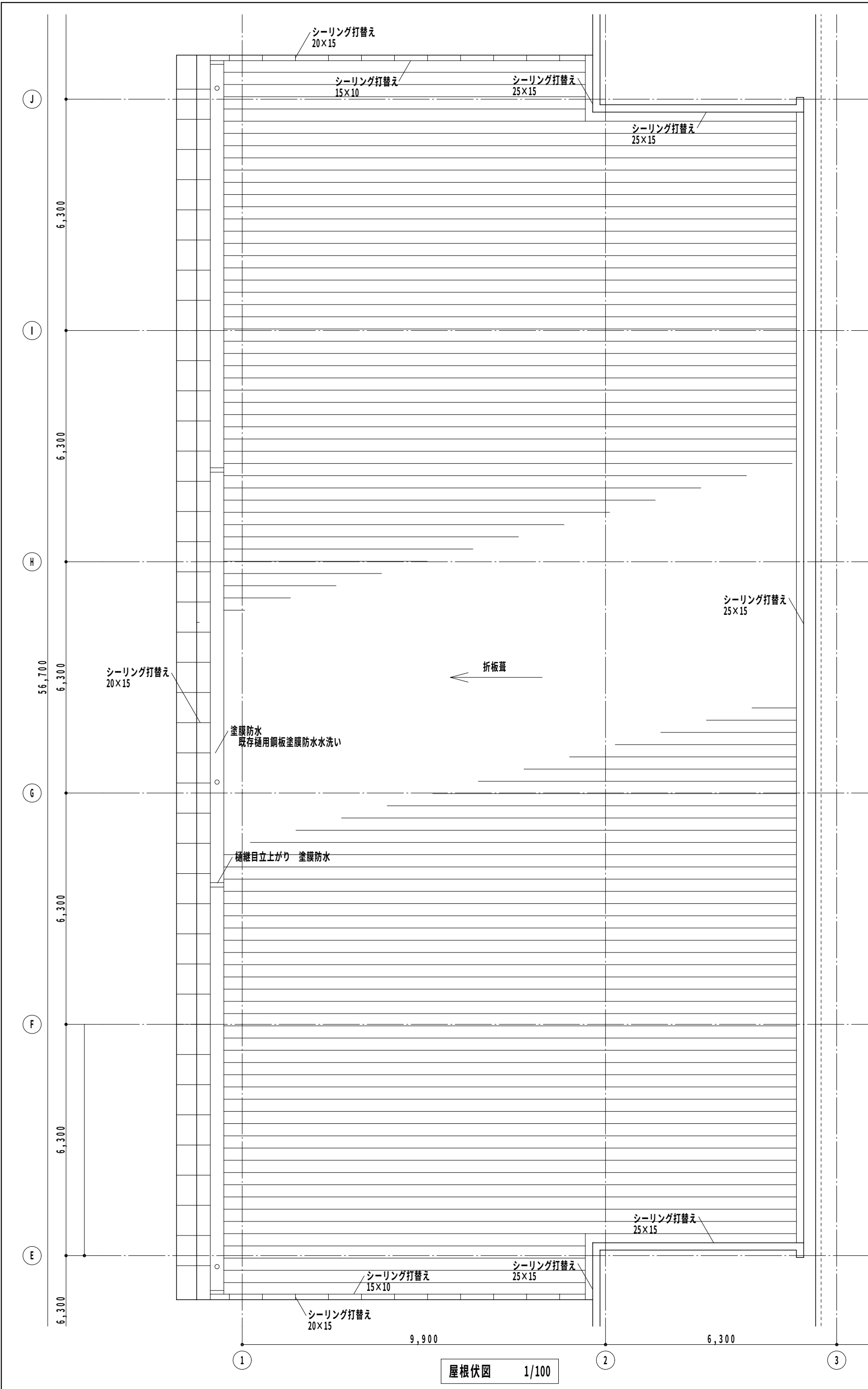
date	drawn by	checked by
3 / '11		信清和呂

防水改修屋根伏図

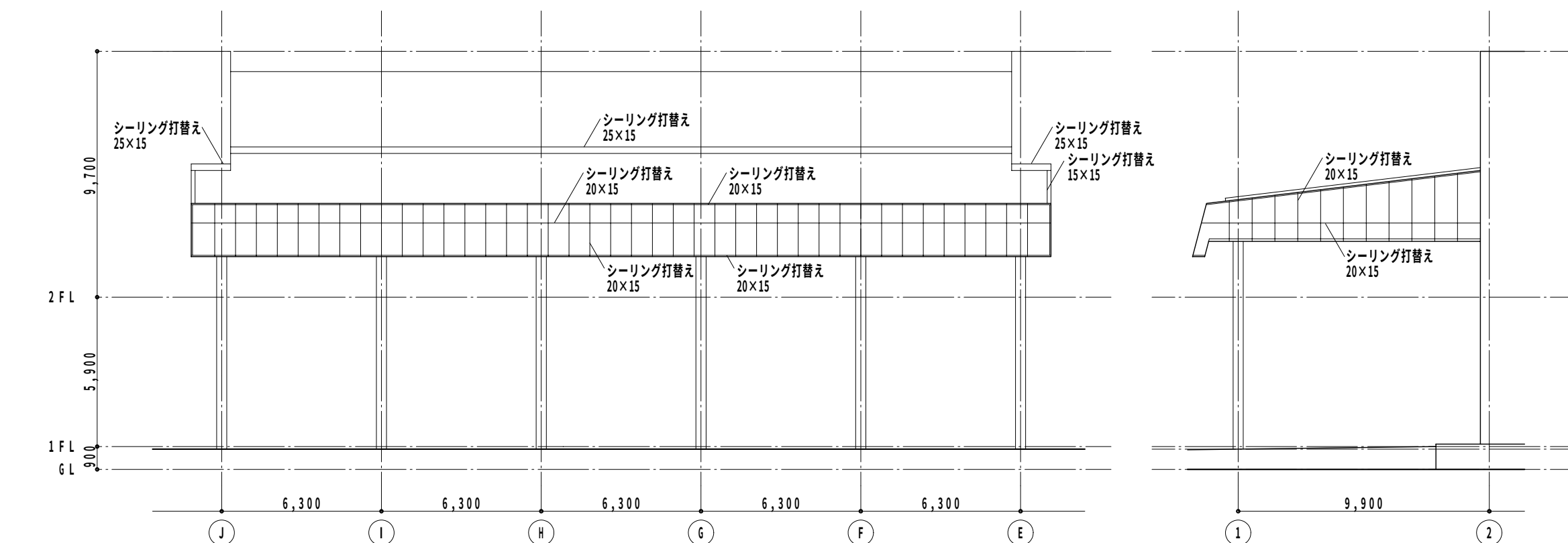
scale 1 / 200

意匠

72

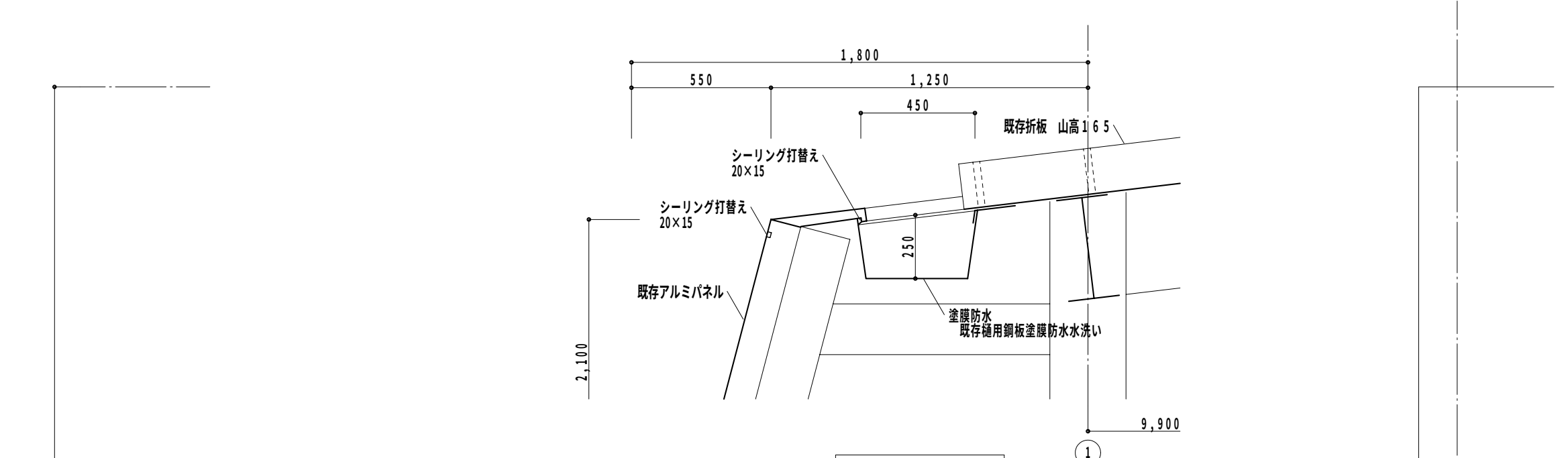


屋根伏図 1/100

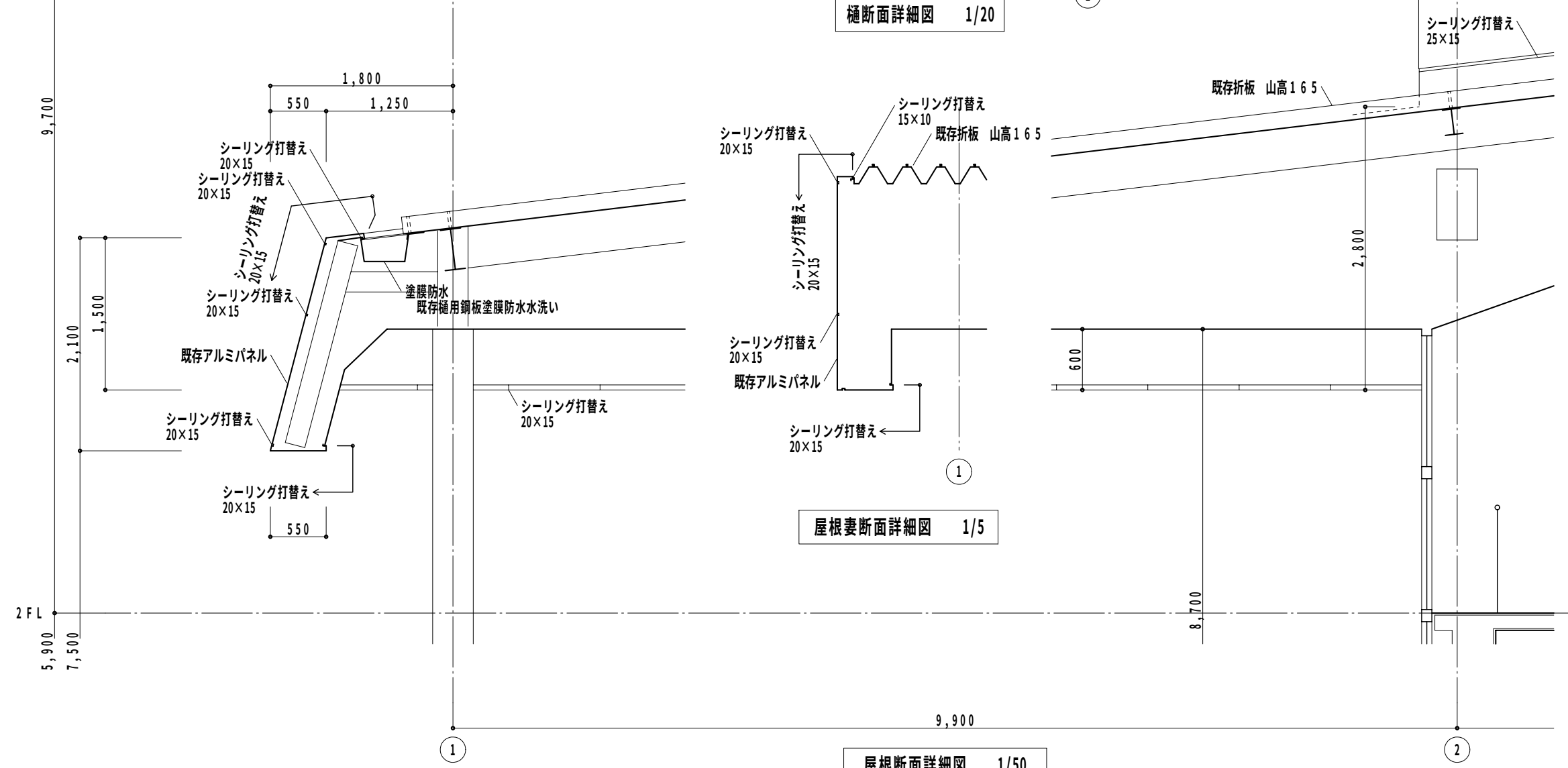


屋根西面立面図 1/200

屋根南面立面図 1/200

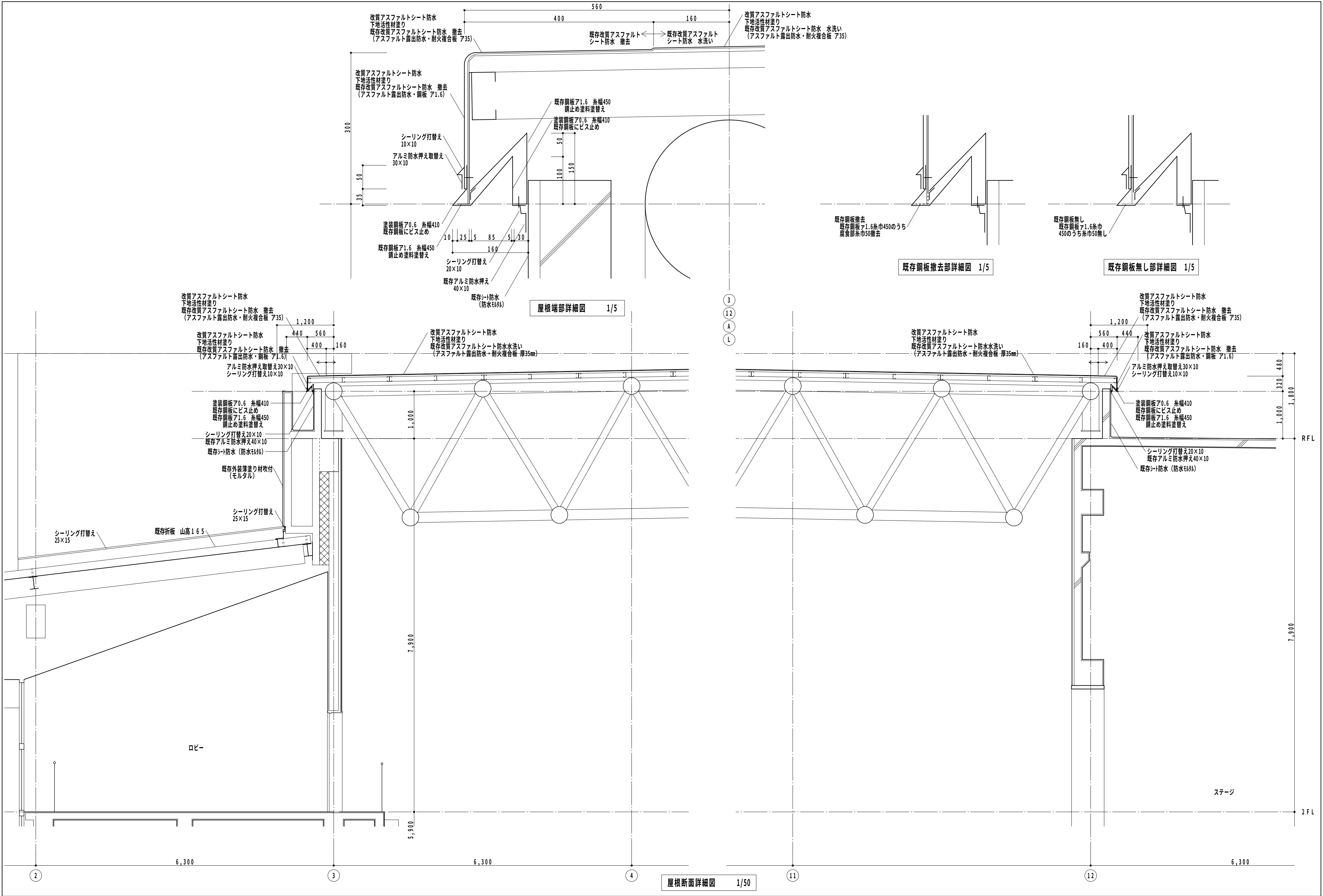


横断面詳細図 1/20



屋根妻断面詳細図 1/5

屋根断面詳細図 1/50



Special note
introductory remarks

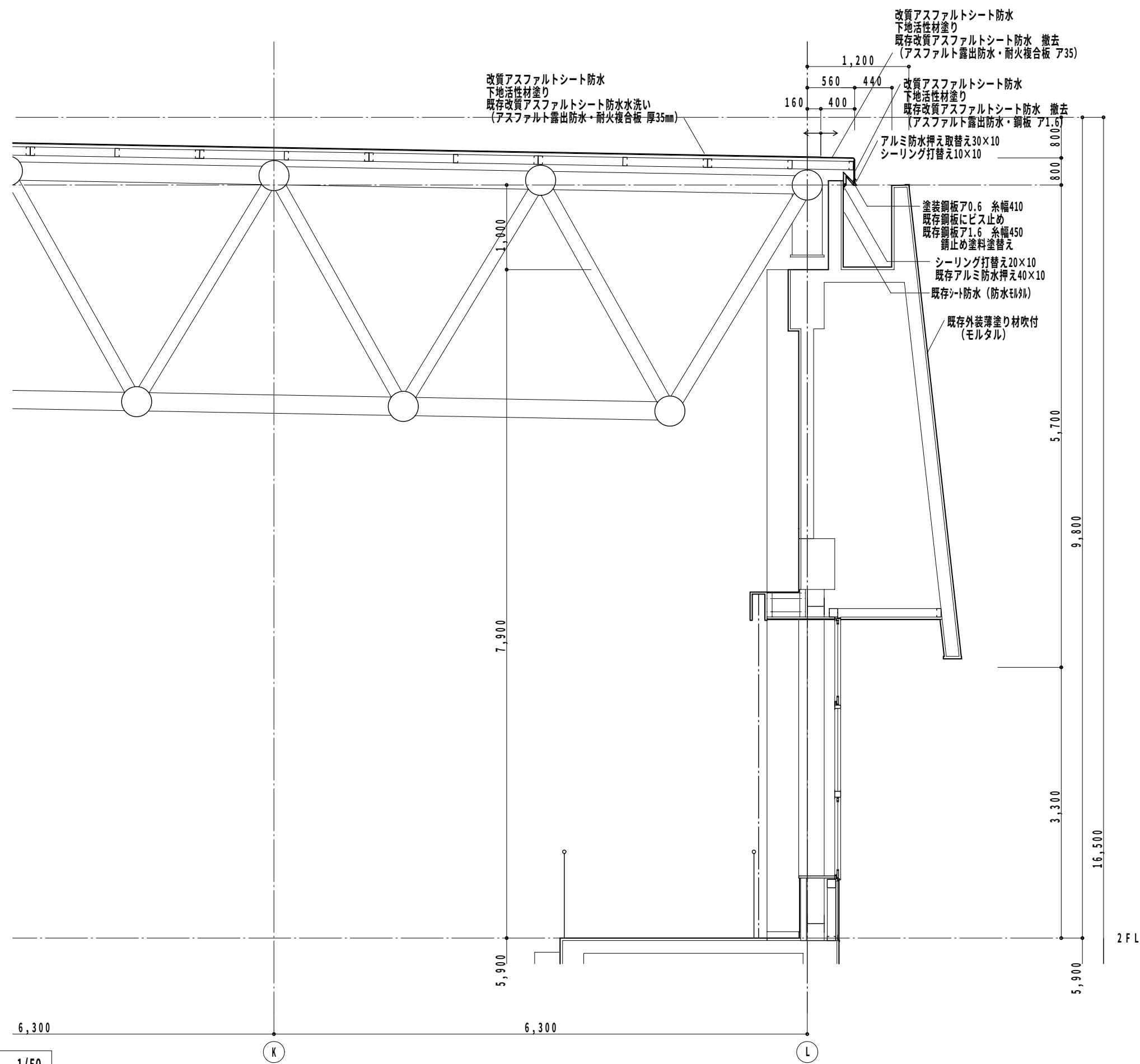
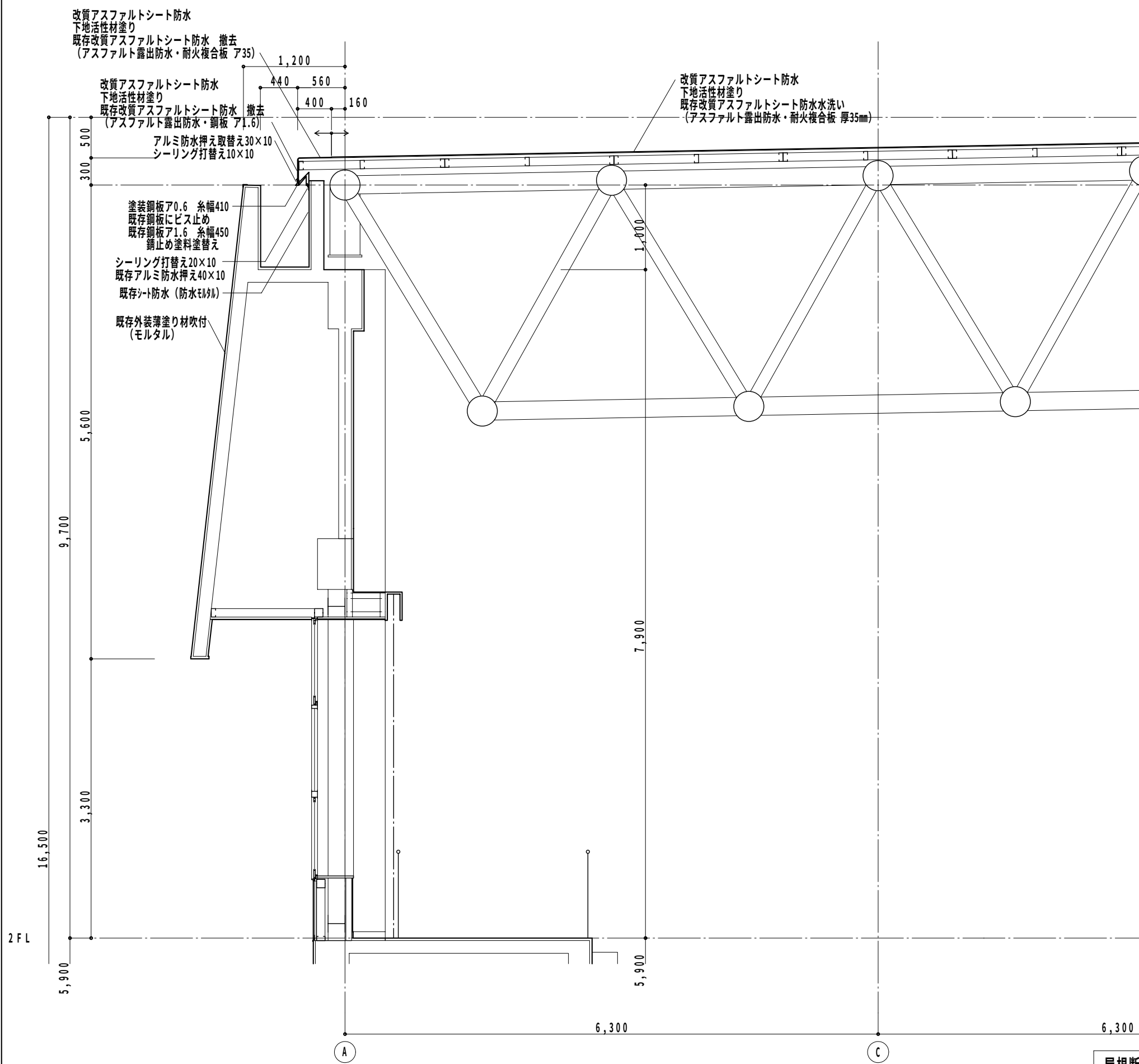


M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

県民体育館耐震補強その他建築主体工事（アリーナ棟）
date 5 / '11 drawn by checked by 信清和呂

防水改修詳細図（2）
scale 1 / 5・50

意匠
74



屋根断面詳細図

1/50

Special note
introductory remarks



M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

県民体育館耐震補強その他建築主体工事（アリーナ棟）

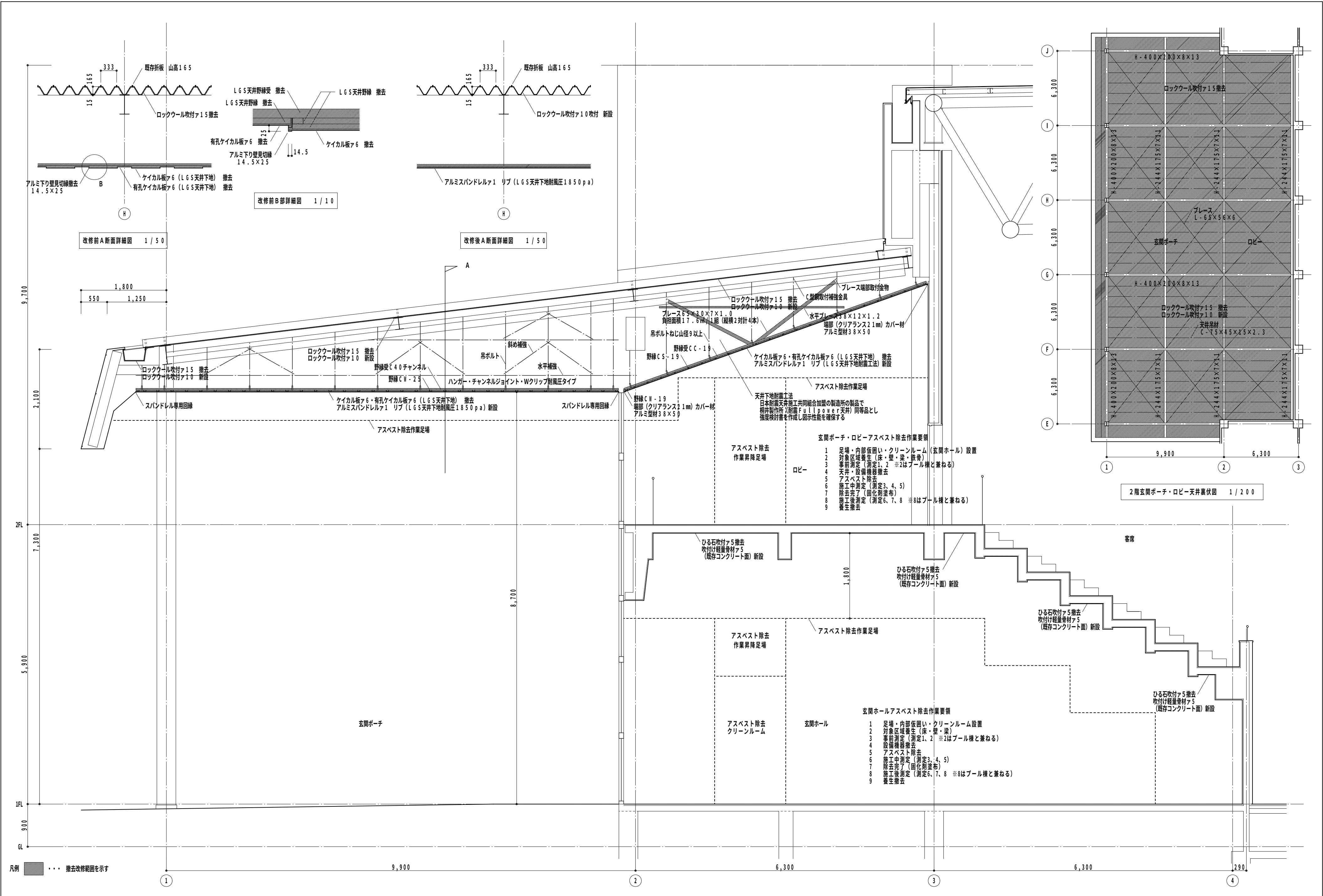
date 5 / '11 drawn by checked by 信清和呂

防水改修詳細図（3）

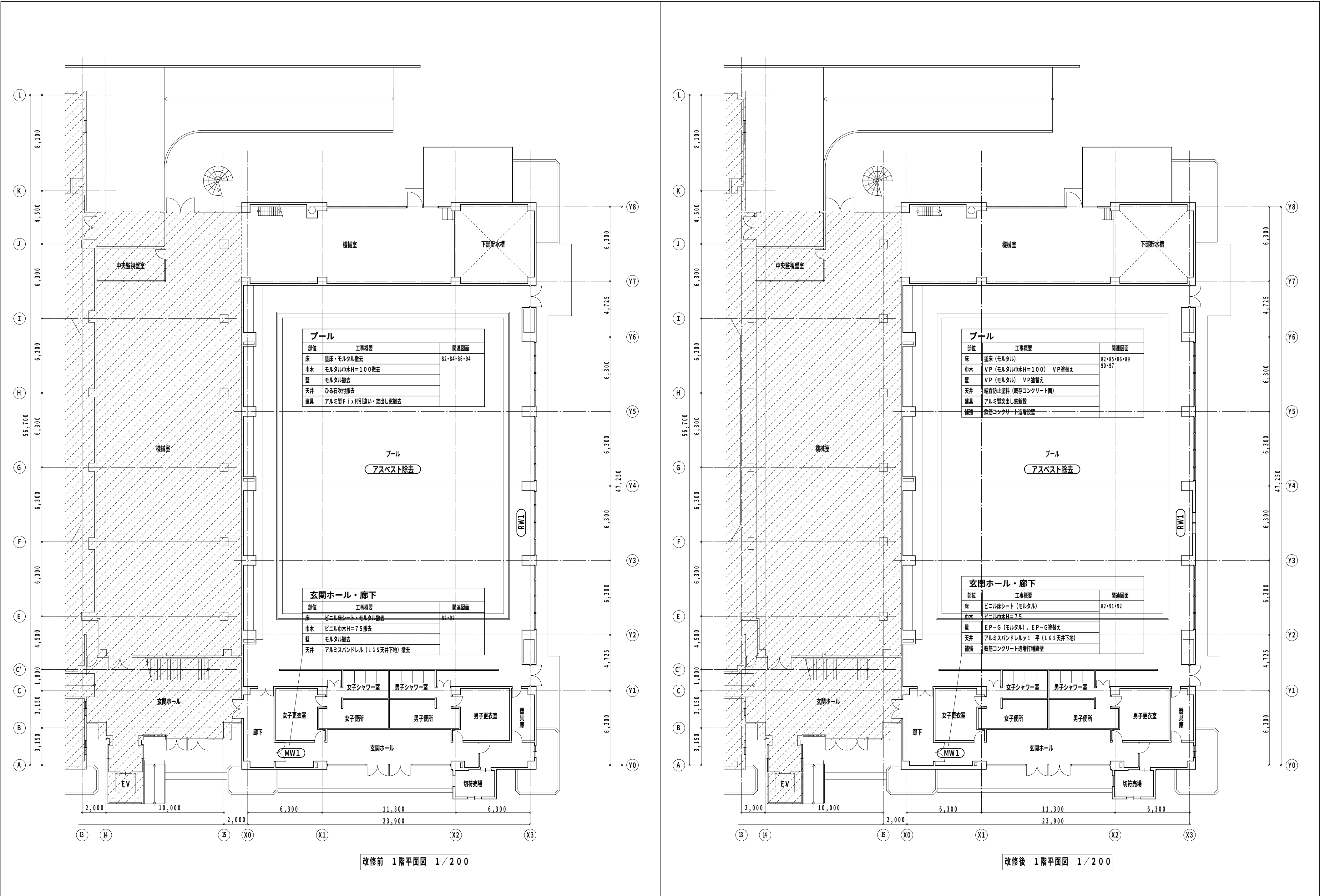
scale 1 / 50

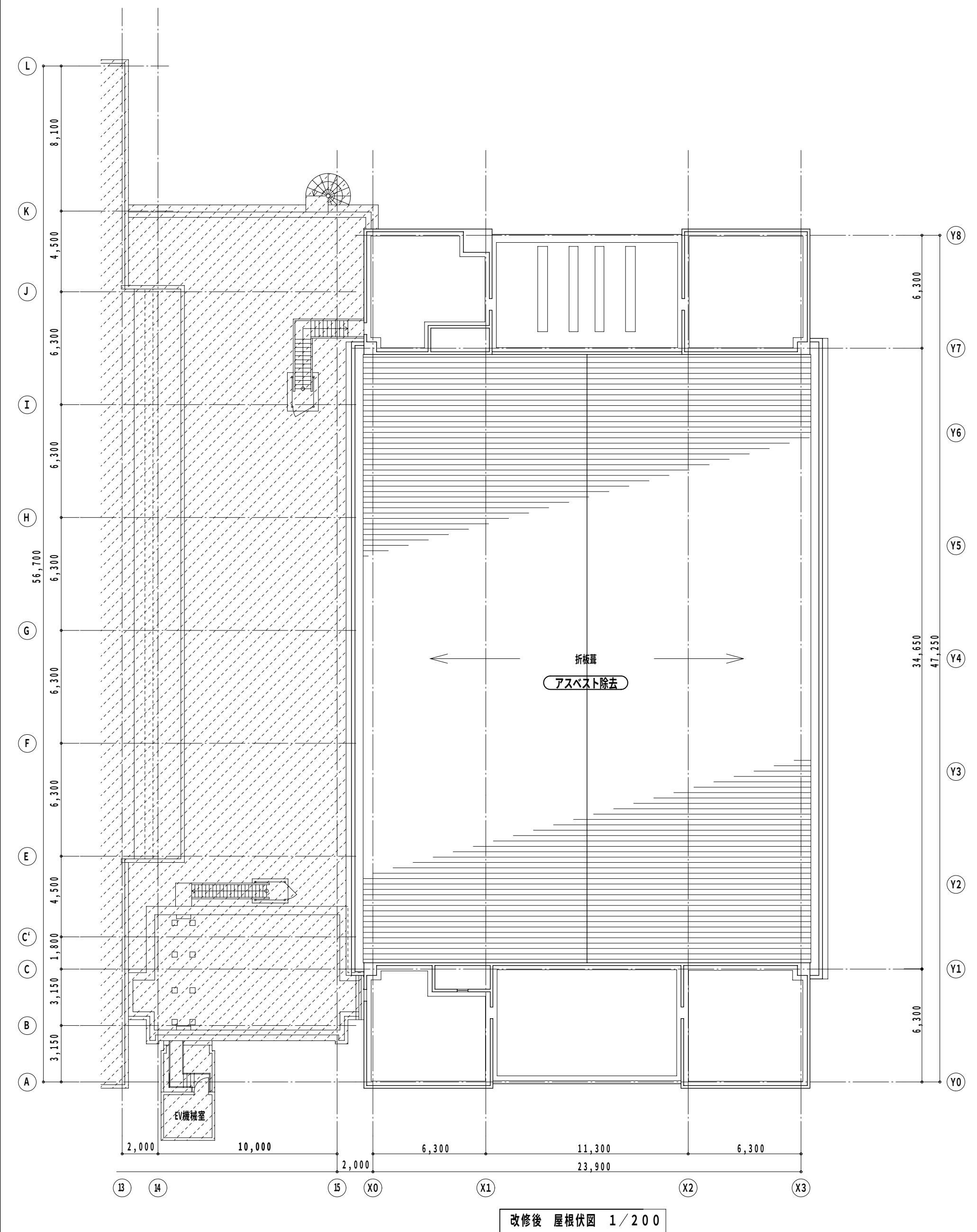
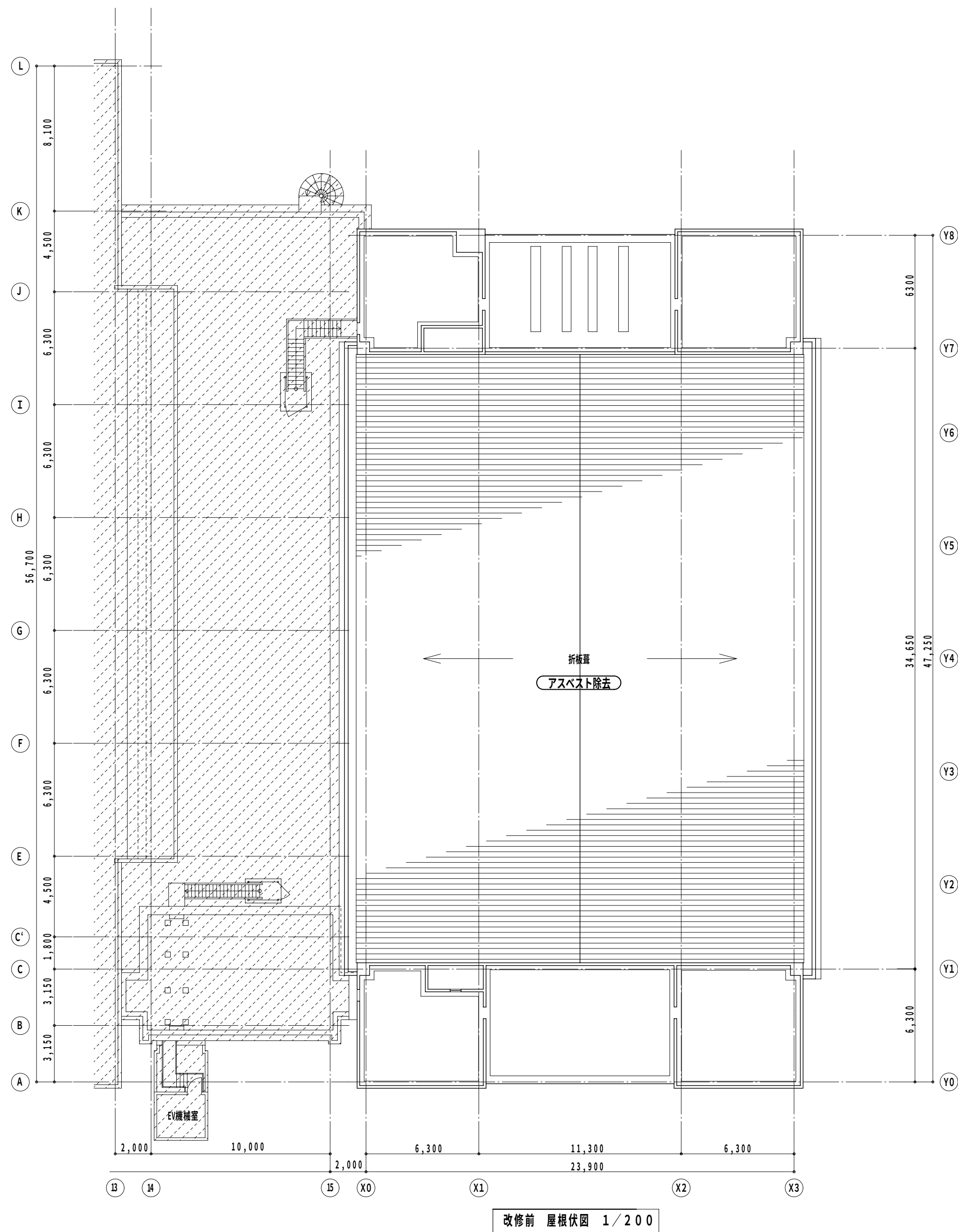
意匠

75



内部仕上表										
階	室 名	通り名 (補強位置)	補強工法		床	巾 木	壁	天 井	廻 縁	備 考
1 階	玄関ホール	Y 0 通り X 0－X 1 間	MW	改修前	ビニル床シート・モルタル 撤去	ビニル巾木H＝7 5 撤去	モルタル 撤去	アルミスパンドレル (L6S天井下地) 撤去	塩ビ製 撤去	カウンター・鏡 一時取外し
				改修後	ビニル床シート (モルタル)	ビニル巾木H＝7 5	E P－G (石こうボードφ12.5直張り) E P－G 塗替え	アルミスパンドレリア1 平 (L6S天井下地)	塩ビ製	カウンター・鏡 再取付け
	廊下	Y 0 通り X 0－X 1 間	MW	改修前	ビニル床シート・モルタル 撤去	ビニル巾木H＝7 5 撤去	モルタル 撤去	アルミスパンドレル (L6S天井下地) 撤去	塩ビ製 撤去	
				改修後	ビニル床シート (モルタル)	ビニル巾木H＝7 5	E P－G (石こうボードφ12.5直張り) E P－G 塗替え	アルミスパンドレリア1 平 (L6S天井下地)	塩ビ製	
	プール	X 3 通り Y 3－Y 4 間	RW	改修前	塗床・モルタル 撤去	モルタル巾木H＝1 0 0 撤去	モルタル 撤去	ひる石吹付 撤去		タオル掛け 一時取外し
				改修後	塗床 (モルタル)	D P (モルタル巾木H＝1 0 0) D P 塗替え	D P (モルタル) D P 塗替え	結露防止塗料 (既存コンクリート面)		タオル掛け 再取付
		全体	アスベスト 除去	改修前				ひる石吹付 撤去		
				改修後				結露防止塗料 (既存コンクリート面)		
2 階	競技場	X 3 通り Y 3－Y 4 間 X 0 通り Y 5－Y 6 間	RW	改修前	フローリングφ18・ラワン合板φ15 (木床組) 撤去	木製巾木H＝75 撤去	モルタル 撤去 石こうボードφ9．5 撤去			カーテンBOX撤去、SUS床通気孔・カーテン・防球ネット 一時取外し
				改修後	UC (桜フローリングφ18+構造用合板φ15) (木床組)	UC (木製巾木H＝75)	E P－G (石こうボードφ12.5直張り) E P－G (石こうボードφ9．5) E P－G 塗替え			カーテンBOX、SUS床通気孔・カーテン・防球ネット 再取付
		X 0－X 3 通り Y 2－Y 3 間 X 0－X 3 通り Y 5－Y 6 間	H B S	改修前						
				改修後				D P (鉄骨)		
		Y 1 通り X 0－X 3 間 Y 7 通り X 0－X 3 間	J	改修前						
				改修後				D P (鉄骨)		
	全体	全体	アスベスト 除去	改修前				折板H＝165φ0.8裏面ミクライト吹付け 撤去 折板裏面ガラス繊維シート貼りH＝165φ0.8 D P (鉄骨) D P 塗替え (鉄骨)		
				改修後						
	全体	全体	内装改修	改修前	桜フローリングφ18UC					
				改修後	既存フローリング面サンダー掛けUC					コートライン引き
備考	RW : 鉄筋コンクリート造増設壁									
	MW : 鉄筋コンクリート造増打増設壁									
	H B S : 屋根水平ブレース増設									
	J : 接合部補強									



Special note
introductory remarks

□	RW	鉄筋コンクリート造増設壁	HBS	屋根水平ブレース増設
	MW	鉄筋コンクリート造増打増設壁	J	接合部補強



M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

県民体育館耐震補強その他建築主体工事（プール棟）

date	drawn by	checked by
5 / '11		信清和

屋根伏図

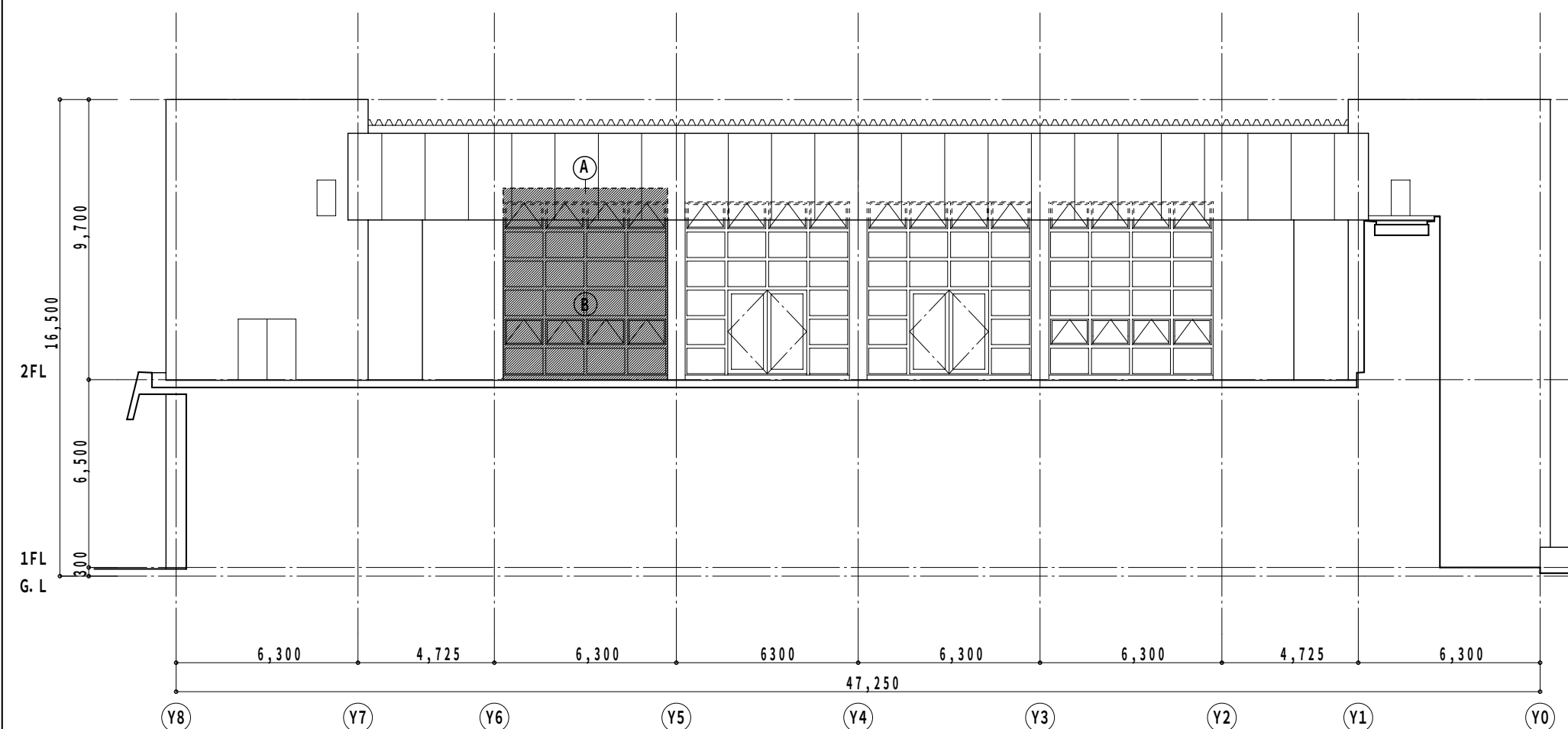
scale 1 / 200

意匠

80



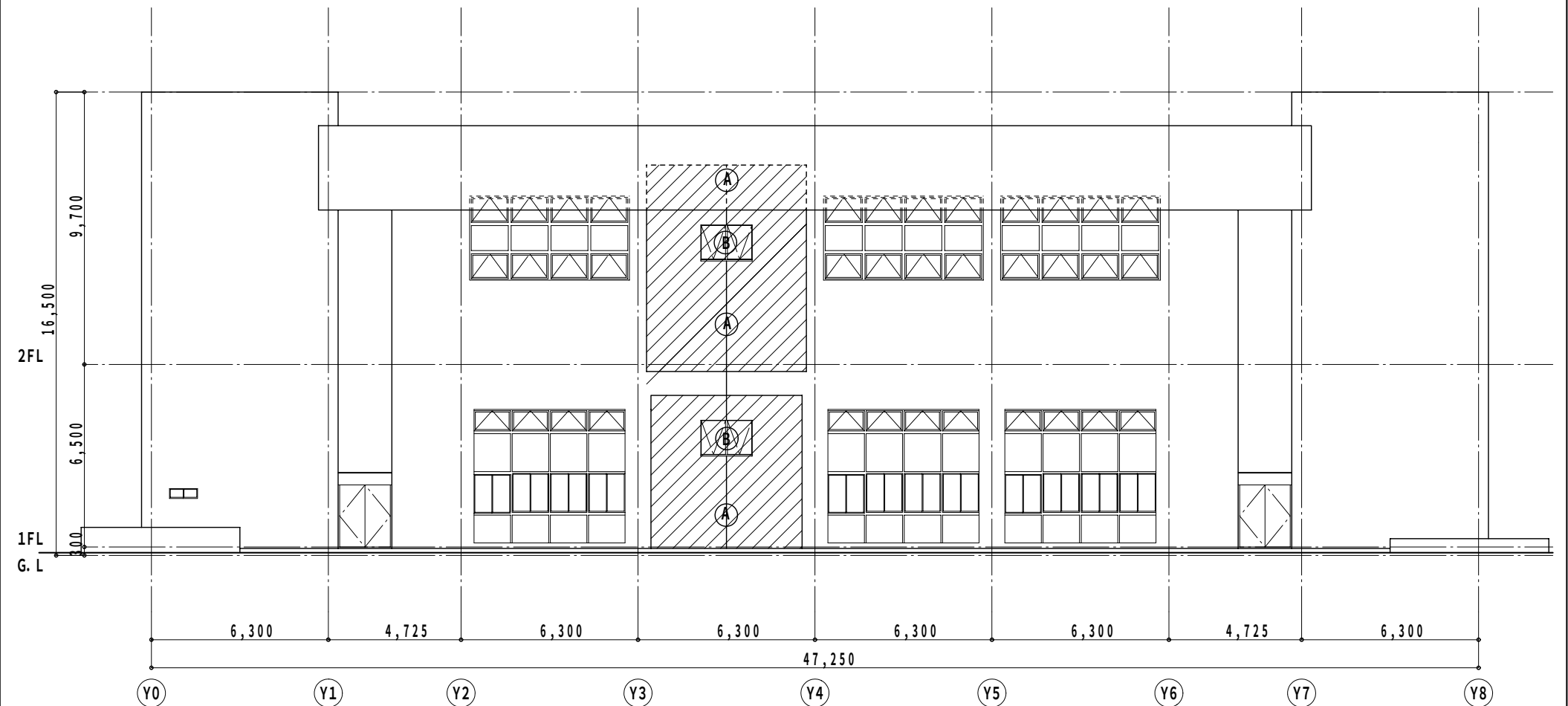
改修前 東立面図 1/200



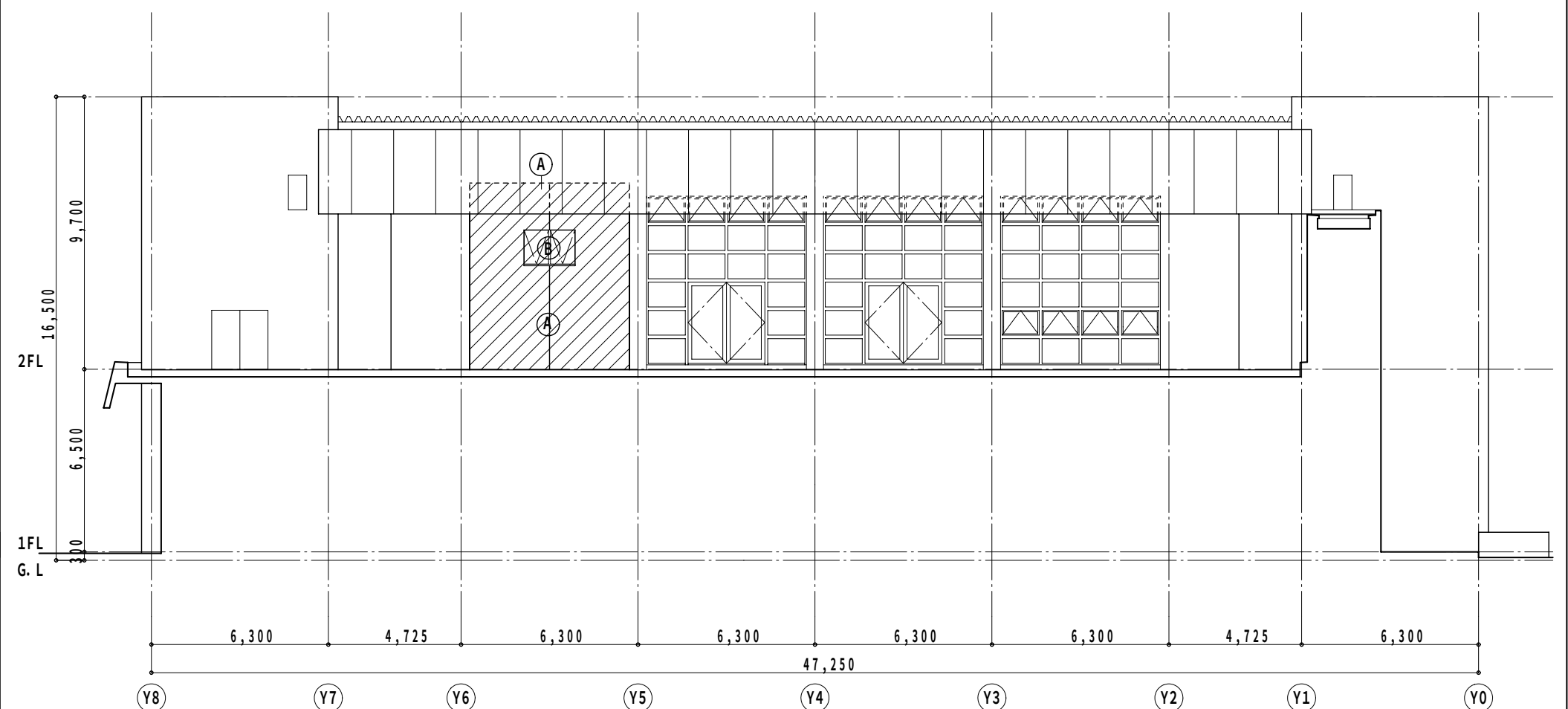
改修前 西立面図 1/200

記号	仕上
Ⓐ	モルタル・コンクリート壁撤去
Ⓑ	アルミ製建具撤去

凡例 ■■■ 撤去範囲を示す



改修後 東立面図 1/200



改修後 西立面図 1/200

記号	仕上
Ⓐ	防水形復層塗材 E (コンクリート打放し)
Ⓑ	アルミ製建具新設

凡例 ■■■ 改修範囲を示す

Special note
introductory remarks



M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

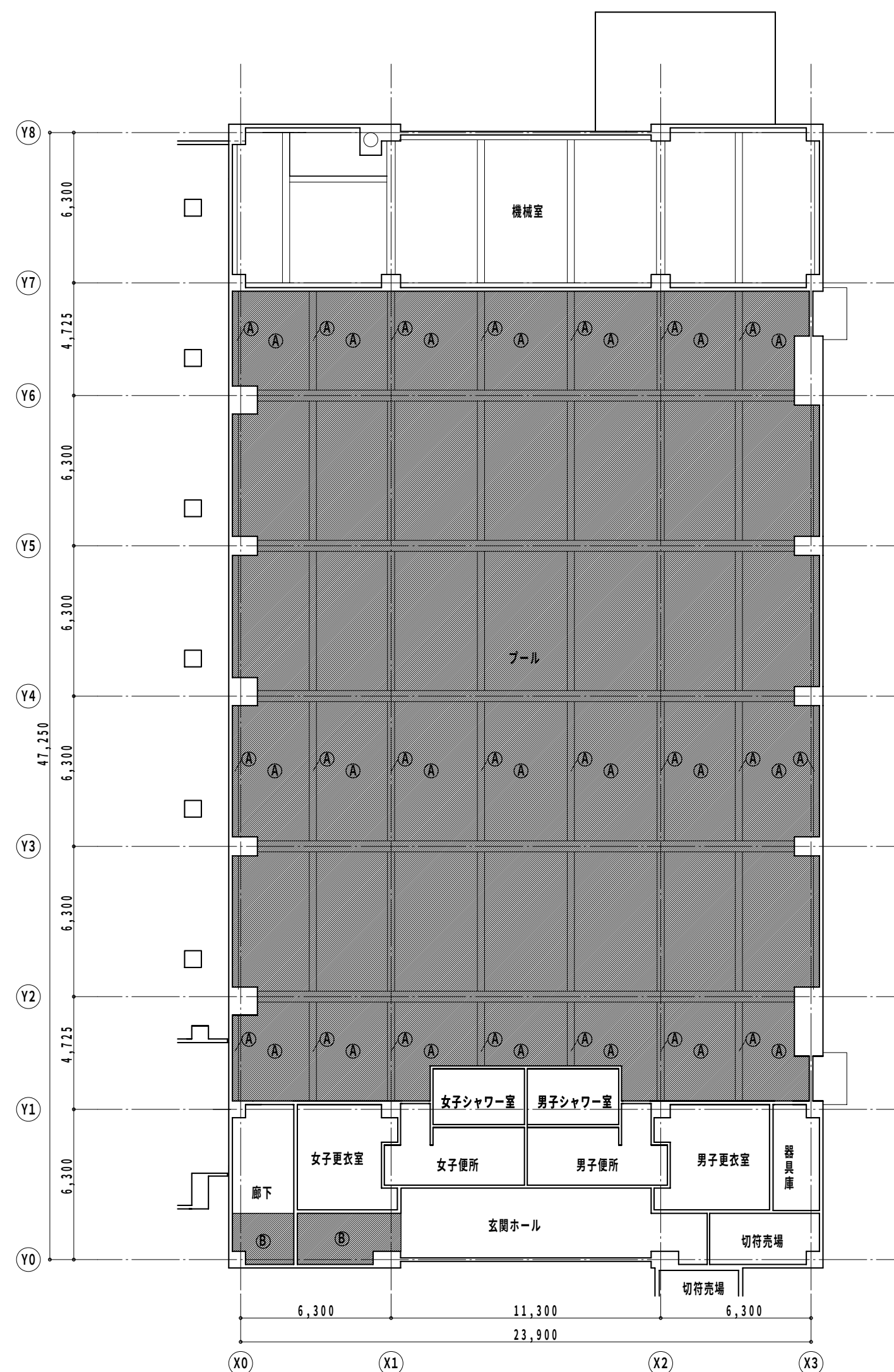
県民体育館耐震補強その他建築主体工事（プール棟）
date 5 / '11 drawn by checked by 信清和呂

立面図

scale 1/200

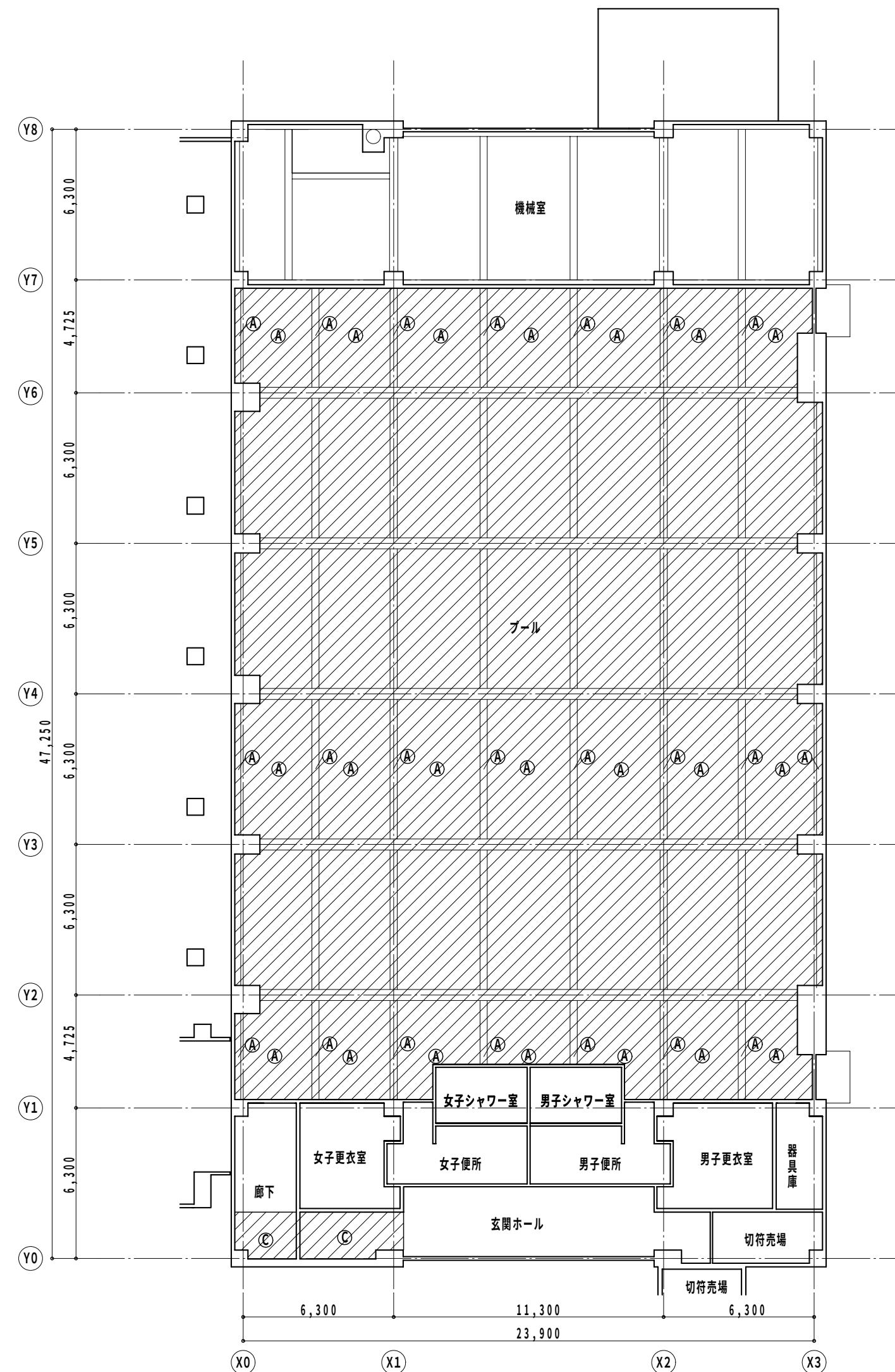
意匠

81



記号	仕 上
Ⓐ	ひる石吹付け撤去
Ⓑ	アルミス/パンドレル (L65天井下地) 撤去
Ⓒ	折板H=165α.0裏面ミクライト吹付け 撤去
Ⓓ	フレキシブルボードア4 (C-100x50x20x2.3下地)撤去

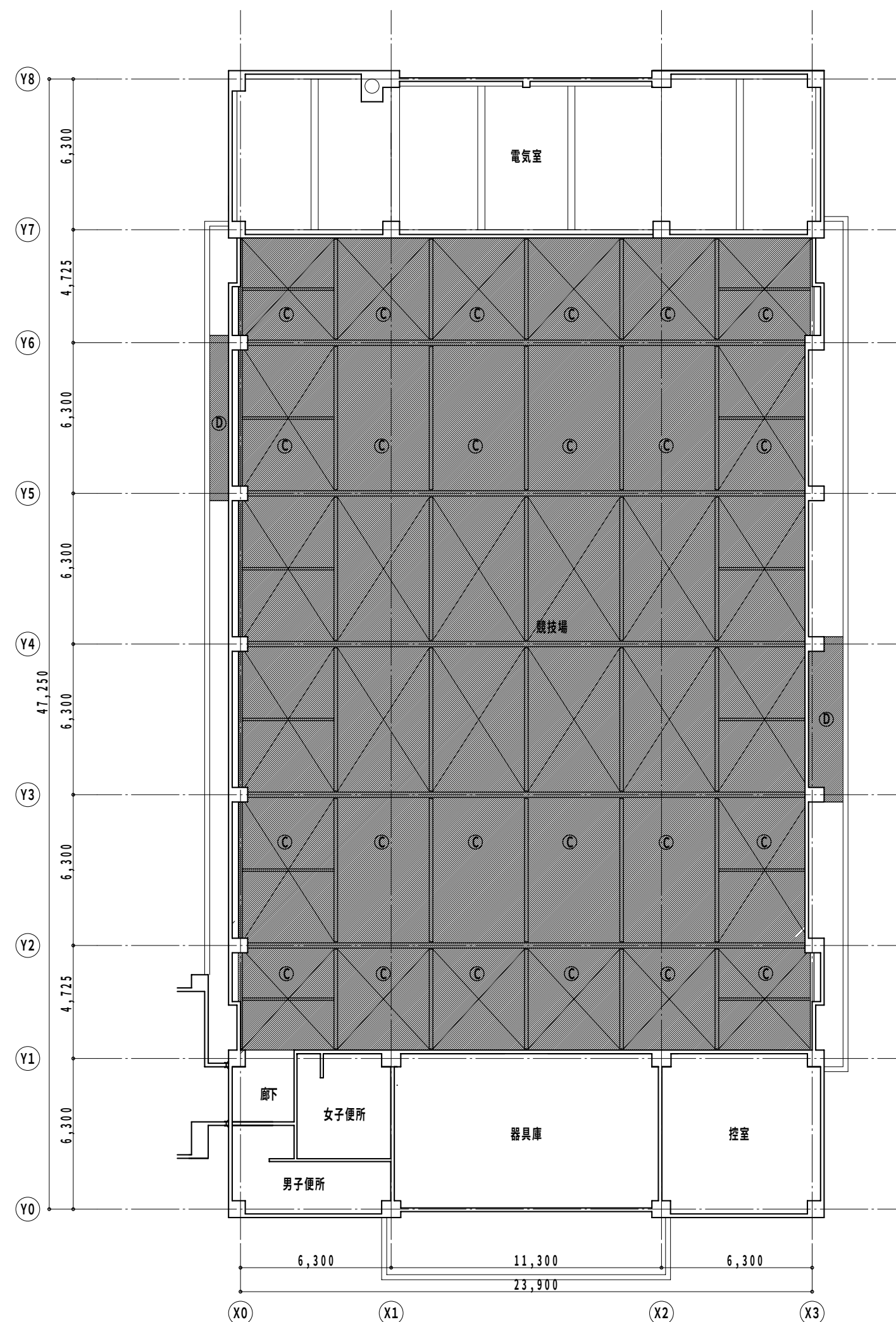
凡例 … 撤去範囲を示す



仕上表	
記号	仕 上
Ⓐ	結露防止塗料（既存コンクリート面）
Ⓑ	アルミスパンドレルア1 平（LG5天井下地）
Ⓒ	折板裏面ガラス繊維シート張りH=165 ア0.8
Ⓓ	D P（ケイカル板ア6）（鉄骨天井下地）
Ⓔ	D P（鉄骨）
Ⓕ	D P塗替え（鉄骨）

凡例 … 改修範囲を示す

※ HBS、J部はDP塗り詳細は構造図による

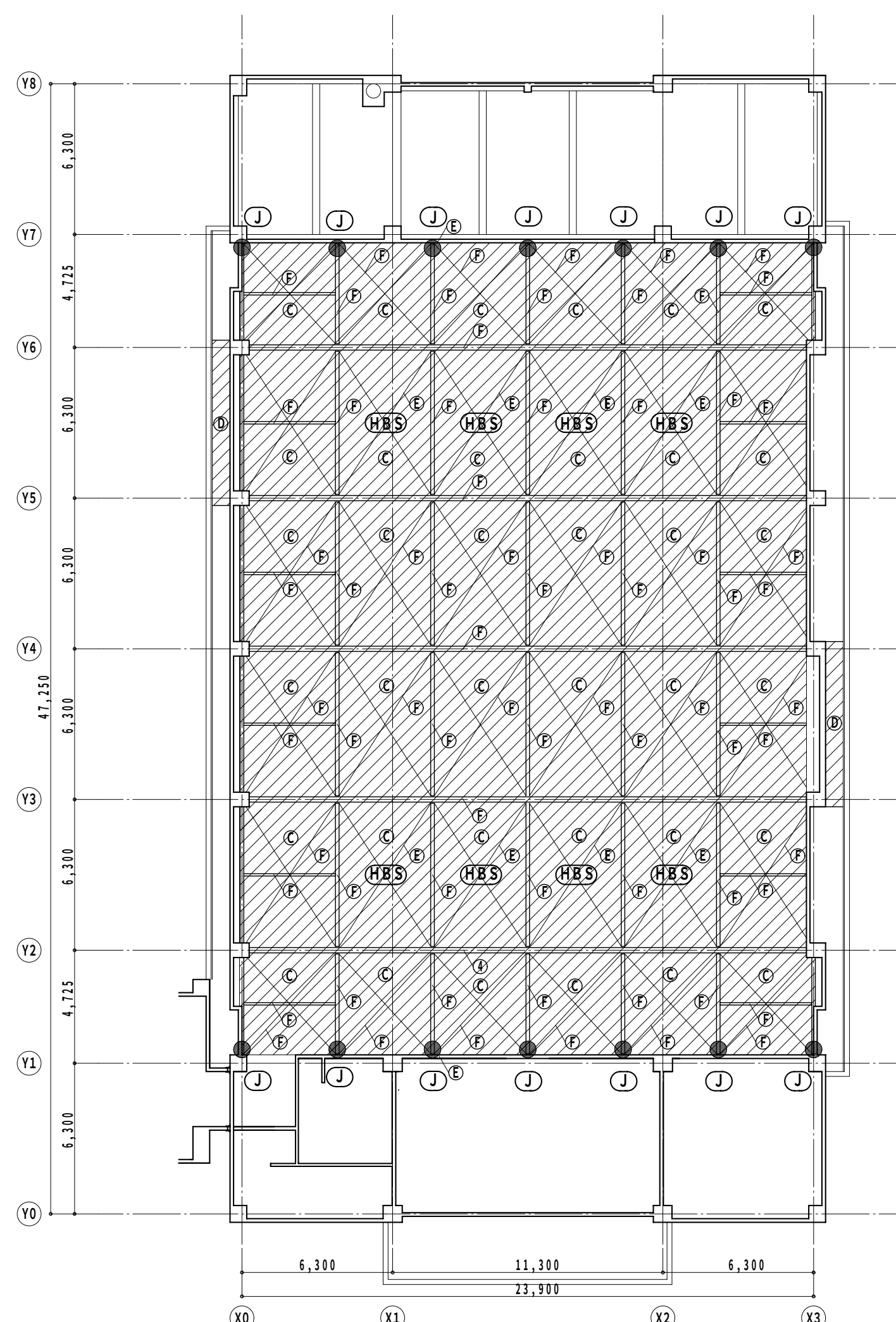


改修前 2階天井伏図 1/200

仕上表

記号	仕 上
Ⓐ	ひる石吹付け撤去
Ⓑ	アルミスバンドレル (LGS天井下地) 撤去
Ⓒ	折板H=165φ0.8裏面ミクライト吹付け 撤去
Ⓓ	フレキシブルボードA4 (C-100x50x20x2.3下地)撤去

凡例 ■・・・撤去範囲を示す



改修後 2階天井伏図 1/200

仕上表

記号	仕 上
Ⓐ	結露防止塗料 (既存コンクリート面)
Ⓑ	アルミスバンドレルA1 平 (LGS天井下地)
Ⓒ	折板裏面ガラス繊維シート張りH=165 φ0.8
Ⓓ	DP (ケイカル板A6) (鉄骨天井下地)
Ⓔ	DP (鉄骨)
Ⓕ	DP塗替え (鉄骨)

凡例 ▨・・・改修範囲を示す

※ HBS、J部はDP塗り詳細は構造図による

Special note
introductory remarks

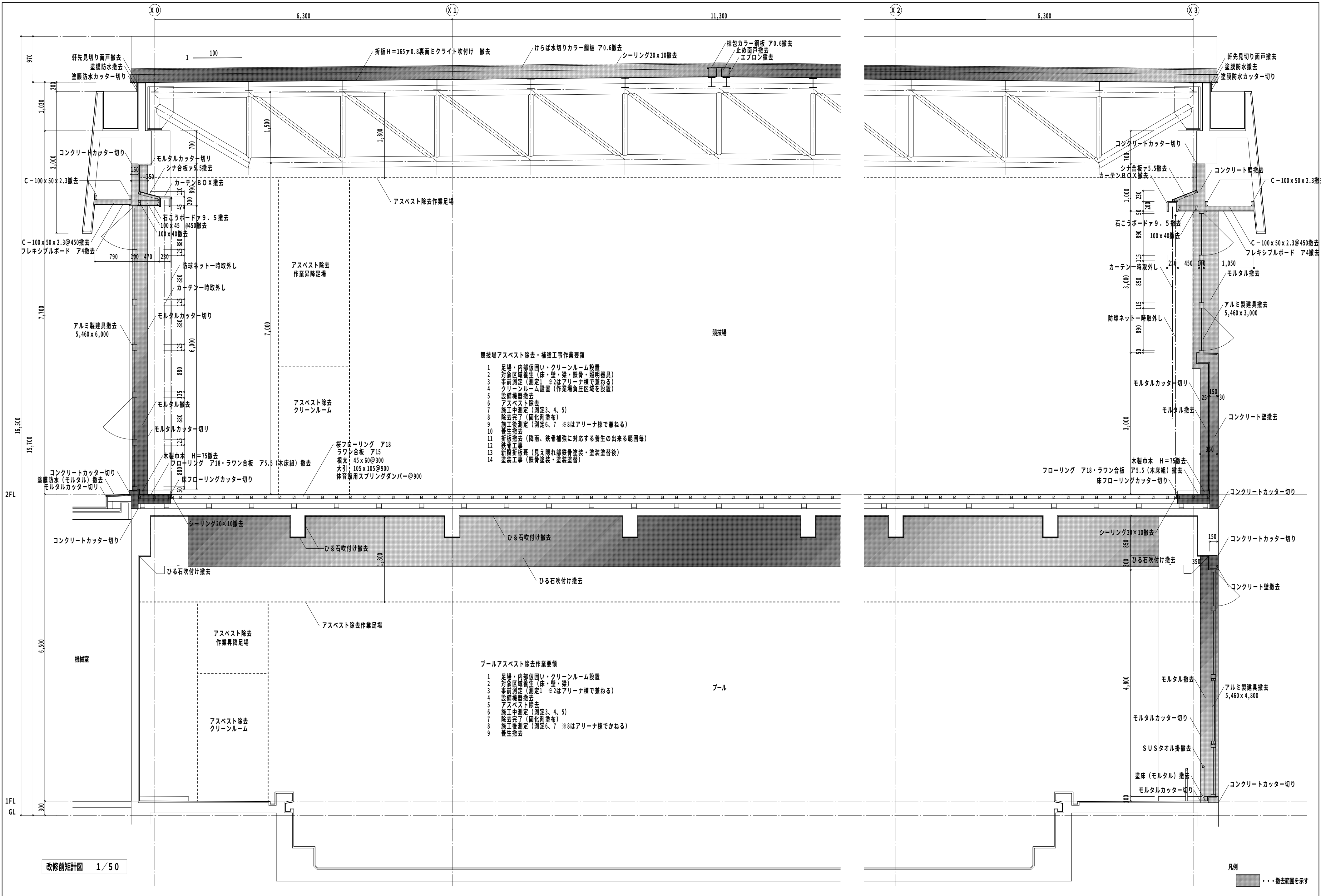


M A 設 計 事 務 所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

県民体育館耐震補強その他建築主体工事（プール棟）
date 5 / '11 drawn by checked by 信清和呂

2階天井伏図
scale 1/200

意匠
83

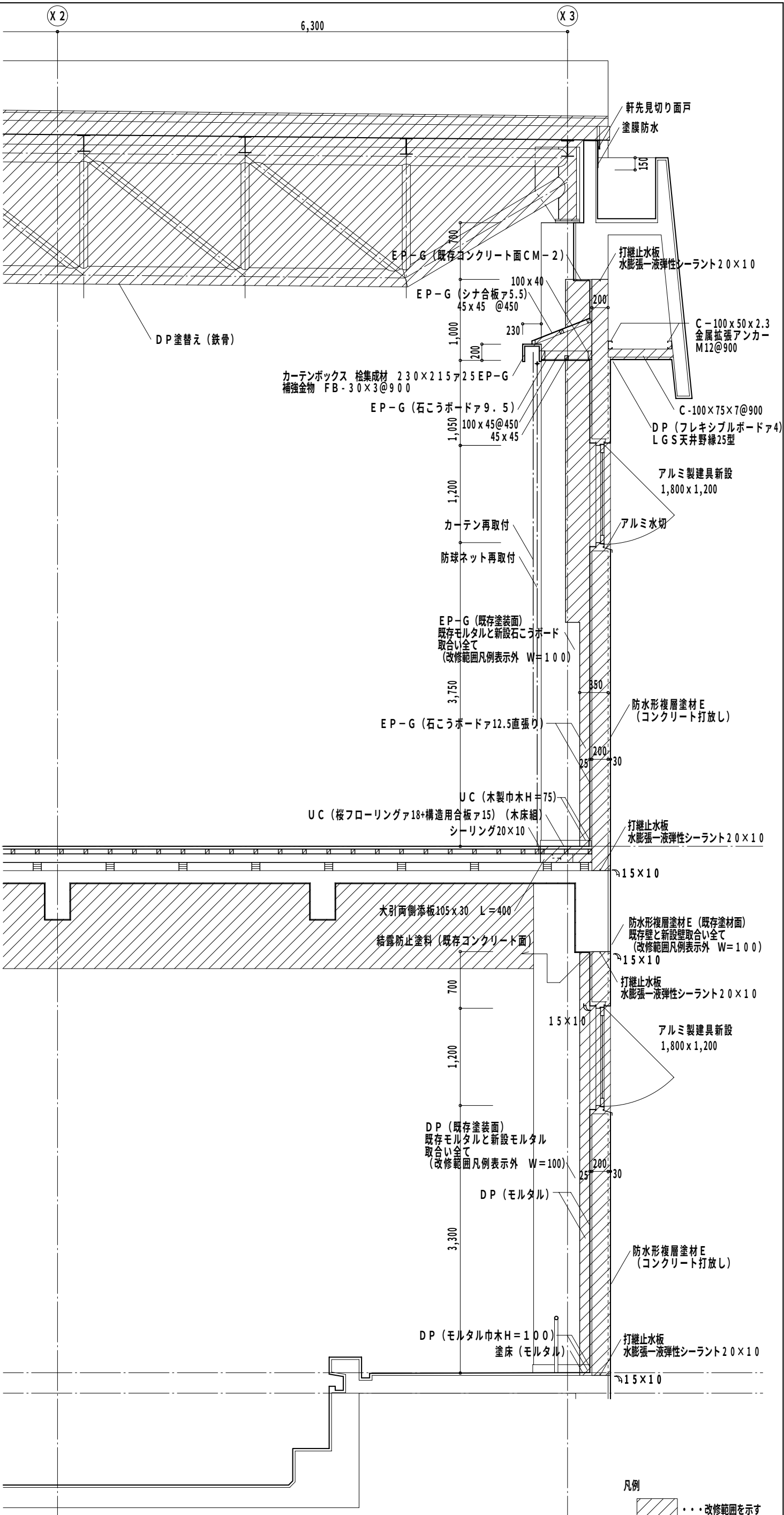
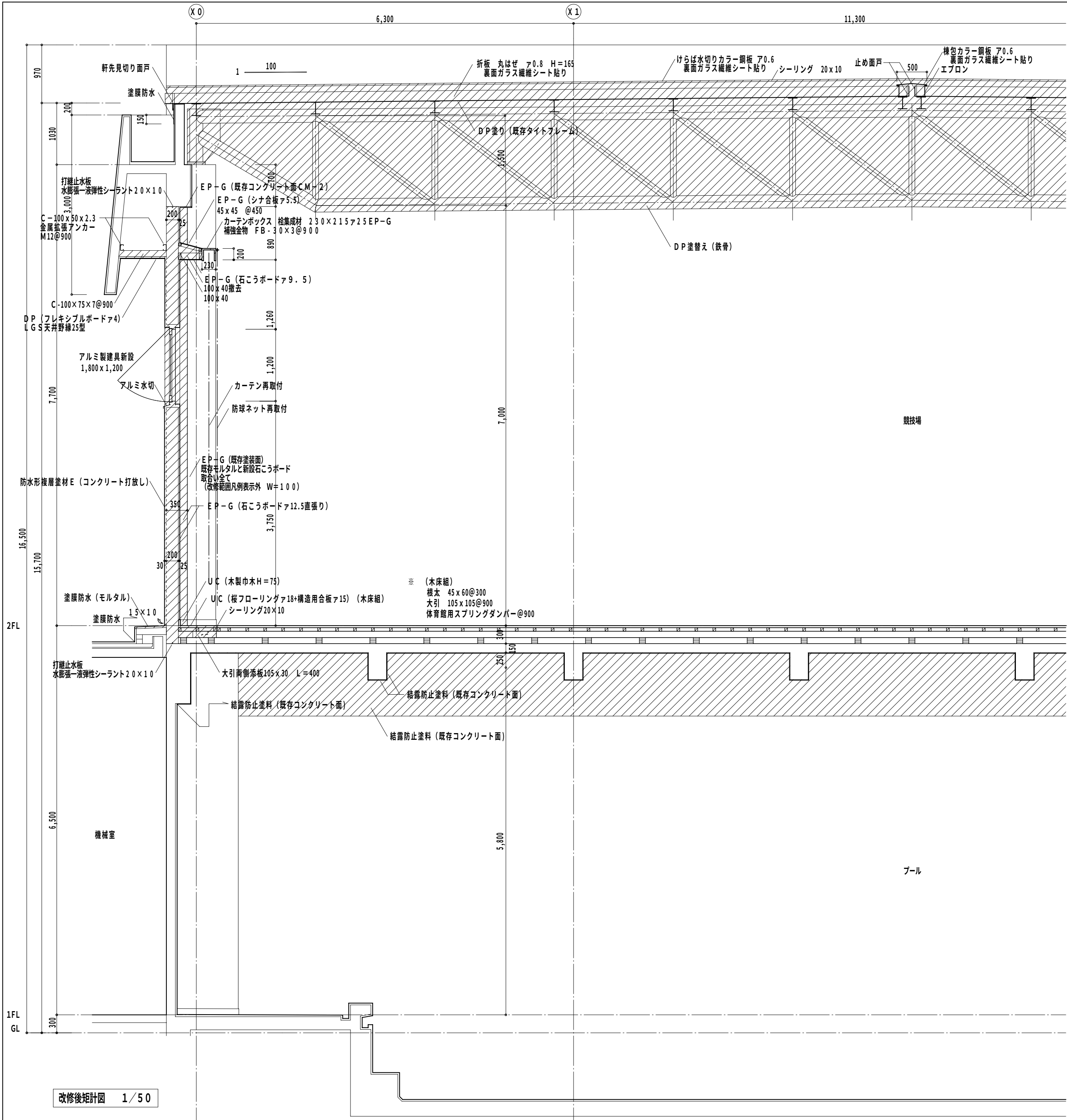


競技場アスベスト除去・補強工事作業要領

- 1 足場・内部仮囲い・クリーンルーム設置
- 2 対象区域養生（床・壁・梁・鉄骨・照明器具）
- 3 事前測定（測定1 ※2はアリーナ棟で兼ねる）
- 4 クリーンルーム設置（作業場負圧区域を設置）
- 5 設備機器撤去
- 6 アスベスト除去
- 7 施工中測定（測定3、4、5）
- 8 除去完了（国化剤塗布）
- 9 施工後測定（測定6、7 ※8はアリーナ棟で兼ねる）
- 10 養生撤去
- 11 折板撤去（降雨、鉄骨補強に対応する養生の出来る範囲毎）
- 12 鉄骨工事
- 13 新設折板葺（見え隠れ部鉄骨塗装・塗装塗替後）
- 14 塗装工事（鉄骨塗装・塗装塗替）

プールアスベスト除去作業要領

- 1 足場・内部仮囲い・クリーンルーム設置
- 2 対象区域養生（床・壁・梁）
- 3 事前測定（測定1 ※2はアリーナ棟で兼ねる）
- 4 設備機器撤去
- 5 アスベスト除去
- 6 施工中測定（測定3、4、5）
- 7 除去完了（国化剤塗布）
- 8 施工後測定（測定6、7 ※8はアリーナ棟で兼ねる）
- 9 養生撤去



Special note
introductory remarks

□ 木材の材種は床組みは桧、外下地材は杉とする
木製巾木の材種はラワンとする



M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

県民体育館耐震補強その他建築主体工事（プール棟）

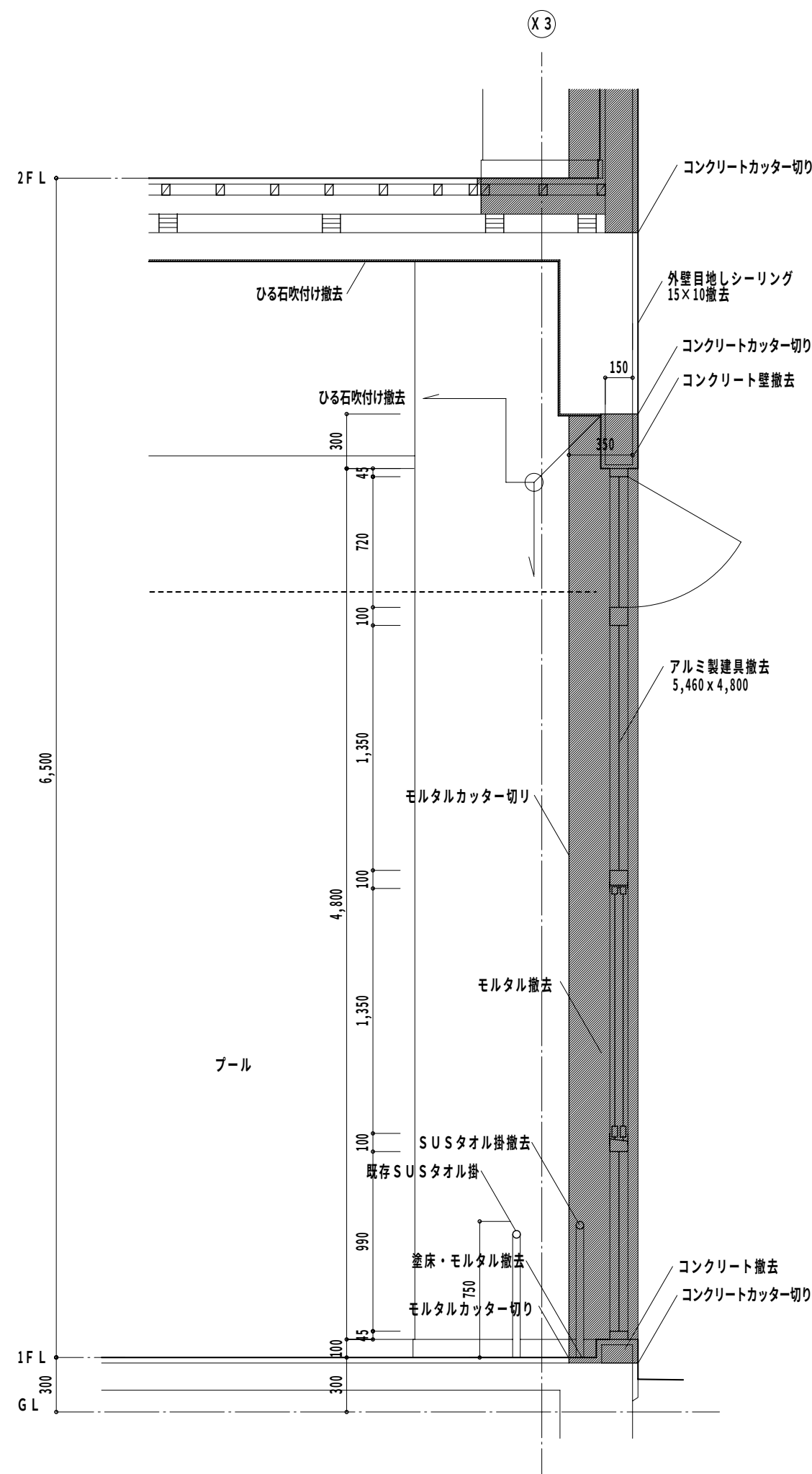
date 5 / '11 drawn by checked by 信清和呂

改修後 矩計図

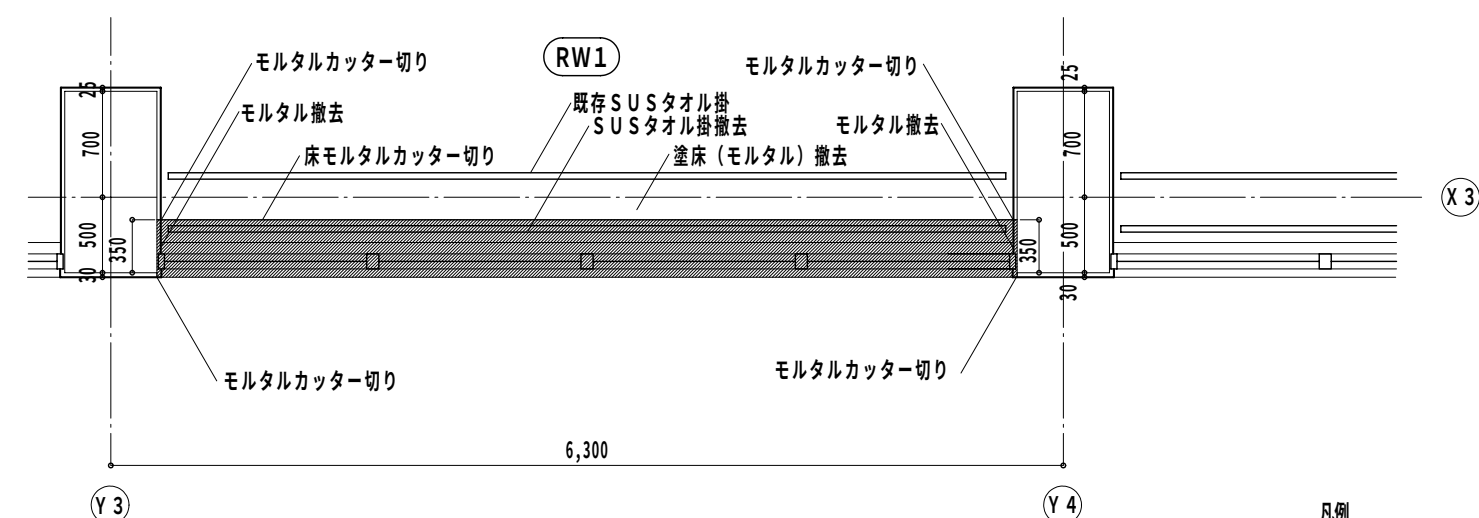
scale 1 / 50

意匠

85



改修前 1階 (X3) 通断面詳細図 1/30

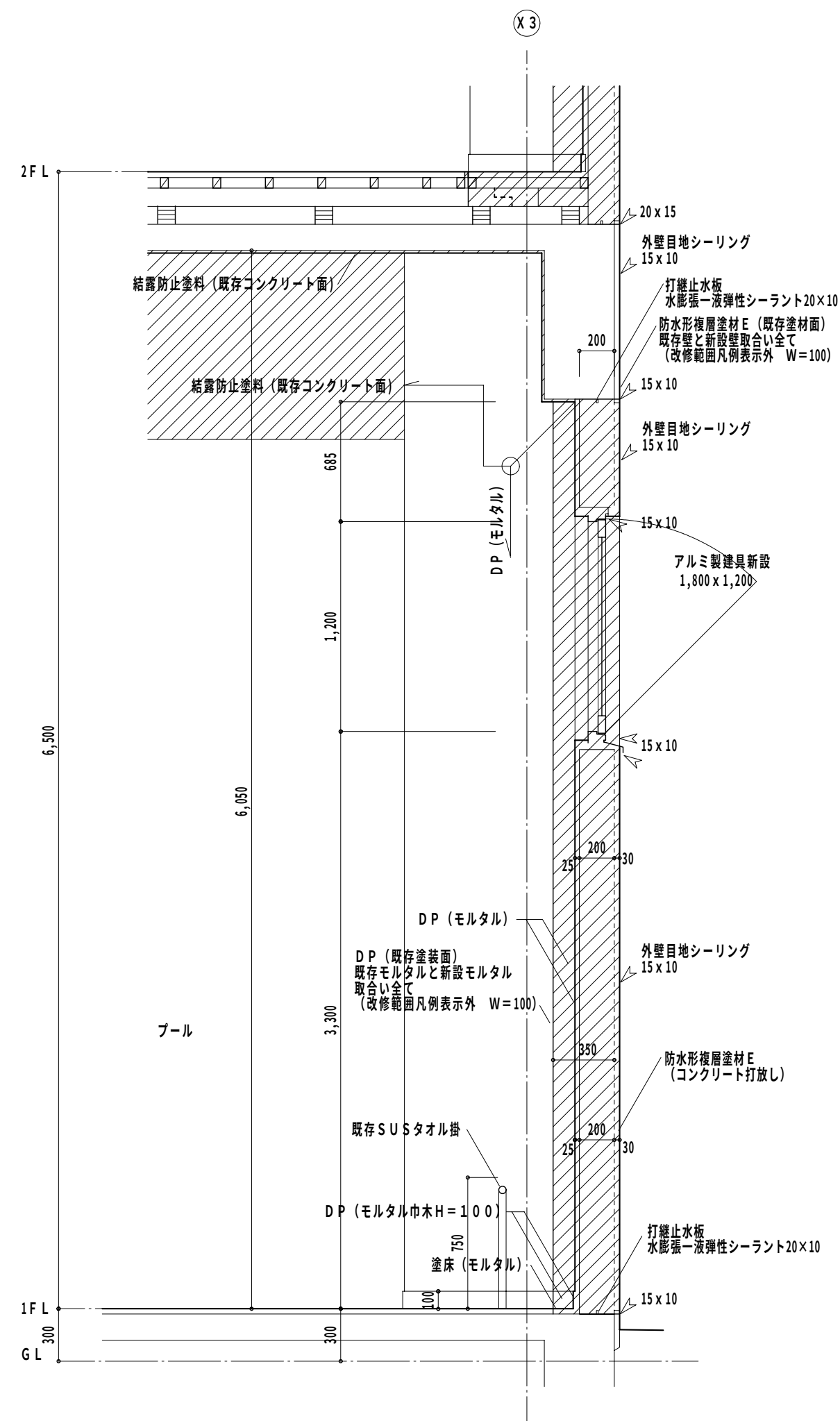


改修前 1階 (X3) 通平面詳細図 1/50

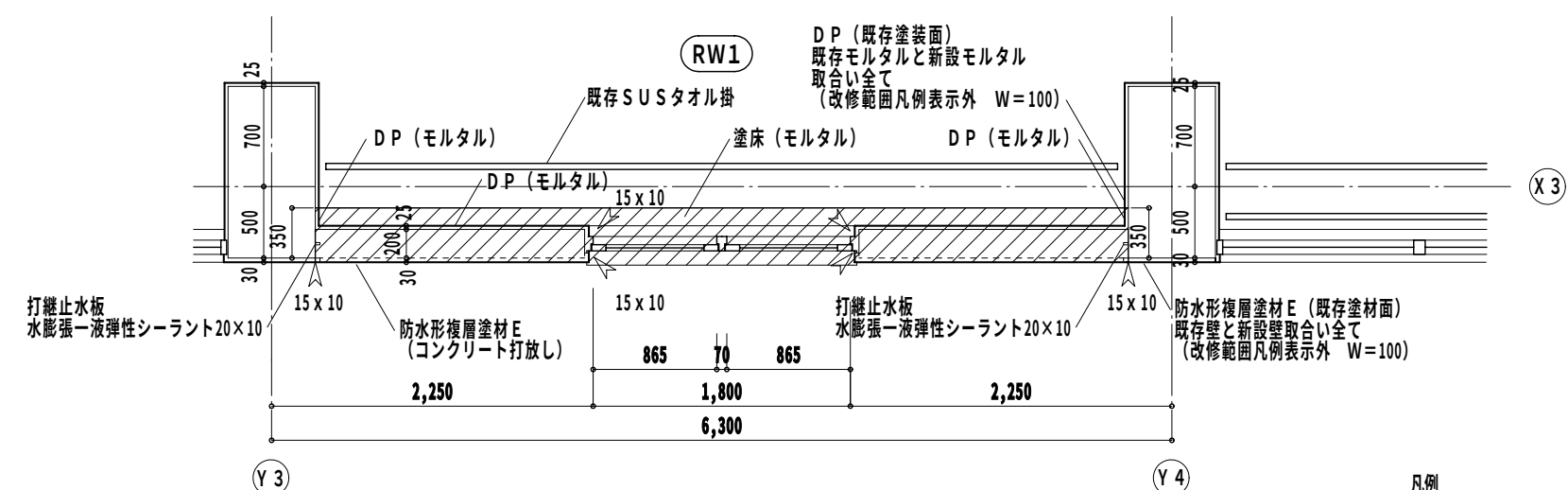
凡例

...撤去範囲を示す

RW1



改修後 1階 (X3) 通断面詳細図 1/30



改修後 1階 (X3) 通平面詳細図 1/50

凡例

...改修範囲を示す

RW1

Special note
introductory remarks

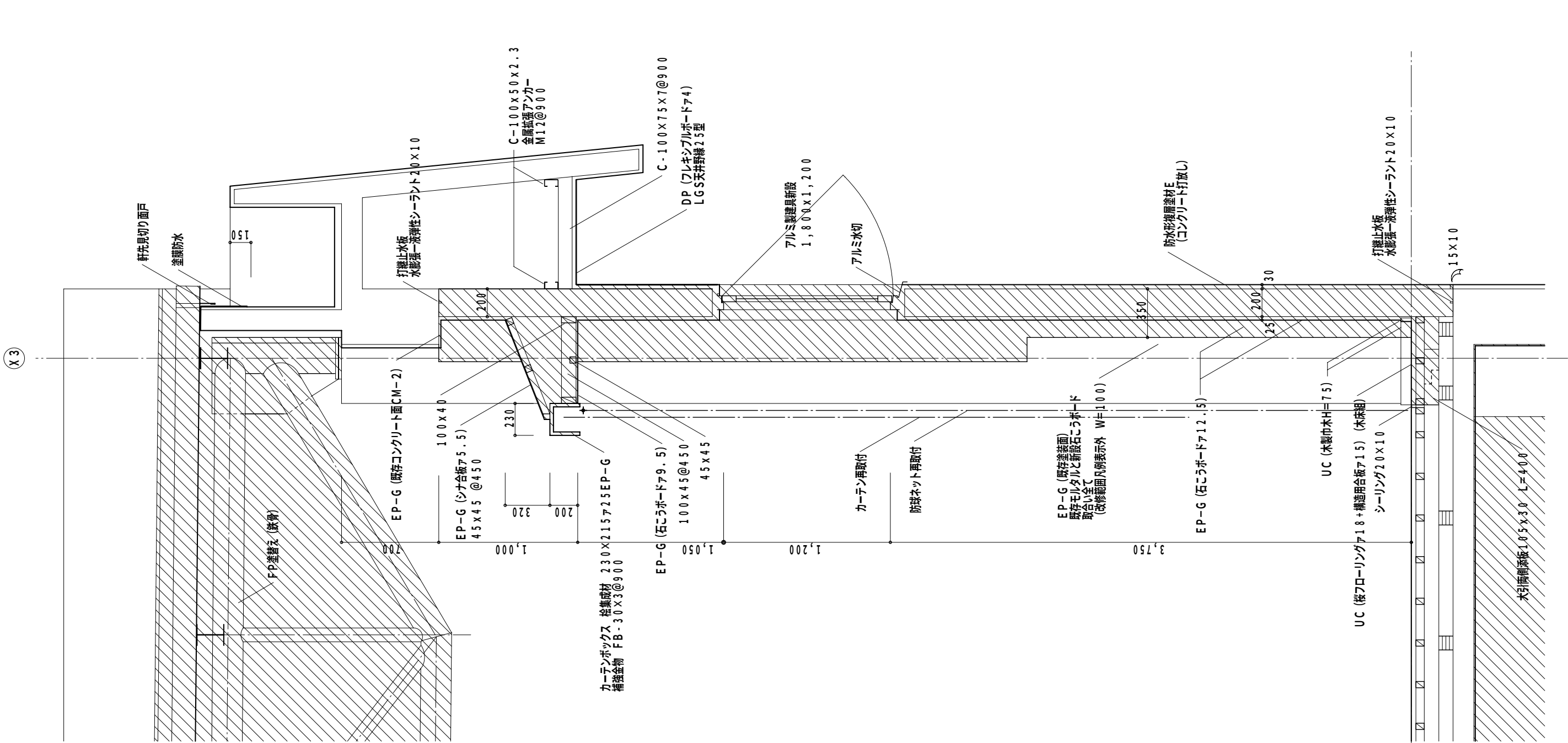
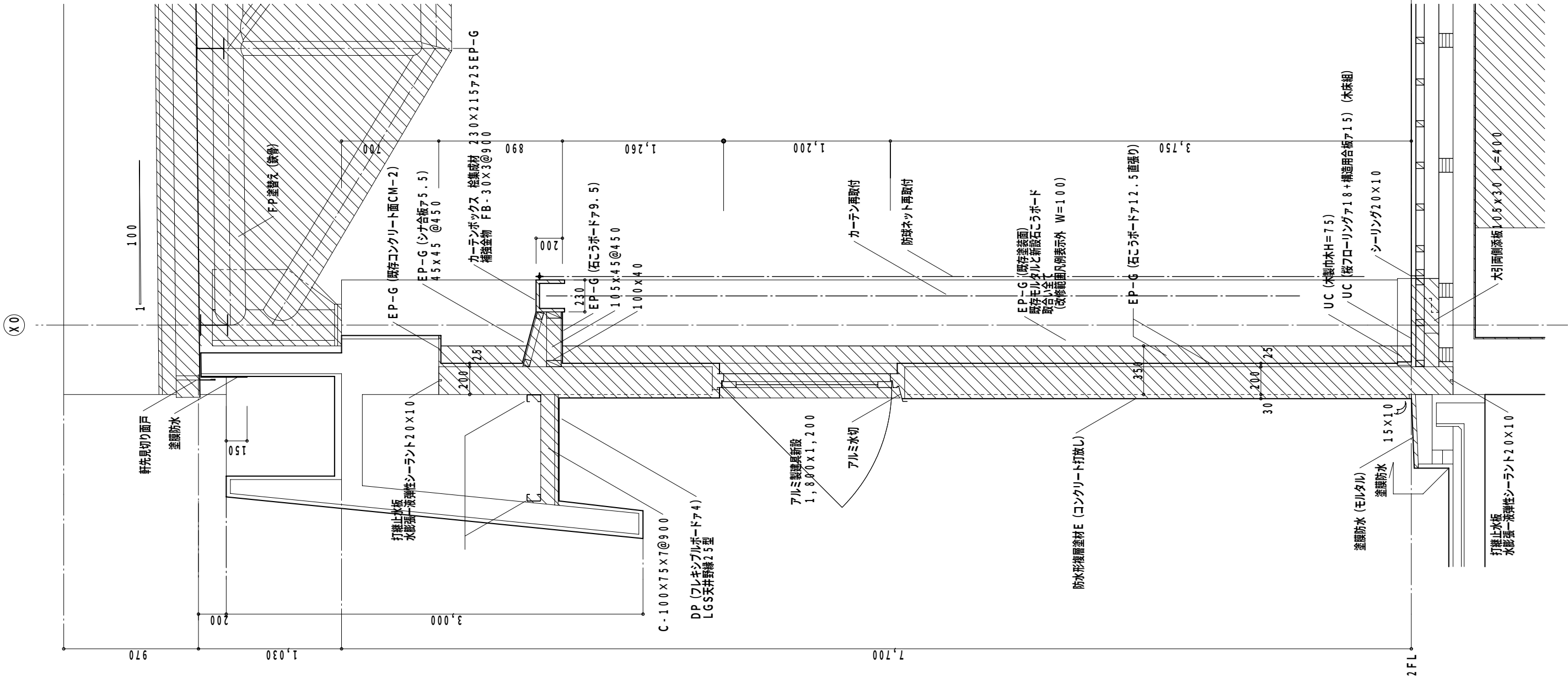


M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

県民体育館耐震補強その他建築主体工事（プール棟）
date 5 / '11 drawn by checked by 信清和呂

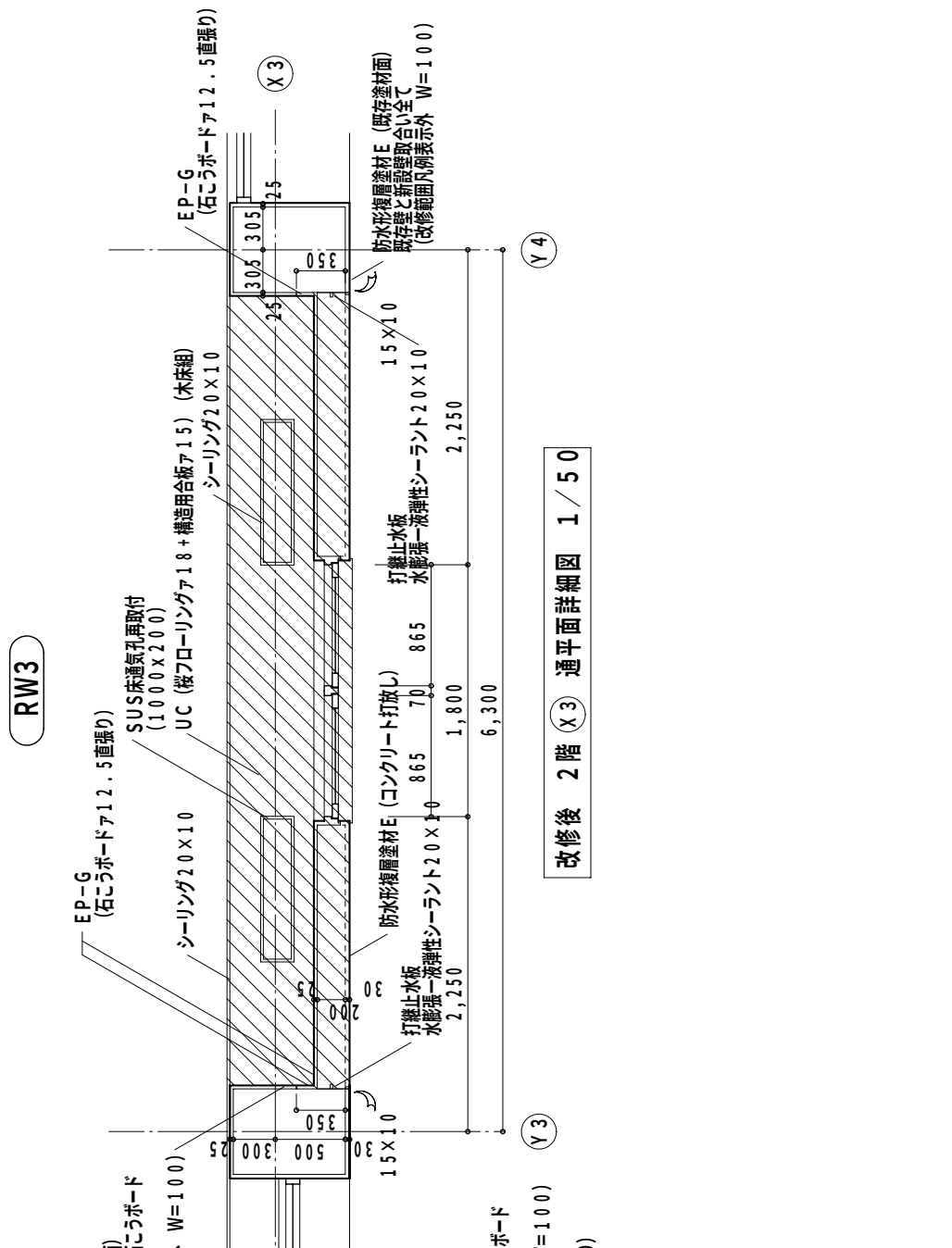
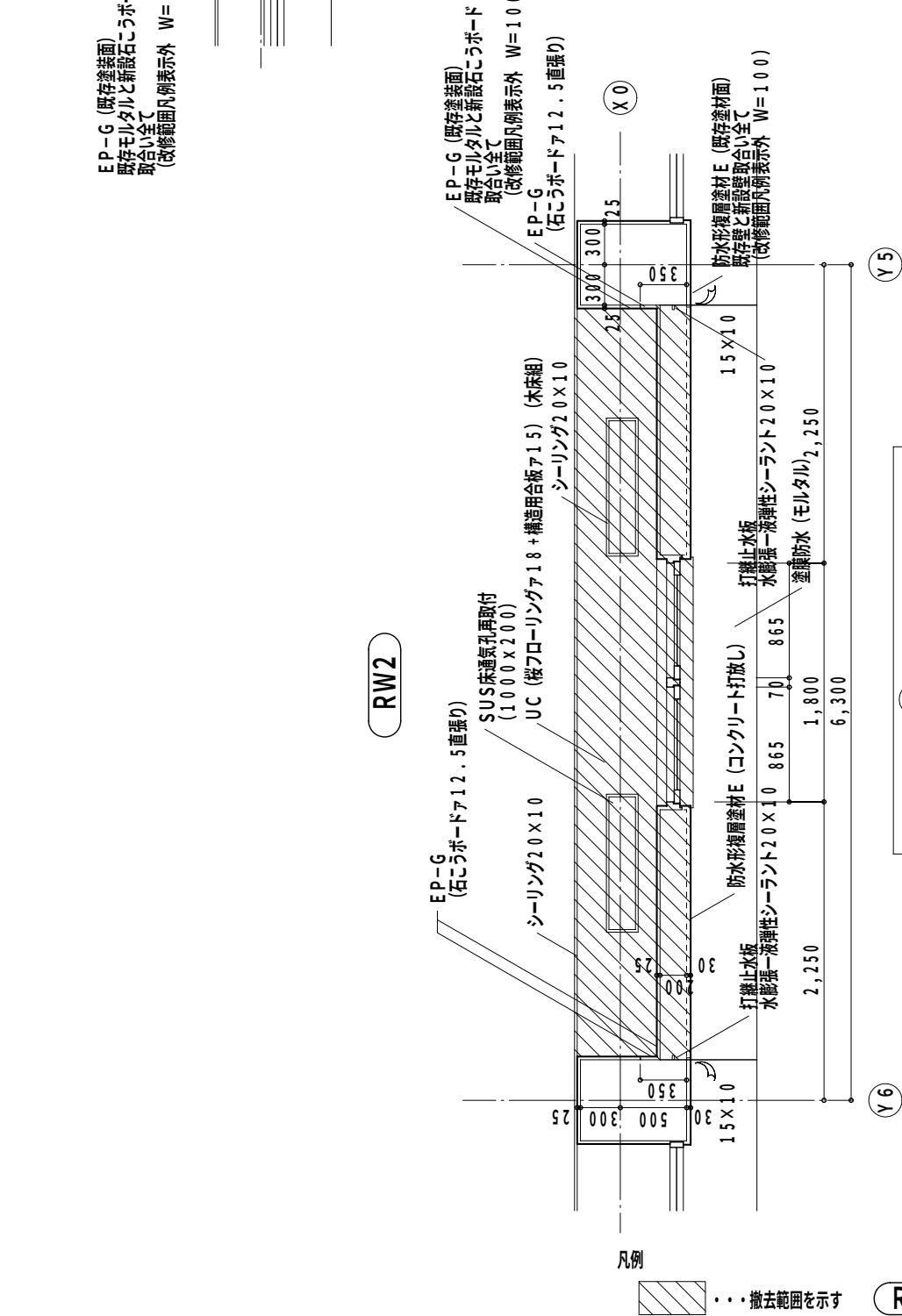
プール詳細図
scale 1/30・50

意匠
86



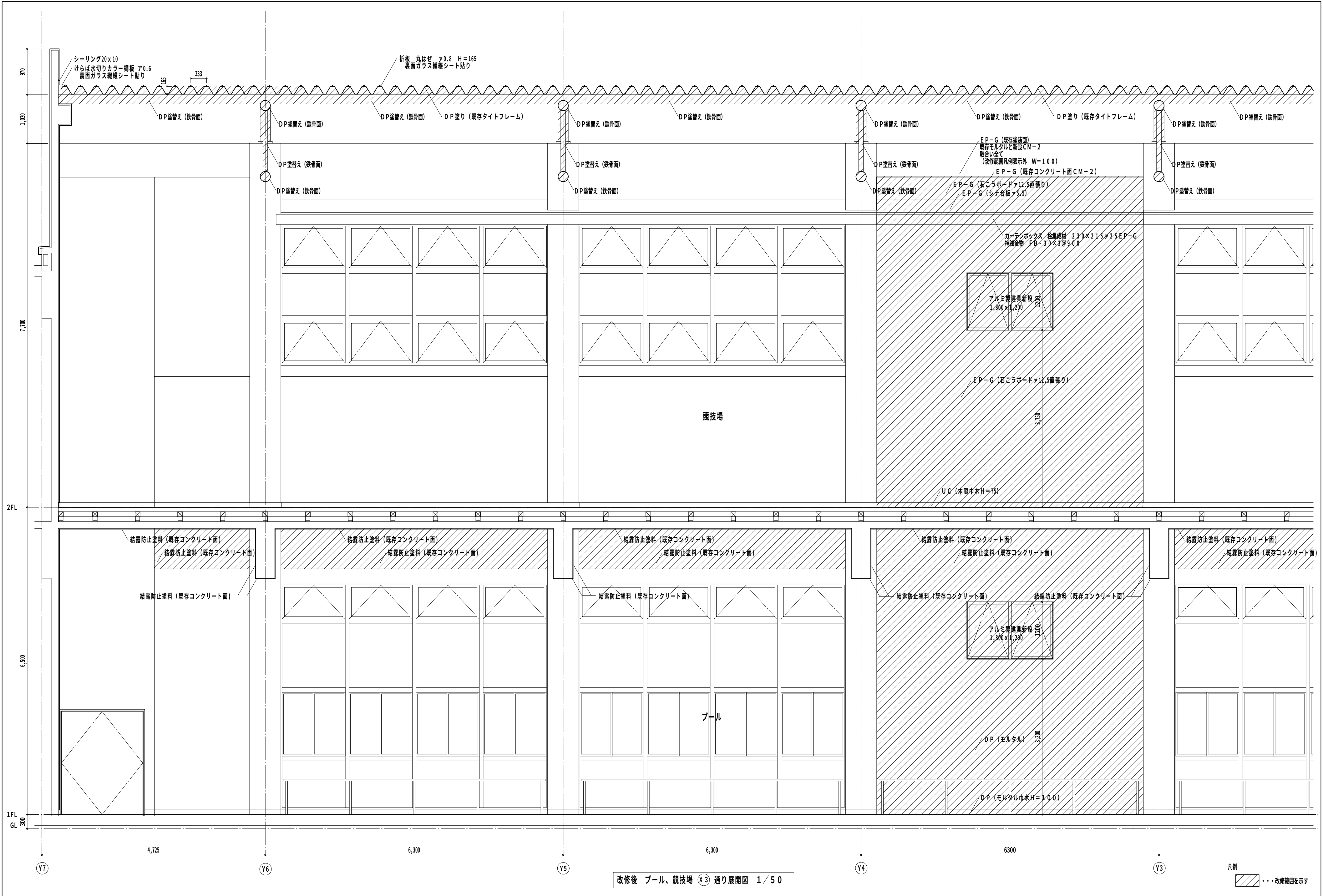
改修後 2階 (X0) 通断面詳細図 1/30

改修後 2階 (X3) 通断面詳細図 1/30



改修後 2階 (X0) 通平面詳細図 1/50

改修後 2階 (X3) 通平面詳細図 1/50



Special note
introductory remarks

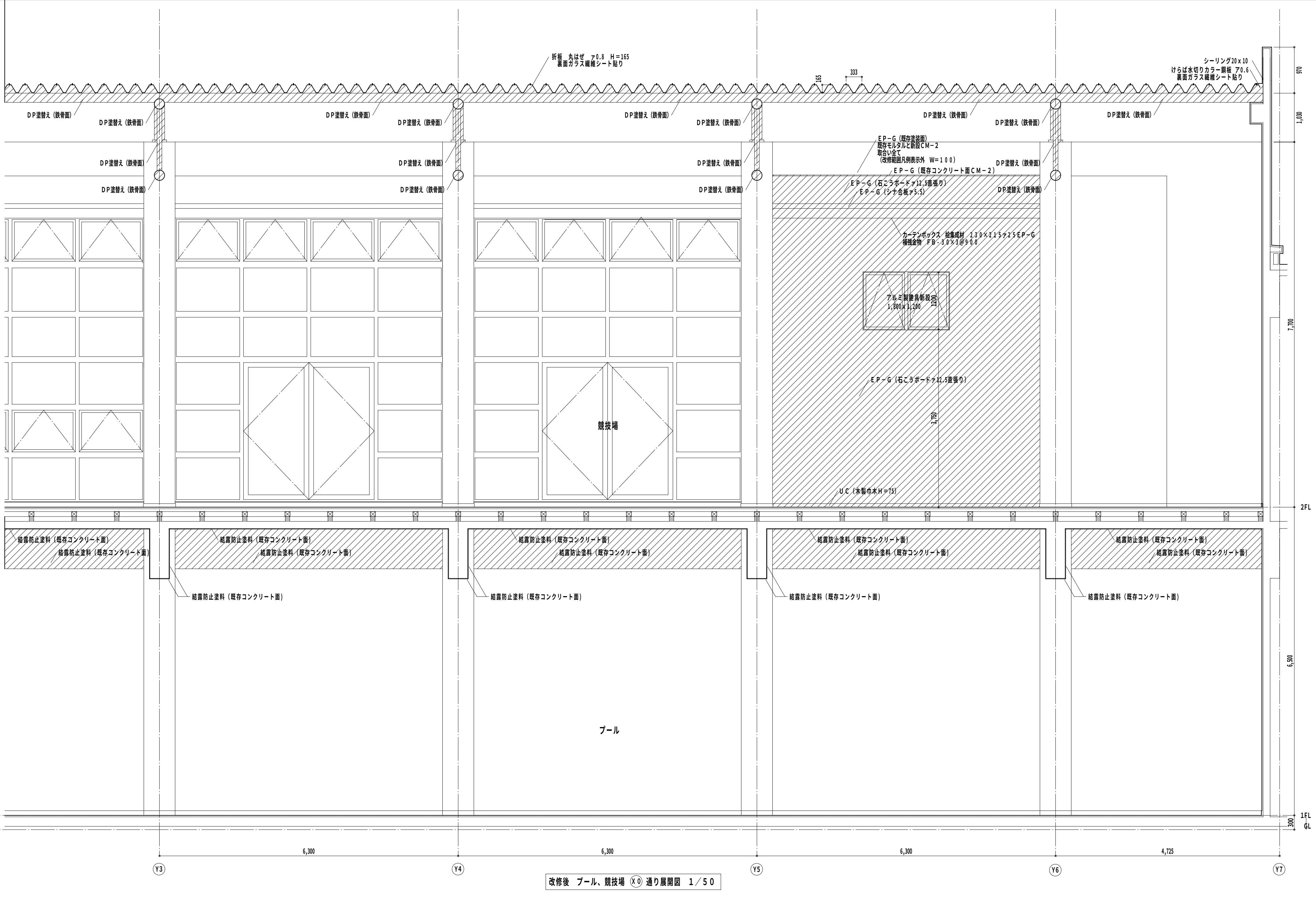


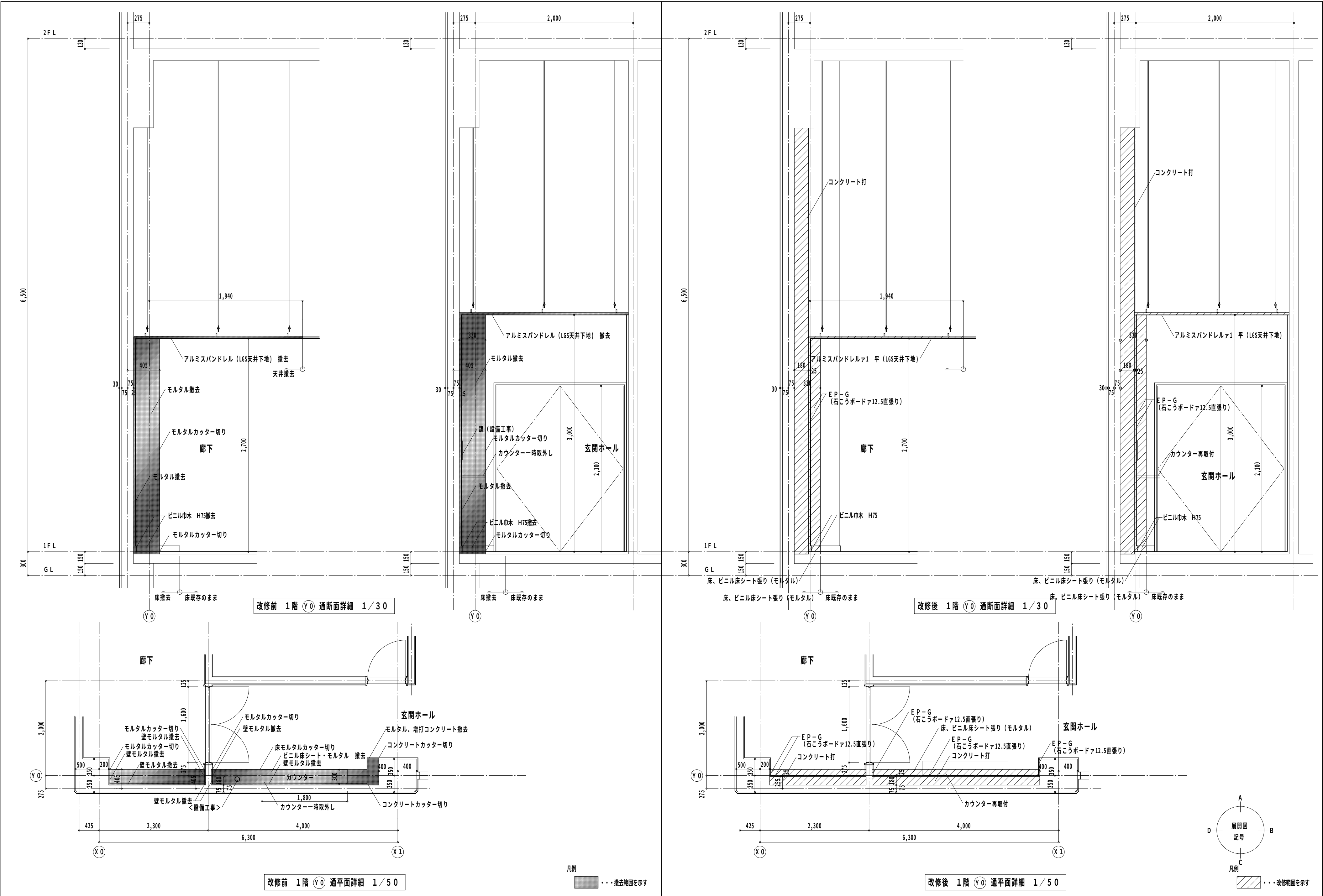
M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

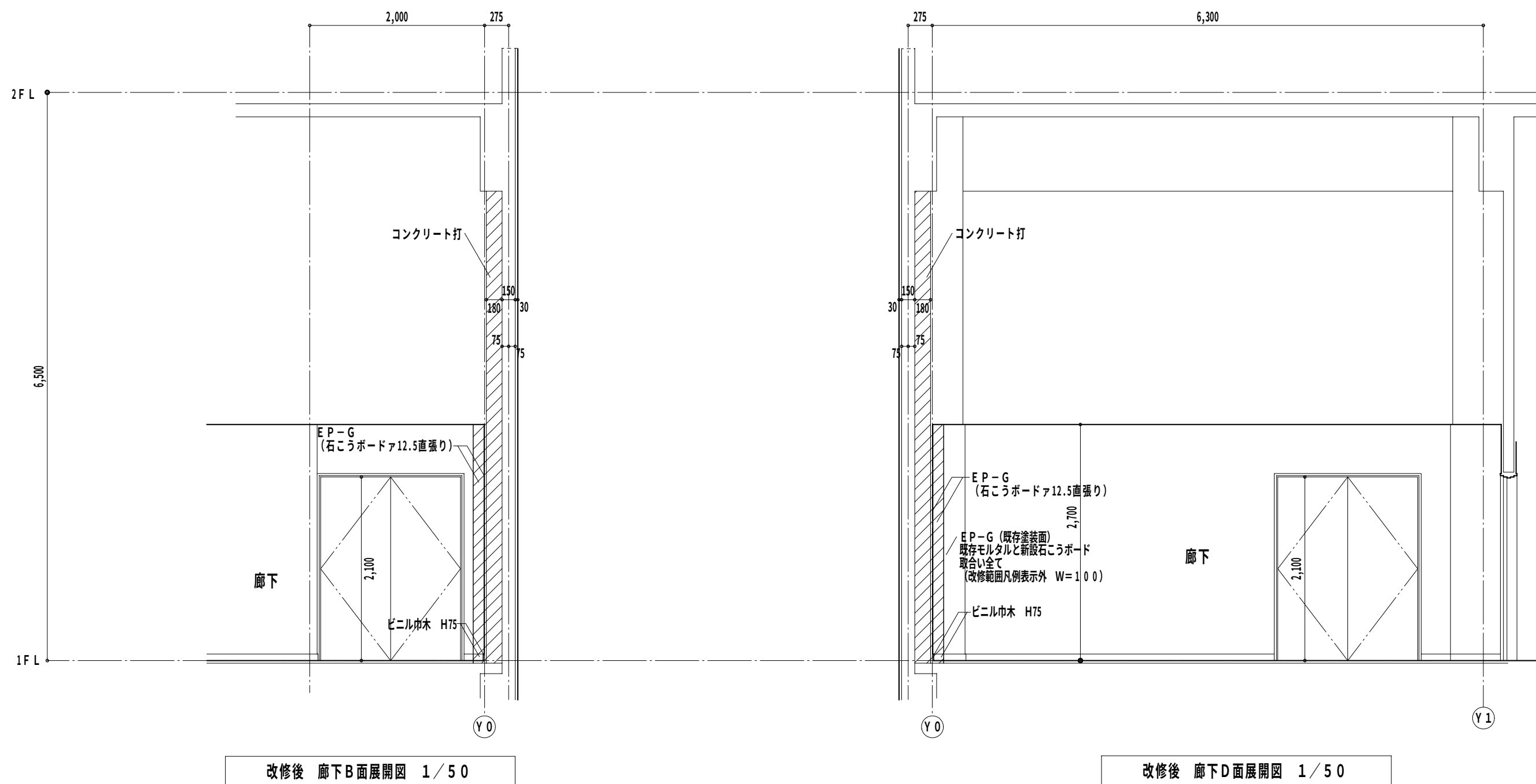
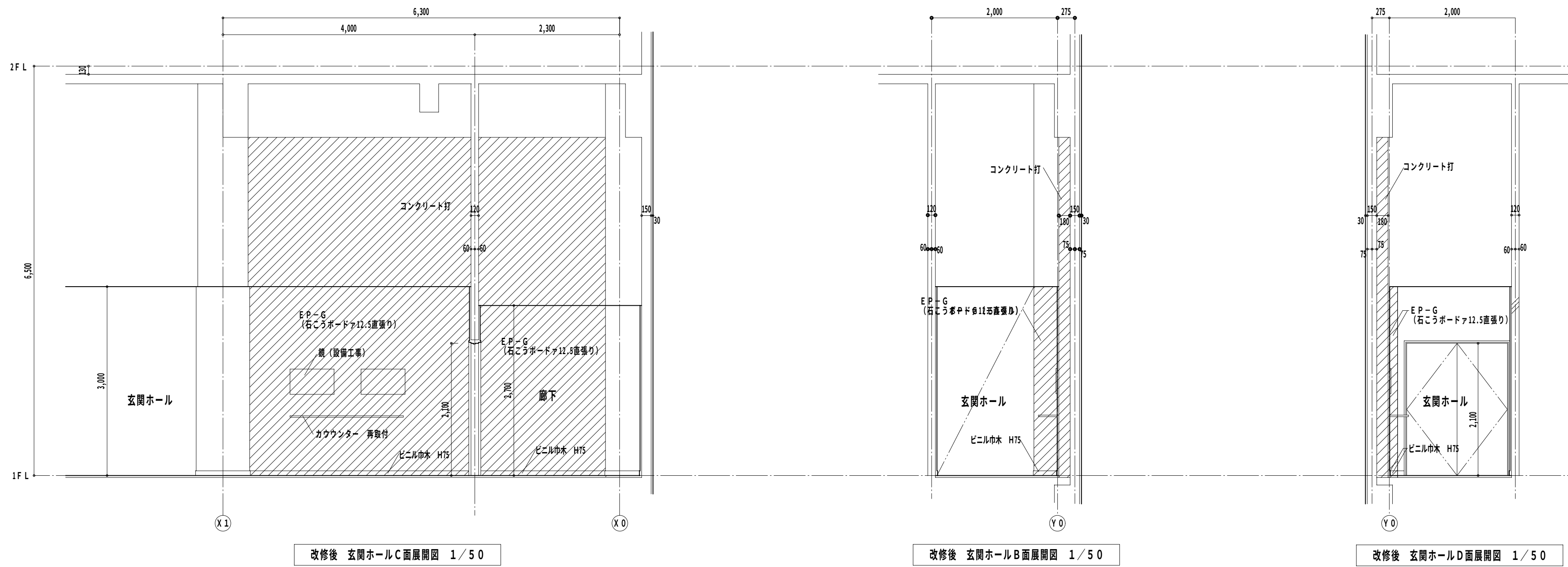
県民体育館耐震補強その他建築主体工事（プール棟）
date 5 / '11 drawn by checked by 信清和呂

改修後 プール・競技場
展開図 (1)
scale 1/ 50

意匠
89







凡例
... 改修範囲を示す

Special note
introductory remarks

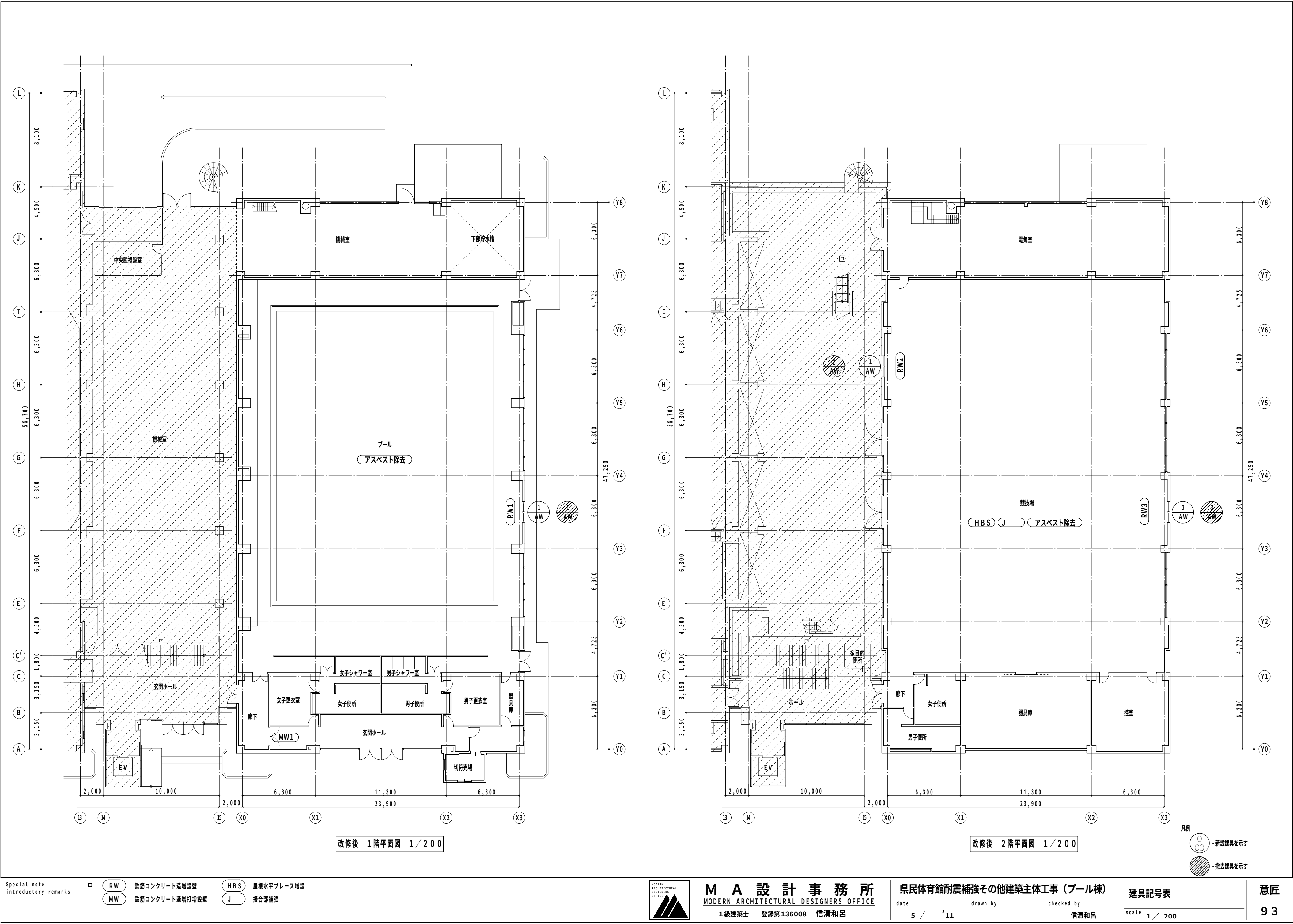


M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

県民体育館耐震補強その他建築主体工事（プール棟）
date 5 / '11 drawn by checked by 信清和呂

改修後 玄関ホール・廊下
展開図
scale 1/50

意匠
92



Special note
introductory remarks

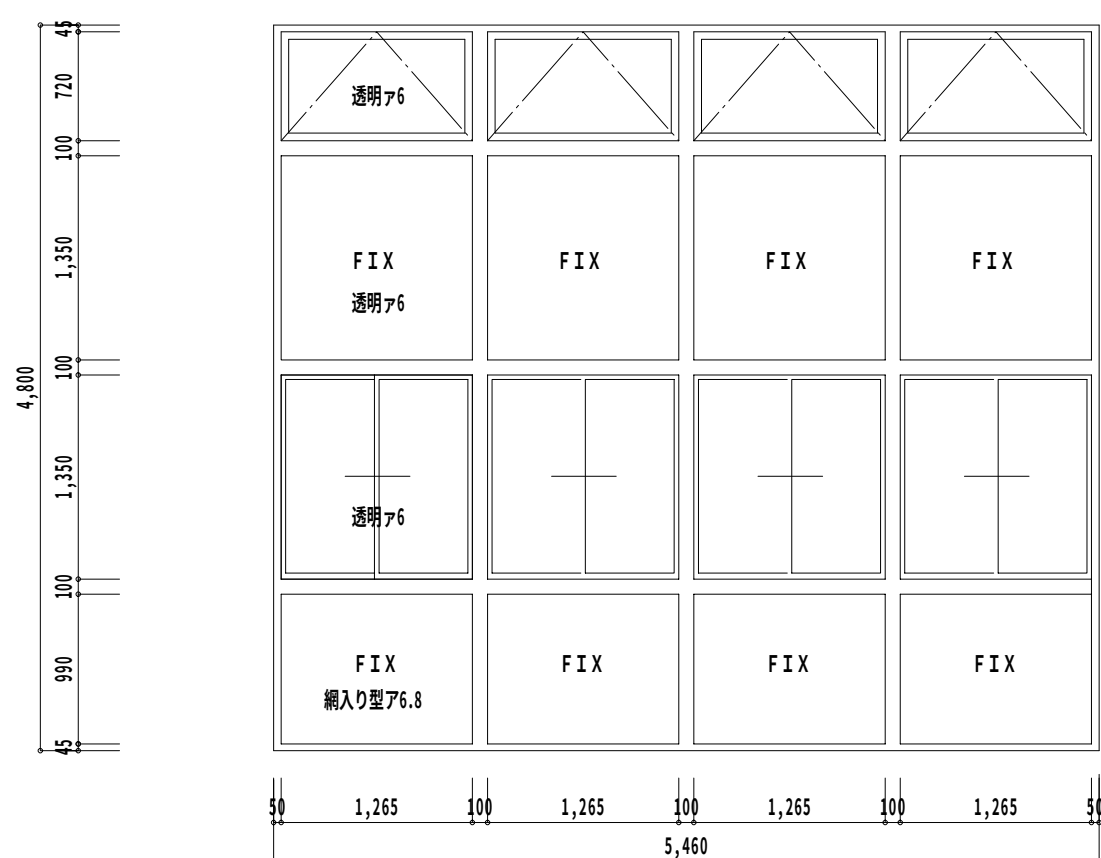
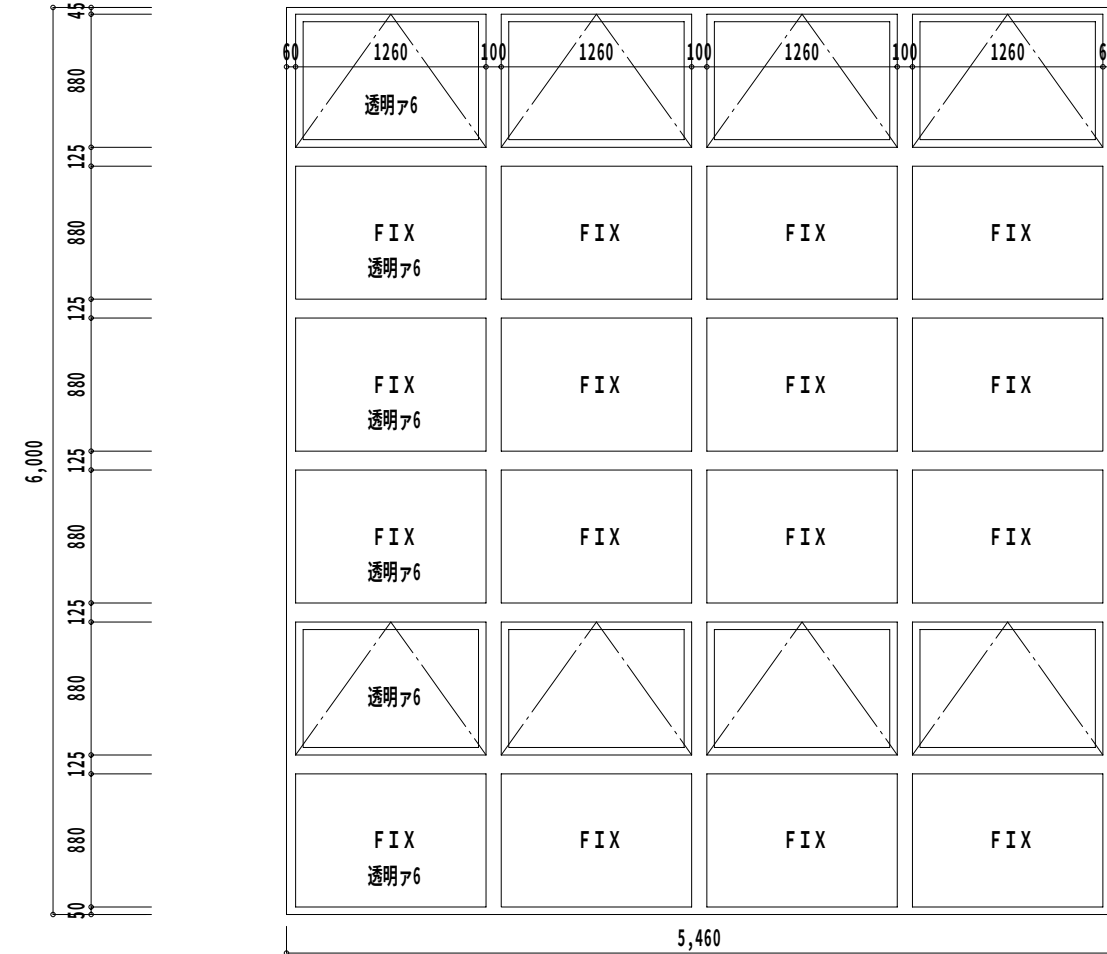
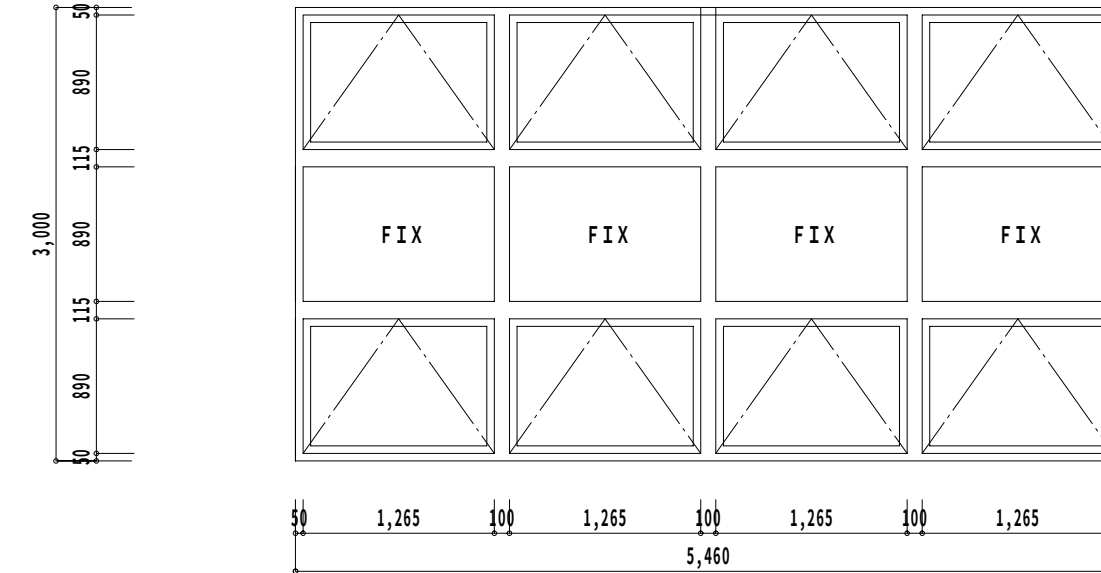
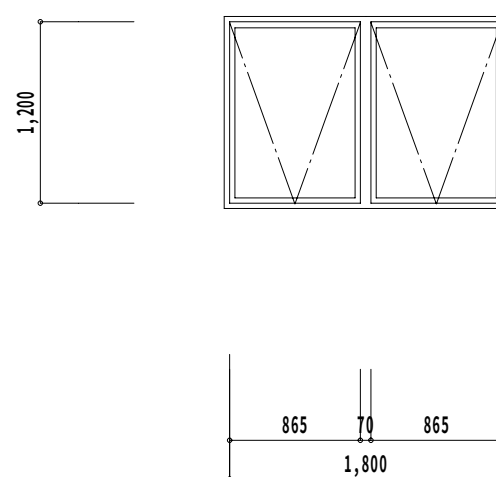
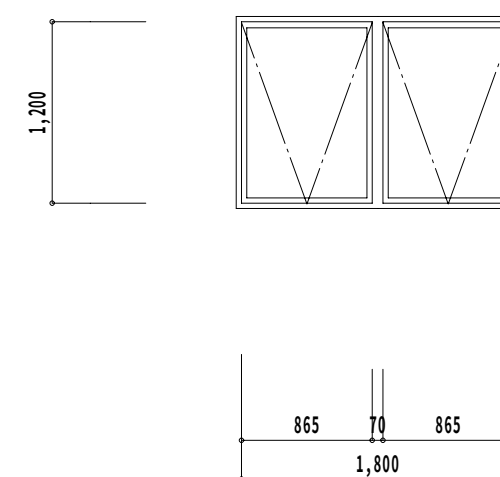
□ RW 鉄筋コンクリート造増設壁 HBS 屋根水平ブレース増設
MW 鉄筋コンクリート造増打増設壁 J 接合部補強

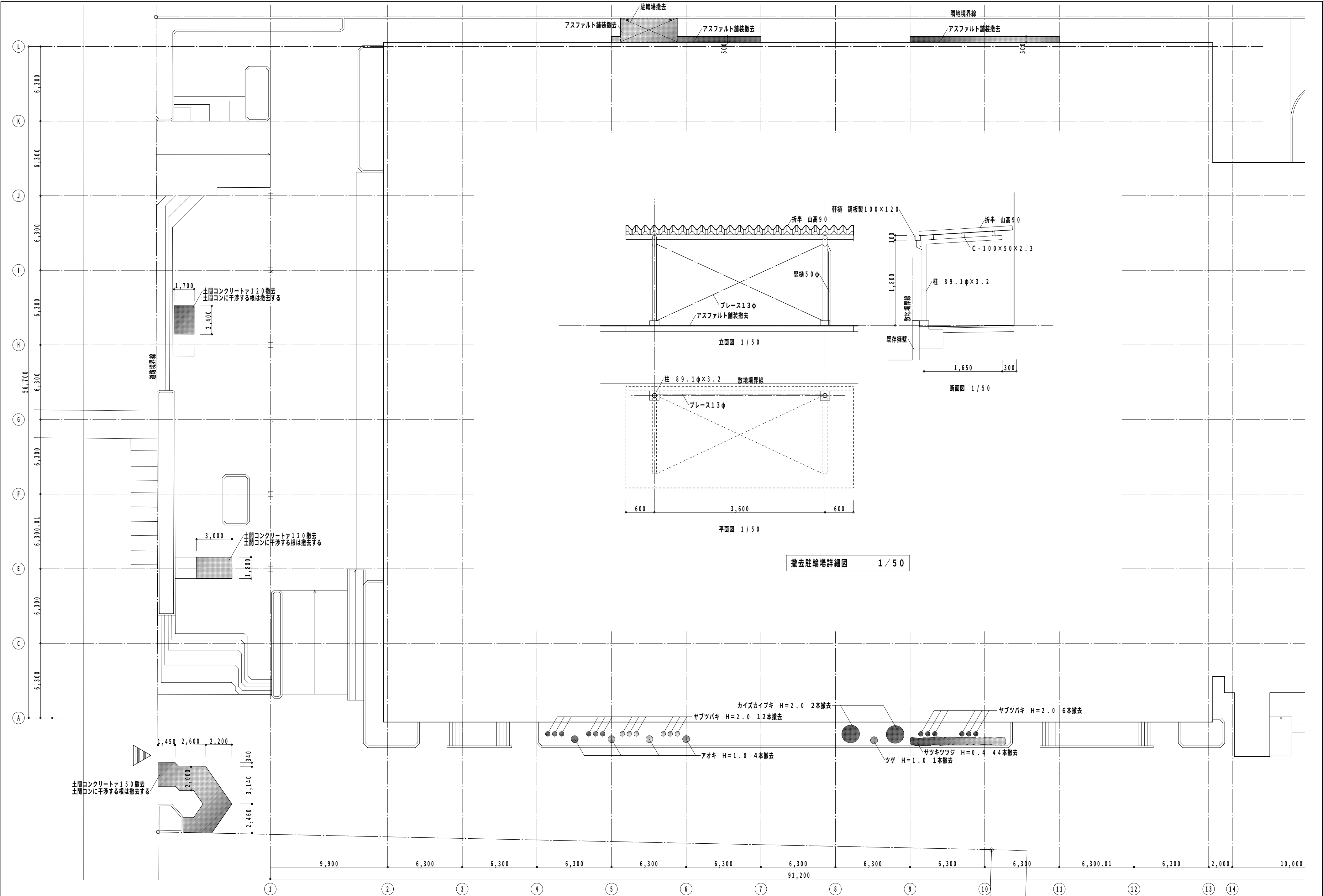


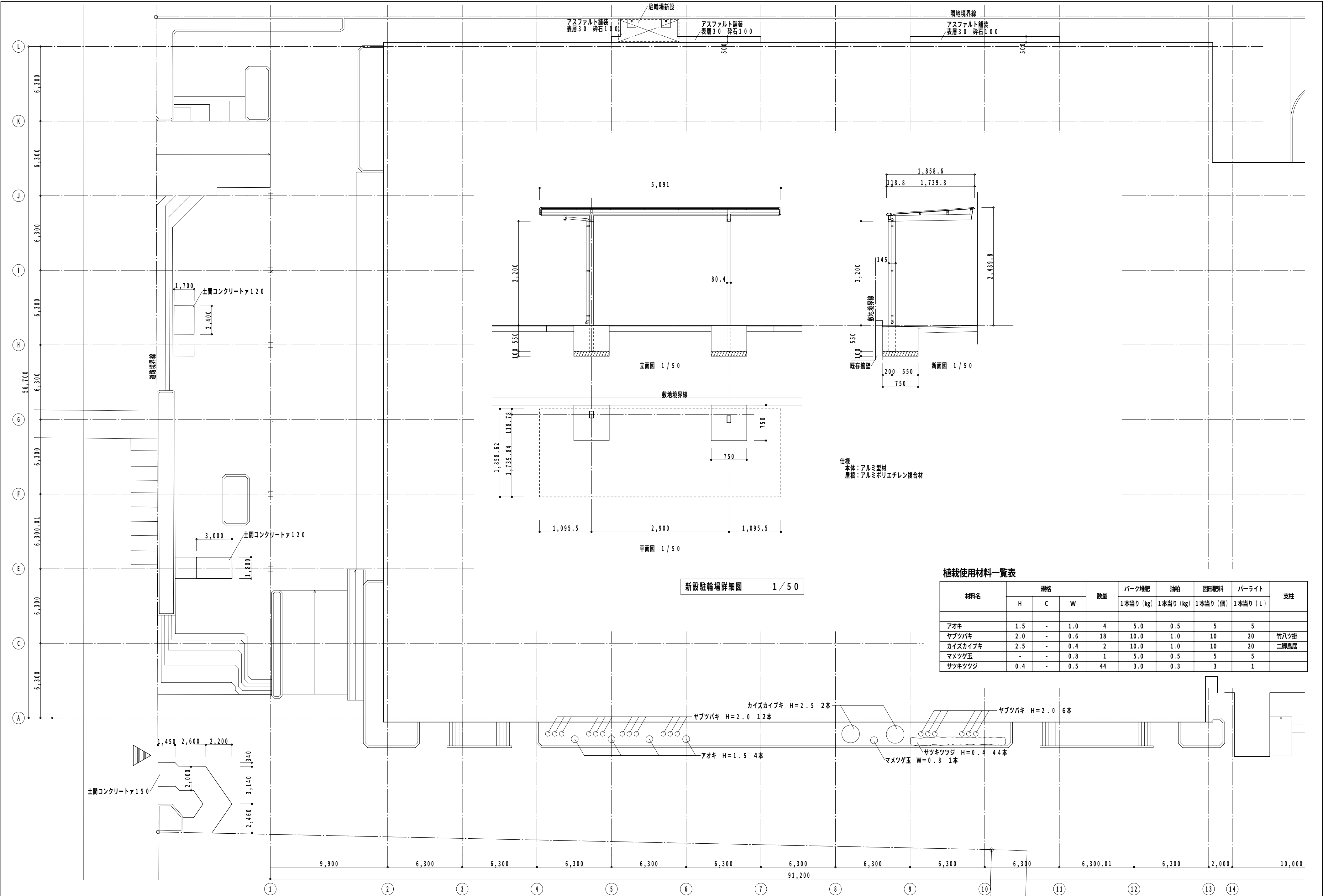
M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

県民体育館耐震補強その他建築主体工事（プール棟）
date 5 / '11 drawn by checked by 信清和呂

建具記号表
scale 1 / 200
意匠 93

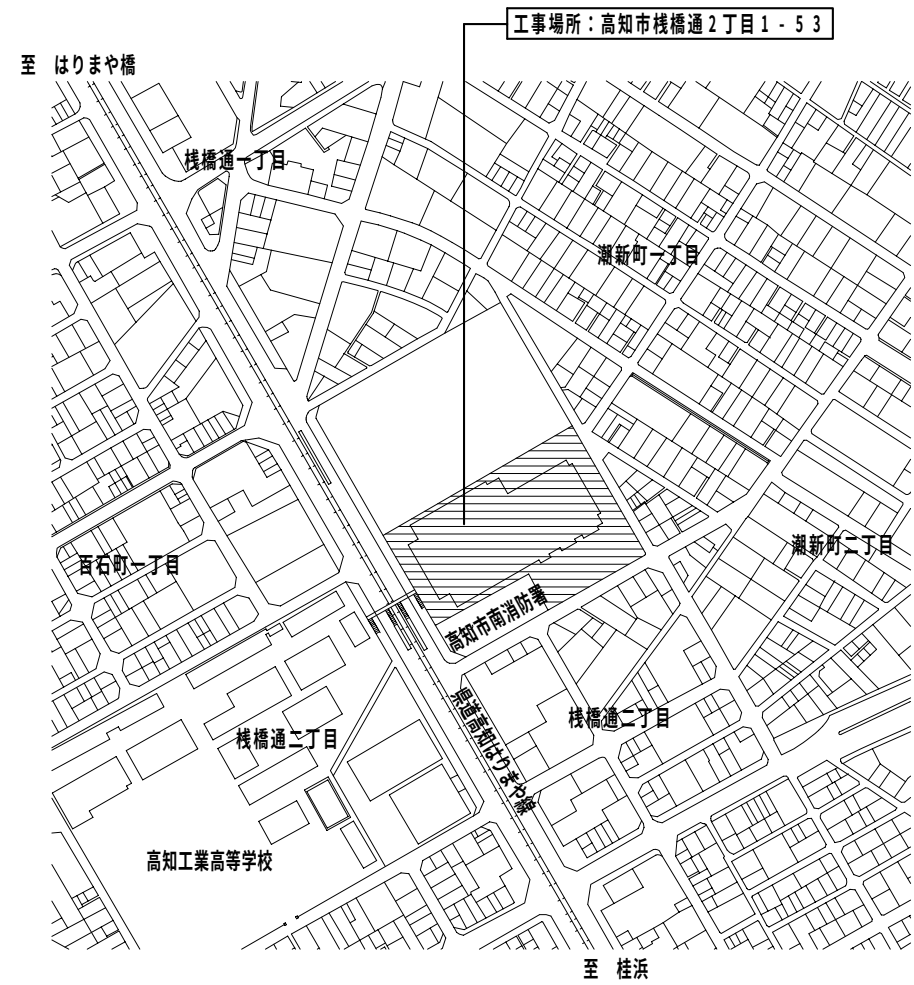
番号 記号		名称		番号 記号		名称		番号 記号		名称								
姿図 寸法		4段4連F I X付突き出し窓（撤去）			6段4連F I X付突き出し窓（撤去）			3段4連F I X付突き出し窓（撤去）										
		材種	見込		アルミ	125		材種	見込	アルミ	125	材種	見込	アルミ	100			
		仕上	硝子		B-1	透明ア6 網入り型ア6.8		仕上	硝子	B-1	透明ア6 網入り型ア6.8	仕上	硝子	B-1	網入り型ア6.8			
		金物	付属金物1式、 上部、電動式開閉オペレーター撤去					金物	付属金物1式、上部電動式開閉オペレーター撤去				金物	付属金物1式、上下電動式開閉オペレーター撤去				
		備考				可動式アミ戸（引違い窓）												
数量	場所	1	1階 プール	1	2階 競技場	1	2階 競技場	1	2階 競技場									
番号 記号		名称		番号 記号		名称		番号 記号		名称								
姿図 寸法		1 AW 新設2連外倒し窓			2 AW 新設2連外倒し窓													
		材種	見込		アルミ	100												
		仕上	硝子		B-1	強化ガラスア5	仕上	硝子	B-1	網入り型ア6.8								
		金物	水切りL=115 付属金物1式 オペレーター				金物	水切りL=115 付属金物1式 オペレーター										
		備考																
数量	場所	2	1階 プール 2階 競技場	1	2階 競技場													



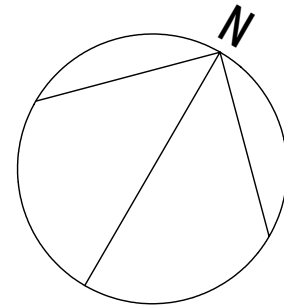
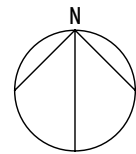


植栽使用材料一覧表

材料名	規格			数量	パーク堆肥	油粕	固形肥料	パーライト	支柱
	H	C	W		1本当り (kg)	1本当り (kg)	1本当り (個)	1本当り (L)	
アオキ	1.5	-	1.0	4	5.0	0.5	5	5	
ヤブツバキ	2.0	-	0.6	18	10.0	1.0	10	20	竹ハツ掛
カイズカイブキ	2.5	-	0.4	2	10.0	1.0	10	20	二脚鳥居
マメツグ玉	-	-	0.8	1	5.0	0.5	5	5	
サツキツツジ	0.4	-	0.5	44	3.0	0.3	3	1	



案内図



凡例

- 仮囲いを示す（成形鋼板H=2,000）≒442m
- - - 外部足場を示す
- ⊗ 交通誘導員（1人／1箇所）を示す（計300人）

県道高知はりまや線

L

A

増設車庫線

⊗

クロスゲート
6,000×1,800程度

敷地境界線
≒115m

91,200

高知市南消防署

高知市青年センター

敷地境界線

≒327m

昇降足場

47,250

道路

測量境界線

プール棟

県民体育館

アリーナ棟

玄関ポーチ

駐車場

15

X0

X3

クロスゲート
6,000×1,800程度

道路境界線

道路

駐輪場

配置図 1 / 500

Special note
introductory remarks



工事建物



M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

県民体育館耐震補強その他建築主体工事

date 3 / '11 drawn by checked by 信清和呂

仮設計画図

scale 1 / 500

意匠

99

構造関係共通図(配筋標準図)

1.1 鉄筋の加工

鉄筋の折曲げ内法直径及びその使用箇所は、表1.1を標準とする。

表1.1 鉄筋の折曲げ内法直径

折曲げ 角 度	折曲げ図 (余長)	折曲げ内法直径(D)		
		SD295A SD295B,SD345	SD390	
		D16以下	D19 ~D38	D19 ~D38
180°				
135°				
90°		3d以上	4d以上	5d以上
135° 及び 90° (幅止め筋)				

1. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。

2. 90°未満の折曲げの内法直径は特記による。

2.1 異形鉄筋の末端部

次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。

(1) 柱の四隅にある主筋(図2.1の○)で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合

(2) 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端(図2.1の○)にある場合(基礎梁を除く)

図2.1

(3) 煙突の鉄筋(壁の一部となる場合を含む)

(4) 杭基礎のベース筋

(5) 帯筋、あばら筋及び幅止め筋

3.1 継手及び定着

(a) 鉄筋の重ね継手

(1) 径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。

(2) 鉄筋の重ね継手の長さは、次による。

1) 主筋及び耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、特記による。

2) 1)以外の鉄筋の重ね継手の長さは、表3.1による。

表3.1 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の 種 類	コンクリートの 設計基準強度 F c (N/mm ²)	L ₁ (フックなし)	L _{1h} (フックあり)
SD295A SD295B	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24, 27	35d	25d
SD345	30, 33, 36	35d	25d
	18	50d	35d
	21	45d	30d
SD390	24, 27	40d	30d
	30, 33, 36	35d	25d
	21	50d	35d
SD390	24, 27	45d	35d
	30, 33, 36	40d	30d

(注) 1. L₁, L_{1h}: フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ。

2. フックありの場合のL_{1h}は、図3.1に示すようにフック部分φを含めない。

3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

図3.1 フックありの場合の重ね継手の長さ

(3) 建築基準法施行令第81条第1項(時刻層応答解析計算)、第2項第一号(保有水平耐力計算、限界耐力計算、エネルギー法)以外の計算による場合、梁主筋の柱内定着長さは、フックのありなしにかかわらず40d以上とする。(軽量骨材を使用する場合は50d以上)

(4) 隅り合う継手の位置は、表3.2による。

ただし、壁の場合及びスラブ筋でD16以下の場合は除く。

表3.2 隅り合う継手の位置

(b) 鉄筋の定着

(1) 鉄筋の定着の長さは、次による。

1) 柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着の長さは、特記による。

2) 1)以外の鉄筋の定着の長さは、表3.3及び図3.2による。

表3.3 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の 種 類	コンクリートの 設計基準強度 F c (N/mm ²)	フックなし				フックあり			
		L ₁	L ₂	小梁	スラブ	L _{1h}	L _{2h}	小梁	スラブ
SD295A SD295B	18	45d	40d			35d	30d		
	21	40d	35d			30d	25d		
	24, 27	35d	30d			25d	20d		
SD345	30, 33, 36	35d	30d			25d	20d		
	18	50d	40d		10d かつ 150mm 以上	35d	30d		
	21	45d	35d			30d	25d		
SD390	24, 27	40d	35d			30d	25d		
	30, 33, 36	35d	30d			35d	30d		
	21	50d	40d			35d	30d		

(注) 1. L₁, L_{1h}: 2. 以外のフックなし直線定着の長さ及びフックあり直線定着の長さ。

2. L₂, L_{2h}: 割裂破壊のおそれのない箇所へのフックなし直線定着の長さ及びフックあり直線定着の長さ。

3. L₃: 小梁及びスラブの下端筋のフックなし直線定着の長さ。ただし、基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。

4. L_{3h}: 小梁の下端筋のフックあり直線定着の長さ。

5. フックあり直線定着の場合は、図3.2に示すようにフック部分φを含めない。また、中間部での折曲げは行わない。

6. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

図3.2 直線定着の長さ

(2) 建築基準法施行令第81条第1項(時刻層応答解析計算)、第2項第一号(保有水平耐力計算、限界耐力計算、エネルギー法)以外の計算による場合、梁主筋の柱内定着長さは、フックのありなしにかかわらず40d以上とする。(軽量骨材を使用する場合は50d以上)

(3) 梁主筋の柱内定着の方法又は、小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の方法は、図3.3に示すように、全長を表3.3に示すフックなし直線定着の長さとし、かつ、余長を8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを表3.4に示す長さ(かつ、梁主筋の柱内定着においては、柱せいの3/4倍以上)のみ込ませる。

※ 特記に記載の値を全長で確保する。

小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ

梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ

図3.3 定着の方法

表3.4 鉄筋の投影定着の長さ

鉄筋の 種 類	コンクリートの 設計基準強度 F c (N/mm ²)	L _a	L _b
SD295A SD295B	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24, 27	15d	15d
SD345	30, 33, 36	15d	15d
	18	20d	20d
	21	20d	20d
SD390	24, 27	20d	15d
	30, 33, 36	15d	15d
	21	20d	20d

(注) 1. L_a: 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ。
(基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。)

2. L_b: 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ。
(片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。)

3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

(4) 溶接金網の継手及び定着は、図3.4による。

なお、L₂及びL₃は表3.3の(注)による。

図3.4 溶接金網の継手及び定着

(5) スパイラル筋の継手及び定着は、図3.5による

図3.5 スパイラル筋の継手及び定着

4.1 最小かぶり厚さ

(a) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、表4.1による。

ただし、柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

表4.1 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ(単位: mm)

構造部分の種類別		最小かぶり厚さ
土に接しない部分	スラブ、耐力壁以外の壁	仕上げあり 20
		仕上げなし 30
	柱、梁、耐力壁	仕上げあり 30
		仕上げなし 30
土に接する部分	柱、梁、耐力壁	仕上げあり 30
		仕上げなし 40
	擁壁、耐圧スラブ	40
	柱、梁、スラブ、壁	40
煙突等高温を受ける部分		基礎、擁壁、耐圧スラブ 60

(注) 1. *印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は特記による。

2. 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ(仕上塗材、塗装等)のものを除く。

3. スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さは、捨コンクリートの厚さを含めない。

4. 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭先端からとする。

5. 塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、特記による。

(b) 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。

(c) 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

(d) 鉄筋相互のあきは図4.1により、次の値のうち最大のもの以上とする。ただし、特殊な鉄筋継手の場合はあきは、特記による。

(1) 粗骨材の最大寸法の1.25倍

(2) 25mm

(3) 隅り合う鉄筋の平均径(呼び名の数値)の1.5倍

図4.1 鉄筋相互のあき

(e) 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは、(d)による。

(f) 貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、(c)による。

5.1 基礎梁

(a) 一般事項

(1) 梁筋は、連続壁で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図5.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。

(2) 梁筋を柱内に定着する場合は、7.1(b)(4)による。

図5.1 梁筋の基礎梁内への定着

(b) 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.2による。

※ 特記に記載の値を全長で確保する。

(注) 1. 図示のない事項は、7.1による。

2. ≡印は、継手及び余長位置を示す。

3. 破線は、柱内定着の場合を示す。

4. 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4倍以上)

□ : 継手の好ましい位置

図5.2 主筋の継手、定着及び余長(その1)

(c) 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.3による。

ただし、耐圧スラブが付く場合は、(d)による。

※ 特記に記載の値を全長で確保する。

(注) 1. 図示のない事項は、7.1による。

2. ≡印は、継手及び余長位置を示す。

3. 破線は、柱内定着の場合を示す。

4. 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4倍以上)

□ : 継手の好ましい位置

図5.3 主筋の継手、定着及び余長(その2)

(d) 連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.4による。

※ 特記に記載の値を全長で確保する。

(注) 1. 図示のない事項は、7.1による。

2. ≡印は、継手及び余長位置を示す。

3. 破線は、柱内定着の場合を示す。

4. 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4倍以上)

□ : 継手の好ましい位置

図5.4 主筋の継手、定着及び余長(その3)

5.2 基礎梁のあばら筋等

(a) 一般事項

(1) あばら筋の径および間隔は、特記による。

(2) あばら筋組立の形及びフックの位置は、7.2(b)による。

ただし、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、図5.5によることのできる。

図5.5 あばら筋組立の形及びフックの位置

(b) 腹筋及び幅止め筋は、7.2による。ただし、梁せいが1.5m以上の場合は特記による。

(c) あばら筋の割付けは、7.2(c)による。

6.1 柱

(a) 一般事項

(1) 継手中心位置は、梁上端から500mm以上、1,500mm以下、かつ、3ho/4(hoは柱の内法高さ)以下とする。

(2) 継手、定着及び余長は、図6.1による。

ただし、柱頭定着長さL₂が確保できない場合は、特記による。

図6.1 柱主筋の継手、定着及び余長

(注) 1. 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合には、フックを付ける。

2. 隅り合う継手の位置は、表3.2「隅り合う継手の位置」による。

3. 継手及び定着は、すべての階に適用できる。

構造

02

構造関係共通図(配筋標準図(1)) 平成22年度版 高知県土木部建築課

平成 年 月

県民体育館耐震補強その他建築主体工事

平成23年 4月改訂

(b) 柱打ち増し部

(1) 打ち増し部分に、壁、梁及びスラブ等がとりつく場合は、壁、梁及びスラブ筋等の定着長さには、打ち増し部分を含まない。

(2) 土に接する柱周囲の打ち増しは図6.2による。

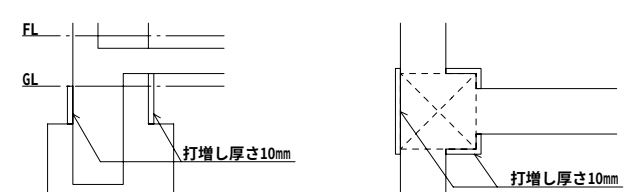


図6.2 柱打ち増し部

6.2 帯筋

(a) 帯筋の種類及び間隔は、特記による。

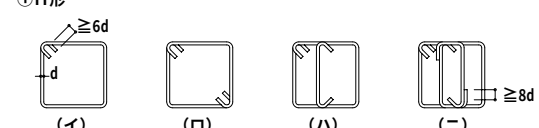
(b) 帯筋組立の形は図6.3により、適用は特記による。

(1) H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W-I形とする。

(2) 溶接する場合の溶接長さLは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は1.0d以上とする。

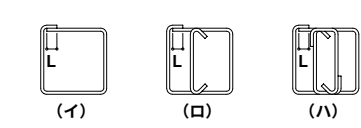
(3) S P形において、柱頭及び柱脚の端部は1.5巻以上の添巻き行う。

① H形



(イ) (ロ) (ハ) (ニ)

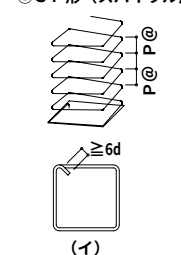
② W-I形



(イ) (ロ) (ハ)

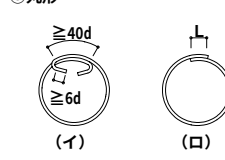
注) 溶接は、鉄筋の組立前に行う。

③ S P形 (スパイラル筋)



(イ) (ロ)

④ 丸形



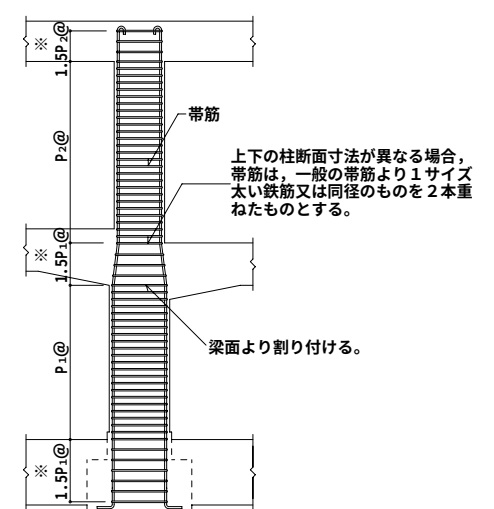
(イ) (ロ)

図6.3 帯筋組立の形

(c) フック及び継手の位置は交互とする。

(d) 帯筋の割付けは図6.4とし、それ以外の場合は特記による。

一般の場合



上下の柱断面寸法が異なる場合、帯筋は、一般の帯筋より1サイズ太い鉄筋又は同径のものを2本重ねたものとする。

梁面より割り付ける。

(注) 1. 図示のない事項については、一般の場合に同じ。

2. 柱・梁接合部の帯筋間隔は構造図による。構造図にない場合は、上図※による。

3. 柱に取り付け梁に段差がある場合、帯筋の間隔を1.5P₁@または1.5P₂@とする範囲は、その柱に取り付くすべての梁を考慮して適用する。

なお、P₁@、P₂@は、特記された帯筋の間隔を示す。

図6.4 帯筋の割付け

7.1 大梁

(a) 一般事項

(1) 梁の上がり下がりとはFLを基準とした寸法値とする。

(2) 地中梁下の砂利地層厚及び捨てコンクリート地層厚は特記による。

(3) 打ち増し部分に、スラブ、壁、梁筋等が取り付く場合は、スラブ、壁、梁筋等の定着長さには、打ち増し部分を含まない。

(b) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項

(1) 継手中心位置は、次による。

上端筋：中央 $\phi_b/2$ 以内

下端筋：柱面より梁せい (D) 以上離し、 $\phi_b/4$ を加えた範囲以内

(2) 継手中央部の位置、定着長さ及び余長は図7.3及び図7.4による。

(3) 梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図7.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。

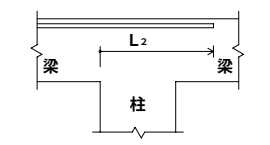


図7.1 梁筋の梁内定着

(4) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。

なお、定着の方法は3.1(b)(3)による。

上端筋：曲げ降ろす

下端筋 (一般)：原則、曲げ上げる。

下端筋 (ハンチ付き)：原則、曲げ上げる。

(5) 梁にハンチをつける場合、その傾斜は特記による。

(6) 段違い梁は、図7.2による。

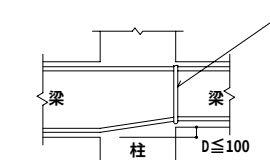


図7.2 段違い梁

(c) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長は、図7.3による。

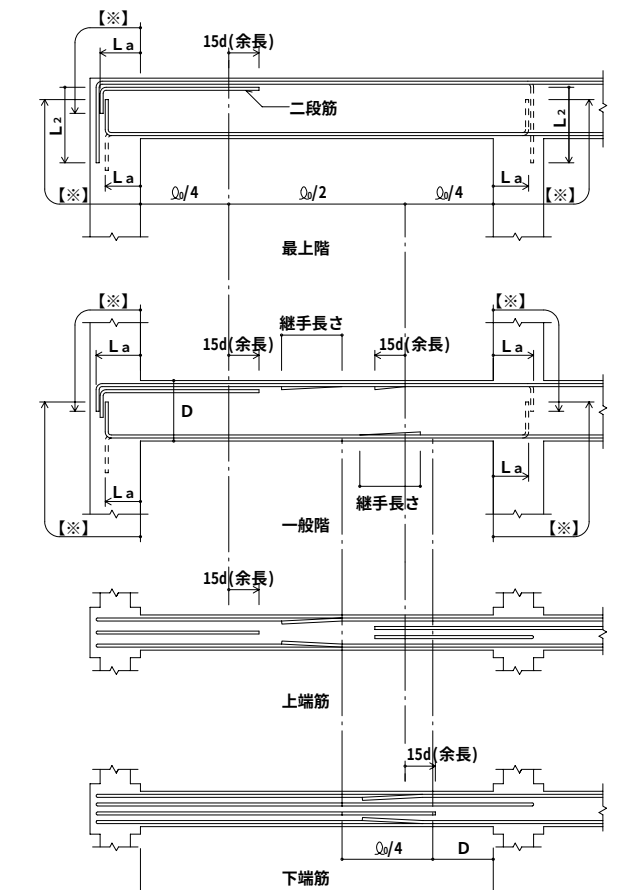


図7.3 大梁の重ね継手、定着及び余長

(注) 1. 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合 (基礎梁を除く) には、フックを付ける。

2. 印は、継手及び余長を示す。

3. 破線は、柱内定着の場合を示す。

4. 梁主筋のみ込み長さ (柱せいの3/4倍以上)

(d) ハンチのある場合の定着及び余長は、図7.4による。

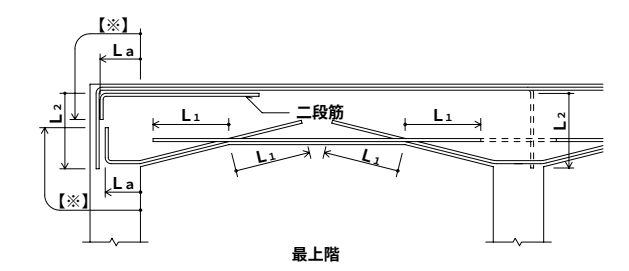


図7.4 ハンチのある大梁の定着及び余長

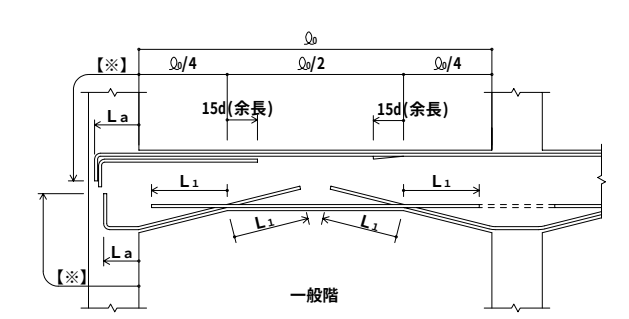


図7.5 あばら筋組立の形

(注) 1. 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合 (基礎梁を除く) には、フックを付ける。

2. 印は、継手及び余長を示す。

3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、-----のように引き通すことができる。

4. 破線は、柱内定着を示す。

5. 梁主筋のみ込み長さ (柱せいの3/4倍以上)

図7.4 ハンチのある大梁の定着及び余長

※ 特記に記載の値を全長で確保する。

(注) 1. 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合 (基礎梁を除く) には、フックを付ける。

2. 印は、継手及び余長を示す。

3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、-----のように引き通すことができる。

4. 破線は、柱内定着を示す。

5. 梁主筋のみ込み長さ (柱せいの3/4倍以上)

図7.4 ハンチのある大梁の定着及び余長

7.2 あばら筋等

(a) あばら筋、腹筋及び幅止め筋の一般事項

(1) あばら筋の種類、径及び間隔は、特記による。

(2) 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とし、定着長さは図7.6による。ただし、腹筋を計算上考慮している場合の継手長さ、定着長さは特記による。

(3) 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000@程度とする。

(b) あばら筋組立の形及びフックの位置

(1) 形は、図7.5 (イ) とする。

ただし、L形梁の場合は、(ロ) または (ハ)、T形梁の場合は (ロ) ~ (ニ) とすることができる。

(2) フックの位置

i. (イ) の場合は交互とする。

ii. (ロ) の場合 L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。

iii. (ハ) の場合は床版の付く側を90°折曲げとする。

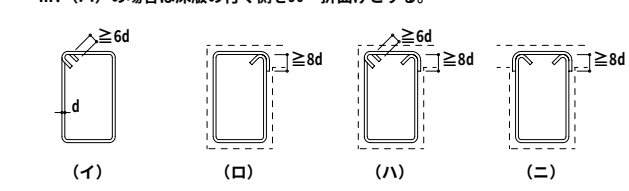


図7.5 あばら筋組立の形

(c) あばら筋の割付け

(1) 間隔が一樣でハンチのない場合は、図7.6による。

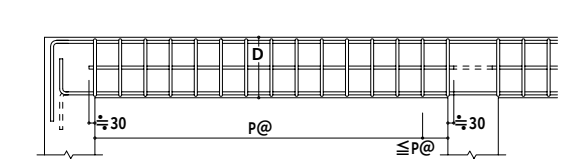


図7.6 あばら筋の割付け (その1)

(注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。

2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

(2) 間隔が一樣でハンチのある場合は、図7.7による。

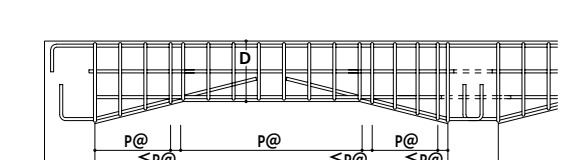


図7.7 あばら筋の割付け (その2)

(注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。

2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

(3) 梁の端部で間隔の異なる場合は、図7.8による。

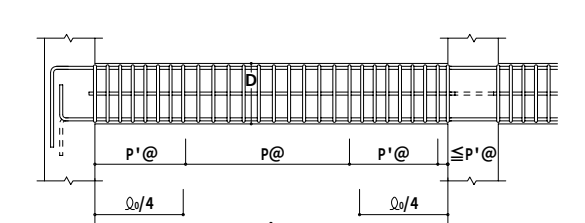


図7.8 あばら筋の割付け (その3)

(注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。

2. 図中のP@、P'@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

(d) 腹筋及び幅止め筋

(1) 一般の梁は、図7.9による。

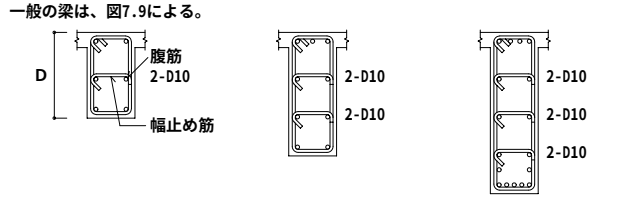


図7.9 腹筋および幅止め筋

7.3 小梁

(a) 小梁主筋の継手、定着及び余長

(1) 連続小梁の場合は、図7.10による。

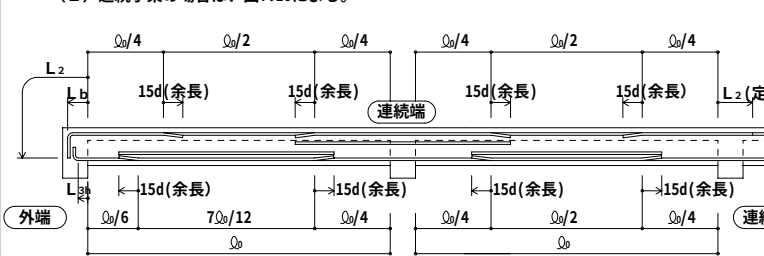


図7.10 小梁主筋の継手、定着及び余長 (その1)

(注) 1. 図示のない事項は、5.1及び7.1に準ずる。

2. 印は、余長位置を示す。

(b) 単独小梁の場合は、図7.11による。

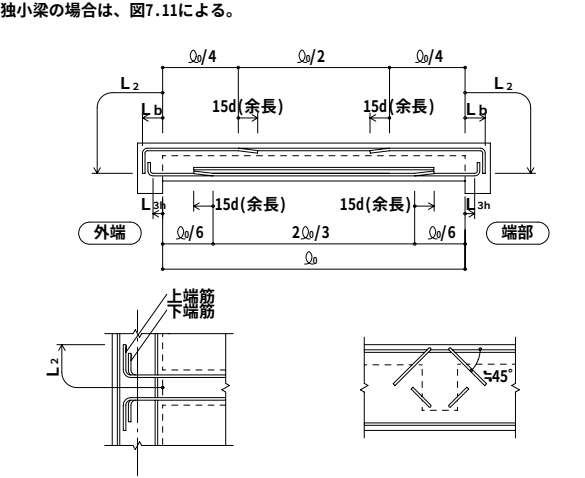


図7.11 小梁主筋の継手、定着及び余長 (その2)

(注) 1. 図示のない事項は、5.1及び7.1に準ずる。

2. 印は、余長位置を示す。

(c) あばら筋は、7.2による。

図7.12 片持梁主筋の定着及び余長

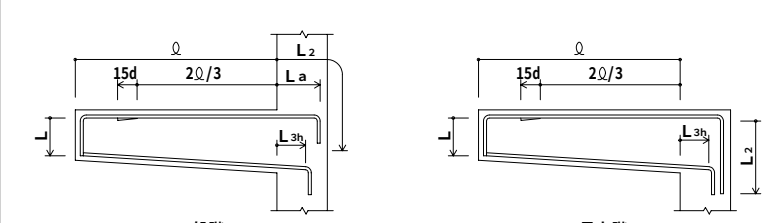


図7.12 片持梁主筋の定着及び余長

(注) 1. 図示のない事項は、7.1による。

2. 印は、余長位置を示す。

3. 先端の折曲げの長さLは、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。

7.4 片持梁

(a) 片持梁主筋の定着及び余長

(1) 先端に小梁のない場合は、図7.12による。

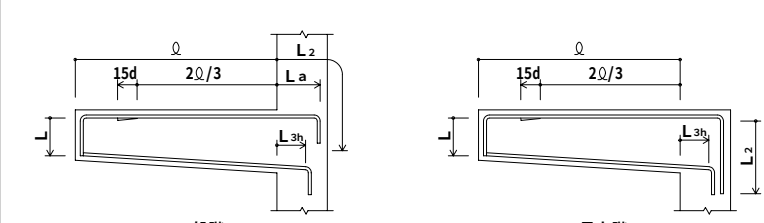


図7.12 片持梁主筋の定着及び余長

(注) 1. 図示のない事項は、7.1による。

2. 印は、余長位置を示す。

3. 先端の折曲げの長さLは、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。

(2) 先端に小梁がある場合は、図7.13による。

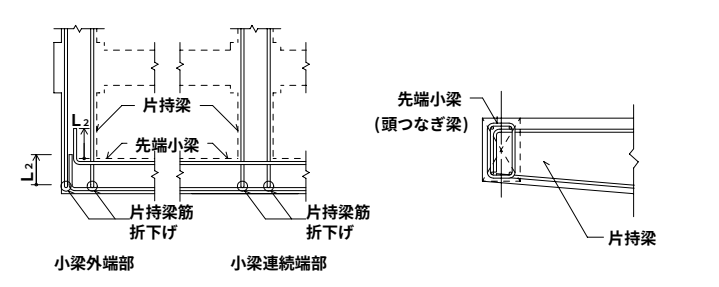


図7.13 片持梁主筋の定着

(注) 1. 図示のない場合は、(1)による。

2. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。

3. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

8.1 壁

(a) 一般事項

(1) 壁配筋の重ね継手及び定着の長さは、重ね継手長さをL₁、定着長さをL₂とする。

(2) 幅止め筋は、縦横ともD10-1,000@程度とする。

(3) EW○○、EKW○○、ERW○○の配筋はW○○、KW○○、RW○○に同じで、かぶり厚さ、定着長さ及び継手長さは、3.1、4.1による。

(4) 打ち増し部分に、壁及びスラブ等が取り付く場合は、壁及びスラブ筋等の定着長さには打ち増し部分を含まない。

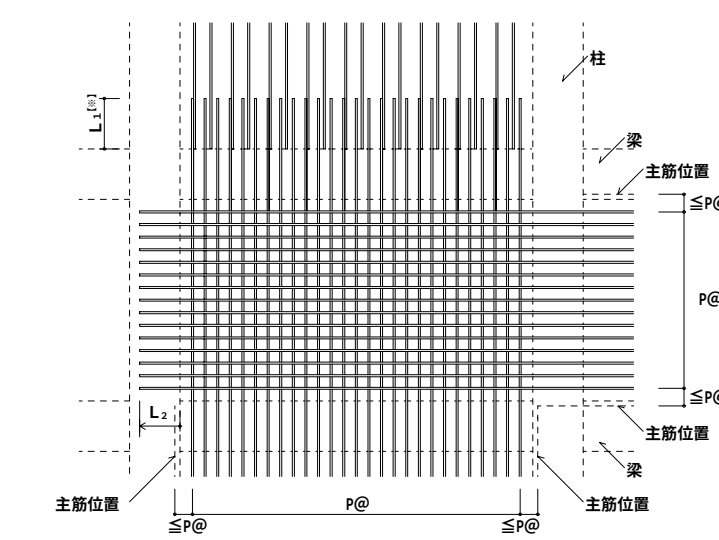


図8.1 壁の配筋

(注) 図中のP@は、特記された壁筋の間隔を示す。

※ 特記に記載の値を全長で確保する。

(b) 壁の基準配筋は表8.1により、種別は特記による。

表8.1 壁の基準配筋		
種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)
W12	D10-200@シングル	120
W15A	D10-150@シングル	150
W15B	D10-100@シングル	150
W18A	D10-200@ダブル	180
W18B	D10-150@ダブル	180
W20A	D10-200@ダブル	200
W20B	D10-150@ダブル	200

(注) 壁筋の配筋順序は、規定しない。

(c) 片持スラブ形階段を受ける壁の基準配筋は表8.2により、種別は特記による。

表8.2 片持スラブ形階段を受ける壁の基準配筋			
種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)	階段の配筋種別(表10.1)
KW1	縦筋 D13-200@ダブル	180	KA1 KA3
	横筋 D10-200@ダブル		
KW2	縦筋 D13-150@ダブル	200	KA2 KA4
	横筋 D10-200@ダブル		

(注) 縦筋は、横筋の外側に配筋する。

構造関係共通図 (配筋標準図 (2))	平成22年度版	高知県土木部建築課
平成 年 月		
県民体育館耐震補強その他建築主体工事		
平成23年 4月改定		

11.1 梁貫通孔

- (a) 梁貫通孔は、次による。
- (1) 梁貫通孔補強筋の名称等は、図11.1による。
- (2) 孔の径は、梁せいの1/3以下とする。
- (3) 孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端より1/3Dの範囲には設けてはならない。
- (4) 孔は、柱面から原則として、1.5D（Dは梁せい）以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。
- (5) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
- (6) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
- (7) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図11.2による。
- (8) 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることで、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
- (9) 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
- (10) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋 1-13φのリング筋を取り付ける。
- なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
- (11) 溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。

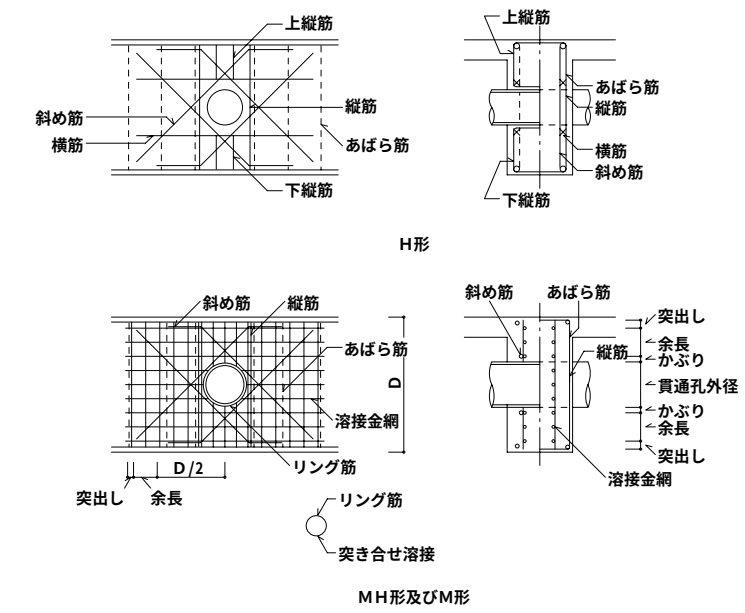


図11.1 梁貫通孔補強筋の名称等

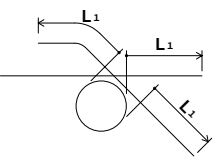


図11.2 補強筋の定着長さ

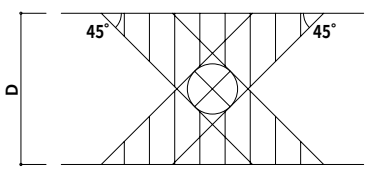


図11.3 他の開孔を設けない範囲

- (b) 梁貫通孔の補強形式は表11.1～表11.3により、配筋種別は特記による。
- なお、現場においてH形、W形及びMH形の補強に代わり大臣認定品又は日本建築センターの性能評価を取得した既製梁貫通孔補強等に変更する場合は、設計担当者及び監督職員に計算書を提出し発注者の要求水準を満足すると認められた場合に限り使用できるものとする。

表11.1 H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2	2-2-D13	2-2-D13	なし	なし	
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H7	4-2-D22	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	

(注) ----- は、一般部分のあばら筋を示す。

表11.2 W形配筋

配筋種別	縦筋	溶接金網	配筋図
M1	2-2-D13	なし	
M2	4-2-D13		
M3	4-2-D13	2-6φ-100@	
M4	6-2-D13		

(注) ----- は、一般部分のあばら筋を示す。

表11.3 MH形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	配筋図
MH1	2-2-D13	なし	なし	
MH2	2-2-D13	2-2-D13		
MH3	2-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100@	
MH4	4-2-D13			
MH5	4-2-D16			
MH6	4-2-D16	4-2-D13	2-6φ-100@	
MH7	4-2-D19			

(注) ----- は、一般部分のあばら筋を示す。

11.2 コンクリートブロック縦壁との取合い

- (a) 控壁は、次による。
- (1) 控壁の配置は、特記による。
- (2) 配筋は、図11.4による。

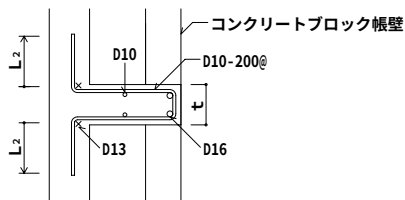


図11.4 控壁の配筋（水平、垂直とも）

- (b) 縦壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、図11.5による。

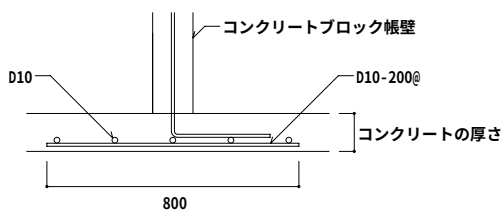


図11.5 壁付き土間コンクリートの補強配筋

11.3 パラペット

パラペットの配筋は、図11.6により、コンクリート厚さ、配筋は特記による。

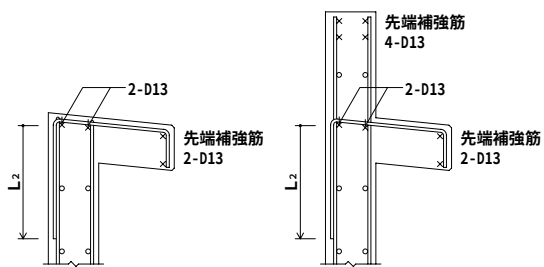


図11.6 パラペットの配筋

構造関係共通図(鉄骨標準図)

1-1 縁端距離及びボルト間隔

(a) 縁端距離及びボルト間隔

縁端距離及びボルト間隔は、表1.1による。ただし、引張材の接合部分において、せん断力を受けるボルトが応力方向に3本以上並ばない場合の縁端距離は、特記による。特記がなければ、ボルト軸径の2.5倍以上とする。
また、アンカーボルトの縁端距離は特記による。

表1.1 縁端距離及びボルト間隔 (単位mm)

ねじの呼び	縁端距離 e	ボルト間隔 p
M12	40	60
M16		
M20		
M22		
M24	45	70

(b) 千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔

千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔は、表1.2による。

表1.2 千鳥のゲージ及びボルト間隔 (単位mm)

ゲージ g	千鳥打ちのボルト間隔 Pt	
	ねじの呼び M12, M16, M20, M22	
35	50	65
40	45	60
45	40	55
50	35	50
55	25	45
60	-	40

(c) 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径

形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径は、表1.3による。

表1.3 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径 (単位mm)

A又はB	g ₁	g ₂	最大軸径	B	g ₁	g ₂	最大軸径	B	g ₃	最大軸径
45	25		12	100	56		16	50	30	12
50	28		16	125	75		16	65	35	20
60	35		16	150	90		22	70	40	20
65	35		20	175	105		22	75	40	22
70	40		20	200	120		24	80	45	22
75	40		22	250	150		24	90	50	24
80	45		22	300	150	40 ³	24	100	55	24
90	50		24	350	140		24			
100	55		24	400	140		24			
125	50	35	24	※ 1 千鳥打ちとした場合						
130	50	40	24							
150	55	55	24							
175	60	70	24							
200	60	90	24							

T型継手の開先標準

(単位：mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 6		t ≤ 12	
6 < t ≤ 19		12 < t ≤ 22	
19 < t ≤ 40		22 < t ≤ 40	
D1= 2 (t-2) / 3 D2= (t-2) / 3 1/4 t ≤ S ≤ 10		D1= (t-6) / 2 D2= (t-6) / 2 1/4 t ≤ S ≤ 10	

隅肉溶接の開先標準

(単位：mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 16		t ≤ 16	
16 < t ≤ 40		16 < t ≤ 40	
D1= 2 (t-2) / 3 D2= (t-2) / 3		D1= (t-6) / 2 D2= (t-6) / 2	

隅肉溶接の開先標準

(単位：mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 16		t ≤ 16	
16 < t ≤ 40		16 < t ≤ 40	
D1= 2 (t-2) / 3 D2= (t-2) / 3		D1= (t-6) / 2 D2= (t-6) / 2	

隅肉溶接の開先標準

(単位：mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 16		t ≤ 16	
16 < t ≤ 40		16 < t ≤ 40	
D1= 2 (t-2) / 3 D2= (t-2) / 3		D1= (t-6) / 2 D2= (t-6) / 2	

隅肉溶接の開先標準

(単位：mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 16		t ≤ 16	
16 < t ≤ 40		16 < t ≤ 40	
D1= 2 (t-2) / 3 D2= (t-2) / 3		D1= (t-6) / 2 D2= (t-6) / 2	

隅肉溶接の開先標準

(単位：mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 16		t ≤ 16	
16 < t ≤ 40		16 < t ≤ 40	
D1= 2 (t-2) / 3 D2= (t-2) / 3		D1= (t-6) / 2 D2= (t-6) / 2	

隅肉溶接の開先標準

(単位：mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 16		t ≤ 16	
16 < t ≤ 40		16 < t ≤ 40	
D1= 2 (t-2) / 3 D2= (t-2) / 3		D1= (t-6) / 2 D2= (t-6) / 2	

隅肉溶接の開先標準

(単位：mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 16		t ≤ 16	
16 < t ≤ 40		16 < t ≤ 40	
D1= 2 (t-2) / 3 D2= (t-2) / 3		D1= (t-6) / 2 D2= (t-6) / 2	

隅肉溶接の開先標準

(単位：mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 16		t ≤ 16	
16 < t ≤ 40		16 < t ≤ 40	
D1= 2 (t-2) / 3 D2= (t-2) / 3		D1= (t-6) / 2 D2= (t-6) / 2	

隅肉溶接の開先標準

(単位：mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 16		t ≤ 16	
16 < t ≤ 40		16 < t ≤ 40	
D1= 2 (t-2) / 3 D2= (t-2) / 3		D1= (t-6) / 2 D2= (t-6) / 2	

隅肉溶接の開先標準

(単位：mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 16		t ≤ 16	
16 < t ≤ 40		16 < t ≤ 40	
D1= 2 (t-2) / 3 D2= (t-2) / 3		D1= (t-6) / 2 D2= (t-6) / 2	

隅肉溶接の開先標準

(単位：mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 16		t ≤ 16	
16 < t ≤ 40		16 < t ≤ 40	
D1= 2 (t-2) / 3 D2= (t-2) / 3		D1= (t-6) / 2 D2= (t-6) / 2	

隅肉溶接の開先標準

(単位：mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 16		t ≤ 16	
16 < t ≤ 40		16 < t ≤ 40	
D1= 2 (t-2) / 3 D2= (t-2) / 3		D1= (t-6) / 2 D2= (t-6) / 2	

隅肉溶接の開先標準

(単位：mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 16		t ≤ 16	
16 < t ≤ 40		16 < t ≤ 40	
D1= 2 (t-2) / 3 D2= (t-2) / 3		D1= (t-6) / 2 D2= (t-6) / 2	

隅肉溶接の開先標準

(単位：mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 16		t ≤ 16	
16 < t ≤ 40		16 < t ≤ 40	
D1= 2 (t-2) / 3 D2= (t-2) / 3		D1= (t-6) / 2 D2= (t-6) / 2	

隅肉溶接の開先標準

(単位：mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 16		t ≤ 16	
16 < t ≤ 40		16 < t ≤ 40	
D1= 2 (t-2) / 3 D2= (t-2) / 3		D1= (t-6) / 2 D2= (t-6) / 2	

隅肉溶接の開先標準

(単位：mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 16		t ≤ 16	
16 < t ≤ 40		16 < t ≤ 40	
D1= 2 (t-2) / 3 D2= (t-2) / 3		D1= (t-6) / 2 D2= (t-6) / 2	

隅肉溶接の開先標準

(単位：mm)

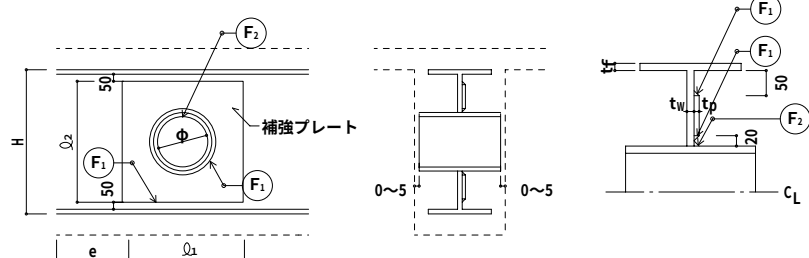
H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 16		t ≤ 16	

1-7 梁貫通孔補強

- (a) 鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の鉄骨梁ウェブ部材に貫通孔を設ける場合に貫通孔部分を補強する場合に適用する。
- (b) 貫通孔の内径寸法は、鉄骨せいの1/2以下かつ鉄筋コンクリート梁せいの1/3以下とする。
- (c) 貫通孔間隔は、両側の貫通孔径の平均値の、鉄骨造で2倍以上、鉄骨鉄筋コンクリート造で3倍以上確保する。

補強プレート法

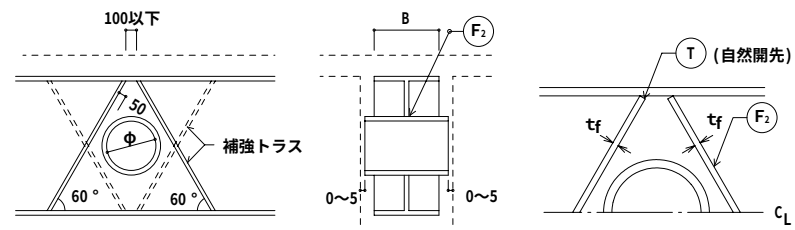
- (1) 補強プレートが16mm以上となる場合は、必要な長さの1/2以上の補強プレートをウェブ両面から溶接する。
- (2) 補強プレートは丸型としても良い。上下フランジとのあき50mmについては施工性を考慮して小さくすることもできる。



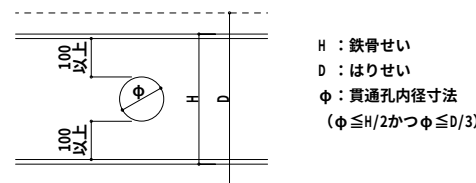
Q_1 は3 ϕ または Q_2 のうち小さい方とする。 ($e \geq H$ とする)

補強トラス法

- (1) スリーブの取付けは、全周隅肉溶接とする。

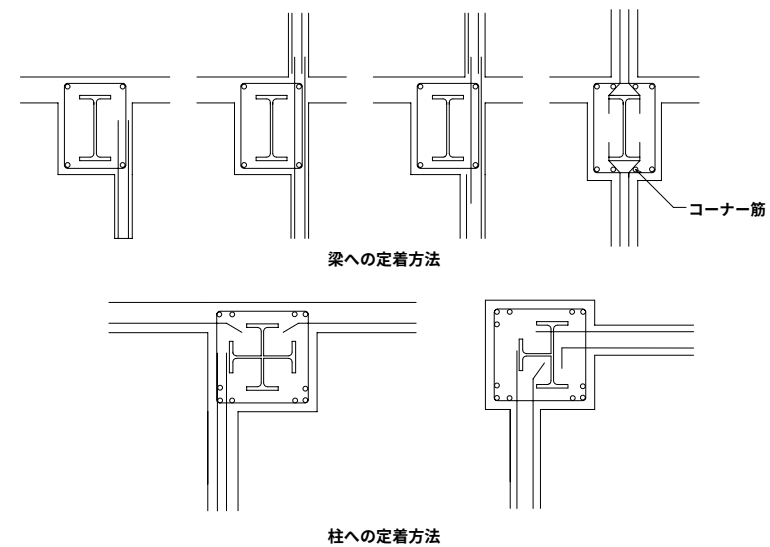


梁貫通孔の位置の限度 (単位: mm)

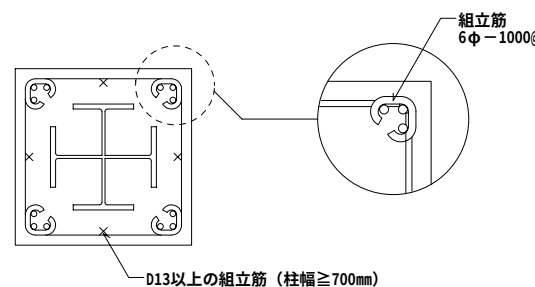


1-8 壁筋の周辺部材への定着

鉄筋を折り曲げる場合は、鉄筋の呼び名の数値の10倍以上直線に定着後、緩やかに折り曲げる。

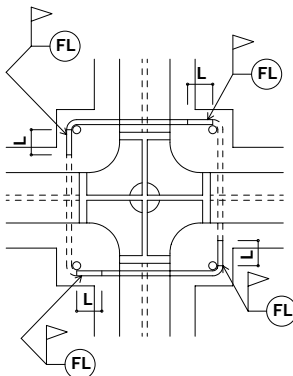


1-9 柱組立筋



1-10 仕口部内の帯筋の加工及び組立

- (1) 方面溶接の有効長さ(L)は、鉄筋の呼び名の数値の10倍以上とする。ただし、溶接によらない場合は135°曲げフックとする。



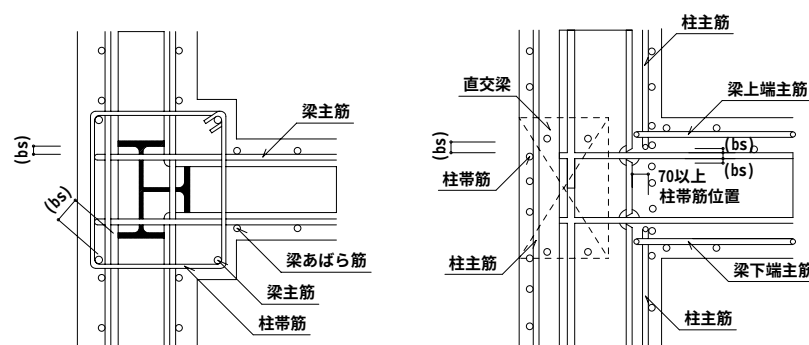
1-11 鉄筋貫通孔の径及び位置

鉄筋貫通孔の径

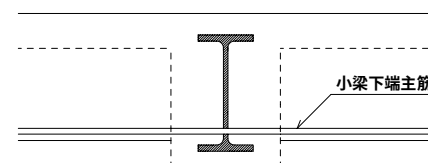
- (1) 主筋の鉄筋貫通孔は、最大孔径に統一する。
- (2) 鉄骨フランジには、鉄筋貫通孔を設けないものとする。

(単位: mm)								
鉄筋の呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
鉄筋貫通孔の径	21	24	28	31	35	38	43	46

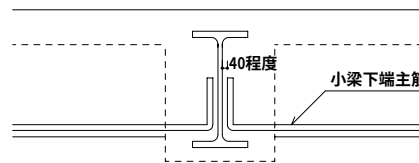
鉄筋貫通孔の位置 (単位: mm)



小梁下端主筋が貫通する場合



小梁下端主筋が貫通しない場合（単位：mm）



1-12 広幅平鋼の取り扱いについて

- (1) BH材のフランジ及びフランジに使用する外側スプライスプレートは、PL表記であっても FB又はPLとする。
- (2) BH材のフランジ及びフランジに使用する外側スプライスプレートの適用幅及び厚さは下表による。

		厚さ										
		6	9	12	16	19	22	25	28	32	36	40
幅	100	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	125	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	150	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	175	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	200	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	250	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	300		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	350			○	○	○	○	○	○	○	○	○
	400			○	○	○	○	○	○	○	○	○
	450						○	○	○	○	○	○
500						○	○	○	○	○	○	

1-13 普通ボルト接合

- (1) もや、胴縁類の取付け用ボルトを普通ボルト接合とする場合は、二重ナットとする。

構造特記仕様書 - 1										
1	適用範囲									
・本構造特記仕様書は、耐震補強工事について特に記するものである。 ・各工事は、本構造特記仕様書及び設計図に基づくものとし、これらに記載のない場合は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書平成22年版、及び国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築改修工事標準仕様書平成22年版による。 ・設計図と本構造特記仕様書の内容に相違があった場合や、不明な箇所が生じた時は監督員との協議により決定すること。 ・本工事における設計図書等の優先順位は、下記による。 1. 質疑応答書・現場説明事項（追加説明及び机上説明を含む。） 2. 本構造特記仕様書 3. 設計図 4. 公共建築工事標準仕様書（以下、標準仕様書という）、及び公共建築改修工事標準仕様書（以下、改修標準仕様書という）の順とする。										
2	工事概要 … 補強工法別の所要数量を示す。									
工 法		記号	単位	数量（X）			数量（Y）			合計
				1F	2F	屋根	1F	2F	屋根	
鉄筋コンクリート増設設壁		RW	構面	8	-	-	12	4	-	24
鉄骨ブレース補強		SB	構面	-	8	-	-	-	-	8
※ 立体トラス部分の柱脚（全て）の確認 既存柱脚部モルタル充填状況及びベースプレート（溶接）等状況を確認し、不良部分があった場合は補修方法を監督員と協議すること。										
3	構造使用材料									
1. コンクリート ・コンクリートの種別 J I S 表示許可工場にて製造された、レディーミクストコンクリート ・設計基準強度 F c = 21 N/mm²（品質基準強度 F q = 24 N/mm²） ・スランブ 18 c m ・粗骨材最大径 20 m m 程度 ・単位セメント量 300 k g / m³ 以上 ・水セメント比 65 % 以下 2. 鉄筋 ・壁筋，その他 S D 295 A 規格品（ D 13 以下） S D 345 規格品（ D 16 ~ 22 ） S D 390 規格品（ D 25 以上） ・スパイラル筋										
				単位（mm）						
適 用				鉄筋径・ピッチ		外径				
・鉄筋コンクリート増設設壁				t = 200		6 φ @ 60		140		
・鉄骨ブレース新設				H - 200		6 φ @ 60		140		
・鉄筋継手 重ね継ぎ手を原則とする。 （スパイラル筋は1巻半以上重ねる。） 3. 接合部アンカー（柱、梁面） ・接着系アンカー カプセル型の有機系 ・アンカー筋 S D 295 A 規格品（D13以下）ナット付 S D 345 規格品（D16以上）ナット付 S D 390 規格品（D25以上）ナット付 4. 無収縮モルタル ・グラウト材 早強形特殊セメント系無収縮モルタル（プレミックスタイプ） ・設計基準強度 F m = 30 N / mm² 以上 ・コンシステンシー J 14 ロート試験方法による。 5. 鉄骨 ・鋼材 S S 400 J I S 規格品（H形鋼） S M 490 J I S 規格品（上記以外） ・ボルト F 10 T J I S 規格品 ・頭付きスタッド J I S 規格品										
4	材料試験									
1. 規格品で J I S 表示のあるもの。または、メーカーが保証する検査証明書のある材料でかつ監督員の承諾を受けた場合に限り材料検査を省略することができる。 2. 下記の材料は、関連仕様書に基づき試験を行い、報告書を提出すること。 ・コンクリート : 圧縮強度試験（共通仕様書による機関） …… 6 セット : 品質検査（塩化物イオン量） …… 6 セット ・アンカー : 張力確認（S B），（R W） …… 32 個 ・無収縮モルタル : 圧縮強度試験 …… 6 セット ・鉄骨 : 超音波探傷試験 鉄骨ブレース：斜材 …… 8 構面										
※ 上記の試験回数は監督員と協議の上決定する。										

5

施工計画

・補強工事は、既存の構造体に対して部材を増設する事によって耐震性の向上及び構造の改善を図るもので、既存躯体との接合がきわめて重要である。また、この工法は、限られた場所で行なわれるもので、一般の建築工事とは施工方法などが相当異なる面がある。よって、設計の主旨が充分に実現される様な工法を選び、工事着手に先だち施工計画書を作成し、監督員の承諾を得てから実施する。特に次の点には充分注意する。

（１）既存寸法、階高寸法その他は、実測による。

（２）既存コンクリートとの一体化を図る。

6

補強工事の主な施工内容

1. 鉄骨ブレース新設

① 既存躯体の実測と墨出し
（既存梁主筋をはつりにより確認）

② 原寸図の作成と加工

③ 部材組立て（工場溶接）

④ 既存躯体目荒し（水洗い共）

⑤ 既存躯体へのアンカー設置

⑥ 現場搬入、建て入れ、本接合

⑦ 鉄筋の加工及び組立て

⑧ 清掃

⑨ 型枠組立、コーキング及び水湿し

⑩ 無収縮モルタル圧入，養生

⑪ 脱型及び清掃

2. 鉄筋コンクリート耐震壁増設及び増打増設壁

① 既存躯体の実測と墨出し
（既存梁主筋をはつりにより確認）

② 既存躯体目荒し（水洗い共）

③ 既存躯体へのアンカー設置

④ 鉄筋の加工及び組立て

⑤ 清掃

⑥ 型枠組立、コーキング及び水湿し

⑦ コンクリート打設，養生

⑧ 脱型及び清掃

⑨ 無収縮モルタル圧入，養生

⑩ 脱型及び清掃

3. 本工事における各補強工法について、施工手順及び施工計画書を作成し監督員の承諾を得ること。

7

撤去・解体

1. 仮設足場等は、作業に応じて設けるものとし、施工性の向上と安全性を確保すること。

2. コンクリート及び塗り仕上げを部分的に撤去する場合は、カッター等で切込みを付け既存部分の保護を図ること。既存コンクリートの撤去は、原則として油圧式のハンドクラッシャーを用いること。又、既存躯体面の目荒しは、主に電気ピック等を用いること。

3. 接合部の粉塵及びはつり殻は、入念な清掃及び水洗いを行うこと。躯体コンクリート面が、ジャンカや著しく脆弱な場合には、監督員に報告し対応について指示を受けること。

4. コンクリート及びグラウトにて被覆されない既存鉄筋断面は適切な防錆処理を行うこと。

8

アンカー工事

1. アンカーの打設は、社団法人 日本建築あと施工アンカー協会（J C A A）の有資格者とする。

2. 接着系アンカーは、使用実績も多く信頼性の高いものを用いること。又、コンクリートドリル径は、アンカー径に適合したものとする。

3. 接着系アンカーのピッチ及び配置（最小値）は下表による。

(mm)

外径	d a	ピッチ	はしあき	へりあき
13		100	65	35
16		120	80	40
19		150	95	50
25		190	125	65

はしあき
(5 d a 以上)

ピッチ (7 ・ 5 d a 以上かつ 30 c m 以下)

へりあき (2 ・ 5 d a 以上かつ主筋の内側)

4. アンカー筋の埋込み長さは、下記による。

① 鉄筋コンクリート造増設壁（一般）

単位mm

アンカー径	埋込み長さ：L1	穿孔長さ：L2	定着長さ：L3
D13	130	143	260以上
D16	160	180	320以上
D19	190	210	380以上

※L1=10・da，L2=11・da，L3=20・daとする。

② 鉄筋コンクリート造増設壁（開口部）

単位mm

アンカー径	埋込み長さ：L1	穿孔長さ：L2	定着長さ：L3
D19	285	305	760以上
D25	375	400	1,000以上

※L1=15・da，L2=16・da，L3=40・daとする。

ナット付とする。

マーキング

アンカー筋

(接着系)

③. 鉄骨ブレース新設に用いるアンカー筋は、ナット付きとする。アンカー筋の埋込み長さは、10 d a とし定着長さは頭付きスタッドとのラップ長にて決定する。

単位mm		ラップ長の推奨値		単位mm	
アンカー筋の径		埋込み長さ：L 1		クリアランス：h	
・D 19		190		・200～225	
				ラップ長：L	
				80	

鉄骨枠

ナット付き

＊頭付きスタッドとのラップ長にて決定する。

(10da)

アンカー筋

L

h

躯体面

頭付スタッド

④. 増打ち部がある場合は、アンカー筋の埋込み長さが増打ち部の寸法を加えた値を埋込み長さとする。

5. 本工事に用いる接着系アンカーは、埋め込み深さが10 d a 以上かつ、それに見合う樹脂容量が確保できる規格のカプセルを使用する。

6. 穴開けに先立ち、増設部分の既存柱・梁において、主筋、肋筋及び帯筋の位置を鉄筋探査機等を用いて確認すること。鉄筋等に当り埋込み長さが不足したものは、不良孔とし無収縮性のモルタルにて補修すること。

7. アンカー試験

・打音確認 …… 接着系アンカー筋全数

・張力確認 …… D16以上を対象とし増設1構面当たり、床及び柱面にて各1本、合計2本とする。
確認張力は鉄筋径及び間隔により下表とする。

確認張力		径	D 13	D 19	D 25
階		1・2階	24	66	131

9鉄筋工事

1. 標準配筋要領図

100

20

30

30

スパイラル筋

スパイラル筋

100

20

30

30

スパイラル筋

スパイラル筋

2. 増設壁 開口補強筋要領

鉄筋コンクリート壁		
位置	梁 柱 スリーブはスパイラル筋の内側を原則とする。 換気扇等の開口補強筋は、詳細図による。	
スリーブ径（mm）	D<150	150≦D≦250
補強要領	補強不要 ○ □	増設壁配筋 補強筋：壁配筋に準ずる。 各2-D10 各2-D10

10

コンクリート工事

1. コンクリート打設前に粉塵・はつり殻等を清掃し、数日前から充分に水湿しを行なう。

2. コンクリートの打設は、型枠頭部の横に連続性のあるアサガオ型の投入口を設け、コンクリートを打設する。

3. コンクリートの打設時は、バイブレーター等を用いて密実なコンクリートとし、梁下200mm程度で打ち止める。

既存梁

投入口

アサガオ

コンクリート
打止め位置

型枠

200

4. 型枠

・無収縮モルタル部：屋内・屋外とも普通合板 ㊦12を標準とする。

・型枠存置期間：4日～7日（監督員との協議により決定すること。）

・外部及び内部の増打し範囲、面木及びスリーブの取付けは、他の業者と打合せを行い施工図に明記すること。

5. コンクリート試験

・圧縮強度については、公的機関にて試験を行う。試験は、コンクリートの調合が異なるごとに、1日1回以上かつコンクリート20㎡を目安に行う。尚、供試体は材令28日3本とする。

・品質は下記による。

スランブ	cm	空気量	%	塩化物イオン量	kg / m ³
18 ± 2.5		4.5 ± 1.5		0.3 以下	

11

無収縮モルタル圧入工事

1. モルタル圧入工事は、アンカーの打設と同様に本工事の重要な作業工程であるため、打設には充分注意すること。型枠撤去後は、施工箇所の全周について検査を行ない、打設が完全であることを確認し監督員の承諾を受けること。万一、不良箇所が生じた場合は、ただちに監督員に報告し施工業者の責任において、補修（再圧入）を行なう。

2. コンクリート打設面のレイタンス等は、ワイヤーブラシ又は、圧縮空気により除去し水湿しを行なうこと。

3. 圧入用型枠の施工及び各部のコーキングは、圧入業者の施工とする。

4. 型枠は、普通合板 ㊦12を原則とし、圧入の圧力に対して十分に抵抗できる剛性を持つものとする。セパレーターを用いて両側より締めつけモルタルの漏出のないように組立ること。

5. 圧入は、適切な圧力で中断しないように行うこと。

6. 空気抜き（確認孔）を設け、グラウトモルタルが空気抜き（確認孔）に出てくる事を確認すること。圧入位置及び空気抜き（確認孔）の位置は、下図による。

鉄筋コンクリート造増設壁

空気抜き（確認孔）

圧入口

空気抜き（確認孔）

梁

圧入口

モルタル圧入口

型枠

コーキング又は、セメント系止水材

7. 本工事に用いる無収縮モルタルは、下記の製品及び同等品以上とすること。標準使用量及び流下速度については、メーカー仕様に基づき、施工計画書に明記して承諾を得ること。

会社名	製品名	強度区分
太平洋マテリアル（株）	プレユーロックス	普通強度型
	プレユーロックスH-5	高強度型
電気化学工業（株）	プレタスコンT-W	普通強度型
	プレタスコンT-U60	高強度型
新日鉄高炉セメント（株）	エスセイバーG	普通強度型
	（株）ボソリス物産 マスターフロー-540グラウト	

8. モルタル試験

・圧縮強度試験については、10.6の生コンクリート協同組合にて行う。

・試験は1日に施工する毎に1回以上、かつ打設量が3㎡を超える場合はモルタル2㎡当たり1回を追加し、コンシステンシー試験（J14ロートによる）を行い、供試体採取する。

・モルタル用の供試体は、直径50mm、高さ100mmの大きさとし、材令3日、7日、28日ごとに3本とする。

Special note
introductory remarks

□



M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

県民体育館耐震補強その他建築主体工事（アリーナ棟）
date 5 / '11 drawn by checked by
前田雅幸

構造特記仕様書（1）

scale 1 /

構造

08

構造特記仕様書 - 2

1.2 鉄骨工事

1. 鉄骨製作工場… 社団法人 全国鉄構工業連合会（全構連）：Rグレード以上

2. 施工図 ……鉄骨工作原寸図に先立ち、鉄骨加工図を作成し監督員の承諾を受ける。

3. 錆止め塗料 …… JIS K 5625 （一般）2種を工場2回塗（現場タッチアップ）とする。※モルタルを圧入する面への塗装は行わない。

4. 溶接検査 ……溶接部の検査は、全体の目視検査と超音波探傷試験を行う。超音波探傷試験において、工場内での自主検査は100%とし、第三者機関による検査は、鉄骨ブレース1構面当り斜材で4ヶ所とする。

5. 頭付きスタッド……鉄骨枠に溶接する頭付きスタッドは下表による。又、配置（最小値）は下図による。

呼び名	軸径 d	頭径 D	頭高さ T	溶接後の長さ L	形状
・16φ	16.0	29.0	10.0	150	

頭付きスタッドとアンカー筋は原則として同ピッチとし設計図による。ただし、頭付スタッドの取付位置が外周枠の溶接線と干渉する場合は、頭付スタッドの位置を変更する。変更は干渉するもののみとする。

6. 空気抜き（確認孔）を設け、無収縮モルタルが空気抜き（確認孔）に出てくる事を確認する。圧入位置及び空気抜き（確認孔）の位置は下図による。

1.3 溶接規準図

※開先形状の各部寸法、溶接姿勢等についてはJASS 6付則 5, 6に従う。

スミ肉溶接

突合せ溶接

手溶接

板厚が異なるとき

スカラップ

エンドタブと裏当て金

参考図

・下図の溶接では、H型钢の内側に開先をとり、裏はつりを行なうことを前提としている。

A部分溶接詳細図

C部分溶接詳細図

D部分溶接詳細図

B H部のプレート厚さ標準図

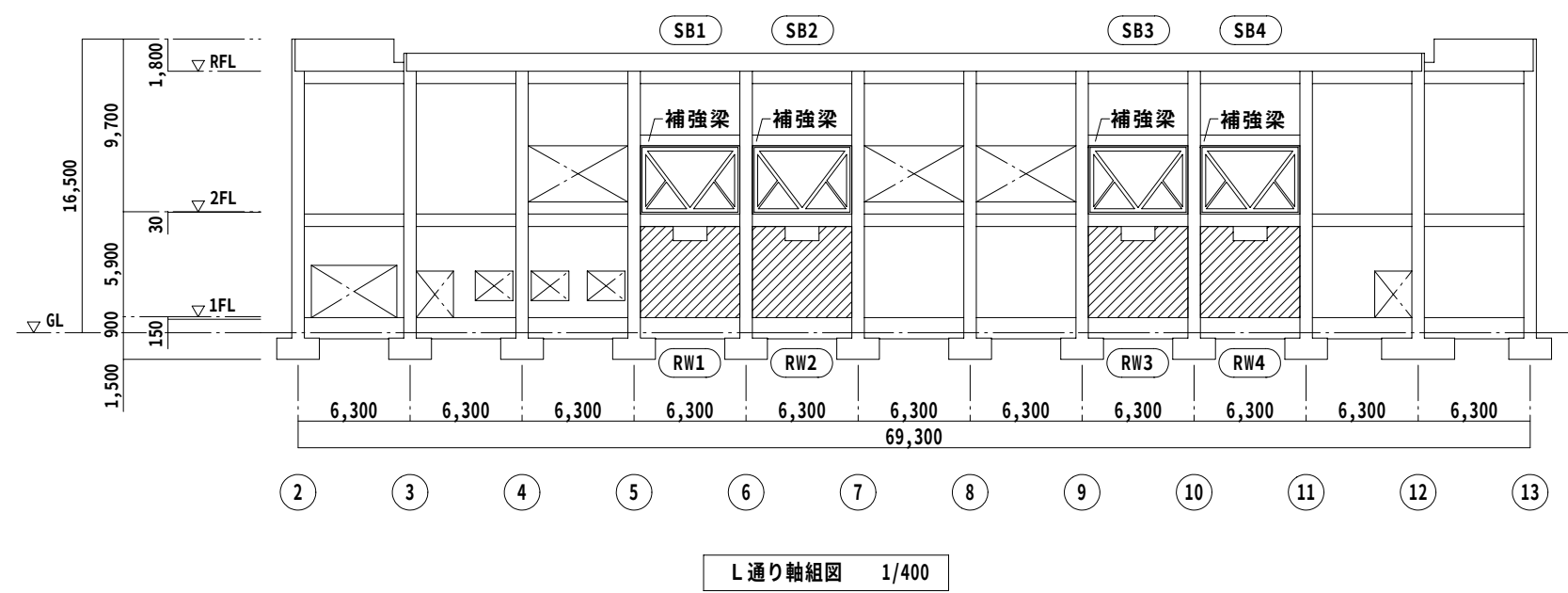
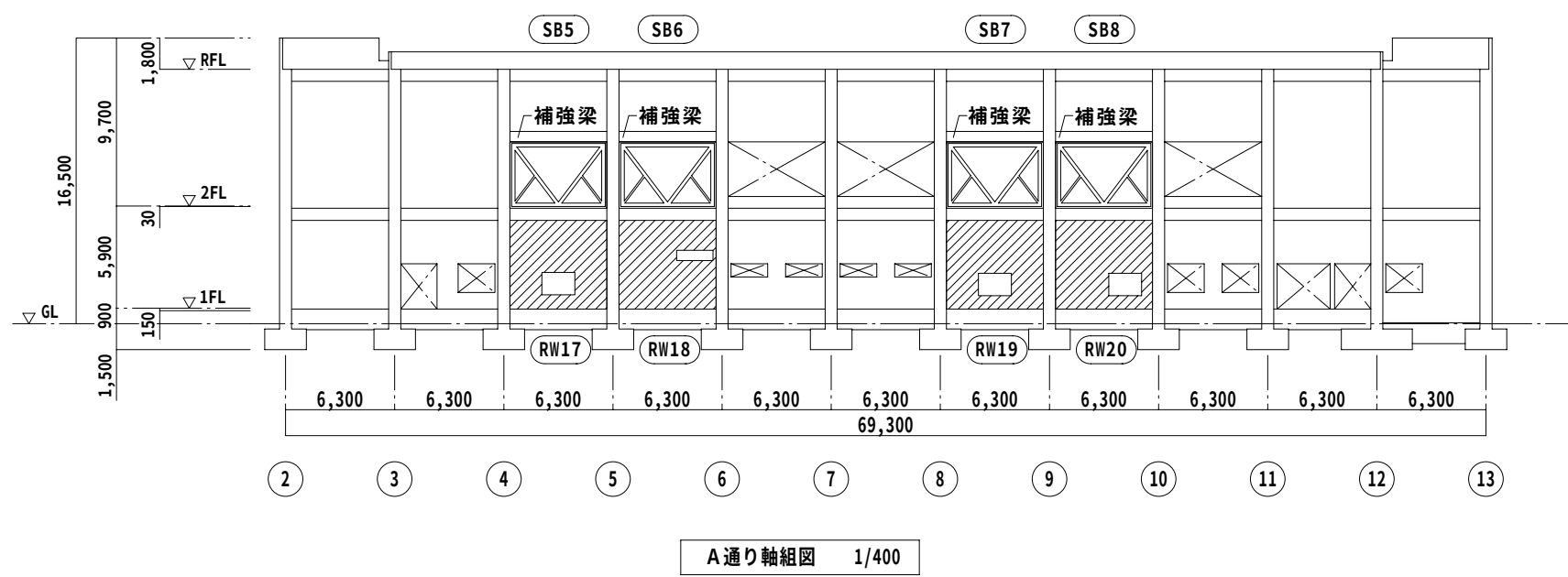
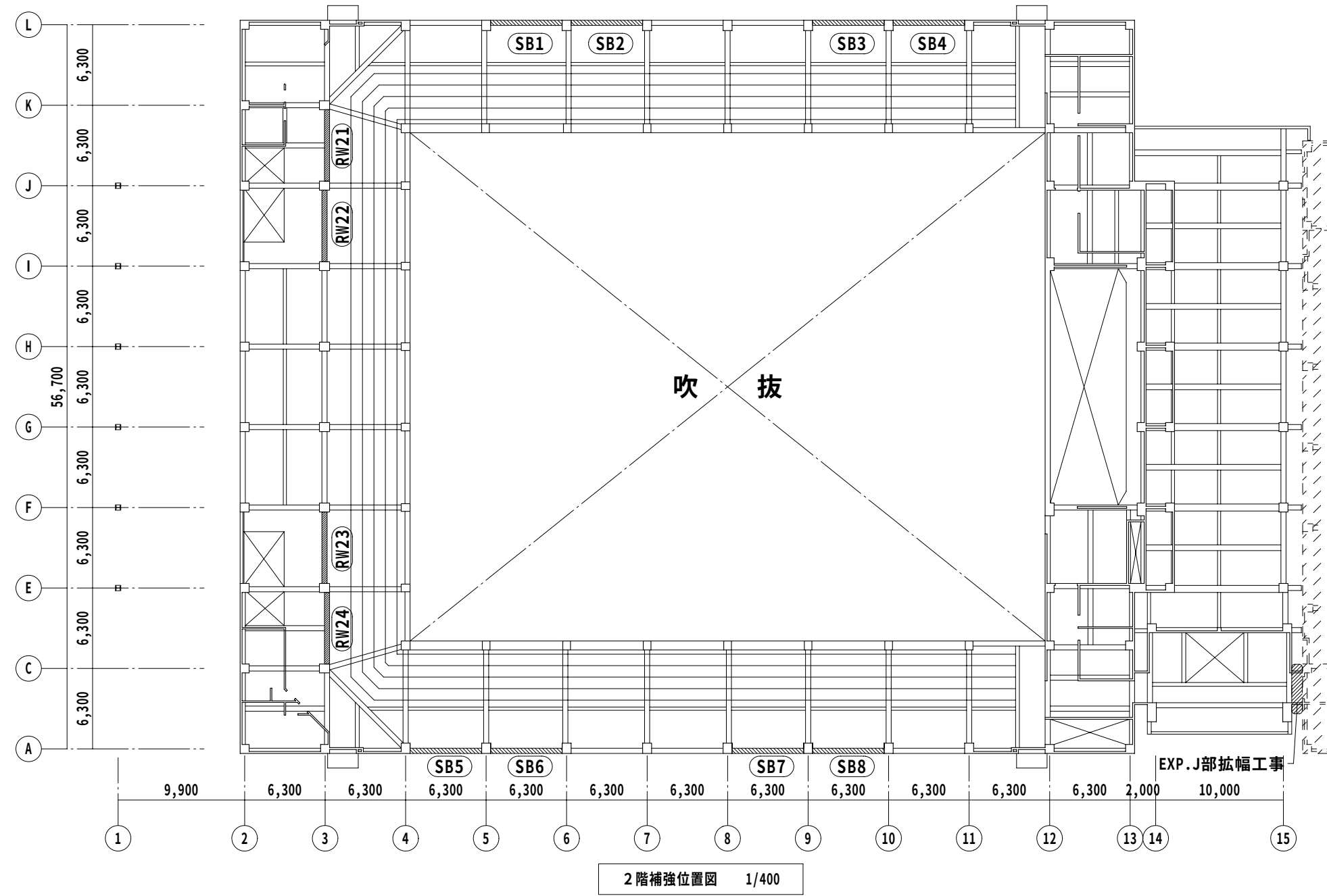
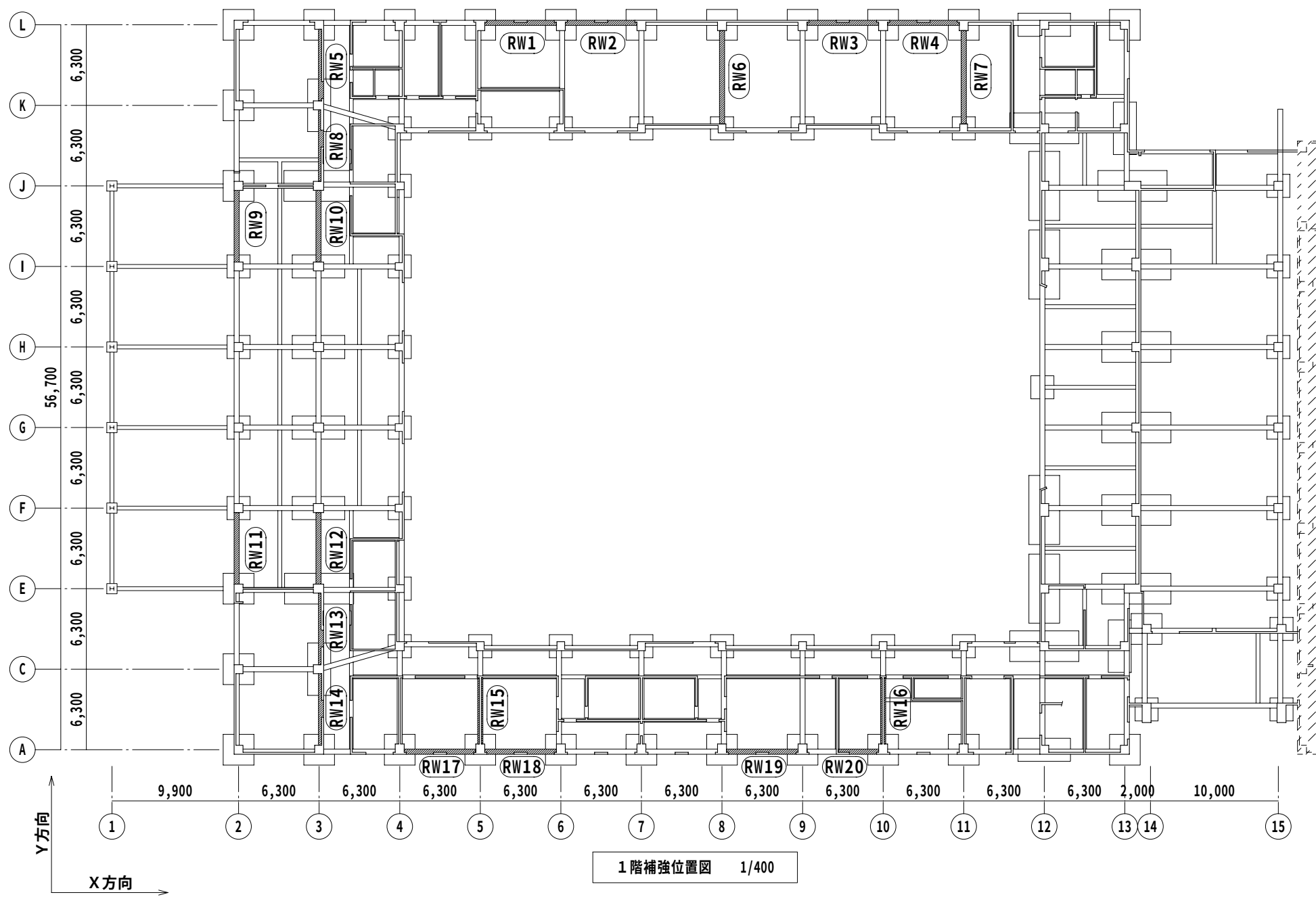
①斜材端部溶接接合

B H部の各板厚

枠・斜材	H-200×200×8×12	SS400
①	R-9	SM490
②	R-9, L1=250	SM490
③	R-16	SM490
④	R-9,	SM490
⑤	R-9, L2=200	SM490

B部分溶接詳細図

ジョイント部の標準図



補強部材凡例

RW	…鉄筋コンクリート造増設壁
SB	…鉄骨ブレース(K形)

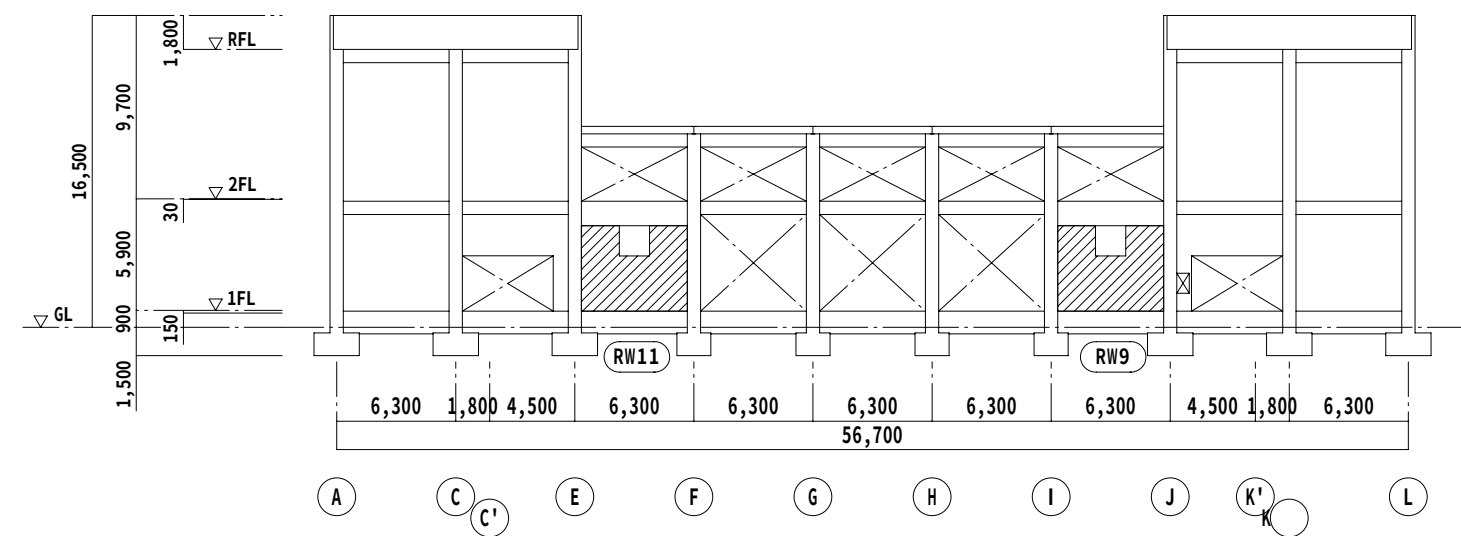
Special note introductory remarks □ RW (鉄筋コンクリート造増設壁) 外壁面は増打厚30の打放しとする



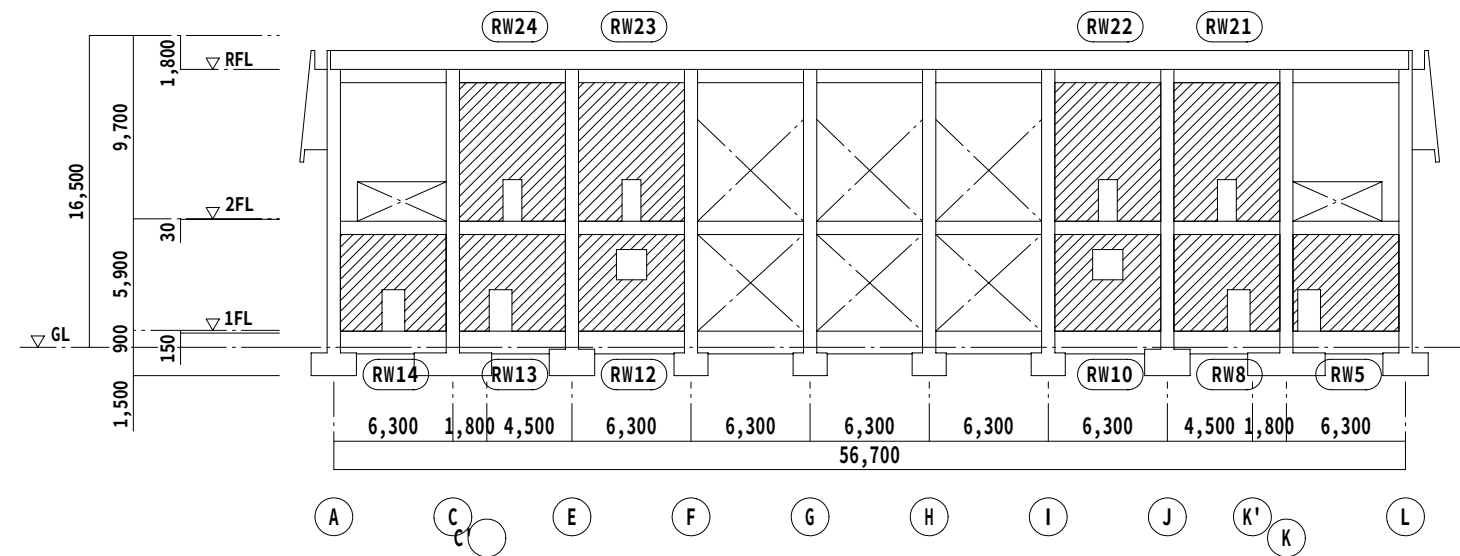
M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

県民体育館耐震補強その他建築主体工事（アリーナ棟）
date 5 / '11 drawn by checked by 前田雅幸

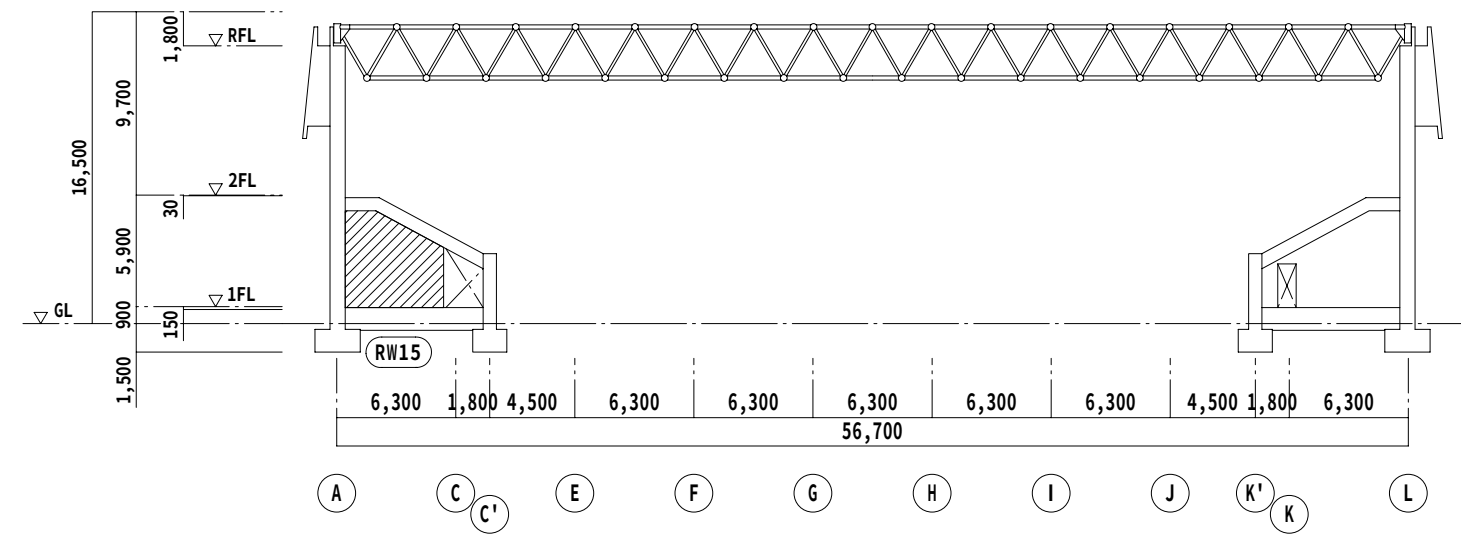
補強位置図（伏図・軸組図）
scale 1 / 400
構造 10



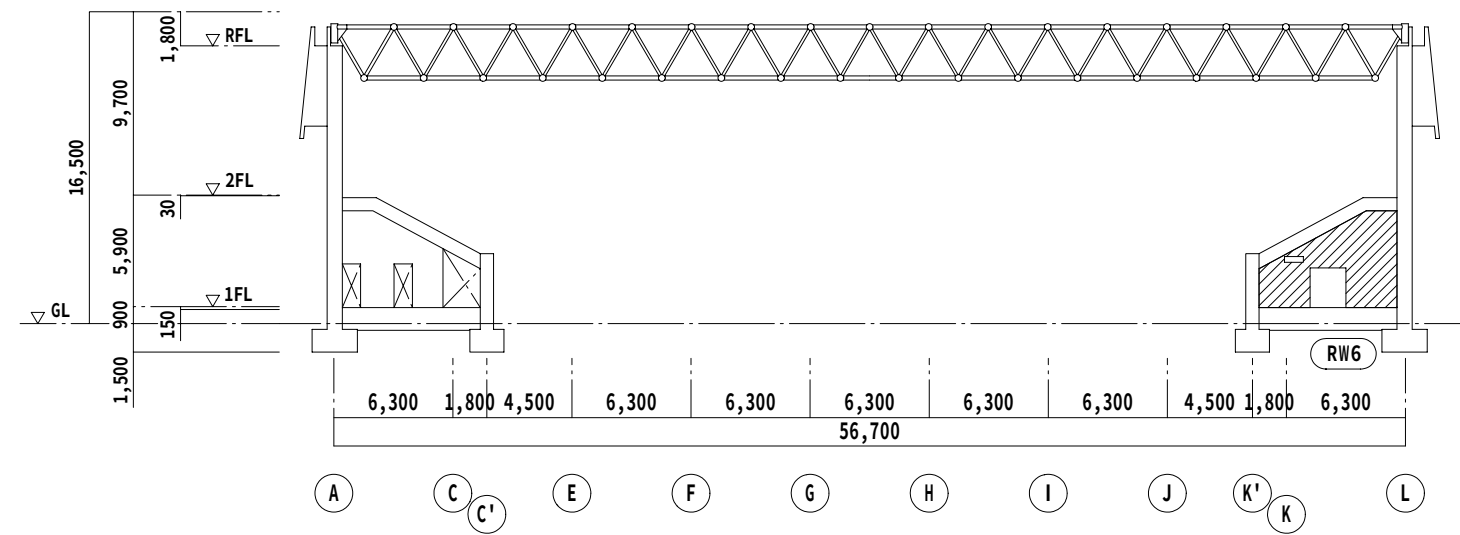
2通り軸組図 1/400



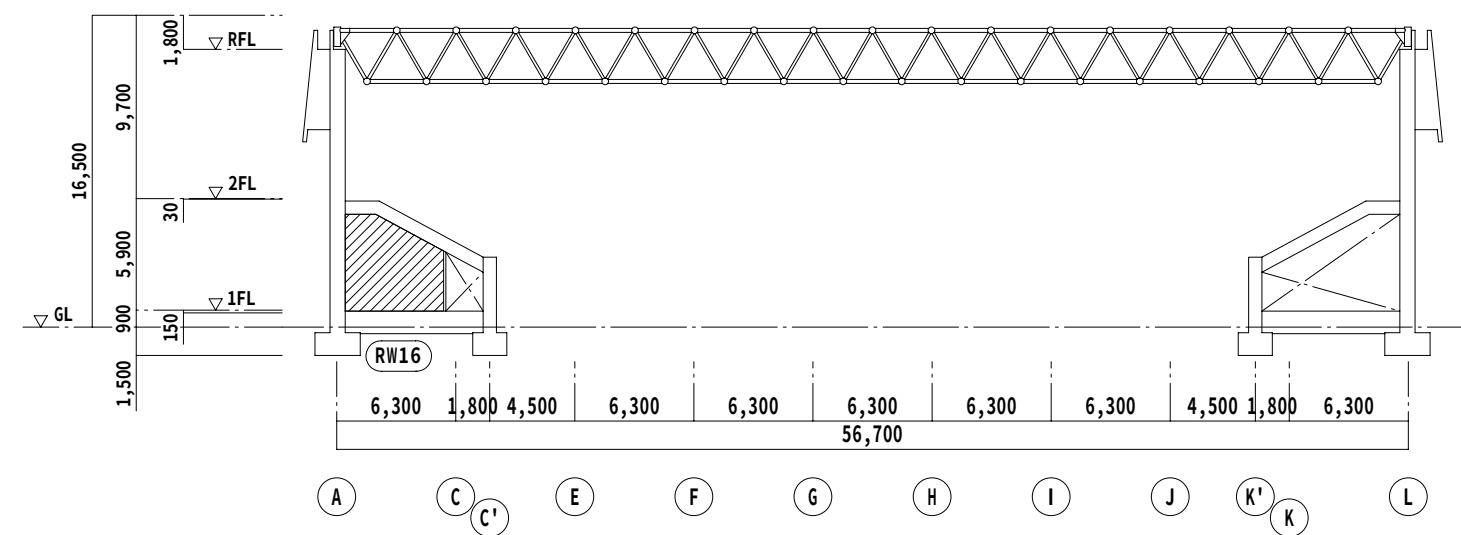
3通り軸組図 1/400



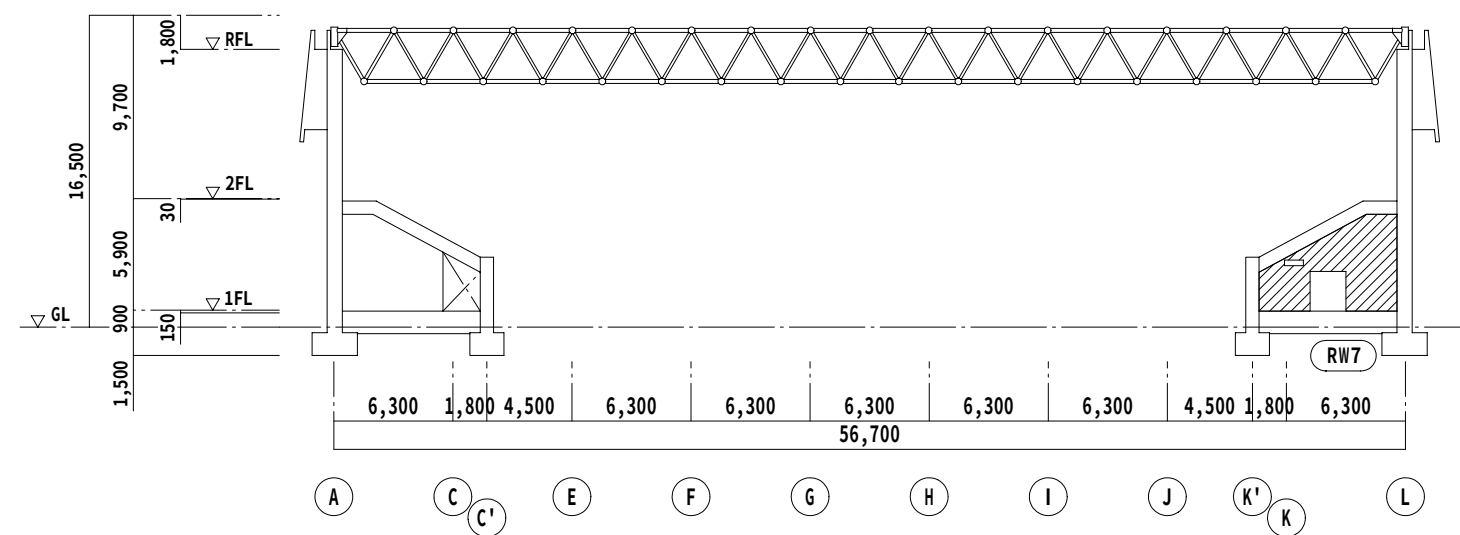
5通り軸組図 1/400



8通り軸組図 1/400



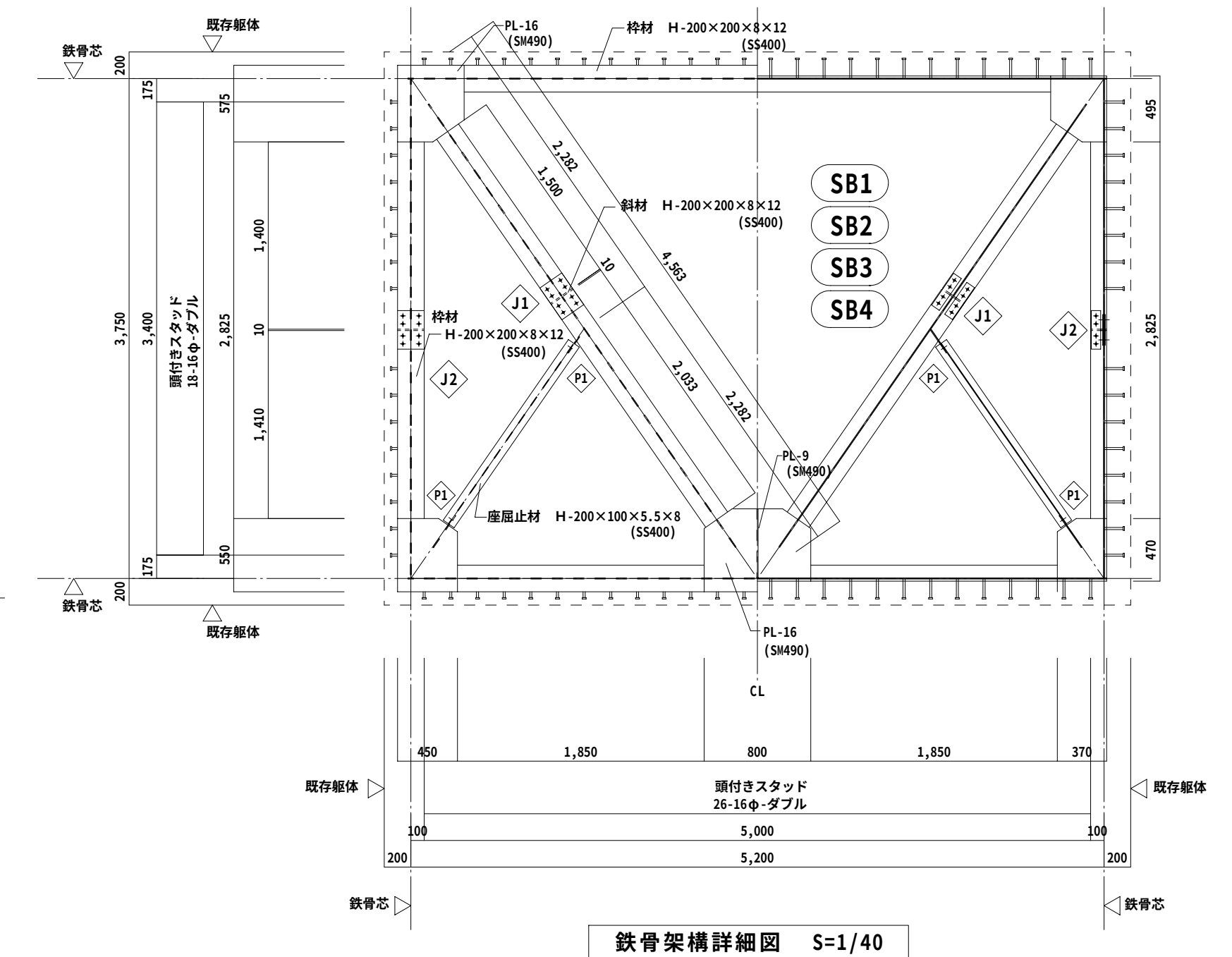
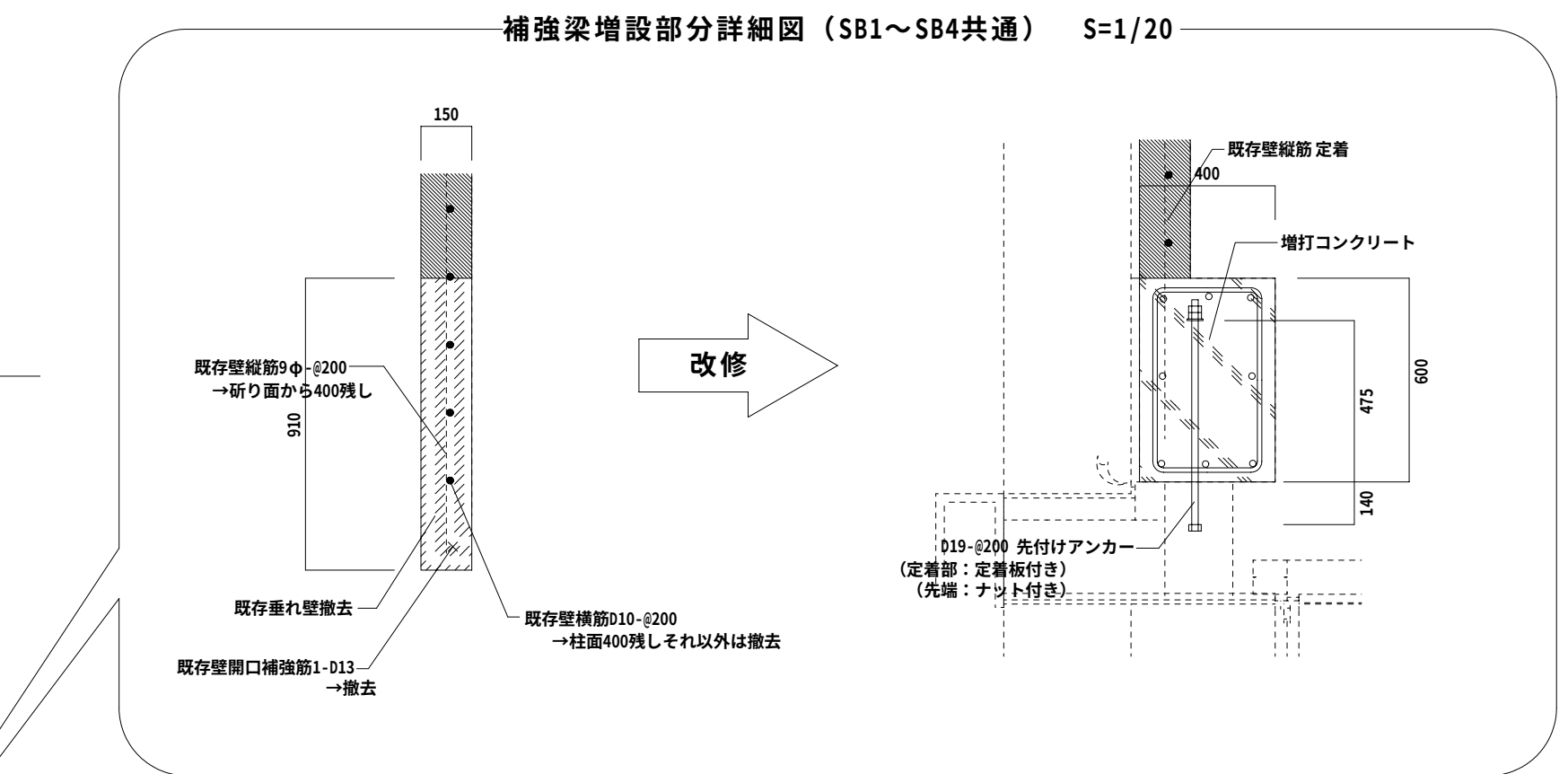
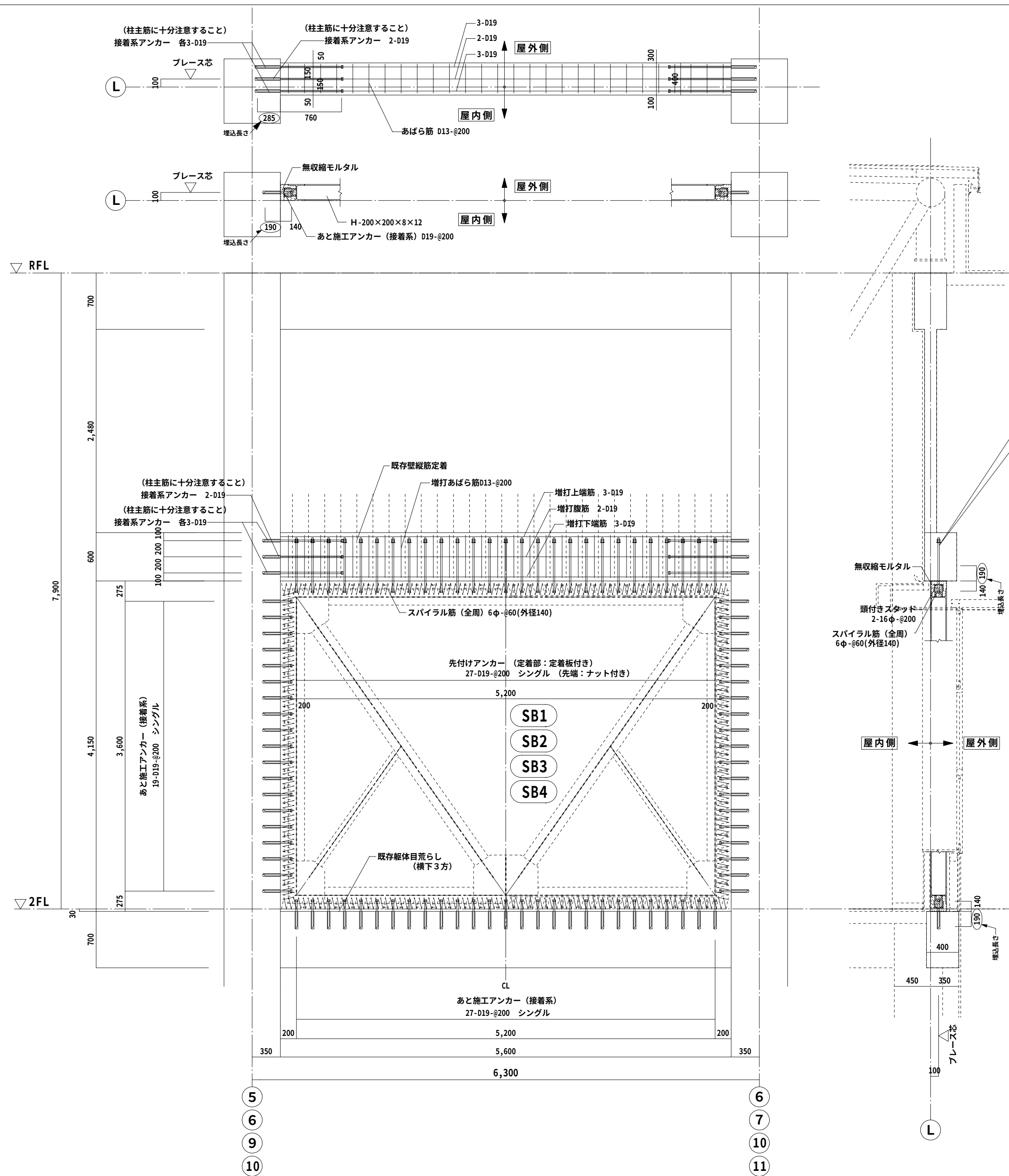
10通り軸組図 1/400



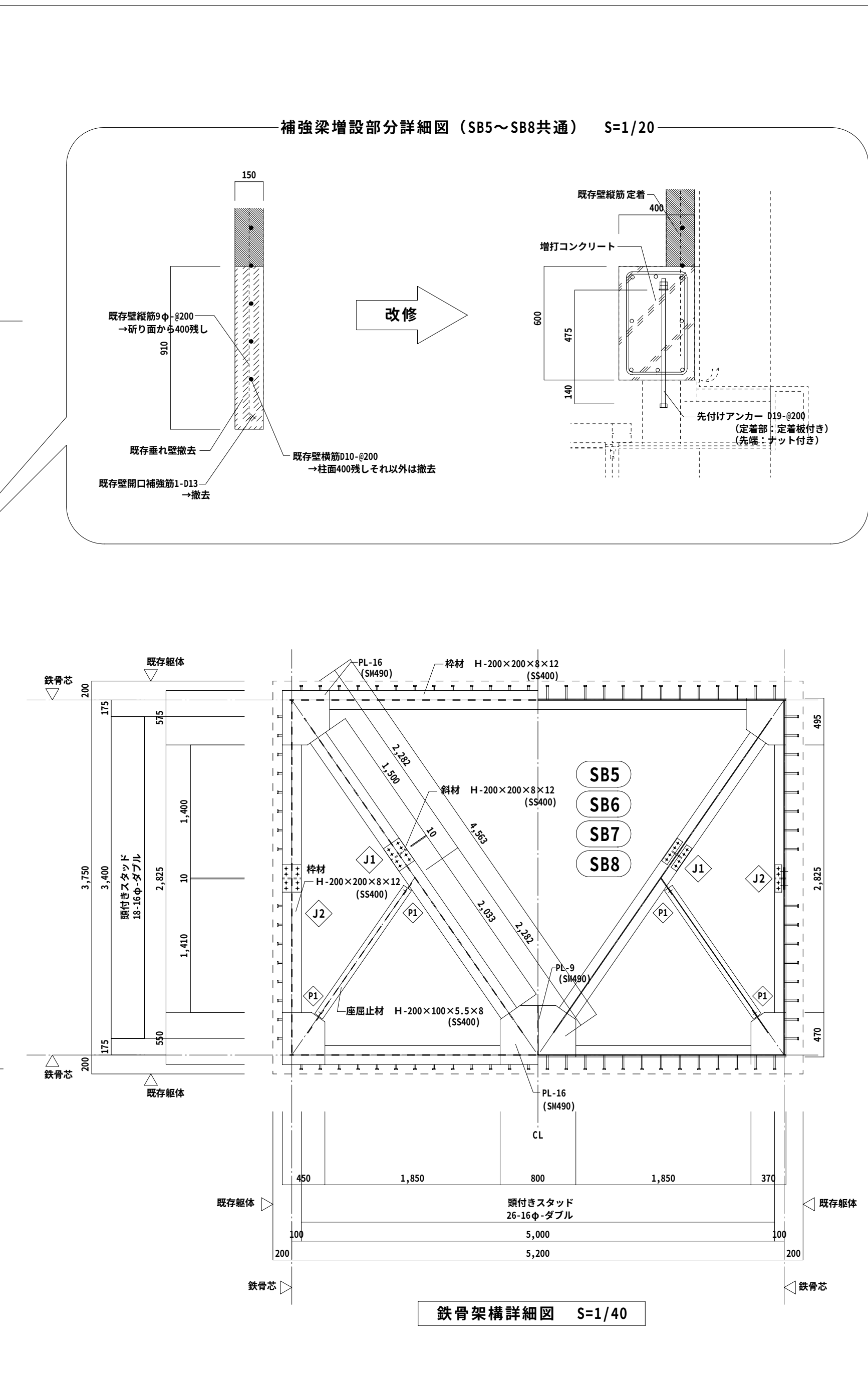
11通り軸組図 1/400

補強部材凡例

RW …鉄筋コンクリート造増設壁

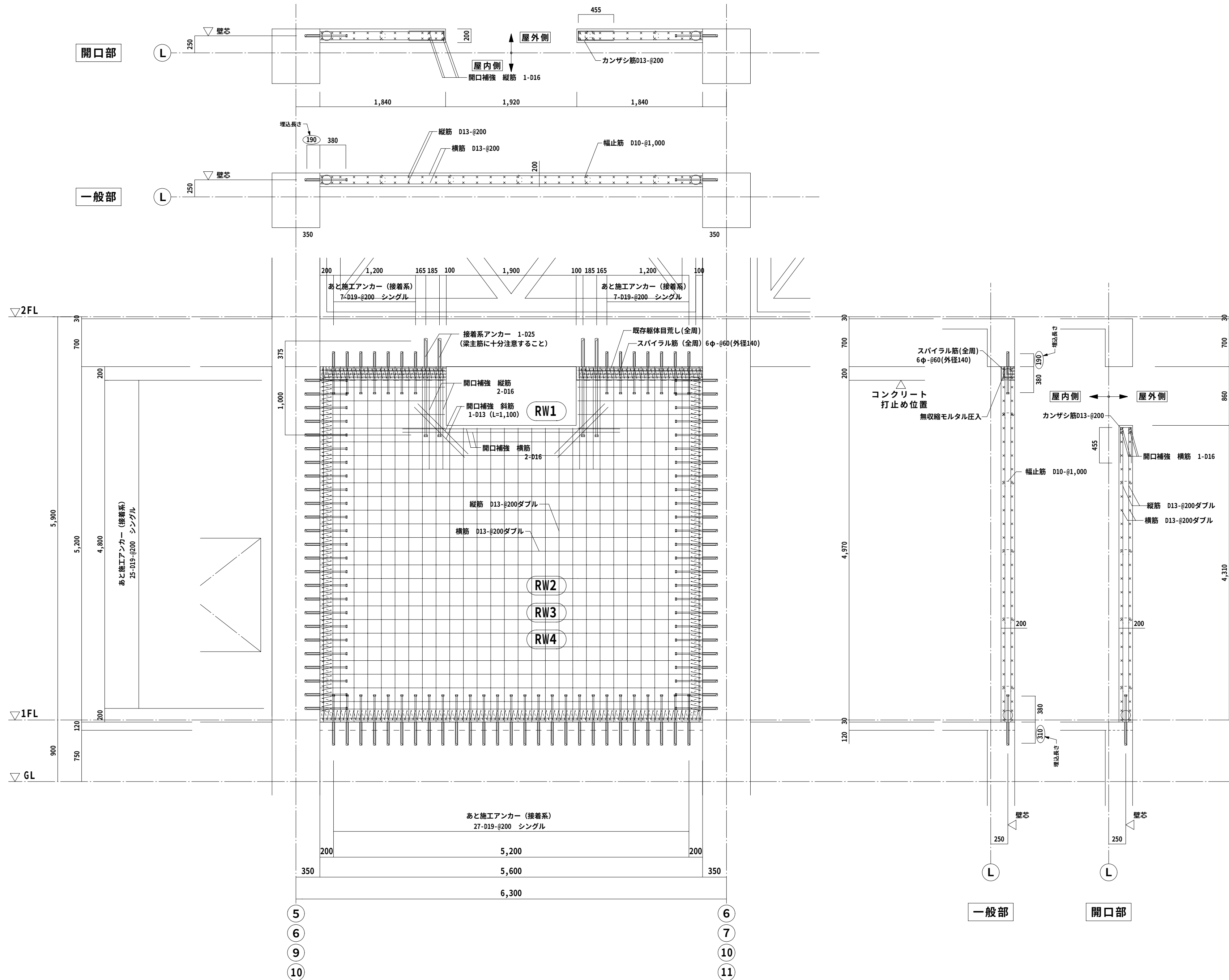


アンカー打設及びスパイラル筋設置要領図 (SB1) (SB2) (SB3) (SB4) S=1/40



補強梁増設部分詳細図 (SB5~SB8共通) S=1/20

鉄骨架構詳細図 S=1/40



Special note
introductory remarks



M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

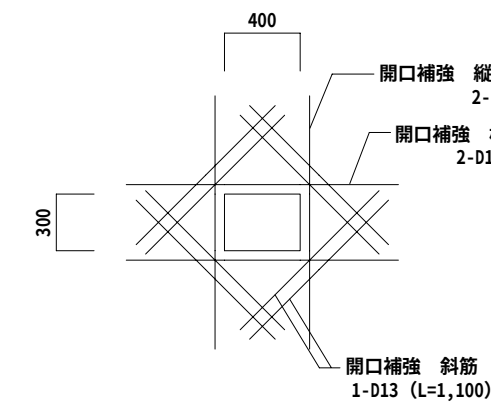
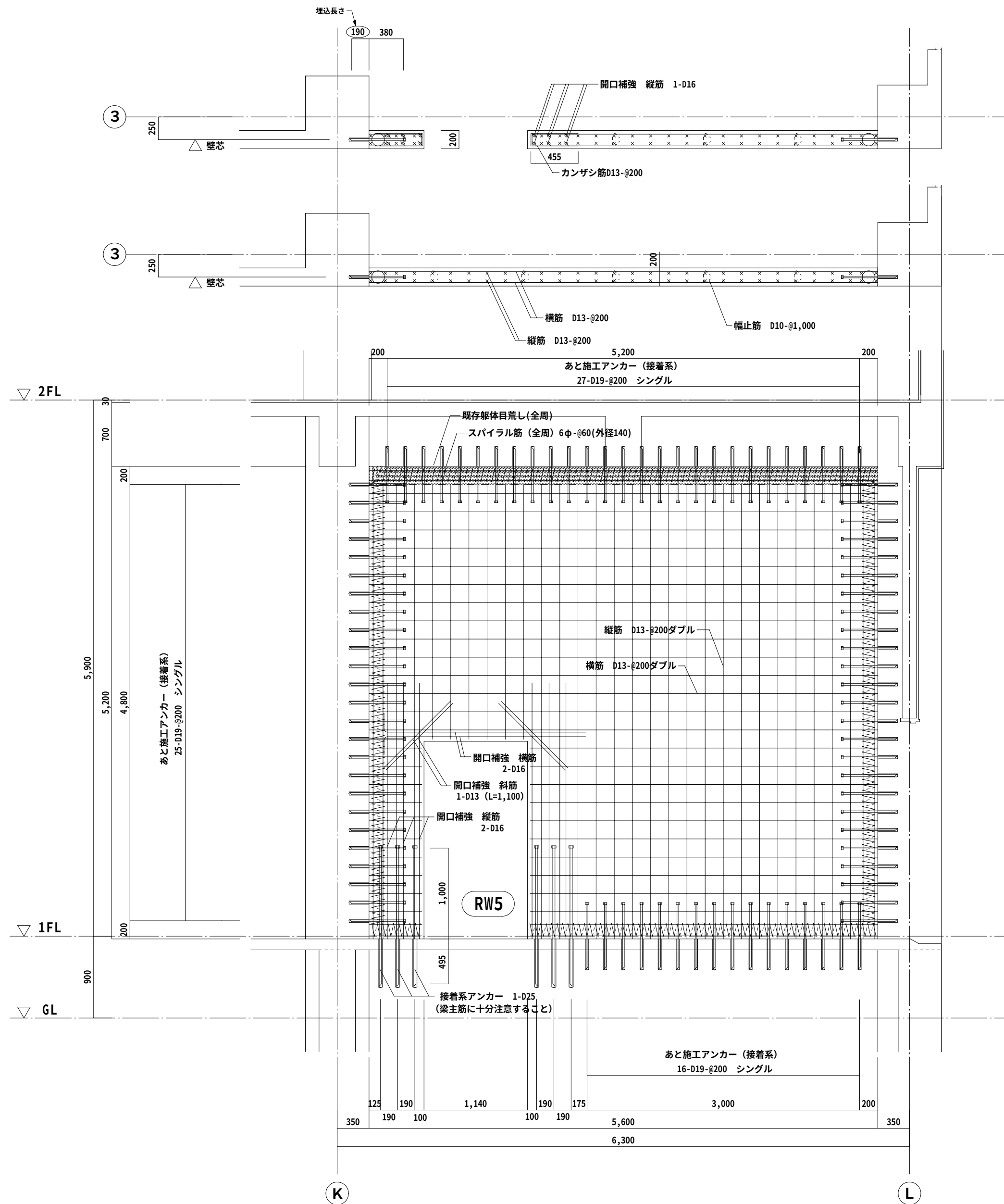
県民体育館耐震補強その他建築主体工事（アリーナ棟）
date 5 / '11 drawn by checked by 前田雅幸

鉄筋コンクリート造
増設壁詳細図（RW1～4）
scale 1 / 40

構造
1 4

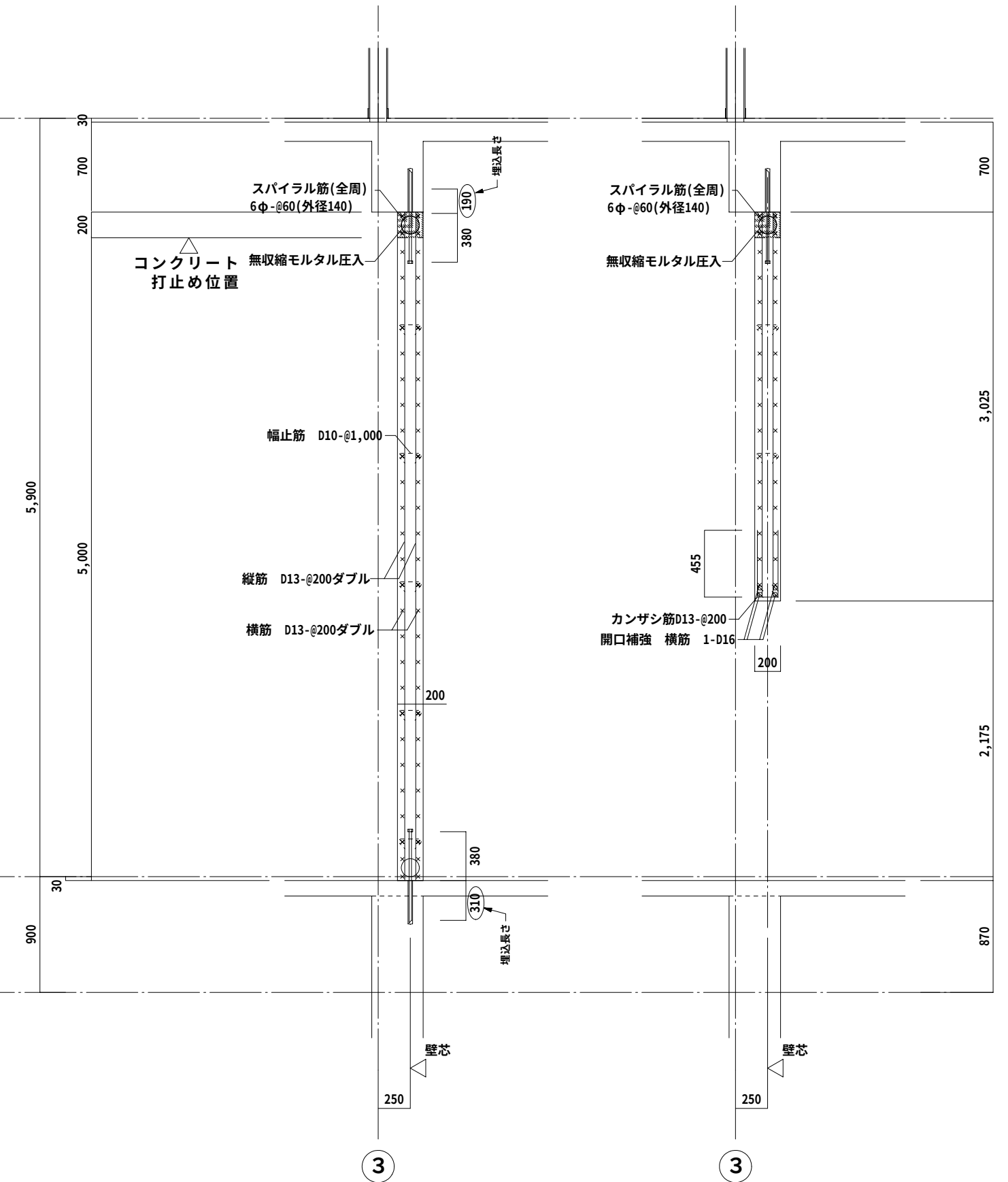
開口部

一般部



小開口補強筋詳細図 S=1/40

※数量は1箇所、位置は設備機器の位置によって決定する。



一般部

開口部

鉄筋コンクリート造増設壁 RW5 詳細図 S=1/40

Special note
introductory remarks

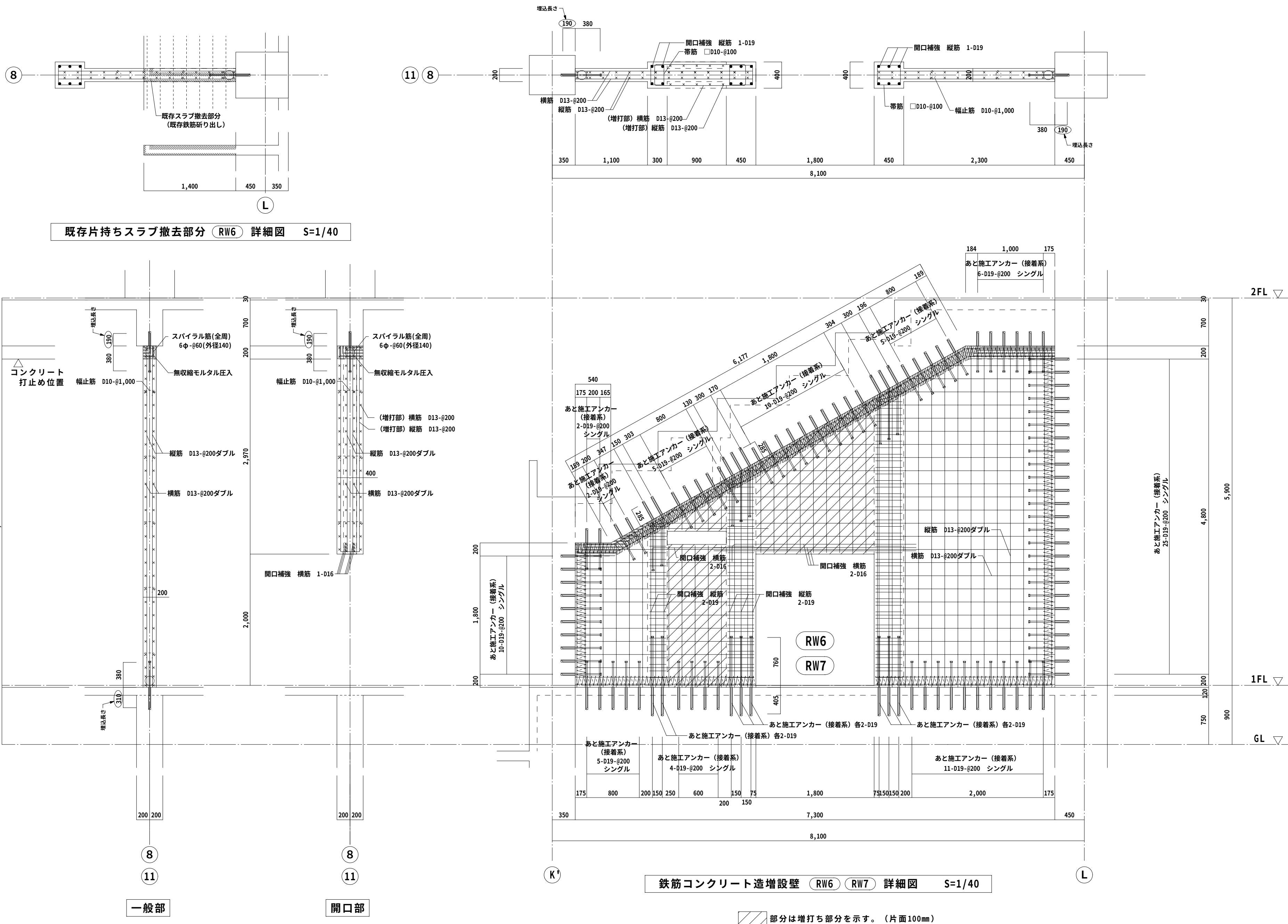


M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

県民体育館耐震補強その他建築主体工事（アリーナ棟）
date 5 / '11 drawn by checked by 前田雅幸

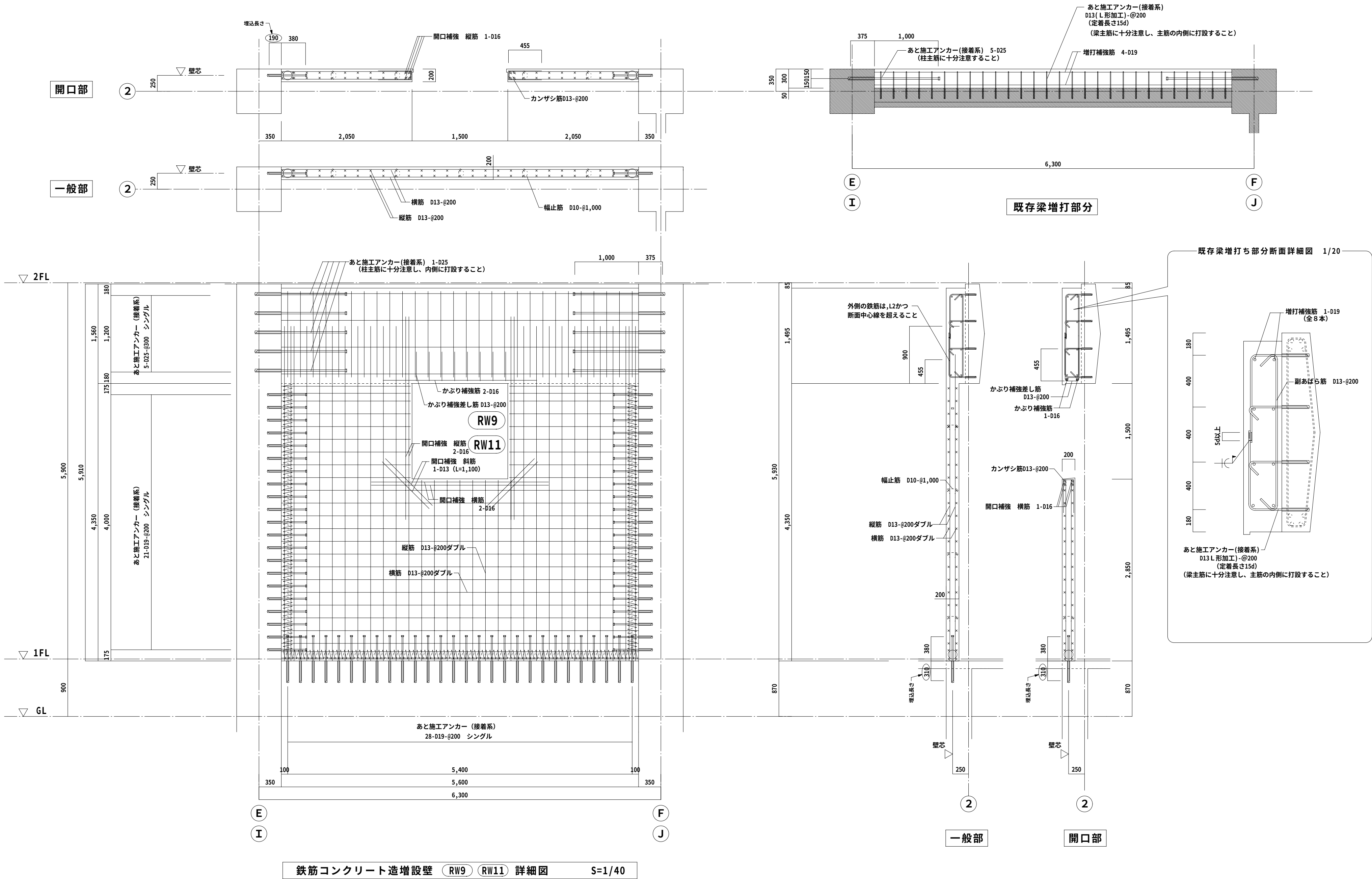
鉄筋コンクリート造
増設壁詳細図（RW5）
scale 1 / 40

構造
15



一般部





Special note
introductory remarks

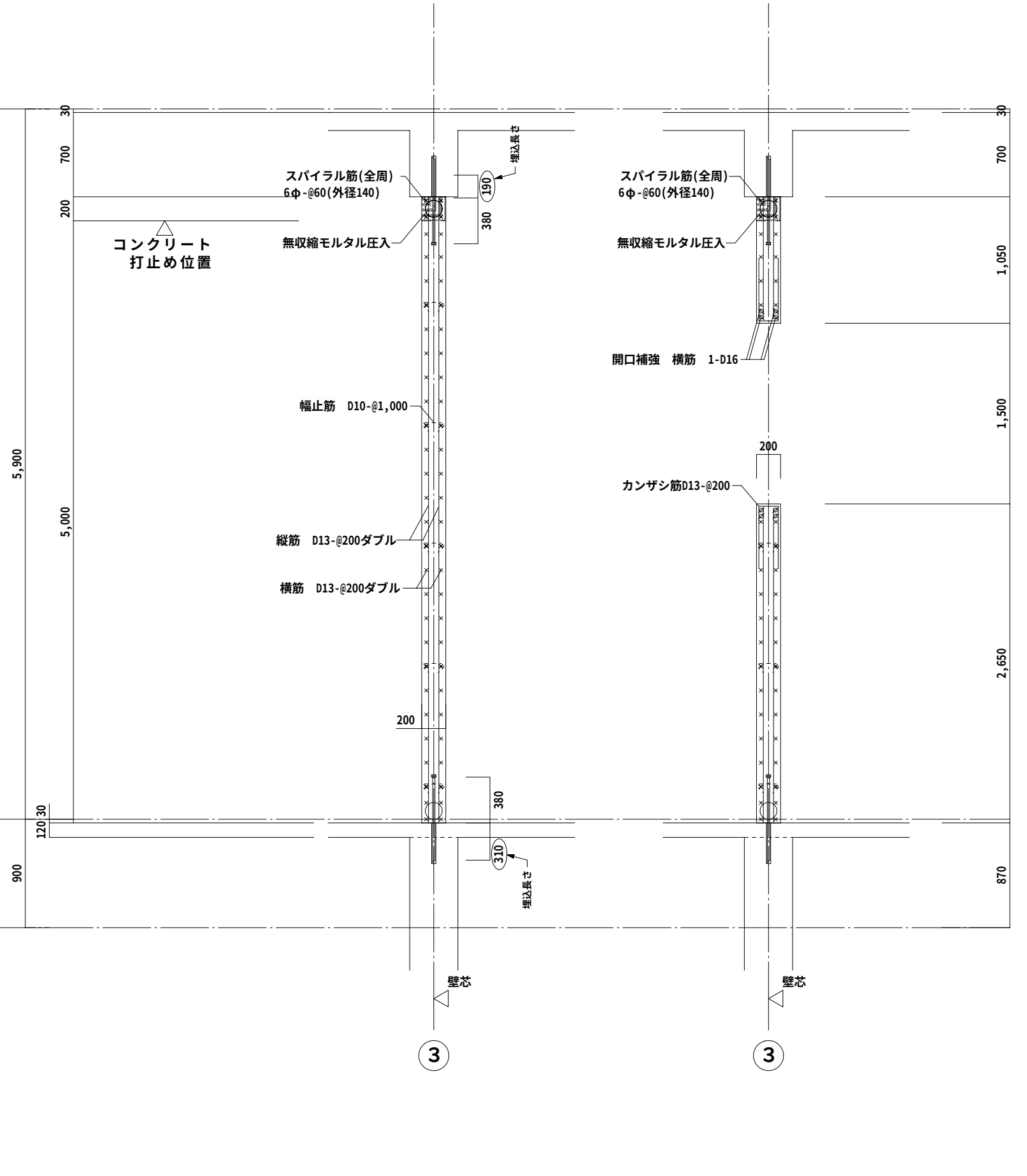
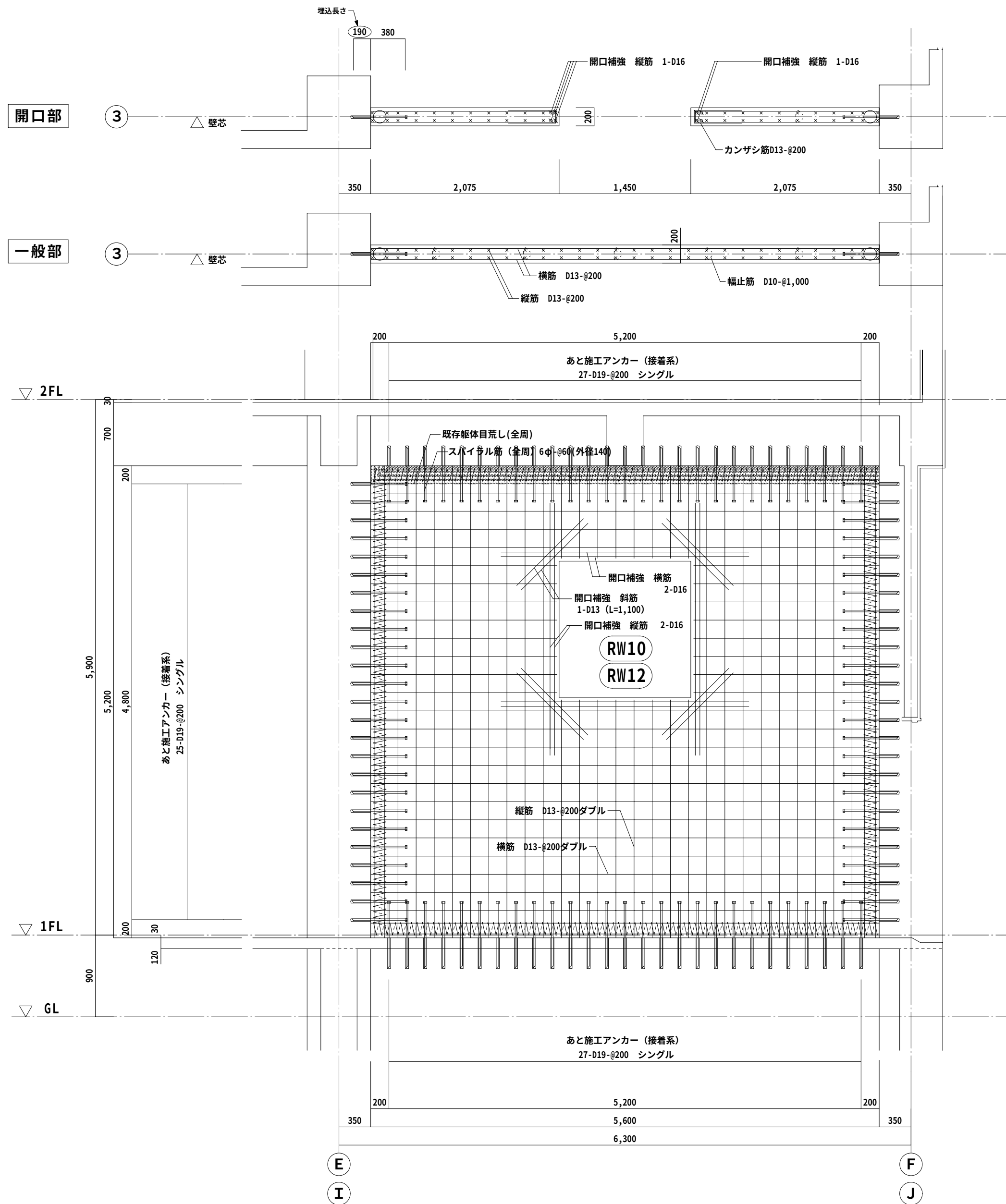


M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

県民体育館耐震補強その他建築主体工事（アリーナ棟）
date 5 / '11 drawn by checked by 前田雅幸

鉄筋コンクリート造
増設壁詳細図 (RW9・11)
scale 1 / 40・20

構造
18



鉄筋コンクリート造増設壁 RW10 RW12 詳細図 S=1/40

Special note
introductory remarks



M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

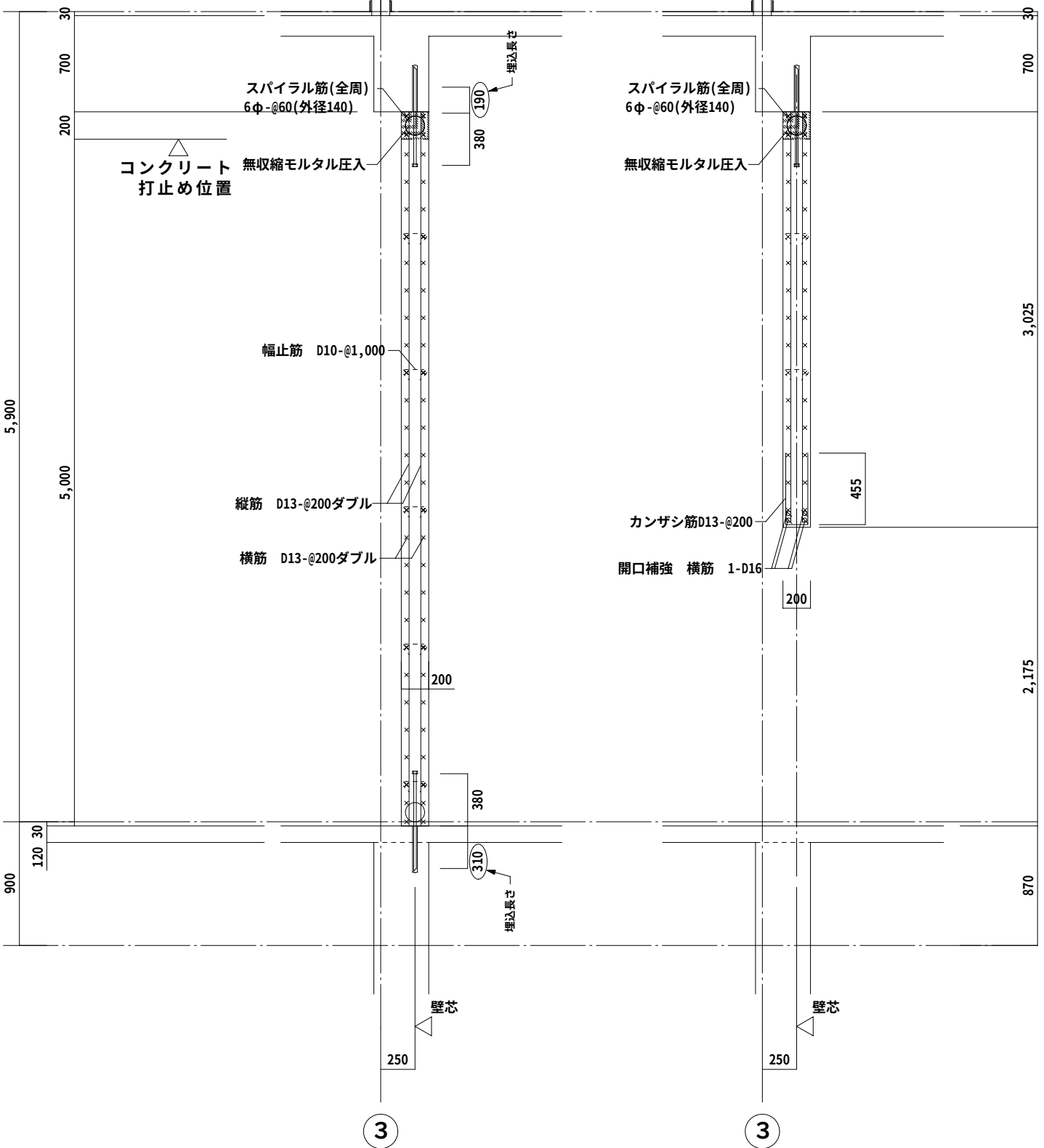
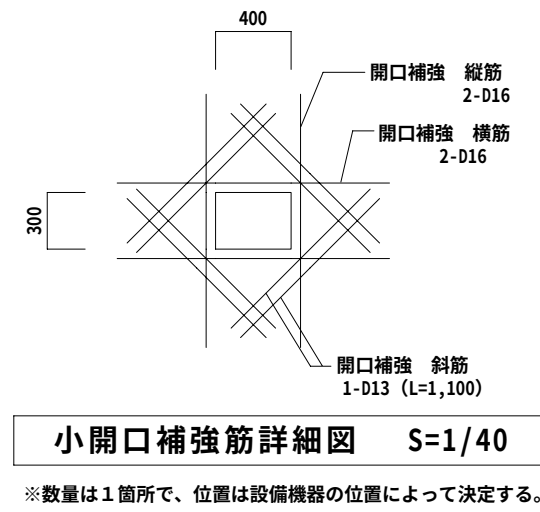
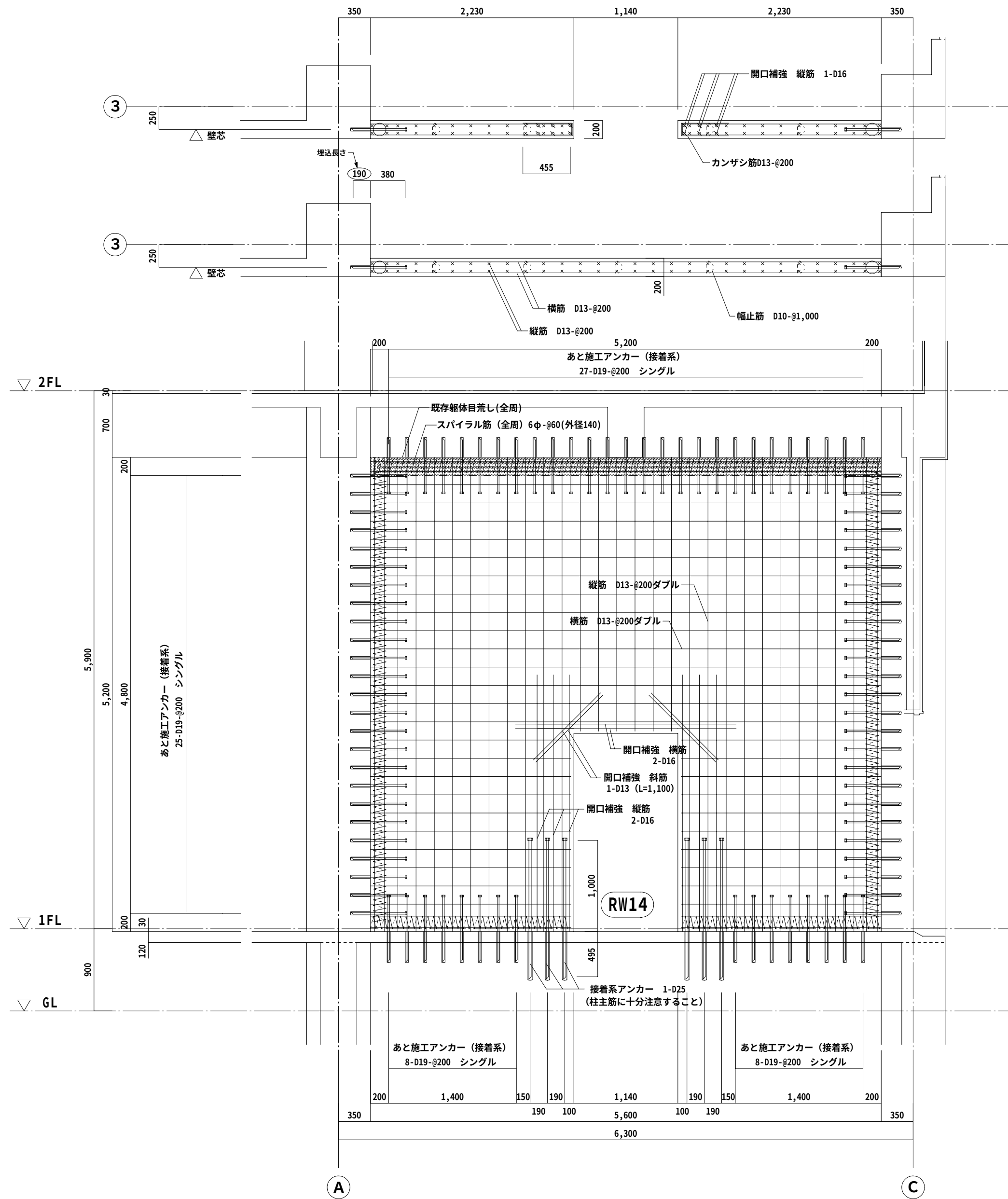
県民体育館耐震補強その他建築主体工事（アリーナ棟）
date 5 / '11 drawn by checked by 前田雅幸

鉄筋コンクリート造
増設壁詳細図（RW10・12）
scale 1 / 40

構造
19

開口部

一般部



鉄筋コンクリート造増設壁 (RW14) 詳細図 S=1/40

一般部

開口部

Special note
introductory remarks

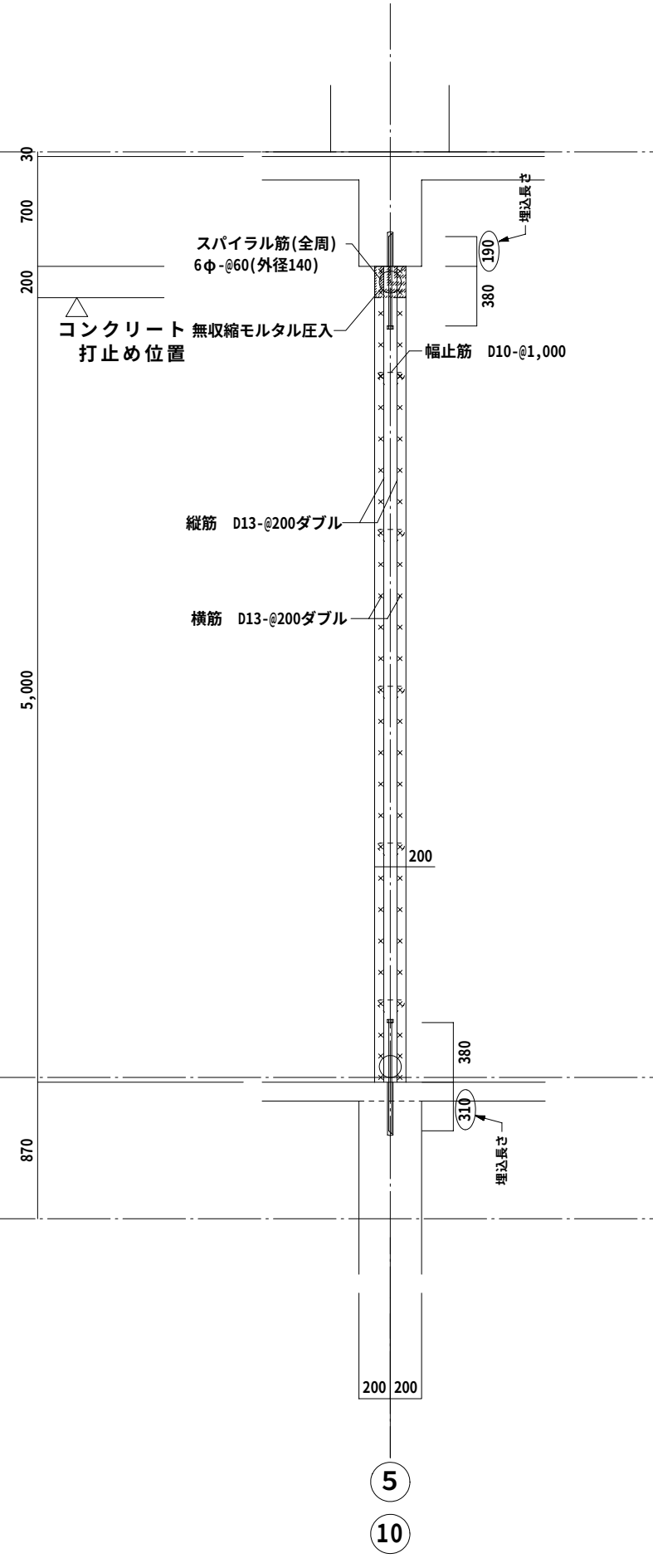
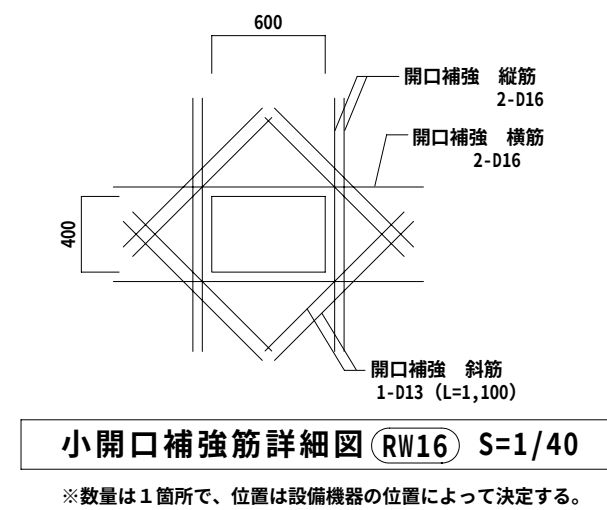
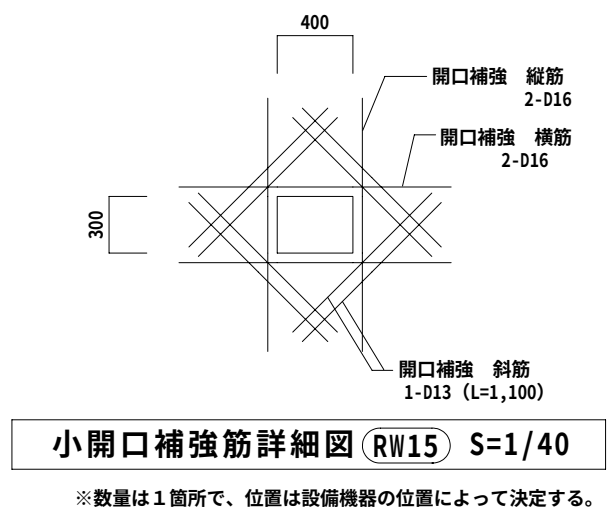
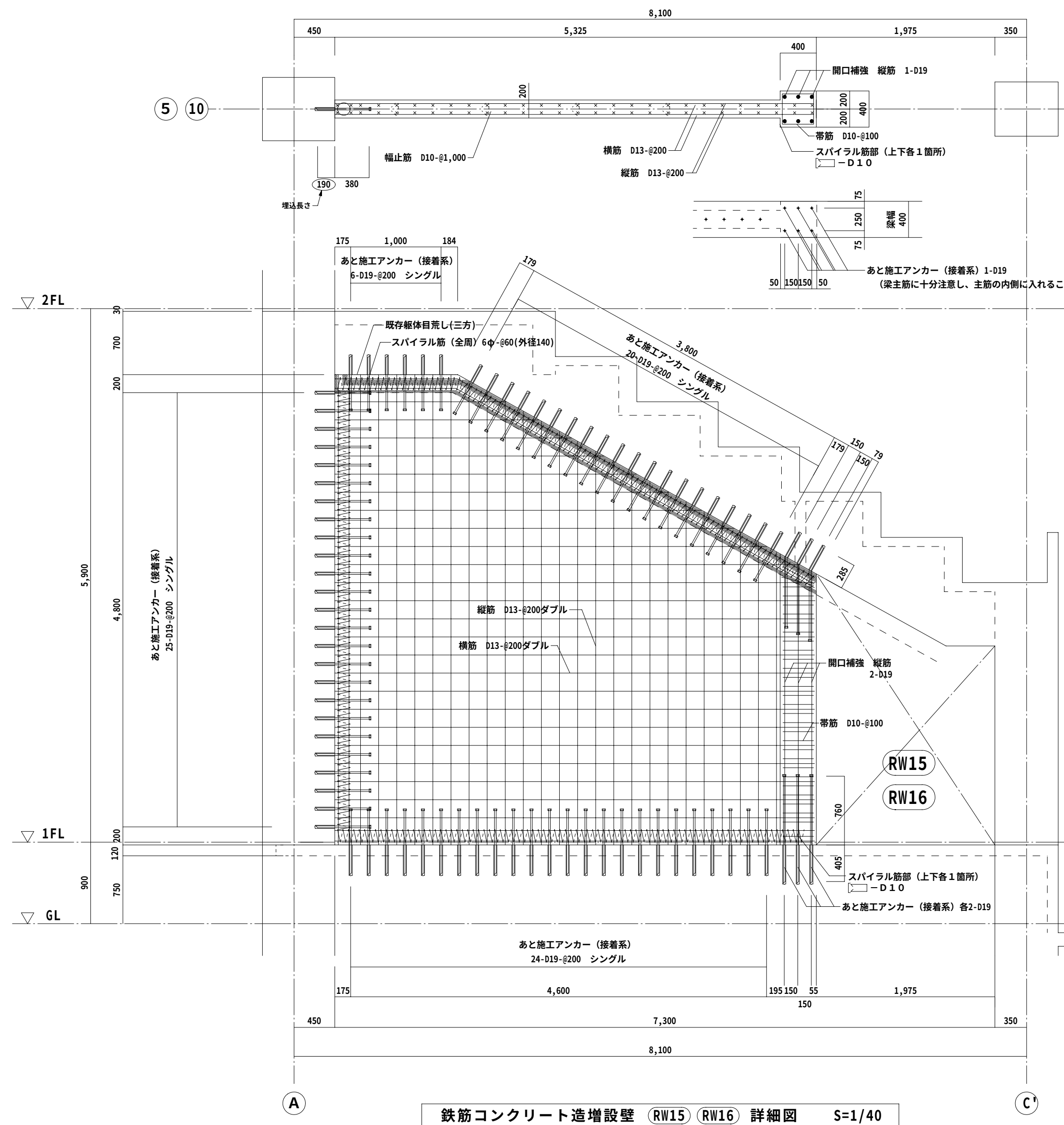


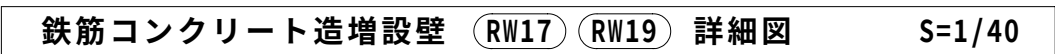
M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

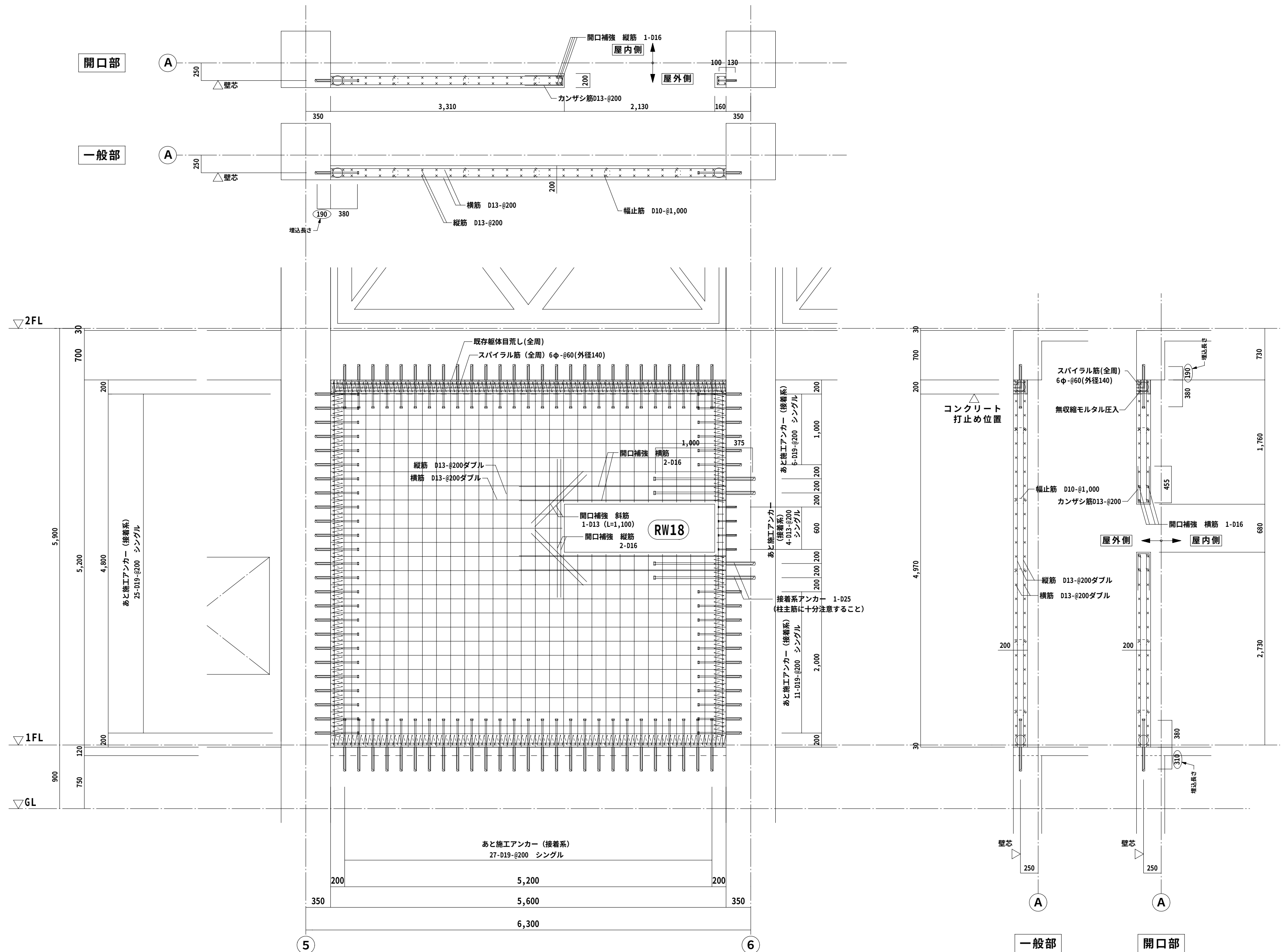
県民体育館耐震補強その他建築主体工事 (アリーナ棟)
date 5 / '11 drawn by checked by 前田雅幸

鉄筋コンクリート造
増設壁詳細図 (RW14)
scale 1 / 40

構造
20



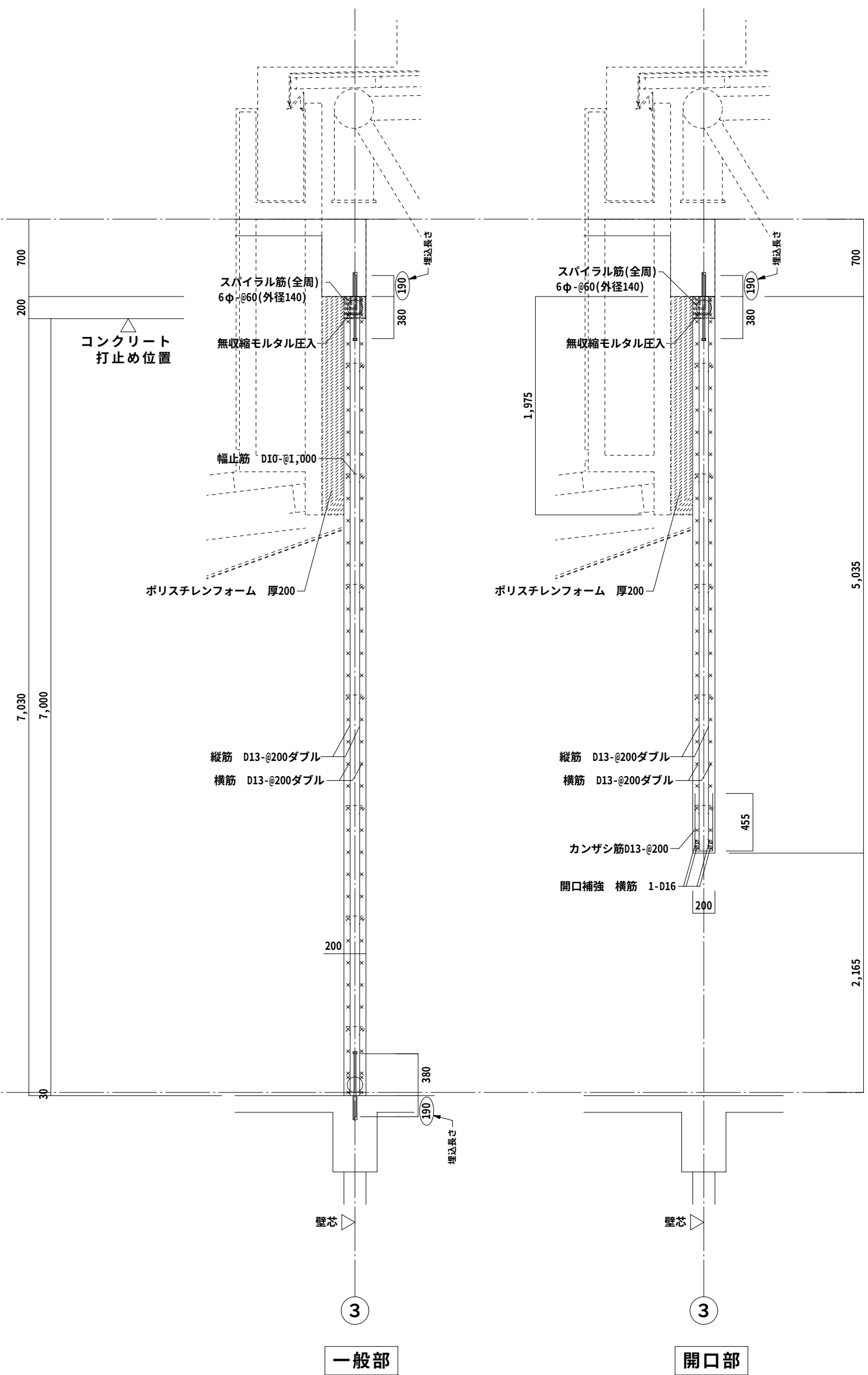
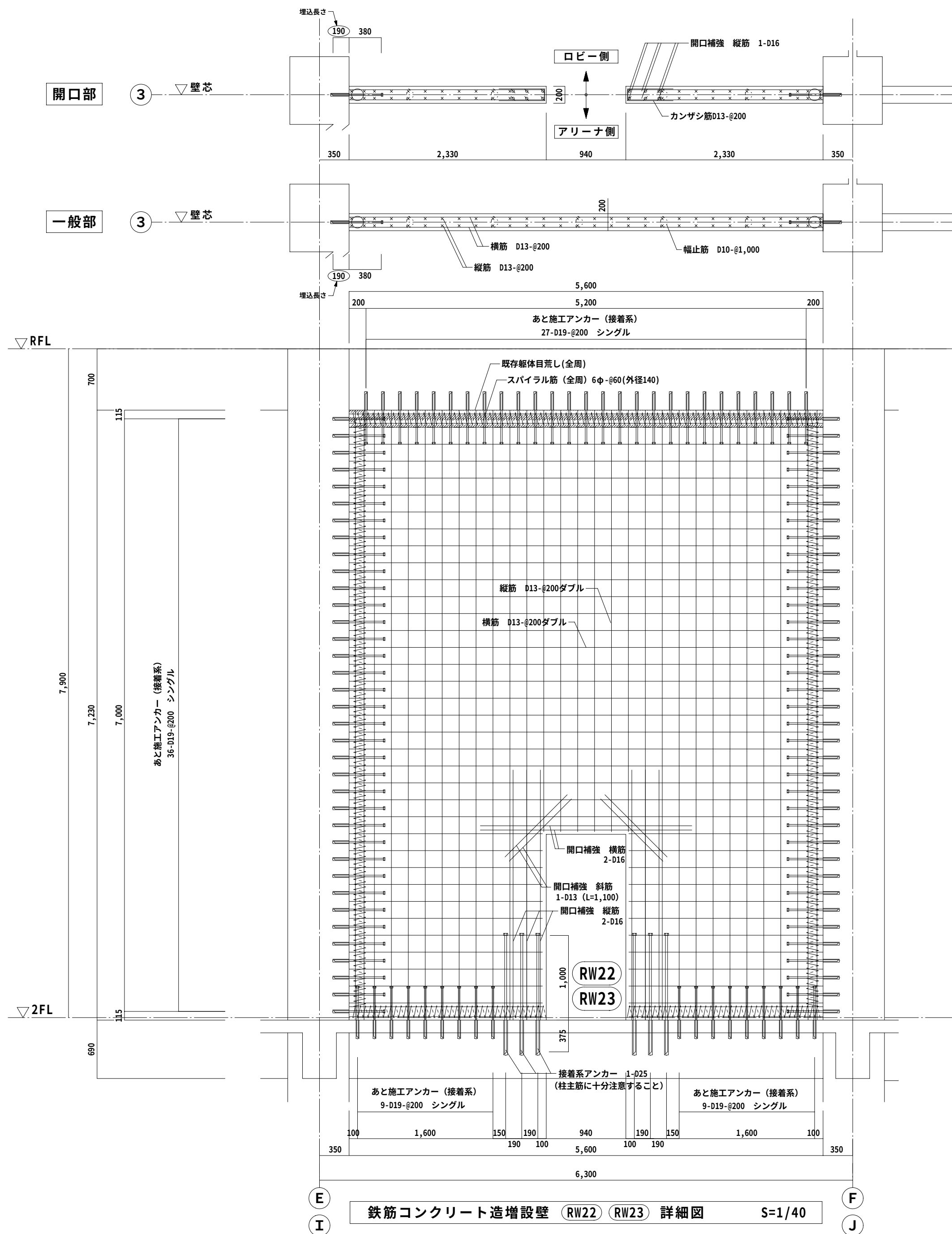




鉄筋コンクリート造増設壁 (RW18) 詳細図 S=1/40







Special note
introductory remarks



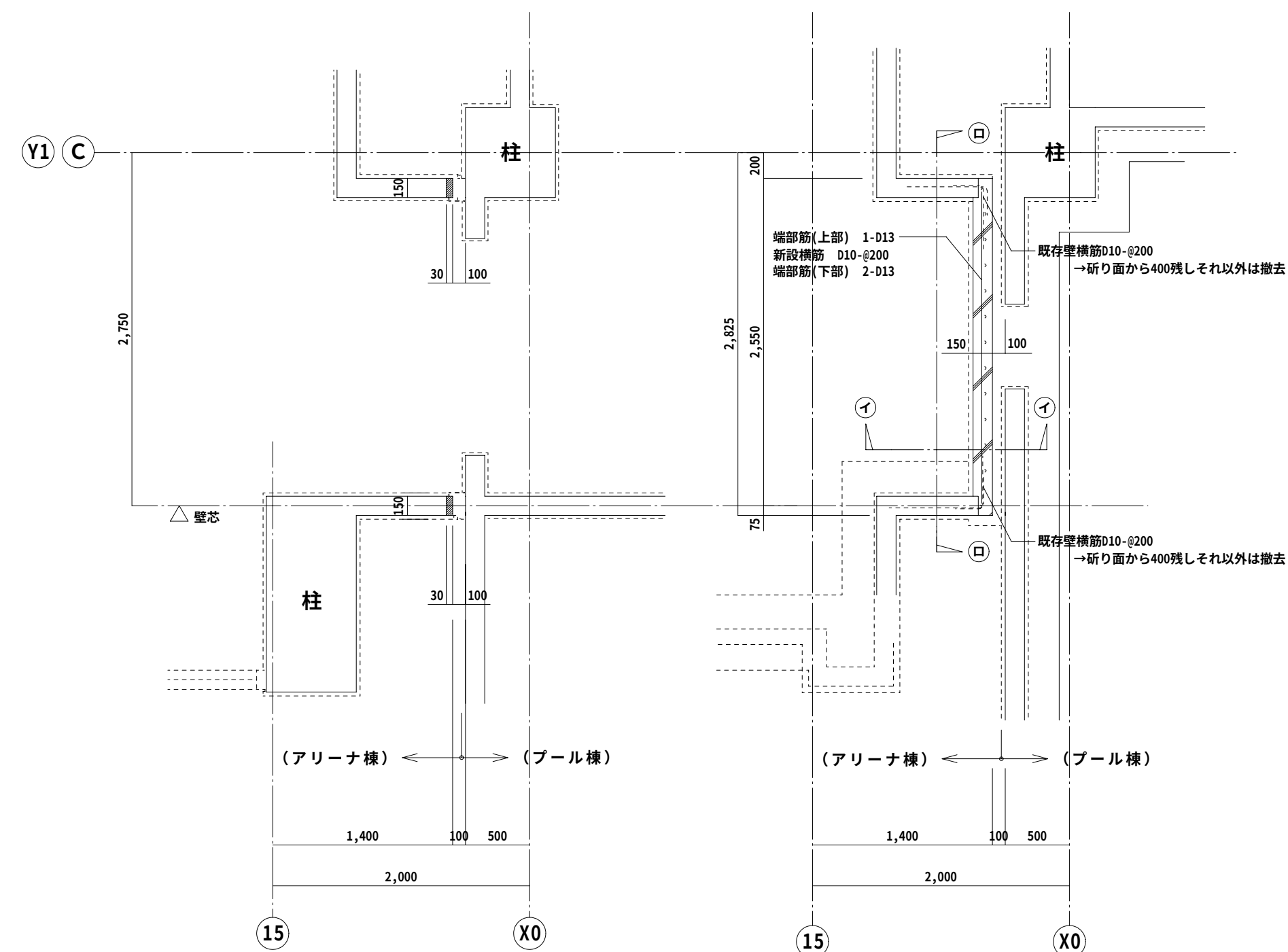
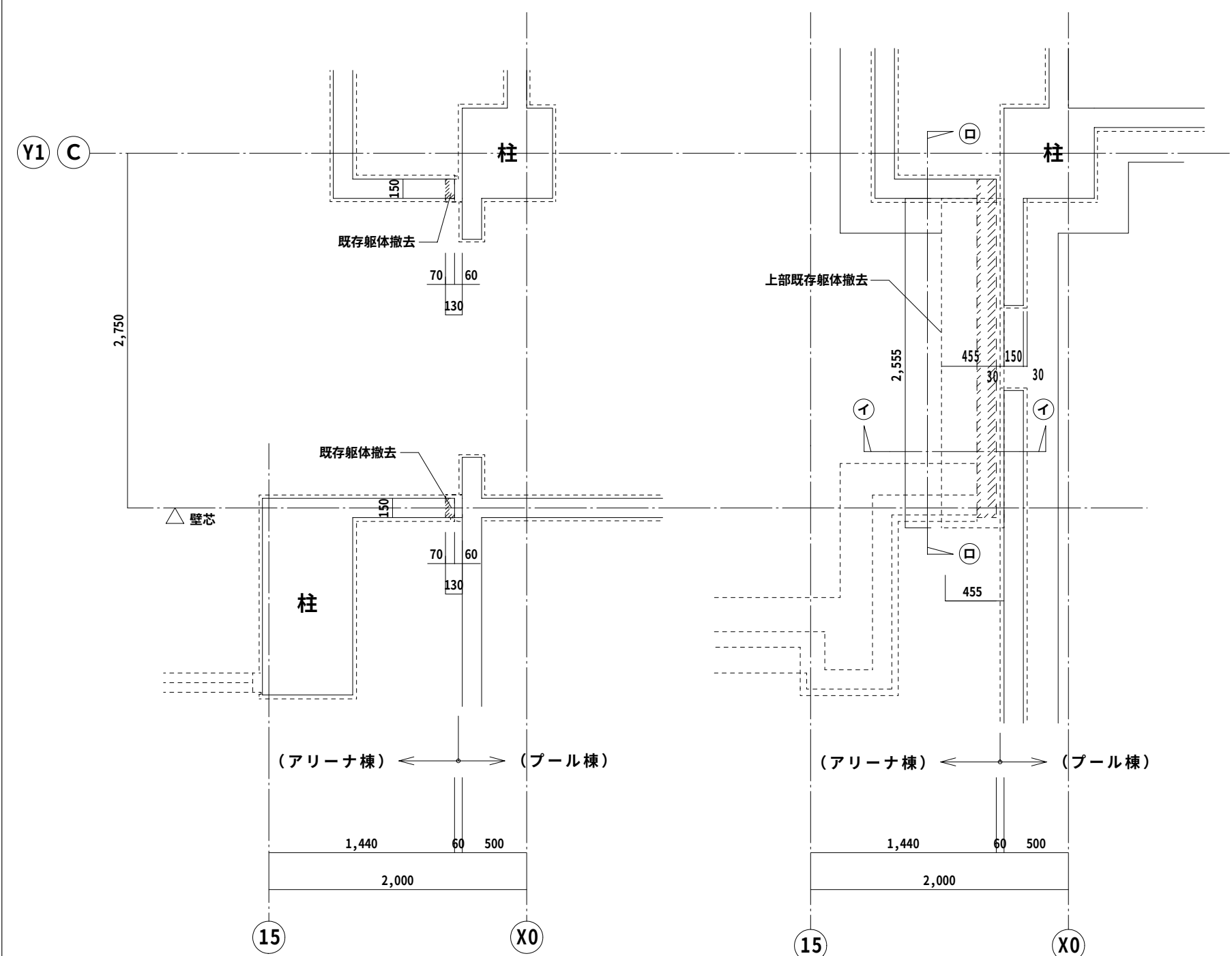
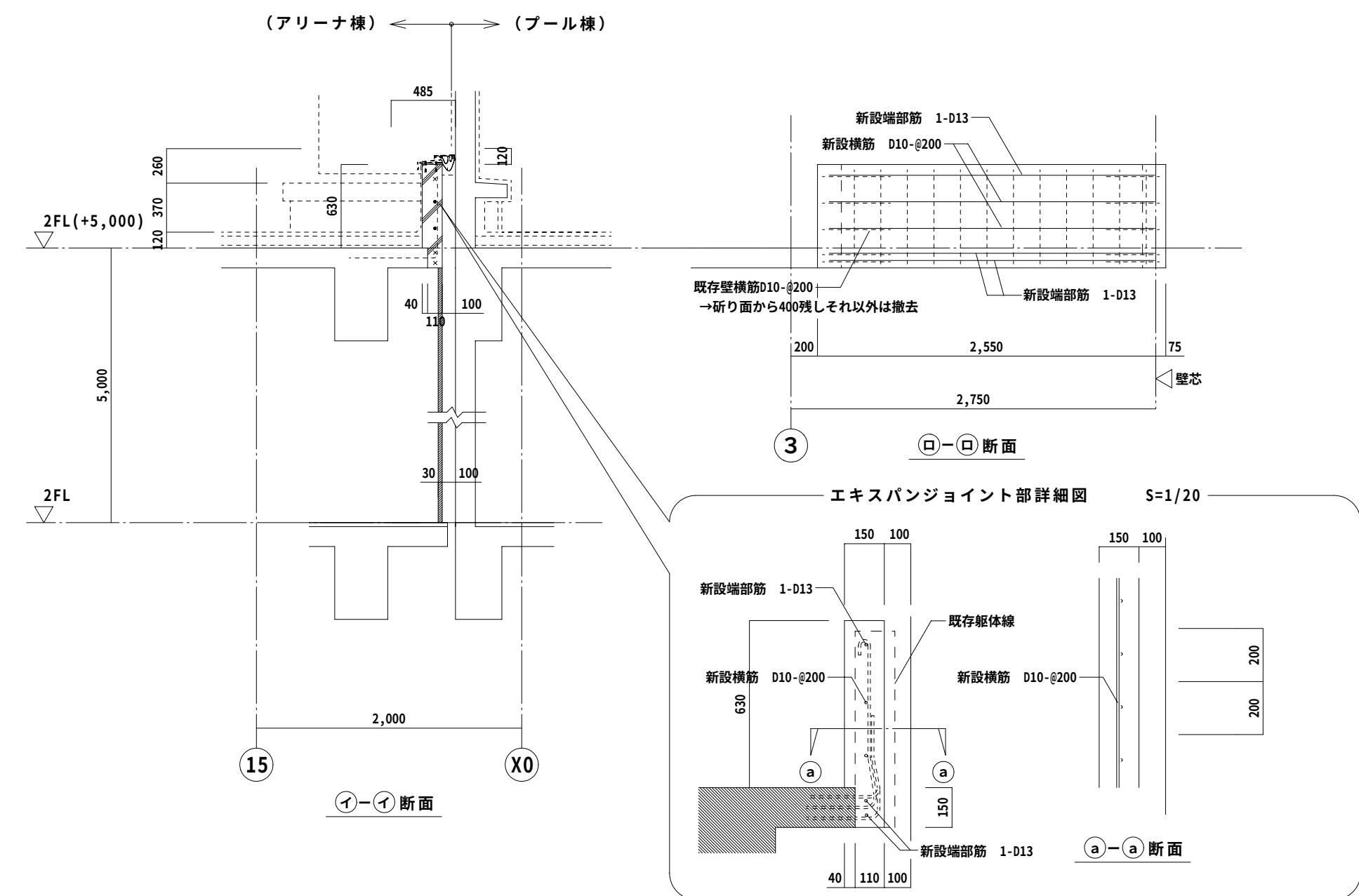
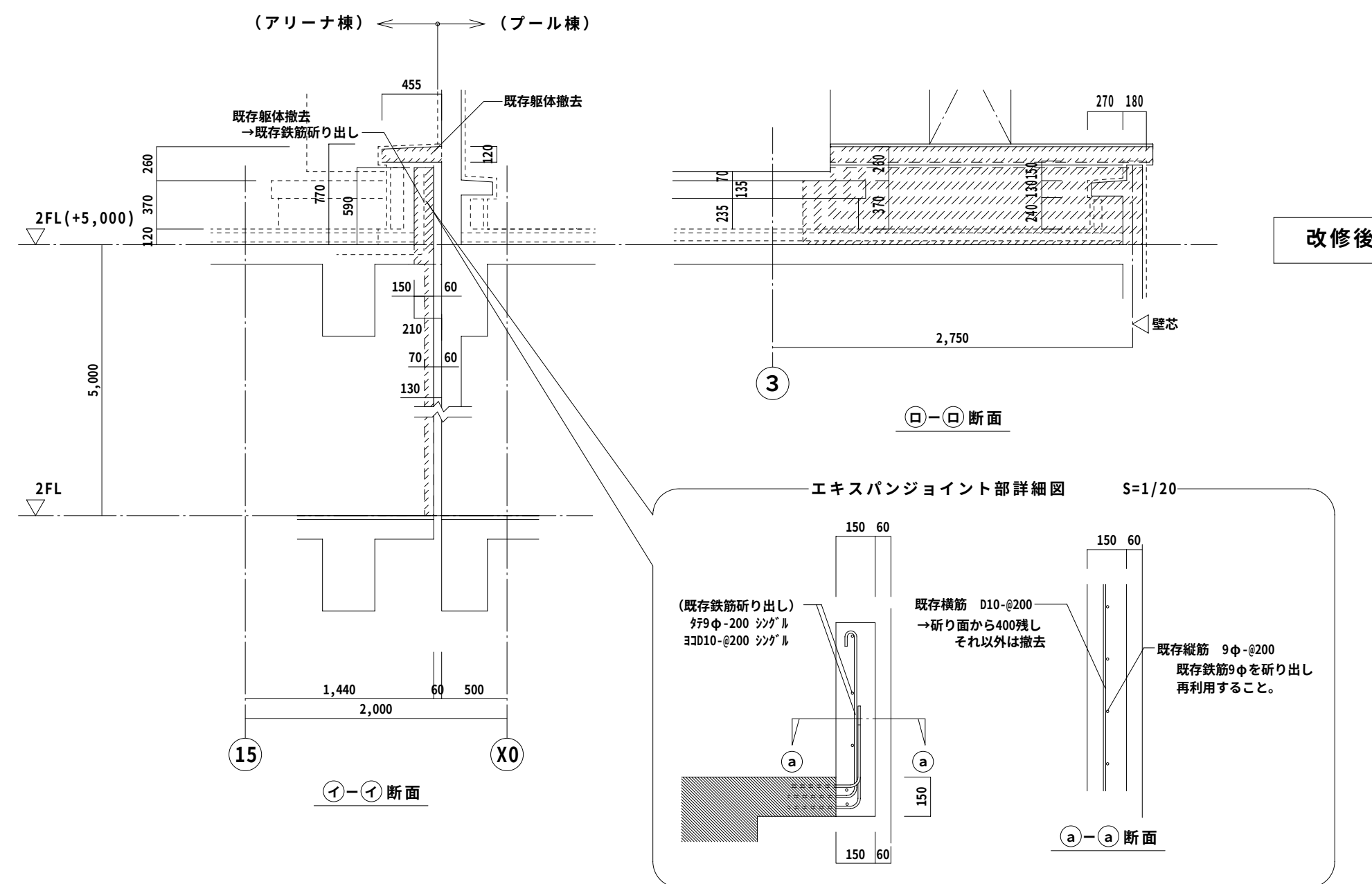
M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

県民体育館耐震補強その他建築主体工事（アリーナ棟）

date 5 / '11 drawn by 前田雅幸 checked by

鉄筋コンクリート造
増設壁詳細図 (RW22・23)
scale 1 / 40

構造
26

Special note
introductory remarks

M A 設 計 事 務 所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

県民体育館耐震補強その他建築主体工事（アリーナ棟）

date	drawn by	checked by
5 / ' 11		前田雅幸

drawn by

I checked b

前田雅幸

EXP. J部拡幅詳細図

scale 1 / 40 • 20

構造

27

構 造 特 記 仕 様 書 - 1																					
1	適用範囲																				
・ 本構造特記仕様書は、耐震補強工事について特に記するものである。 ・ 各工事は、本構造特記仕様書及び設計図に基づくものとし、これらに記載のない場合は、国土交通省大臣官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書平成22年版、及び国土交通省大臣官庁営繕部監修公共建築改修工事標準仕様書平成22年版による。 ・ 設計図と本構造特記仕様書の内容に相違があった場合や、不明な箇所が生じた時は監督員との協議により決定すること。 ・ 本工事における設計図書等の優先順位は、下記による。 1. 質疑応答書・現場説明事項（追加説明及び机上説明を含む。） 2. 本構造特記仕様書 3. 設計図 4. 公共建築工事標準仕様書（以下、標準仕様書という）、及び公共建築改修工事標準仕様書（以下、改修標準仕様書という）の順とする。																					
2	工事概要 … 補強工法別の所要数量を示す。																				
工 法		記号	単位	数量 (X)			数量 (Y)			合計											
				1F	2F	屋根	1F	2F	屋根												
鉄筋コンクリート増増設壁		RW	構面	-	-	-	1	2	-	3											
鉄筋コンクリート増増打増設壁		MW	構面	1	-	-	-	-	-	1											
屋根水平ブレース増設		HBS	構面	-	-	8	-	-	-	8											
接合部補強		J	構面	-	-	14	-	-	-	14											
3	構造使用材料																				
1. コンクリート ・ コンクリートの種別 J I S 表示許可工場にて製造された、レディーミクストコンクリート ・ 設計基準強度 F c = 21 N/mm²（品質基準強度 F q = 24 N/mm²） ・ スランプ 18 c m ・ 粗骨材最大径 20 m m 程度 ・ 単位セメント量 300 k g / m³ 以上 ・ 水セメント比 65 % 以下 2. 鉄筋 ・ 壁筋, その他 S D 295 A 規格品（ D 13 以下） S D 345 規格品（ D 16 ~ 22 ） S D 390 規格品（ D 25 以上 ） ・ スパイラル筋 単位 (mm) <table><tr><th>適 用</th><th></th><th>鉄筋径・ピッチ</th><th>外径</th></tr><tr><td>・鉄筋コンクリート増増設壁</td><td>t = 200</td><td>6 φ @ 60</td><td>140</td></tr><tr><td>・鉄筋コンクリート増増打増設壁</td><td>t = 180</td><td>6 φ @ 60</td><td>120</td></tr></table> ・鉄筋継手 重ね継ぎ手を原則とする。 （スパイラル筋は1巻半以上重ねる。） 3. 接合部アンカー（柱、梁面） ・接着系アンカー カプセル型の有機系 ・ アンカー筋 S D 295 A 規格品（ D 13 以下 ）ナット付 S D 345 規格品（ D 16 以上 ）ナット付 S D 390 規格品（ D 25 以上 ）ナット付 4. 無収縮モルタル ・ グラウト材 早強形特殊セメント系無収縮モルタル（プレミックスタイプ） ・ 設計基準強度 F m = 30 N / m m² 以上 ・ コンシステンシー J 14 ロート試験方法による。 5. 鉄骨 ・ 鋼材 S T K 400 J I S 規格品（鋼管） S S 400 J I S 規格品（上記以外） ・ ボルト F 10 T J I S 規格品 ・ 頭付きスタッド J I S 規格品										適 用		鉄筋径・ピッチ	外径	・鉄筋コンクリート増増設壁	t = 200	6 φ @ 60	140	・鉄筋コンクリート増増打増設壁	t = 180	6 φ @ 60	120
適 用		鉄筋径・ピッチ	外径																		
・鉄筋コンクリート増増設壁	t = 200	6 φ @ 60	140																		
・鉄筋コンクリート増増打増設壁	t = 180	6 φ @ 60	120																		
4	材料試験																				
1. 規格品で J I S 表示のあるもの。または、メーカーが保証する検査証明書の材料でかつ監督員の承諾を受けた場合に限り材料検査を省略することができる。 2. 下記の材料は、関連仕様書に基づき試験を行い、報告書を提出すること。 ・ コンクリート : 圧縮強度試験（標準仕様書による機関） …… 2 セット : 品質検査（塩化物イオン量） …… 2 セット ・ アンカー : 張力確認（RW），（MW），（J） …… 6 構面 ・ 無収縮モルタル : 圧縮強度試験 …… 3 セット ・ 鉄骨 : 超音波探傷試験 鉄骨ブレース : 斜材 …… - 構面 ※ 上記の試験回数は監督員と協議の上決定する。																					

5

施工計画

・補強工事は、既存の構造体に対して部材を増設する事によって耐震性の向上及び構造の改善を図るもので、既存躯体との接合がきわめて重要である。また、この工法は、限られた場所で行なわれるもので、一般の建築工事とは施工方法などが相当異なる面がある。よって、設計の主旨が充分に実現される様な工法を選び、工事着手に先だち施工計画書を作成し、監督員の承諾を得てから実施する。特に次の点には充分注意する。

（１）既存寸法、階高寸法その他は、実測による。

（２）既存コンクリートとの一体化を図る。

6

補強工事の主な施工内容

1. 鉄骨ブレース新設

① 既存躯体の実測と墨出し
（既存梁主筋をはつりにより確認）

② 原寸図の作成と加工

③ 部材組立て（工場溶接）

④ 既存躯体目荒し（水洗い共）

⑤ 既存躯体へのアンカー設置

⑥ 現場搬入、建て入れ、本接合

⑦ 鉄筋の加工及び組立て

⑧ 清掃

⑨ 型枠組立、コーキング及び水湿し

⑩ 無収縮モルタル圧入、養生

⑪ 脱型及び清掃

2. 鉄筋コンクリート耐震壁増設及び増打増設壁

① 既存躯体の実測と墨出し
（既存梁主筋をはつりにより確認）

② 既存躯体目荒し（水洗い共）

③ 既存躯体へのアンカー設置

④ 鉄筋の加工及び組立て

⑤ 清掃

⑥ 型枠組立、コーキング及び水湿し

⑦ コンクリート打設、養生

⑧ 脱型及び清掃

⑨ 無収縮モルタル圧入、養生

⑩ 脱型及び清掃

3. 本工事における各補強工法について、施工手順及び施工計画書を作成し監督員の承諾を得ること。

7

撤去・解体

1. 仮設足場等は、作業に応じて設けるものとし、施工性の向上と安全性を確保すること。

2. コンクリート及び塗り仕上げを部分的に撤去する場合は、カッター等で切込みを付け既存部分の保護を図ること。既存コンクリートの撤去は、原則として油圧式のハンドクラッシャーを用いること。又、既存躯体面の目荒しは、主に電気ピック等を用いること。

3. 接合部の粉塵及びはつり殻は、入念な清掃及び水洗いを行うこと。躯体コンクリート面が、ジャンカや著しく脆弱な場合には、監督員に報告し対応について指示を受けること。

4. コンクリート及びグラウトにて被覆されない既存鉄筋断面は適切な防錆処理を行うこと。

8

アンカー工事

1. アンカーの打設は、社団法人 日本建築あと施工アンカー協会（J C A A）の有資格者とする。

2. 接着系アンカーは、使用実績も多く信頼性の高いものを用いること。又、コンクリートドリル径は、アンカー径に適合したものとする。

3. 接着系アンカーのピッチ及び配置（最小値）は下表による。

単位 (mm)

外径 d a	ピッチ	はしあき	へりあき
13	100	65	35
16	120	80	40
19	150	95	50

はしあき
(5 d a 以上)

ピッチ (7. 5 d a 以上かつ 30 c m 以下)

へりあき (2. 5 d a 以上かつ主筋の内側)

4. アンカー筋の埋込み長さは、下記による。

① 鉄筋コンクリート造増設壁（一般）

単位 mm

アンカー径	埋込み長さ：L1	穿孔長さ：L2	定着長さ：L3
D13	130	143	260 以上
D16	160	180	320 以上
D19	190	210	380 以上

※ L1=10・da, L2=11・da, L3=20・da とする。

② 鉄筋コンクリート造増設壁（開口部）

単位 mm

アンカー径	埋込み長さ：L1	穿孔長さ：L2	定着長さ：L3
D19	285	305	760 以上
D25	375	400	1,000 以上

※ L1=15・da, L2=16・da, L3=40・da とする。

ナット付とする。

マーキング

アンカー筋
(接着系)

L 3

L 1

L 2

③. 鉄骨ブレース新設に用いるアンカー筋は、ナット付きとする。アンカー筋の埋込み長さは、10 d a とし定着長さは頭付きスタッドとのラップ長にて決定する。

単位mm

アンカー筋の径	埋込み長さ：L 1
・ D 19	190

ラップ長の推奨値

単位mm	クリアランス：h	ラップ長：L
・ 200～225		80

鉄骨枠

ナット付き

＊頭付きスタッドとのラップ長にて決定する。

頭付スタッド

躯体面

アンカー筋

L 1

(10da)

L

h

④. 増打ち部がある場合は、アンカー筋の埋込み長さが増打ち部の寸法を加えた値を埋込み長さとする。

5. 本工事に用いる接着系アンカーは、埋め込み深さが10 d a 以上かつ、それに見合う樹脂容量が確保できる規格のカプセルを使用する。

6. 穴開けに先立ち、増設部分の既存柱・梁において、主筋、肋筋及び帯筋の位置を鉄筋探査機等を用いて確認すること。鉄筋等に当り埋込み長さが不足したものは、不良孔とし無収縮性のモルタルにて補修すること。

7. アンカー試験

・打音確認 …… 接着系アンカー筋全数

・張力確認 …… D16 以上を対象とし増設1構面当たり、床及び柱面にて各1本、合計2本とする。
確認張力は鉄筋径及び間隔により下表とする。

確認張力

階	径	D 16, M 16	D 19
1・2 階		45	66

9

鉄筋工事

1. 標準配筋要領図

100

20

30

30

スパイラル筋

2. 増設壁 開口補強筋要領

鉄筋コンクリート壁

位置

スリーブ径 (mm)

梁

柱

$D < 150$

スリーブはスパイラル筋の内側を原則とする。
換気扇等の開口補強筋は、詳細図による。

$150 \leq D \leq 250$

補強不要

増設壁配筋

各2-D 10

補強筋：壁配筋に準ずる。

各2-D 10

10

コンクリート工事

1. コンクリート打設前に粉塵・はつり殻等を清掃し、数日前から充分に水湿しを行なう。

2. コンクリートの打設は、型枠頭部の横に連続性のあるアサガオ型の投入口を設け、コンクリートを打設する。

3. コンクリートの打設時は、バイブレーター等を用いて密実なコンクリートとし、梁下 2 0 0 mm 程度で打ち止める。

既存梁

投入口

アサガオ

コンクリート打止め位置

型枠

200

4. 型枠

・無収縮モルタル部：屋内・屋外とも普通合板 ㊦12 を標準とする。

・型枠存置期間：4 日～7 日（監督員との協議により決定すること。）

・外部及び内部の増だし範囲、面木及びスリーブの取付けは、他の業者と打合せを行い施工図に明記すること。

5. コンクリート試験

・圧縮強度については、公的機関にて試験を行う。試験は、コンクリートの調合が異なることに、1 日 1 回以上かつコンクリート 2 0 m³ を目安に行う。尚、供試体は材令 2 8 日 3 本とする。

・品質は下記による。

スランプ	cm	空気量	%	塩化物イオン量	kg/m ³
18 ± 2.5		4.5 ± 1.5		0.3 以下	

11

無収縮モルタル圧入工事

1. モルタル圧入工事は、アンカーの打設と同様に本工事の重要な作業工程であるため、打設には充分注意すること。型枠撤去後は、施工箇所の全周について検査を行ない、打設が完全であることを確認し監督員の承諾を受けること。万一、不良箇所が生じた場合は、ただちに監督員に報告し施工業者の責任において、補修（再圧入）を行なう。

2. コンクリート打設面のレイタンス等は、ワイヤーブラシ又は、圧縮空気により除去し水湿しを行なうこと。

3. 圧入用型枠の施工及び各部のコーキングは、圧入業者の施工とする。

4. 型枠は、普通合板 ㊦12 を原則とし、圧入の圧力に対して十分に抵抗できる剛性を持つものとする。セパレーターを用いて両側より締めつけモルタルの漏出のないように組立ること。

5. 圧入は、適切な圧力で中断しないように行うこと。

6. 空気抜き（確認孔）を設け、グラウトモルタルが空気抜き（確認孔）に出てくる事を確認すること。圧入位置及び空気抜き（確認孔）の位置は、下図による。

鉄筋コンクリート造増設壁

空気抜き（確認孔）

圧入口

空気抜き（確認孔）

梁

圧入口

モルタル圧入口

型 枠

コーキング又は、セメント系止水材

7. 本工事に用いる無収縮モルタルは、下記の製品及び同等品以上とすること。標準使用量及び流下速度については、メーカー仕様に基づき、施工計画書に明記して承諾を得ること。

会社名	製品名	強度区分
太平洋マテリアル（株）	プレユーロックス	普通強度型
	プレユーロックスH-S	高強度型
電気化学工業（株）	プレタスコンT-W	普通強度型
	プレタスコンT-060	高強度型
新日鉄高炉セメント（株）	エッセイパー-G	普通強度型
	（株）ボソリス物産 マスターフロー-540グラウト	

8. モルタル試験

・圧縮強度試験については、10.6の生コンクリート協同組合にて行う。

・試験は1日に施工する毎に1回以上、かつ打設量が3 m³を超える場合はモルタル 2 m³当たり1回を追加し、コンシステンシー試験（J 14ロートによる）を行い、供試体採取する。

・モルタル用の供試体は、直径 5 0 mm、高さ 1 0 0 mm の大きさとし、材令 3 日、7 日、2 8 日ごとに3本とする。

構 造 特 記 仕 様 書 - 2

1 2 鉄骨工事

1. 鉄骨製作工場… 社団法人 全国鉄構工業連合会（全構連）：Rグレード以上

2. 施工図 ……鉄骨工作原寸図に先立ち、鉄骨加工図を作成し監督員の承諾を受ける。

3. 錆止め塗料 …… J I S K 5 6 2 5 （一般）2 種を工場2 回塗（現場タッチアップ）とする。※モルタルを圧入する面への塗装は行わない。

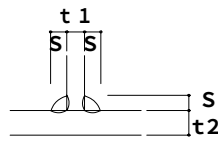
1 3 溶接標準図

※開先形状の各部寸法、溶接姿勢等については J A S S 6 付則 5 , 6 に従う。

スミ肉溶接

記号 ①

板厚 $t \leq 6$ 



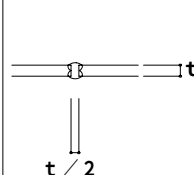
$t \leq 16 \text{ mm}$											
t	4	5	6	7	8	10	11	13	14	16	
S	3	4	5	6	7	10					

• t は t1、t2 の小さい方とする。
余盛りは（ $1 + 0.1 S$ ）mm 以下とする。

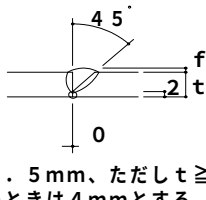
突合せ溶接

記号 ② ③ ④

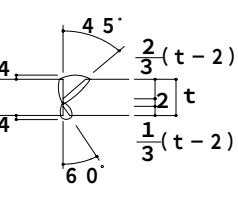
板厚 $t \leq 6$ $6 < t < 16$ $16 \leq t$ 

裏はつり


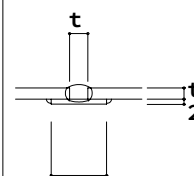
$t/2$



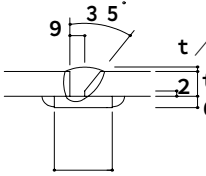
$f \geq 0.5 \text{ mm}$ 、ただし $t \geq 15 \text{ mm}$ のときは 4 mm とする。



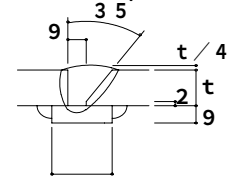
$2/3(t-2)$
 $2/3$
 $1/3(t-2)$

裏当て金


25 mm 以上



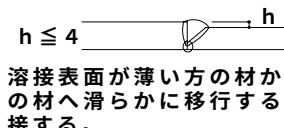
25 mm 以上



25 mm 以上

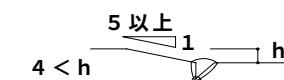
板厚が異なるとき

スカラップ



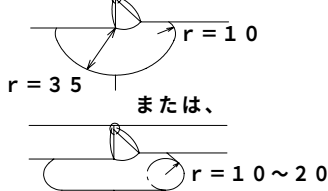
$h \leq 4$

• 溶接表面が薄い方の材から厚い方の材へ滑らかに移行するように溶接する。



5 以上
4 < h

• 厚い方の材をテーバー加工し、開先部分で薄い方の材と同一の高さにする。

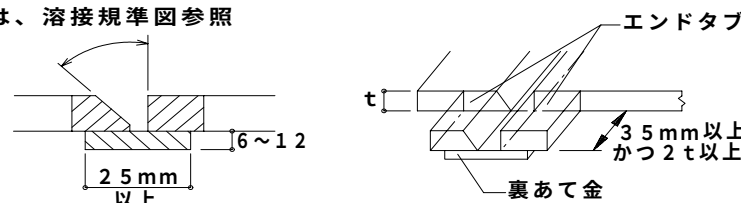


$r = 10$
 $r = 35$
または、
 $r = 10 \sim 20$

• スカラップの形状は上図のいずれかとし、監督員の承諾を受けて決定する。
• ノンスカラップ工法を採用する場合には施工計画書に明記の上、監督員の承諾を得ること。

エンドタブと裏当て金

角度は、溶接標準図参照



エンドタブ
裏あて金

25 mm 以上
6 ~ 12
35 mm 以上
かつ 2 t 以上

• エンドタブ

① 突合せ溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブをとりつける。

② エンドタブの材質は、母材と同質とする。

③ 特記のない場合は溶接終了後、母材より 10 mm 程度残し切断してグラインダー仕上げとする。

※ プレス鋼板・固形タブ等の使用については資料を提出し、監督員の承諾を得ること。

• 裏あて金

① 裏あて金の材質は、母材と同質材料とし厚さは手溶接で 6 mm、半自動溶接で 9 mm 以上とする。

Special note
introductory remarks

□

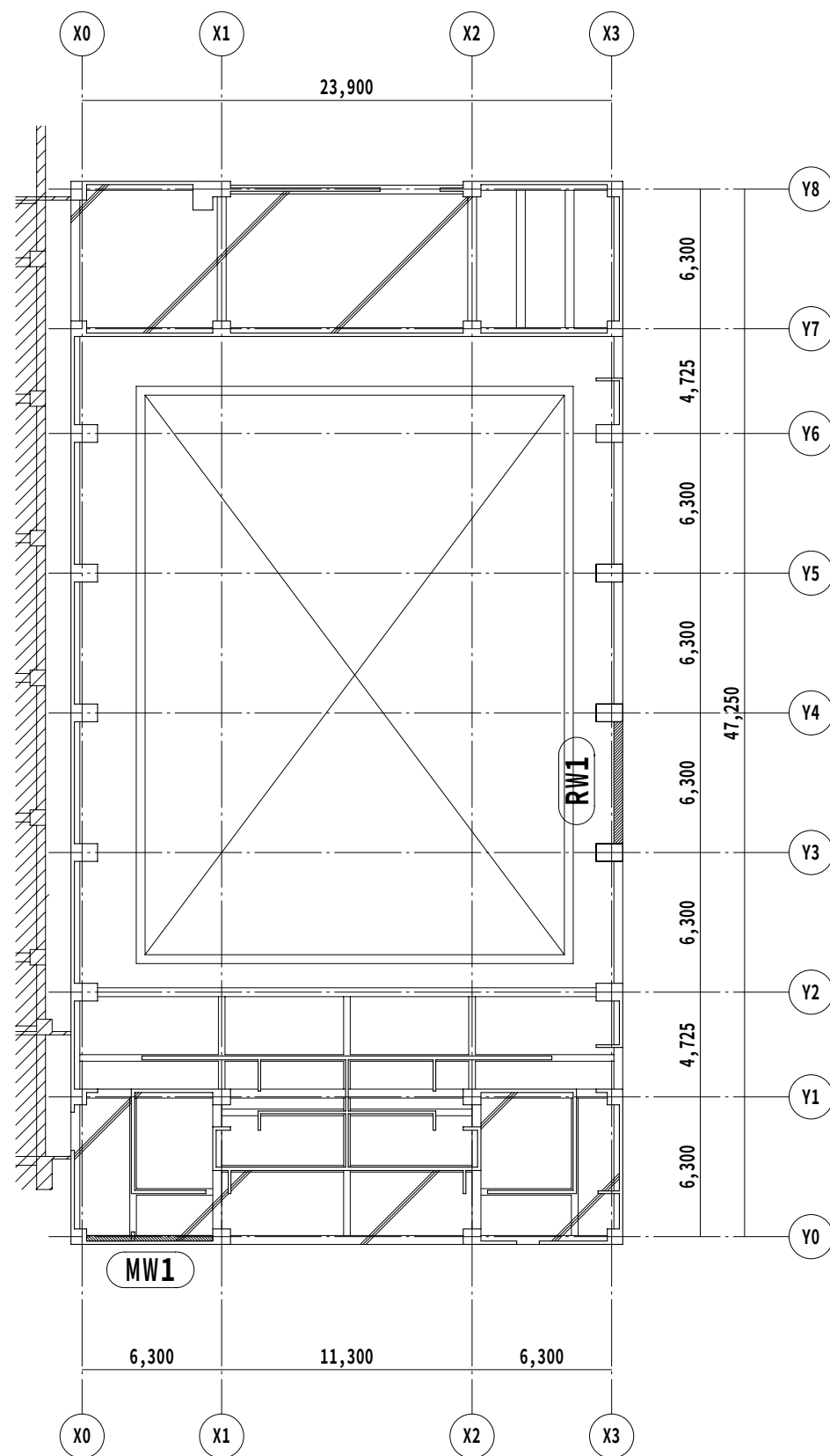


M A 設 計 事 務 所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1 級建築士 登録第 136008 信清和呂

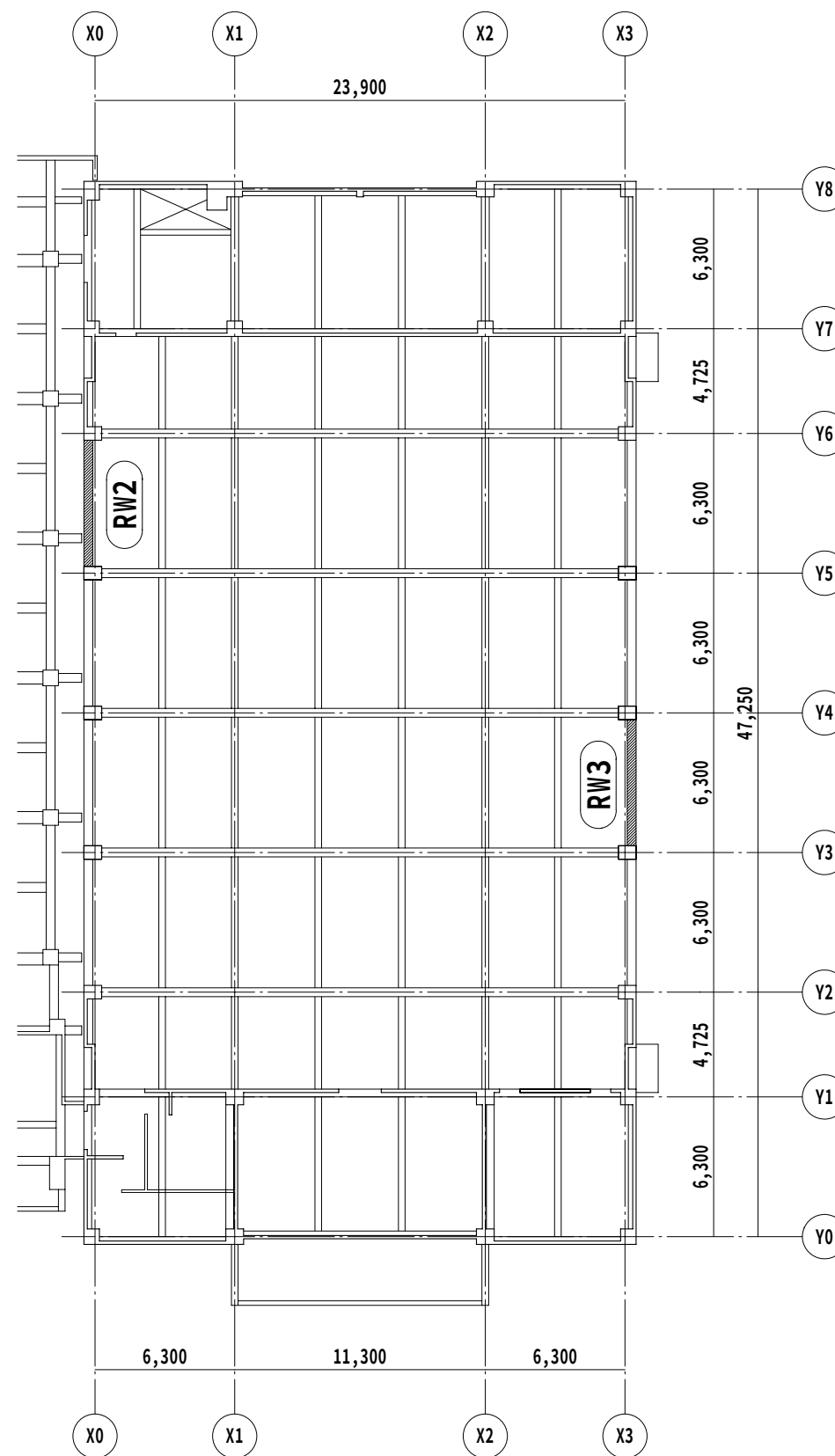
県民体育館耐震補強その他建築主体工事（プール棟）
date 5 / '11 drawn by checked by 前田雅幸

構造特記仕様書（2）
scale 1 /

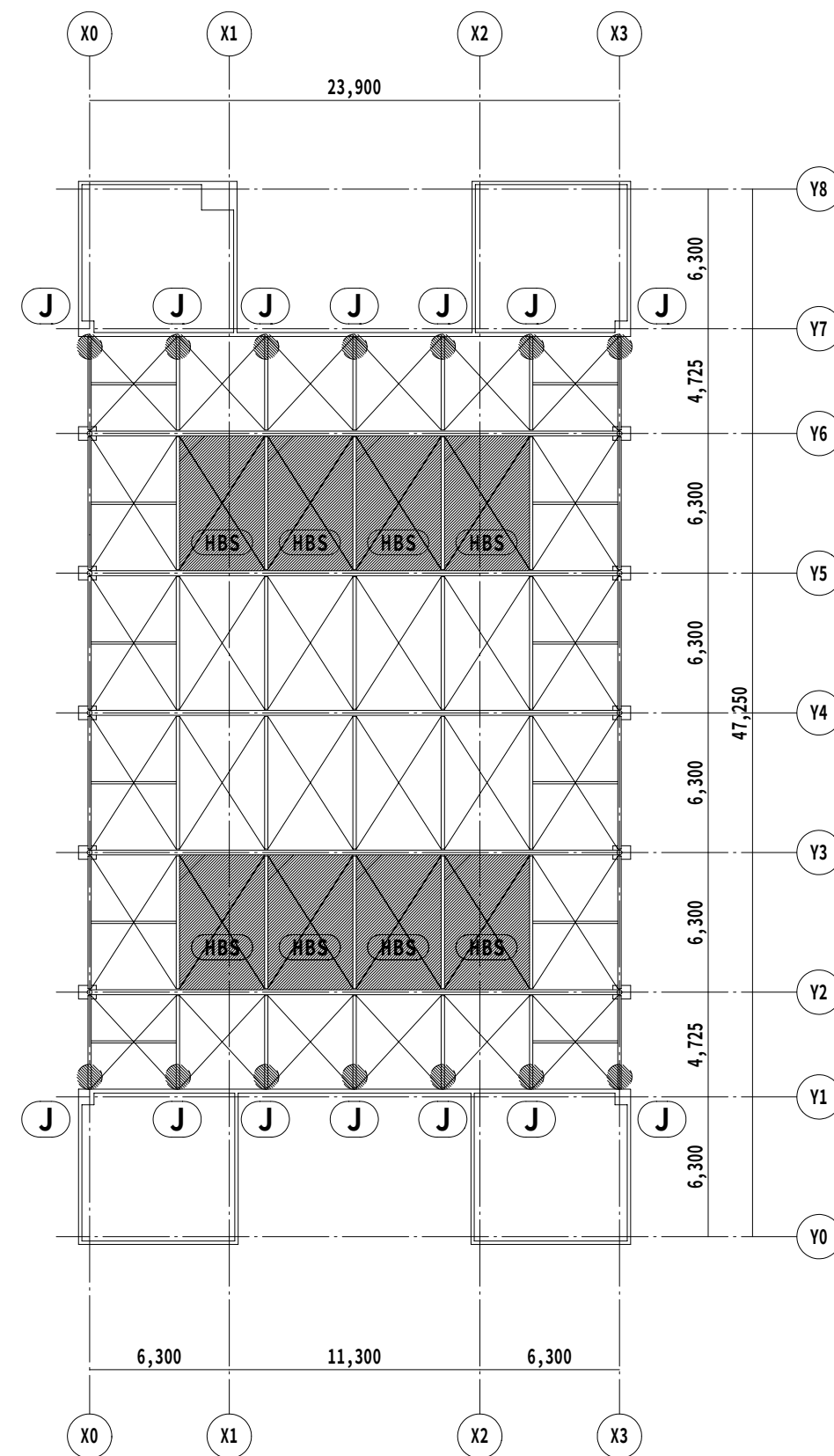
構造
29



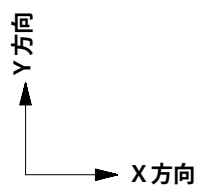
1 階補強位置図 1/300



2 階補強位置図 1/300



屋根補強位置図 1/300



補強部材凡例

- RW**** …鉄筋コンクリート造増設壁
- MW**** …鉄筋コンクリート造増打増設壁
- HBS** …屋根水平ブレース増設
- J** …接合部補強

Special note
introductory remarks

□ RW（鉄筋コンクリート造増設壁）外壁面は増打厚30の打放しとする



M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

県民体育館耐震補強その他建築主体工事（プール棟）

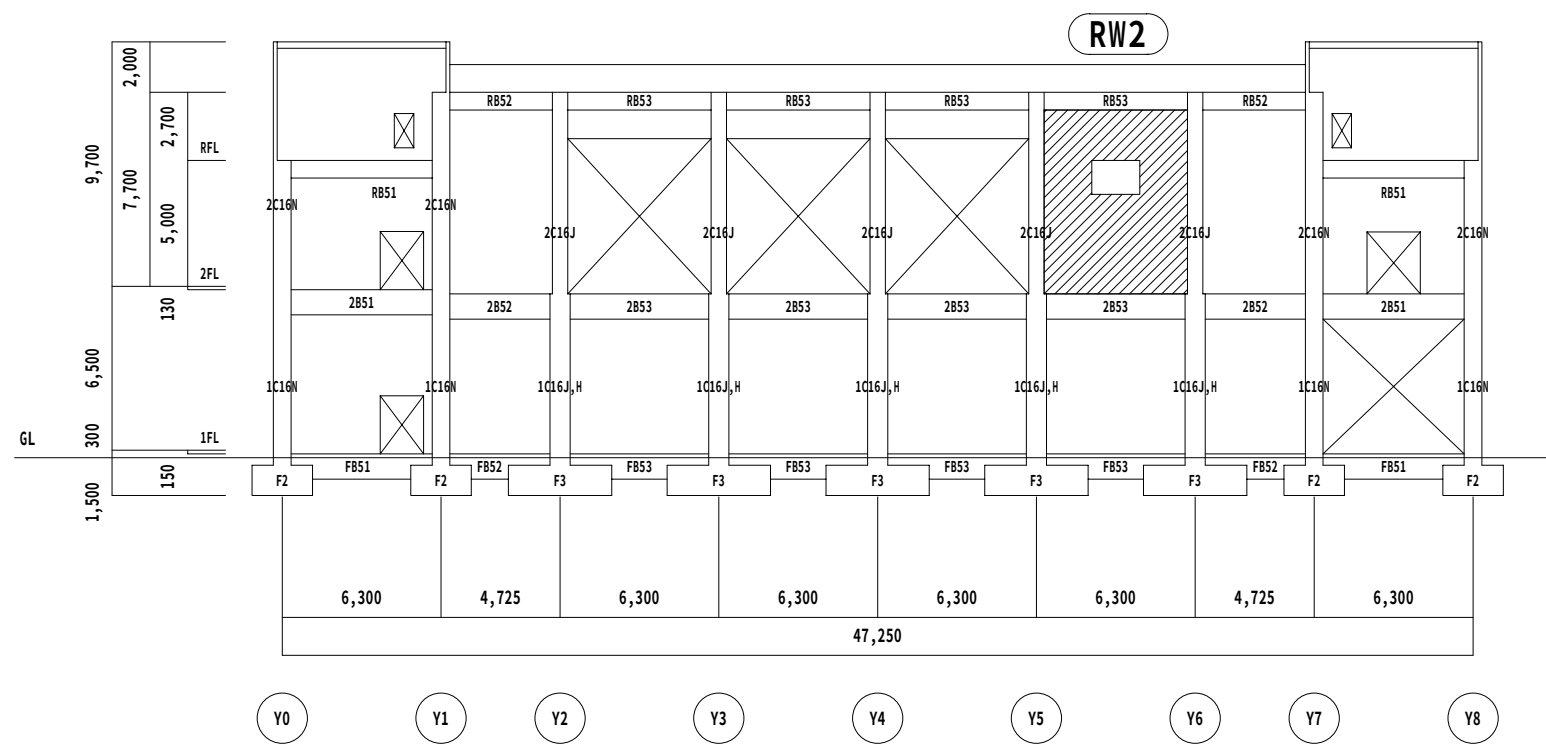
date 5 / '11 drawn by checked by 前田雅幸

補強位置図（伏図）

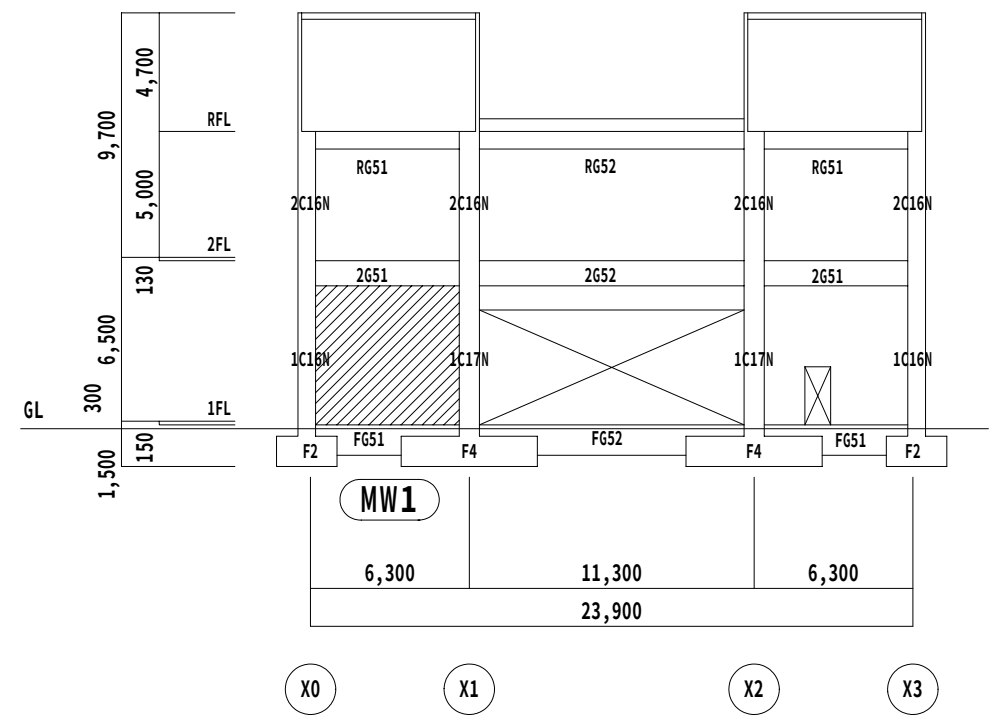
scale 1 / 300

構造

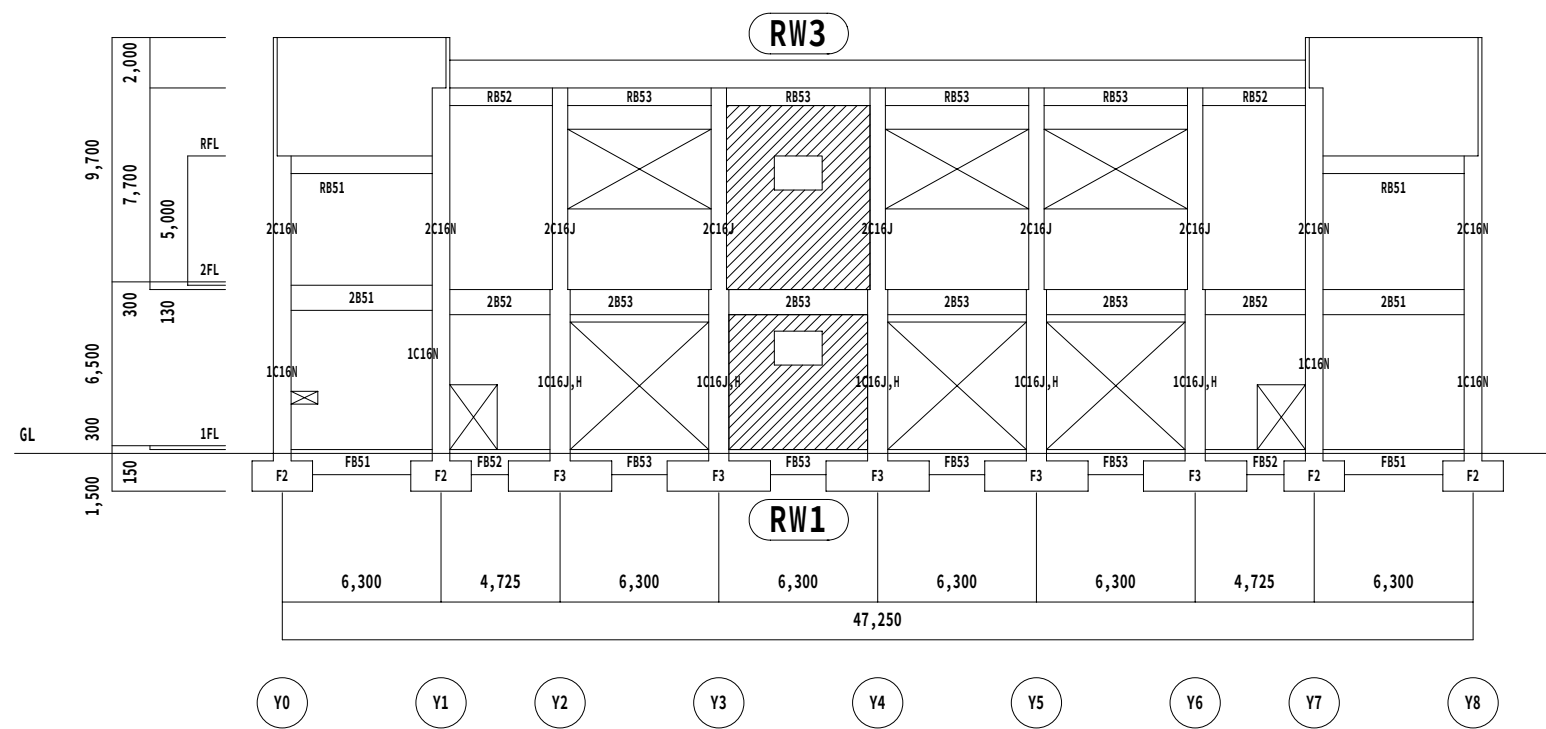
30



X0通り軸組図 1/300



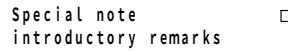
Y0通り軸組図 1/300



X3通り軸組図 1/300

補強部材凡例

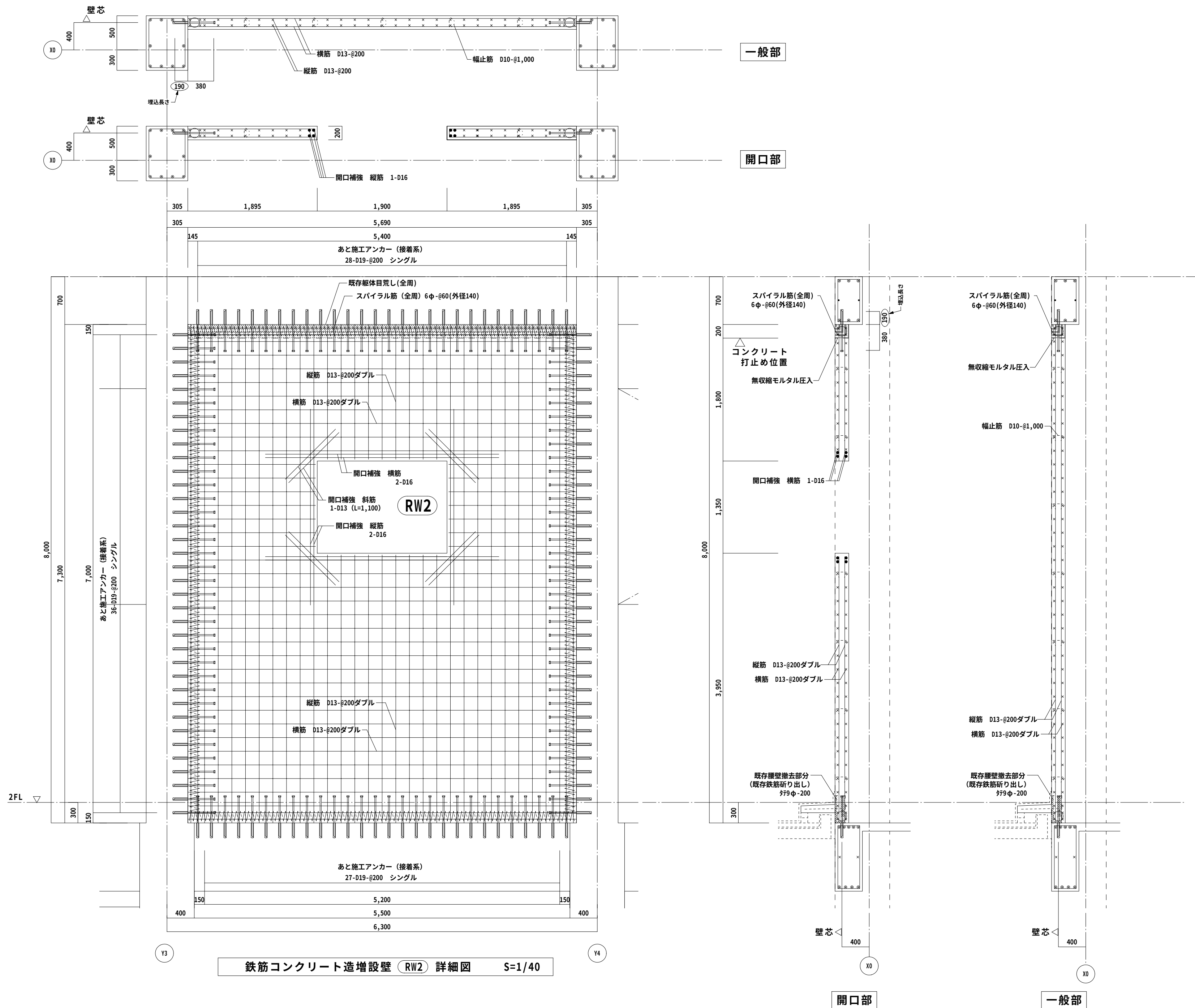
- RW** …鉄筋コンクリート造増設壁
- MW** …鉄筋コンクリート造増打増設壁

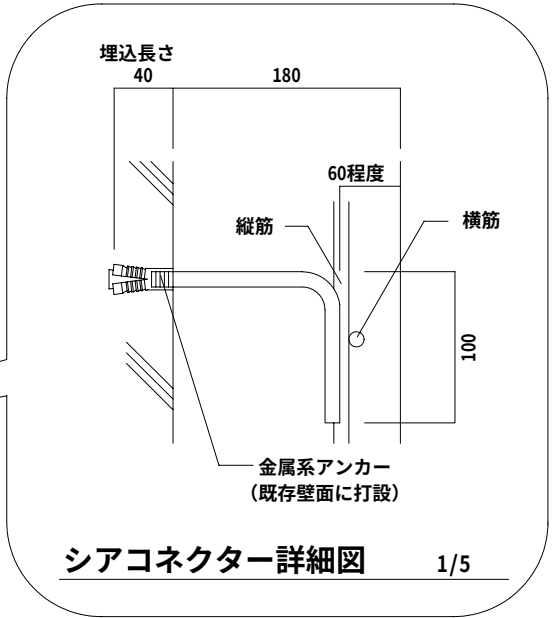
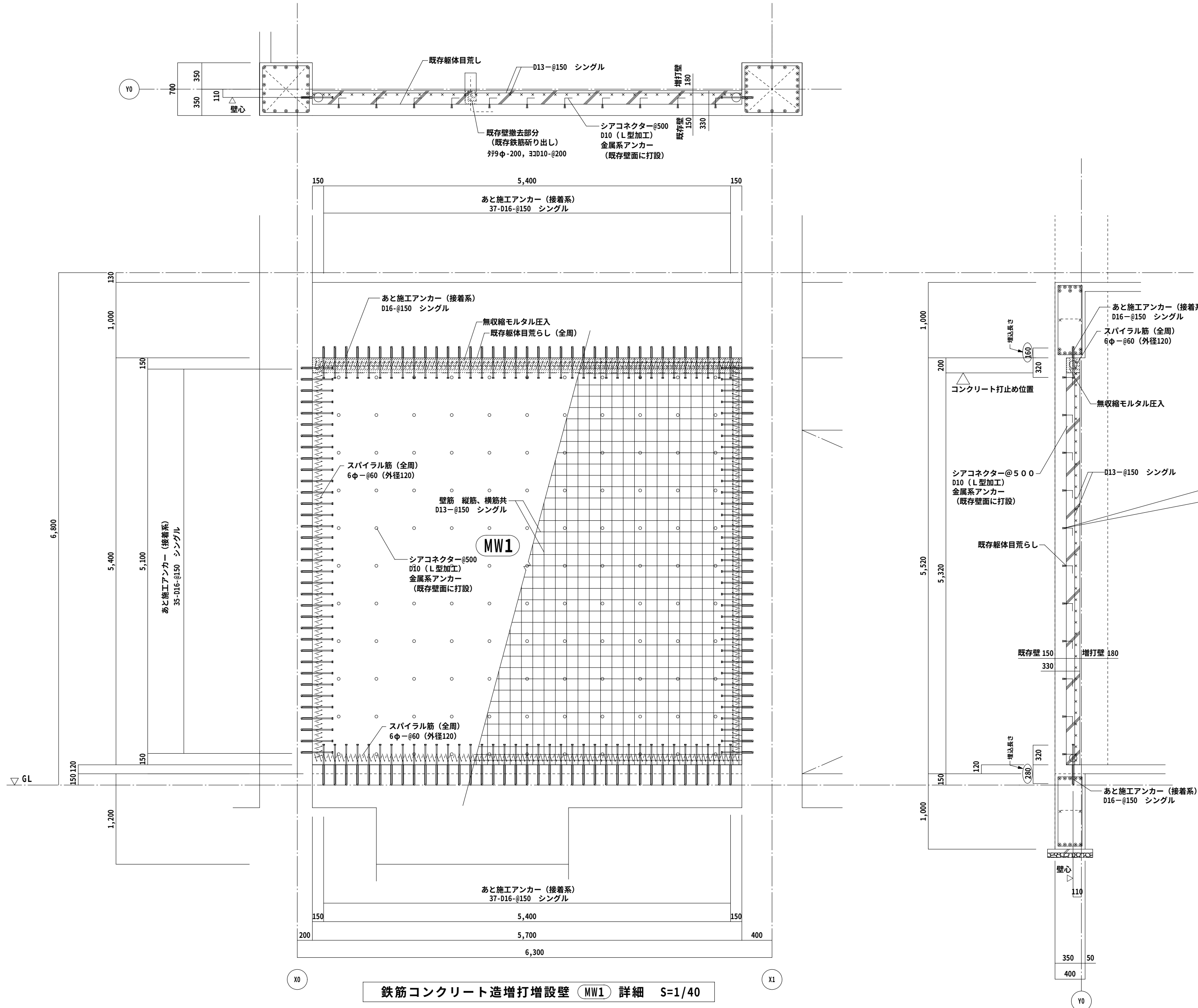


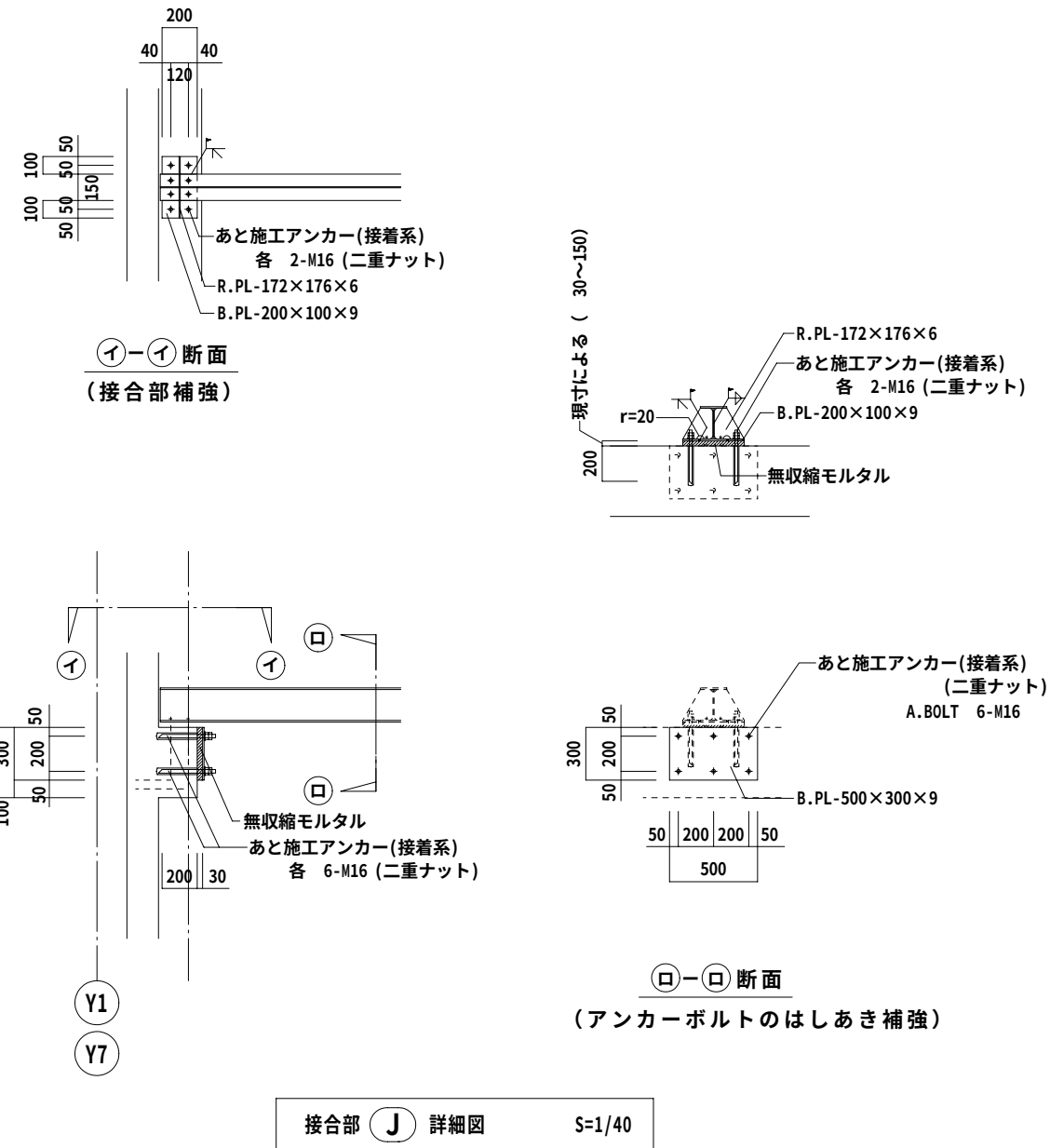
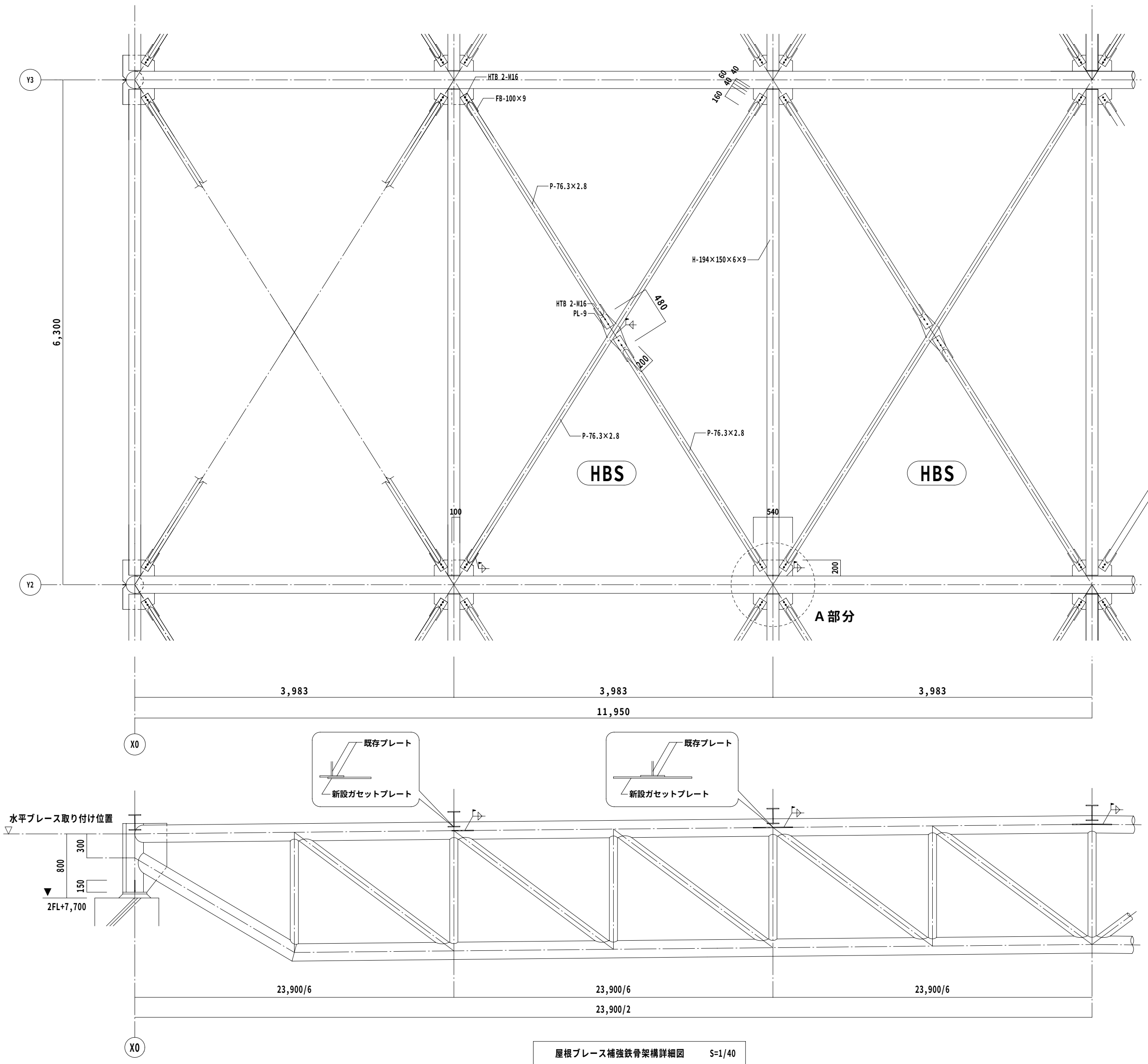
date	drawn by	checked by
5 / '11		前田雅幸

構造

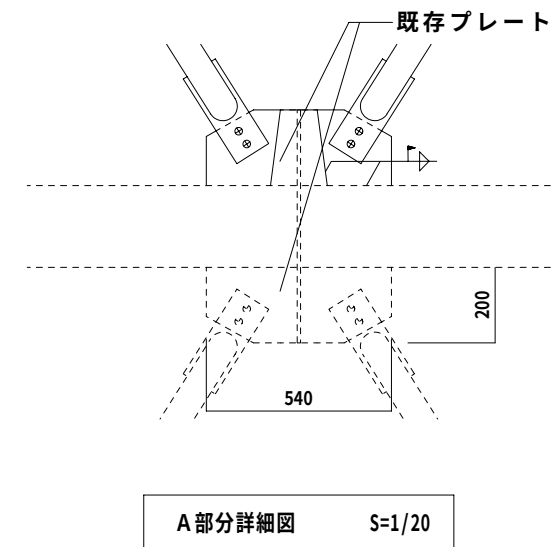
3 2







- 施工要領**
- (アンカーボルトのはしあき補強)**
- ① 仕上げ、施工可能寸法、鉄筋の位置、ひび割れの確認をする。
 - ② 既存接合部下のベースモルタルに欠損がみられる場合、無収縮モルタルを注入し補修する。
 - ③ 既存面のアンカー打設面をけずり、エポキシモルタルで平滑に仕上げる。
 - ④ 既存面に接着系アンカーボルトの孔を開ける。(よく清掃を行うこと)
 - ⑤ 補強鉄板、接着系アンカーを設置する。
 - ⑥ グラウトモルタルを注入する。
 - ⑦ グラウトモルタル硬化後、接着系アンカーを締める。
- (接合部補強)**
- ① 仕上げ、施工可能寸法、鉄筋の位置、ひび割れの確認をする。
 - ② 既存接合部下のベースモルタルに欠損がみられる場合、無収縮モルタルを注入し補修する。
 - ③ 現場溶接部の錆止め塗料をはがす。
 - ④ 接着系アンカーボルトの孔を開ける。(よく清掃を行うこと)
 - ⑤ 新設ベースプレートを溶接する。
 - ⑥ 既存面に接着系アンカーを打設する。
 - ⑦ グラウトモルタルを注入する。
 - ⑧ グラウトモルタル硬化後、接着系アンカーを締める。



Special note
introductory remarks



M A 設計事務所
MODERN ARCHITECTURAL DESIGNERS OFFICE
1級建築士 登録第136008 信清和呂

県民体育館耐震補強その他建築主体工事(プール棟)
date 5 / '11 drawn by checked by 前田雅幸

屋根ブレース補強
鉄骨架構詳細図
scale 1 / 40・20

構造
35